

町田市
暮らしの状況・生活の困り事に関する調査
報告書

2020年3月

町田市

目 次

第1章 調査の概要	1
1. 調査実施の目的	3
2. 調査の種類	3
3. 調査方法と回収状況	3
4. 調査対象別の調査概要の詳細	4
5. 調査項目	6
6. 調査結果の特徴的事項	7
7. 調査結果を見る上での注意事項	10
第2章 サービス利用者調査結果	11
1. 回答方法	13
2. 回答者と本人の基本属性	14
(1) 調査票記入者	14
(2) 性別	15
(3) 年齢	16
(4) 居住地域	17
(5) 障がい者手帳の所持	17
(6) 所持している障がい者手帳の種類	18
(7) 障がいや疾病の内容	19
(8) 障がいや疾病に気づいた時期	20
(9) 障害者総合支援法での障害支援区分	20
(10) 介護保険サービスの利用の有無	21
3. 暮らすことについて	22
(1) 同居者	22
(2) 自宅での生活の支援の有無	23
(3) 自宅での生活の支援者	24
(4) 利用中の訪問支援サービス	25
(5) 利用中の訪問支援サービスの満足度	26
(6) 補装具や日常生活用具の給付状況	30
(7) 補装具や日常生活用具の給付サービスの満足度	31
4. 日中の活動や外出について	35
(1) 平日の昼間の過ごし方	35
(2) 利用中の通所サービス	38
(3) 利用中の通所サービスの満足度	40
(4) 外出時の支援の必要性	46
(5) 外出の際に受けている支援	47
(6) 外出の際に利用している福祉サービス	48
(7) 外出の際に利用している福祉サービスの満足度	48

(8) 休みの日やあき時間の過ごし方	54
5. 医療について	56
(1) かかりつけ医療機関の有無	56
(2) 障がいの特性等に応じた専門医療機関での受診	57
(3) 通院時間	59
(4) 医療的ケアの状況	60
6. 家庭・家族について	61
(1) 結婚・出産・子育ての経験	61
(2) 結婚や出産・子育ての希望	65
(3) 結婚や出産・子育てで必要なこと	67
7. 相談することについて	69
(1) 困ったときの相談先	69
(2) 相談したい内容	71
(3) 町田市の障がい者支援センターの認知	73
(4) 障がい者支援センターの利用経験	75
(5) 利用経験のある障がい者支援センター	76
(6) 障がい者支援センターの満足度	77
(7) 不満の理由	80
(8) 障がい者支援センターを利用しない理由	82
8. 情報の取得について	83
(1) 福祉に関する情報の取得先	83
(2) 情報取得の時に困ること	85
(3) 情報保障のサービスの利用状況	87
(4) 利用している情報保障のサービスの満足度	88
9. 防災のことについて	90
(1) 地震などの災害発生時に困ること	90
10. 差別をなくすこと・理解協働について	92
(1) 差別や偏見を受けた経験	92
(2) 差別や偏見等を受けた場面	94
(3) 差別禁止や権利擁護に関する法令等の認知	96
(4) 差別に関する相談先の認知	98
(5) 人権意識の啓発方法（自由記述）	100
11. 生活上の困りごとについて	103
(1) 生活上の困りごと（自由記述）	103
(2) 将来望む生活（自由記述）	110

第3章 サービス未利用者調査結果	113
1. 回収方法	115
2. 回答者と本人の基本属性	116
(1) 調査票記入者	116

(2) 性別	117
(3) 年齢	118
(4) 同居者	119
(5) 障がい者手帳の所持	120
(6) 所持している障がい者手帳の種類	121
(7) 障がいや疾病の内容	122
(8) 難病の種類	122
(9) 障がいや疾病に気づいた時期	124
(10) 平日の昼間の過ごし方	125
(11) 障がいや疾病のため、支援が必要と感じる困りごと	129
3. 福祉サービスの利用について	132
(1) 介護保険サービスの利用の有無	132
(2) 障害福祉サービスの利用意向	133
(3) 利用したい障害福祉サービス	136
(4) 障害福祉サービスを利用していない理由	140
(5) 町田市の障がい者支援センターの認知	144
4. 生活上の困りごとについて	145
(1) 生活上の困りごと（自由記述）	145
(2) 将来望む生活（自由記述）	151
第4章 暮らしの形態や障がい・疾病の内容からみえてくること	155
1. ひとり暮らしの状況（サービス利用者）	157
2. ひとり暮らしの状況（サービス未利用者）	186
3. 平日の昼間に主に自宅で過ごしている方の状況（サービス未利用者）	196
4. 障がい・疾病の内容別、医療的ケアの有無別の状況（サービス利用者）	207
5. 障がい・疾病の内容別の状況（サービス未利用者）	216
第5章 施設入所者調査結果	219
1. 回答者と本人の基本属性	221
(1) 調査票記入者	221
(2) 性別	222
(3) 年齢	222
(4) 障がい者手帳の所持	222
(5) 所持している障がい者手帳の種類	223
(6) 障がいや疾病の内容	224
(7) 障がいや疾病に気づいた時期	224
2. 入所している施設や生活について	225
(1) 現在入所している施設のある地域	225
(2) 現在の施設での入所年数	226
(3) 現在の施設に入所を決めた理由	227

(4) 現在の入所施設での生活上、困る事や不安に感じていること	228
(5) 外出の頻度	228
(6) 今後希望する生活	229
(7) 入所施設での生活を継続したい理由	231
(8) 施設を退所する際に支援してほしいこと	233
(9) 日常的な困りごと（自由記述）	234

第6章 精神科病院入院患者調査結果 235

1. 回答者と本人の基本属性	237
(1) 調査票記入者	237
(2) 性別	237
(3) 年齢	237
(4) 障がい者手帳の所持	237
(5) 手帳の種類と等級	237
2. 入院している病院や生活について	238
(1) 現在入院している病院のある地域	238
(2) 現在の病院での入院年数	238
(3) 入院生活で、困る事や不安に感じていること	238
(4) 今後希望する生活	238
(5) 病院での生活を継続したい理由	239
(6) 退院の際に支援してほしいこと	239
(7) 日常的な困りごと（自由記述）	239

第7章 調査票 241

1. サービス利用者調査	243
2. サービス未利用者調査	251
3. 施設入所者調査	254
4. 精神科病院入院患者調査	257

第1章 調査の概要

1. 調査実施の目的

「町田市障がい者計画」および「町田市障がい福祉事業計画」の改定にあたり、市内の障がいのある方の暮らしの状況や生活の困り事についてうかがい、計画策定の基礎資料並びに施策を推進する際の参考とするため、調査を実施した。

2. 調査の種類

調査名	調査対象
1. サービス利用者調査	2019年4月1日現在町田市に登録があり、障害福祉サービス等を利用している障がい者等
2. サービス未利用者調査	2019年4月1日現在町田市に登録がある19歳以上で障害福祉サービスを利用していない障がい者等
3. 施設入所者調査	2019年4月1日現在町田市が支給決定を行い障がい者福祉施設に入所している障がい者等
4. 精神科病院入院患者調査	2019年4月1日現在町田市に登録があり、精神科病院に長期入院している障がい者等

3. 調査方法と回収状況

調査方法：郵送配布－郵送回収（期間中礼状兼督促はがき1回送付）

サービス利用者調査、サービス未利用調査は、オンラインでの回答も併用

調査期間：2019年8月22日（木）～9月24日（火）

<回収状況>

調査名	発送数	回収数		回収率
1. サービス利用者調査	2,220件	1,247件	(郵送) 1,048件	56.2%
			(Web) 199件	
2. サービス未利用者調査	2,000件	904件	(郵送) 737件	45.2%
			(Web) 167件	
3. 施設入所者調査	255件		159件	62.4%
4. 精神科病院入院患者調査	25件		3件	12.0%

4. 調査対象別の調査概要の詳細

(1) サービス利用者調査

		障がい種別	対象者数	抽出率 (発送数/対象者数)	発送数	回収数	回収率 (回収数/発送数)
64歳以下	身体障がい者	肢体不自由、内部障がい、音声・言語・そしゃく機能	863	49%	422	223	53%
		視覚障がい	130	48%	63	30	48%
		聴覚・平衡機能	264	49%	129	70	54%
	知的障がい者		1,290	49%	629	395	63%
	精神障がい者		1,276	49%	623	310	50%
	重度重複障がい者		232	49%	113	66	58%
	計		4,055	49%	1,979	1,094	55%
65歳以上	身体障がい者	肢体不自由、内部障がい、音声・言語・そしゃく機能	808	14%	116	68	59%
		視覚障がい	213	23%	50	27	54%
		聴覚・平衡機能	333	16%	54	28	52%
	知的障がい者		24	54%	13	9	69%
	精神障がい者		14	50%	7	4	57%
	重度重複障がい者		2	50%	1	1	100%
	計		1,394	17%	241	137	57%

町田市が管理している障害福祉サービス等及び障害児通所支援の利用者情報に基づき、障がい種別ごと年齢ごとの構成割合に応じて発送数を決定し、無作為抽出を行った。

※本調査における障害福祉サービス等とは障害者総合支援法第5条第1項に規定されている障害福祉サービス（施設入所支援及び療養介護を除く）並びに、移動支援、補装具、日常生活用具、計画相談支援の事をいう。また、障害児通所支援とは、児童福祉法第6の2の2第1項に規定されている支援及び障害児相談支援をいう。

※身体障がい者については、発送数決定にあたり、年齢層が偏りすぎないように65歳以上の割合を調整している。

※視覚障がい及び聴覚・平衡機能については、母数が少ないため、調査に必要な発送数が確保できるよう調整している。

※重度重複障がい者とは身体障害者手帳1級又は2級及び愛の手帳1度又は2度を重複して所持している人。

(2) サービス未利用者調査

	障がい種別		対象者数	抽出率 (発送数/対象者数)	発送数	回収数	回収率 (回収数/発送数)
	身体障がい者	知的障がい者					
19564歳以下	身体障がい者	肢体不自由、内部障がい、音声・言語・そしゃく機能	1,306	16%	207	85	41.1%
		視覚障がい	125	40%	50	22	44.0%
		聴覚・平衡機能	169	30%	50	17	34.0%
	知的障がい者		639	19%	123	64	52.0%
	精神障がい者		4,444	19%	854	332	38.9%
	難病患者		1,643	19%	316	152	48.1%
	総計		8,326	19%	1,600	672	42.0%
65歳以上	身体障がい者	肢体不自由、内部障がい、音声・言語・そしゃく機能	4,896	5%	243	133	54.7%
		視覚障がい	361	5%	18	9	50.0%
		聴覚・平衡機能	357	4%	14	7	50.0%
	知的障がい者		44	7%	3	2	66.7%
	精神障がい者		818	4%	34	15	44.1%
	難病患者		1,930	5%	88	51	58.0%
	総計		8,406	5%	400	217	54.3%

町田市が管理している「身体障害者手帳」「愛の手帳」「精神障害者保健福祉手帳」「自立支援医療（精神通院）」「難病医療費助成受給者」の情報から調査票1の対象者を除き、障がい種別ごと年齢ごとの構成割合に応じて発送数を決定し、無作為抽出を行った。

※65歳以上の方は原則、障害福祉サービス等の対象外となるが、介護保険のサービスを含め福祉的なサービスを利用していない方のニーズを把握するために必要となる発送数を確保した。

※0～18歳については、障害福祉サービス等の対象となる場合があるものの、通園や通学をしている方が多くを占めることから、サービス未利用者調査の対象からは除いた。

(3) 施設入所者調査

	対象者数	抽出率 (発送数/対象者数)	発送数	回収数	回収率 (回収数/発送数)
総計	283	90%	255	159	62.4%
内 65歳以上	40	93%	37	24	64.9%

町田市が管理している障がい者福祉施設の入所者の情報から無作為抽出を行った。

※障がい者福祉施設の入所者の情報とは、施設入所支援又は療養介護の利用者情報をいう。

※本調査の全体の発送数4,500から他の調査票の発送数を差し引いた数を発送数とした。

(4) 精神科病院入院患者調査

対象者数	抽出率 (発送数/対象者数)	発送数	回収数	回収率 (回収数/発送数)
53	47%	25	3	12.0%

町田市が把握している精神科病院に長期入院している患者の情報から無作為抽出を行った。

5. 調査項目

調査名	調査項目
1. サービス利用者調査	1. 本人について 2. 暮らすことについて 3. 日中の活動や外出について 4. 医療について 5. 家庭・家族について 6. 相談することについて 7. 情報の取得について 8. 防災のことについて 9. 差別をなくすこと・理解協働について 10. 生活上の困りごとについて
2. サービス未利用者調査	1. 本人について 2. 福祉サービスの利用について 3. 生活上の困りごとについて
3. 施設入所者調査	1. 本人について 2. 入所している施設や生活について
4. 精神科病院入院患者調査	1. 本人について 2. 入院している病院や生活について

6. 調査結果の特徴的事項

(1) 回答のあった障がいのある人の性別、年齢、暮らし方※1

		障害福祉サービス 利用者	障害福祉サービス 未利用者	施設 入所者	精神科病院 入院患者
全体		1,247人(100%)	904人(100%)	159人(100%)	3人(100%)
性別	男性	751人(60.2%)	419人(46.3%)	89人(56.0%)	1人(33.3%)
	女性	490人(39.3%)	480人(53.1%)	69人(43.4%)	2人(66.6%)
	その他	2人(0.2%)	2人(0.2%)	0人	0人
年齢	18歳未満	306人(24.5%)	—	0人	0人
	18歳～65歳未満	788人(63.2%)	672人(74.3%)※2	133人(83.6%)	3人(100%)
	65歳以上	137人(11.0%)	217人(24.0%)	24人(15.1%)	0人
暮らし	ひとりで暮らしている	132人(10.6%)	148人(16.4%)	—	—
	家族と同居している	1,013人(81.2%)	711人(78.7%)		
	グループホーム等で生活	83人(6.7%)	—		
	その他(特養、家族以外と同居など)	14人(1.1%)	42人(4.6%)		

※1 無回答は省略しているため、合計が全体数と一致しない場合がある。

※2 障害福祉サービス未利用者は19歳以上が調査対象のため、年齢は19歳～65歳未満となる。

(2) 障害福祉サービス利用者および障害福祉サービス未利用者への調査からみえてくること

障害福祉サービスの利用について

- ・障害福祉サービスの満足度は、外出の支援で6割、訪問支援で7割以上、日中活動の支援で8割弱の利用者が「満足している」または「どちらかという満足している」と回答している。

【該当ページ 26、40、48】

- ・障害福祉サービス未利用者のうち44.6%の方が「支援が必要と感じる困りごと」がありながら、サービスを利用したいと思う方は20.9%にとどまっている。【該当ページ 129、133】

町田市障がい者支援センターの認知度や満足度について

- ・市内5ヶ所で展開している障がい者支援センターの認知度は、障害福祉サービス利用者の80.3%、障害福祉サービス未利用者の41.4%が「知っている」と回答しており、障害福祉サービス未利用者では56.3%が知らない状況にある。【該当ページ 73、144】
- ・障がい者支援センターの満足度は「満足している」が30.0%で、「どちらかという満足している」が45.3%となっている。各地域の障がい者支援センターの満足度は、6割台から8割前後と地域ごとに差がみられる。【該当ページ 77、79】

障がい者差別について

- ・44.7%の方が「差別や偏見を受けたことがある」と回答している。全市民を対象とした町田市市民意識調査では、日常生活における差別感を感じている人は8.2%であり、障がいの有無で大きな差があることが窺える。障がい者差別の解消のための法律や東京都の条例について、「法律も都条例も知らない」と回答した方は55.6%に上っている。【該当ページ 92、96】

第1章 調査の概要

相談したい内容について

- ・「医療や健康に関すること」がもっとも多く、次いで「コミュニケーションのこと」「親の高齢化など介助者に関すること」「経済的なこと」となっている。【該当ページ 71】

ひとり暮らしの状況について

- ・障害福祉サービス利用者全体のうち10.6%の方が該当し、障がい別では、肢体・内部・音声障がいの18.2%、聴覚障がいの15.2%、精神障がいの14.7%の方がひとりで暮らしている。一方で、知的障がいでは1%台にとどまっている。障害福祉サービス未利用者では全体の16.4%の方が該当し、障がい別では、精神障がいの19.8%、視覚障がいの19.4%の方がひとりで暮らしている。障がいや疾病に気づいた時期が19歳以降の方に、ひとり暮らしの割合が多い傾向にある。

【該当ページ 157、163、186、191】

- ・平日の日中を主に自宅で過ごしている割合は、同居者がいる方よりも多い傾向にある。
【該当ページ 168、192】
- ・ホームヘルパー等の訪問支援サービスは、同居者がいる方よりも満足度が低い傾向にある。
【該当ページ 166】

65歳未満の障害福祉サービス未利用者で、平日の日中を自宅のみで過ごしている方の状況について

- ・障がいや疾病による困りごとは、自宅のみで過ごしている方の59.5%、就労や通学など自宅以外での過ごし方がある方の43.5%が「困っていることがある」と回答している。自宅のみで過ごしている方は、困りごとを感じている割合がより高い傾向にある。【該当ページ 202】

障がいや疾病ごとの特徴的事項

- ・障害福祉サービス未利用者の難病の37.4%の方が、障がいや疾病による困りごとが「ある」と回答している。困りごとを感じている方のうち、50.0%が「障害福祉サービスのことを知らない、わからない」と回答しており、自由記述では「障害福祉サービスで難病は何のサポートが提供されているのかわからない」といった意見もみられる。【該当ページ 129、135、150】
- ・発達障がいでは、差別や偏見を受けたことがある方のうち42.6%が、教育・育児の場で差別や偏見を受けたと回答している。【該当ページ 215】

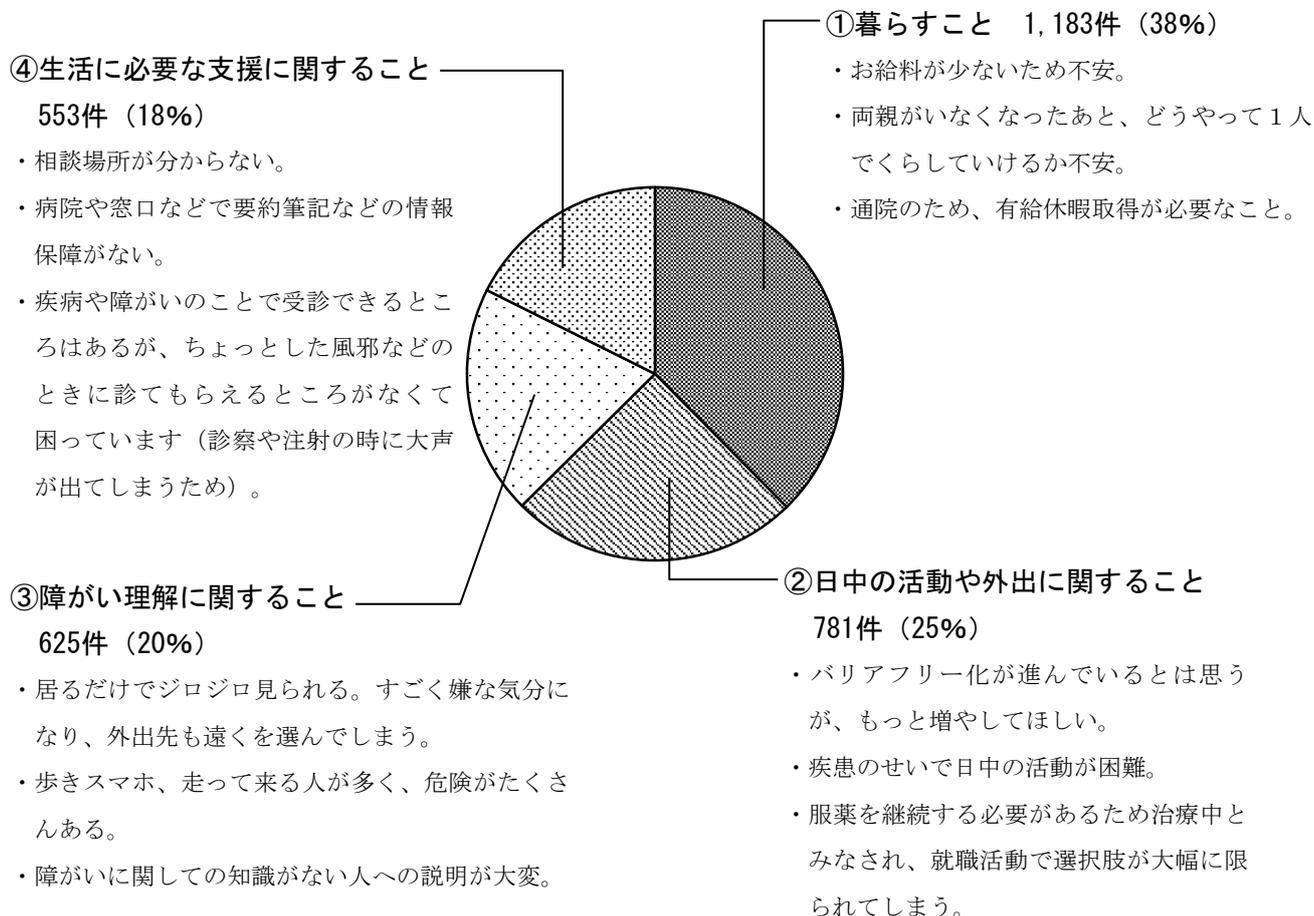
将来望む生活について（自由記述）

- ・「必要な支援を受けながら住み慣れた町田市で暮らし続けたい」「自立した生活がしたい」「仕事をしたい、働き続けたい」という趣旨の意見が多く挙げられている。【該当ページ 110～112、151～153】

生活上の困りごとについて（自由記述）

- ・町田市の福祉施策をはじめ、福祉施策以外の施策全般のことや、国や東京都の制度のこと、市民や民間事業者に関することについても意見が出ている。【該当ページ 103～109、145～150】

件数の多かった区分と主な意見



(3) 施設入所者への調査からみえてくること

- ・本人が自分で調査票を記入した割合は3.8%（6人）で、大半が家族や支援者など本人の意向をくみ取って回答している。【該当ページ 221】
- ・今後希望する生活では、71.7%（114人）の方が施設での生活を希望しており、このうち本人回答は2人となっている。また、本人回答では6人中3人が施設の退所を希望している。【該当ページ 229】

(4) 精神科病院入院患者への調査からみえてくること

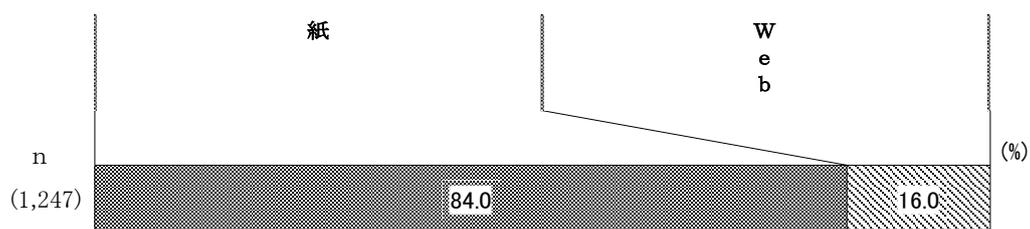
- ・回答数は3件と少なく、全て支援者など本人以外が調査票を記入している。郵送による調査では回答が難しいことが分かったため、計画作成に向けてヒアリング等を検討したい。【該当ページ 237】
- ・将来的に退院を希望する回答者はおらず、入院生活を継続すること以外の選択肢が見出しづらい現状があることが窺える。【該当ページ 238】

7. 調査結果を見る上での注意事項

- ・本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数である。
- ・百分率（%）の計算は、「n」を基数として算出し、小数第2位を四捨五入し小数第1位まで表示した。このため、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にならない場合がある。
- ・複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、%の合計が100%を超える場合がある。
- ・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- ・回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。
- ・障がい種別ごと、年齢ごとに、設定した異なる抽出率が一律になるような補正処理は行っていないため、障がい者の総数として結果をみる場合には、障がい種別ごと年齢ごとに異なる抽出率によって得られた回答を合計した数値及び割合の結果であることに注意が必要である。
- ・性別や年齢別、設問の回答結果別を分析軸として用いているものについては、分析軸の無回答を表示していない。このため、分析軸の項目における基数（n）を足し合わせても全体の基数（n）とは一致しない場合がある。

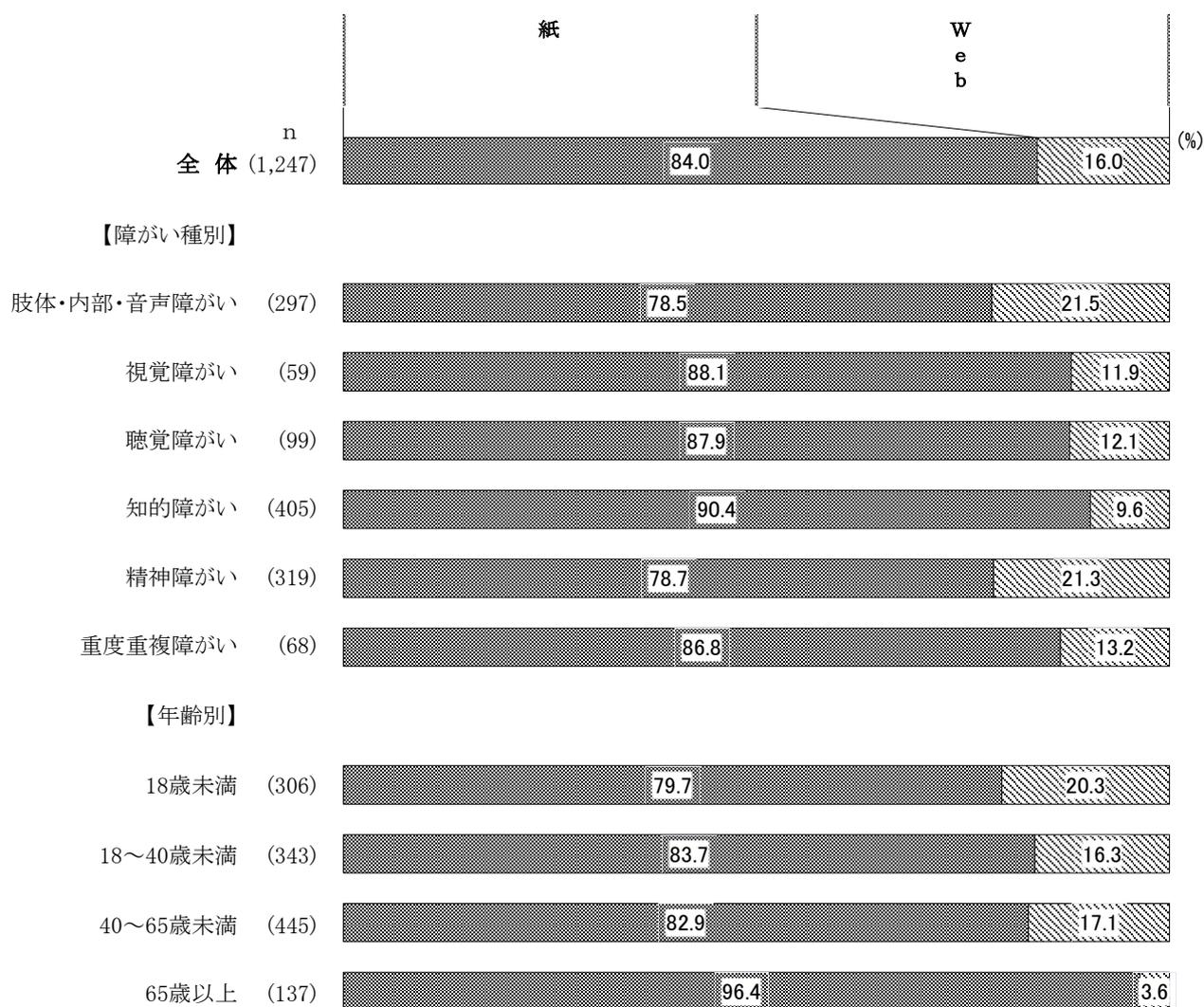
第2章 サービス利用者調査結果

1. 回答方法



サービス利用者調査では、2,220件の発送に対して1,247件の回収があり、回収率は56.2%であった。1,247件の回収方法内訳は「紙」での回答が84.0%、「Web」での回答が16.0%となっている。

障がい種別、年齢別



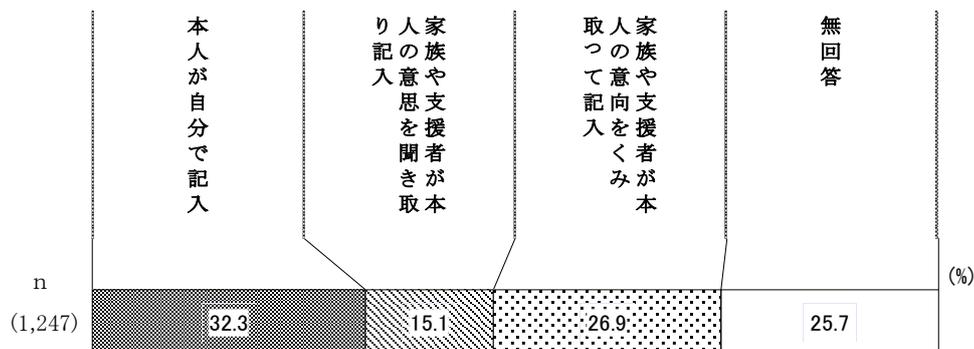
障がい種別、年齢別にみると、いずれも「紙」の方が多いが、「Web」は障がい種別の肢体・内部・音声障がい21.5%、精神障がい21.3%、年齢別の18歳未満で20.3%となっている。

2. 回答者と本人の基本属性

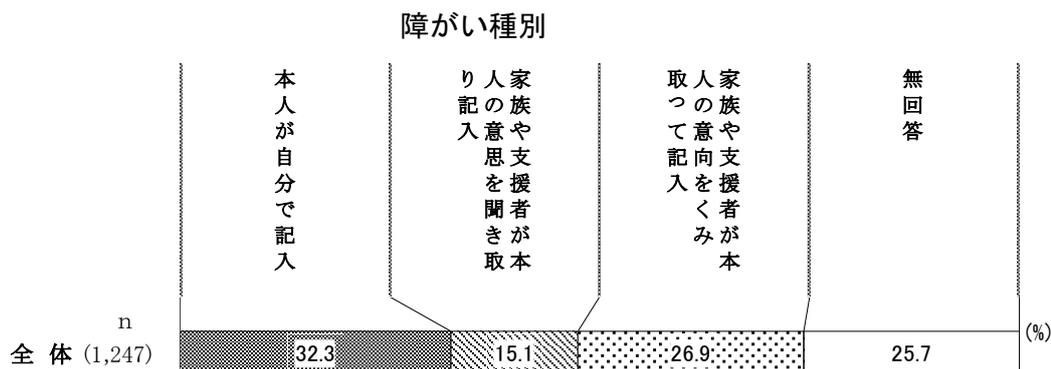
(1) 調査票記入者

問1 本調査の記入方法について回答ください。(あてはまるもの1つに○)

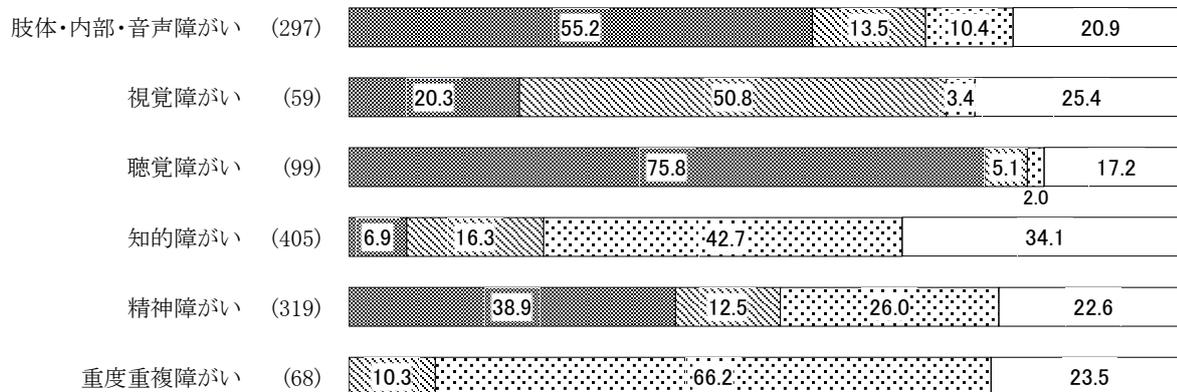
封筒の宛名のご本人以外の方が回答を記入された場合は、記入された方とご本人との関係について、あてはまるものに○をしてください。



調査票記入者は、「本人が自分で記入」が32.3%、「家族や支援者が本人の意向をくみ取って記入」が26.9%、「家族や支援者が本人の意思を聞き取り記入」が15.1%となっている。



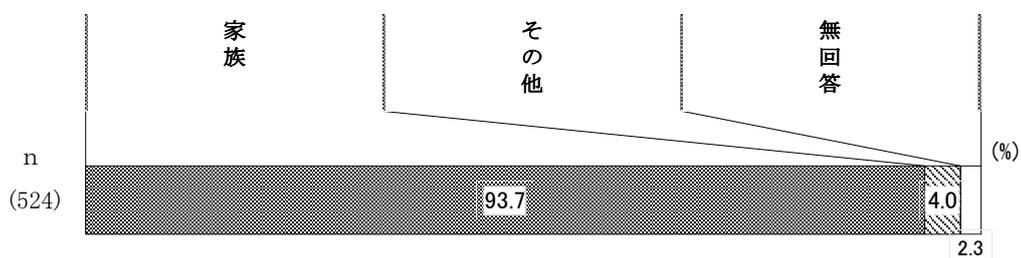
【障がい種別】



障がい種別にみると、本人の記入は聴覚障がいでは75.8%、肢体・内部・音声障がいでは55.2%、精神障がいでは38.9%となっている。一方、視覚障がいでは「家族や支援者が本人の意思を聞き取り記入」が、知的障がいや重度重複障がいでは「家族や支援者が本人の意向をくみ取って記入」が多い。

以降の分析をみる場合には、上記の点に留意する必要がある。

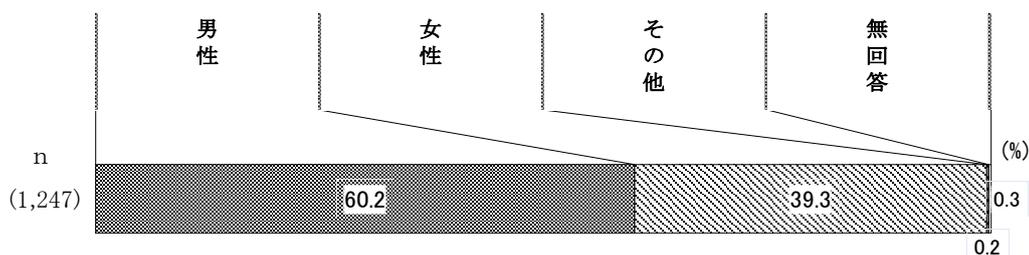
【「家族や支援者が本人の意思を聞き取り記入」または「家族や支援者が本人の意向をくみ取って記入（本人が児童の場合や、ご自身で意思を伝えられない場合など）」に回答した方】



本人に代わって家族や支援者が意思を聞き取る、あるいは意向をくみ取るなどで調査票の記入をしたケースでは、「家族」が93.7%となっている。

(2) 性別

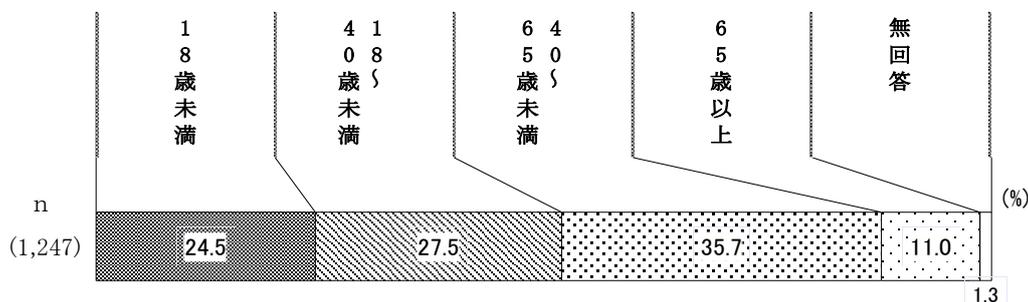
問2 あなた（本人）の性別をお答えください。（あてはまるもの1つに○）



性別は、「男性」が60.2%、「女性」が39.3%となっている。

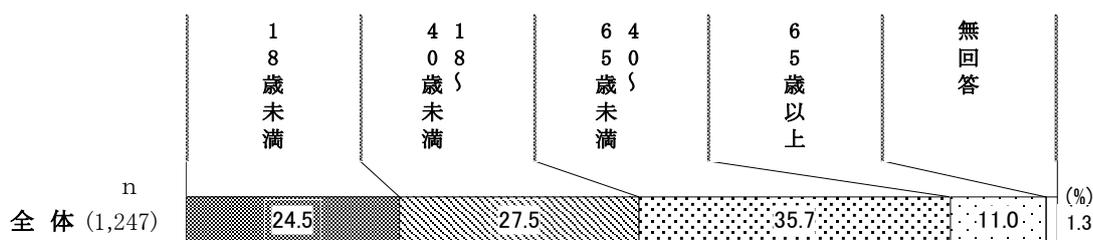
(3) 年齢

問3 あなた（本人）の年齢（2019年4月1日現在）をお答えください。

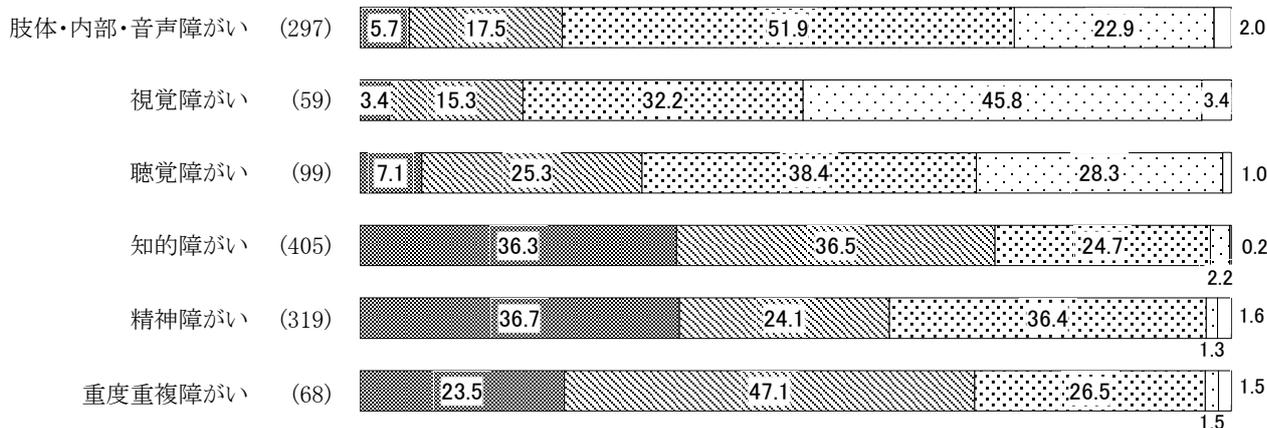


年齢は、「40～65歳未満」が35.7%、「18歳未満」（24.5%）と「18～40歳未満」（27.5%）が2割台となっている。

障がい種別



【障がい種別】



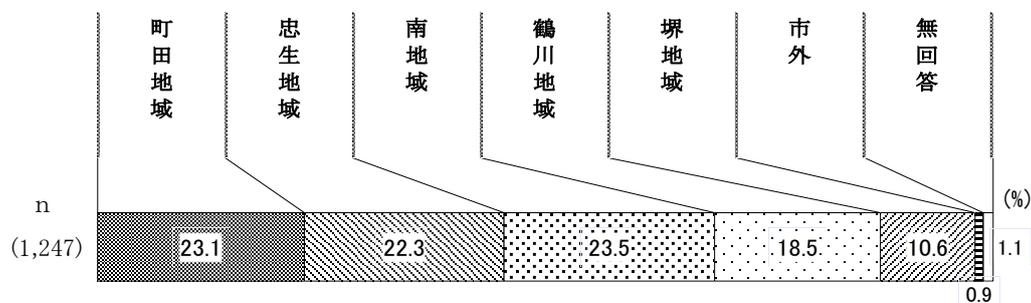
障がい種別にみると、肢体・内部・音声障がいでは「40～65歳未満」が51.9%、視覚障がいでは65歳以上が45.8%となっており、40歳以降の年齢が7割以上を占めている。知的障がいでは「18歳未満」と「18～40歳未満」が、精神障がいでは「18歳未満」と「40～65歳未満」が多くなっている。重度重複障がいでは「18～40歳未満」が47.1%となっている。

(4) 居住地

問4 あなた（本人）が、4月1日現在、お住まいの地域をお答えください。

（あてはまる番号1つに○）

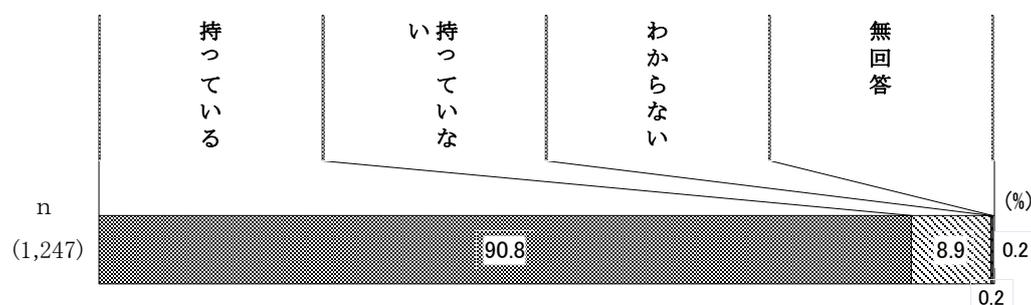
※グループホームにお住まいの方は、グループホームがある地域の番号に○



居住地は、「南地域」(23.5%)、「町田地域」(23.1%)、「忠生地域」(22.3%)が2割台、「鶴川地域」(18.5%)、「堺地域」(10.6%)が1割台となっている。

(5) 障がい者手帳の所持

問5 あなた（本人）は障がい者に関する手帳をお持ちですか。（あてはまるもの1つに○）



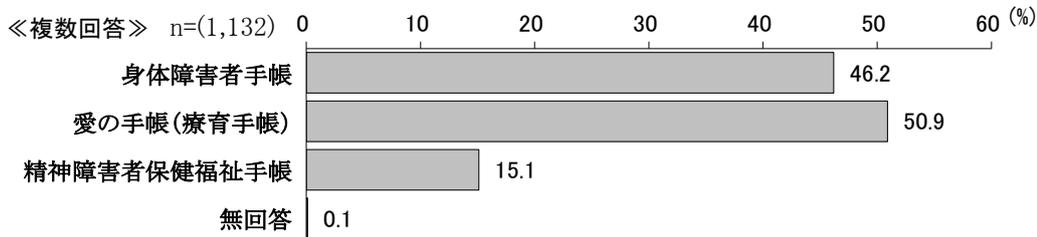
障がい者に関する手帳を「持っている」は90.8%、「持っていない」は8.9%となっている。

(6) 所持している障がい者手帳の種類

【問5で「持っている」と回答した方に】

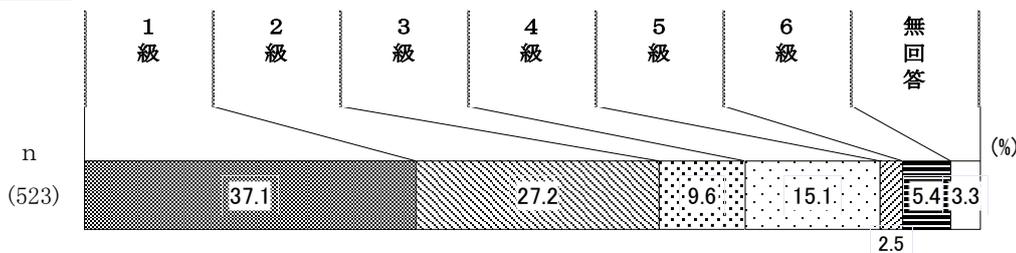
問5-1 お持ちの手帳の種類と等級をお答えください。

(あてはまる手帳の等級すべてに○)

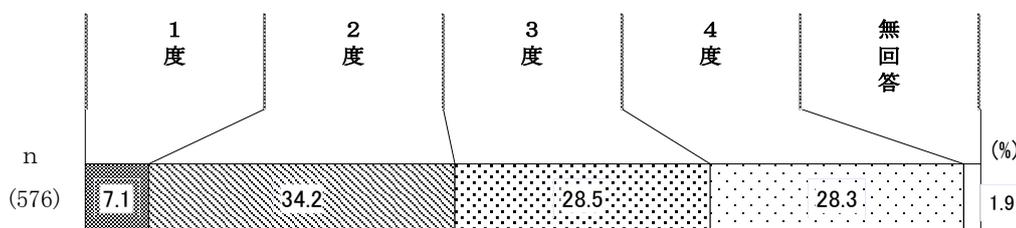


所持している手帳の種類は、「身体障害者手帳」が46.2%、「愛の手帳（療育手帳）」が50.9%と多く、「精神障害者保健福祉手帳」が15.1%となっている。

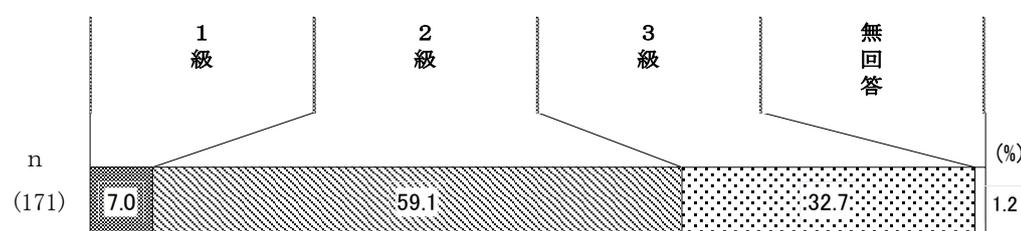
身体障害者手帳



愛の手帳（療育手帳）



精神障害者保健福祉手帳



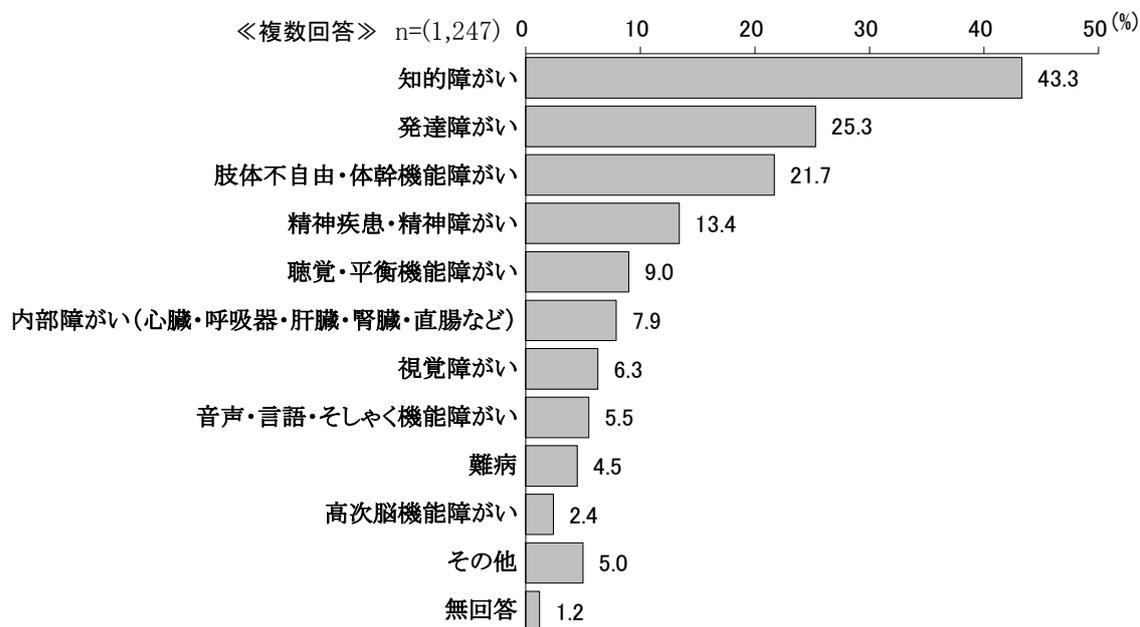
※上図は重複して障がいのある方を含む。

身体障害者手帳の等級は「1級」が37.1%、「2級」が27.2%で程度の重い方が6割以上を占める。愛の手帳（療育手帳）の等級は「2度」が34.2%、「3度」（28.5%）と「4度」（28.3%）が2割台となっている。

精神障害者保健福祉手帳の等級は「2級」が59.1%、「3級」が32.7%となっている。

(7) 障がいや疾病の内容

問6 あなた（本人）の障がいや疾病の内容についてお答えください。
（あてはまるものすべてに○）

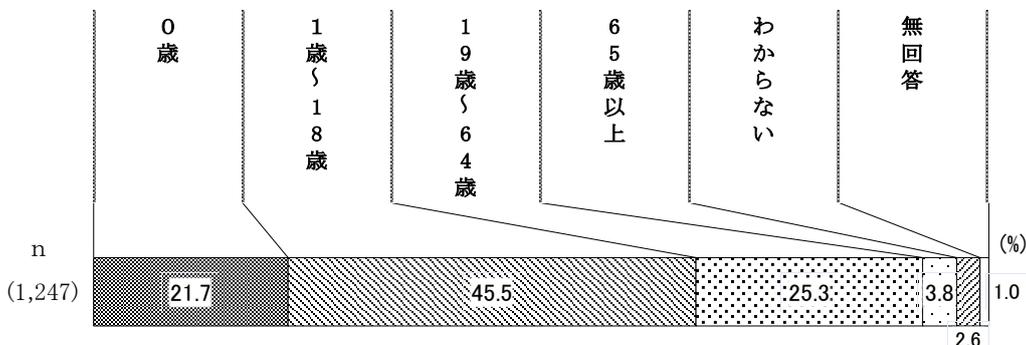


※サービス利用者調査の対象となった方の回答結果であって、町田市の障がい者全体の構成比を示すものではない。

障がいや疾病の内容は、「知的障がい」が43.3%で最も多く、次いで「発達障がい」(25.3%)、「肢体不自由・体幹機能障がい」(21.7%)が2割台となっている。

(8) 障がいや疾病に気づいた時期

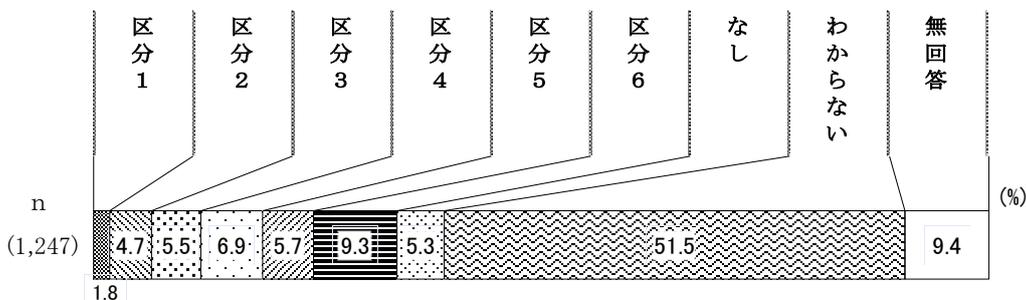
問7 あなた（本人）の障がいや疾病に気づいたのはいつ頃ですか。
 （あてはまるもの1つに○）



自分の障がいや疾病に気づいた時期は、「1歳～18歳」が45.5%、「19歳～64歳」(25.3%)、「0歳」(21.7%)が2割台となっている。

(9) 障害者総合支援法での障害支援区分

問8 あなた（本人）の障害者総合支援法での障害支援区分は次のどれですか。
 （あてはまるもの1つに○）



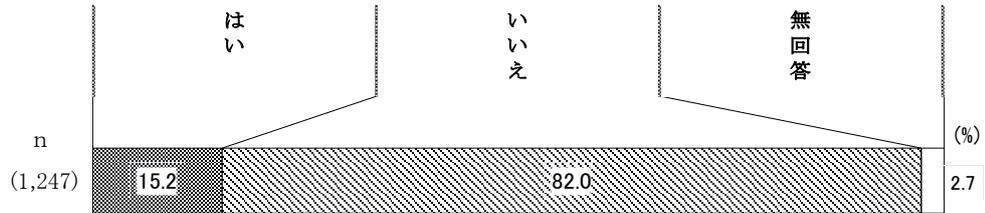
本人の障害者総合支援法での障害支援区分は、各区分で1割未満となっており、「わからない」が51.5%となっている。

※障害支援区分について「なし」又は「わからない」が全体の56.8%を占める結果になったのは、回答者1,247名のうち、約50%の人が区分を取得することなく利用が可能な障害福祉サービス等を単独で利用しているためと考えられる。

(10) 介護保険サービスの利用の有無

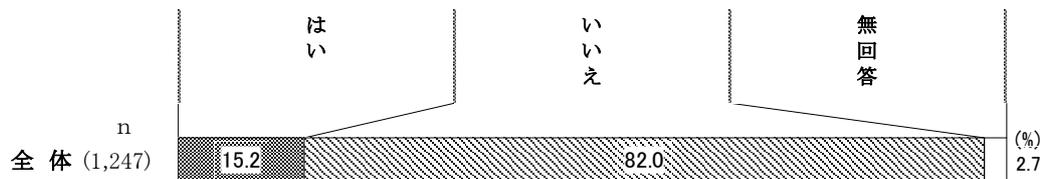
問9 あなた（本人）は、介護保険のサービスを利用していますか。
（あてはまるもの1つに○）

注) 65歳以上の人については、介護保険サービス優先となり障害福祉サービス等は対象外となるが、介護保険サービスにない一部のサービスについては、利用の対象となる。そのため、65歳以上の人福祉的なサービスの利用状況やニーズ等について把握するために、本調査では介護保険サービスの利用状況についての問を設けた。
*受給要件を満たす場合には65歳未満の方でも介護保険サービスの対象となります。

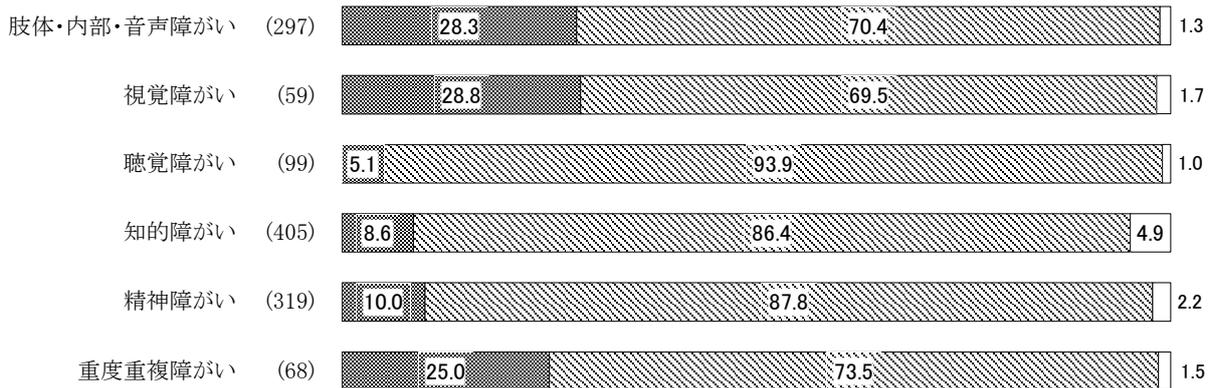


介護保険サービスの利用の有無（本人）は、利用者（「はい」）が15.2%、未利用者（「いいえ」）が82.0%となっている。

障がい種別、年齢別



【障がい種別】



【年齢別】



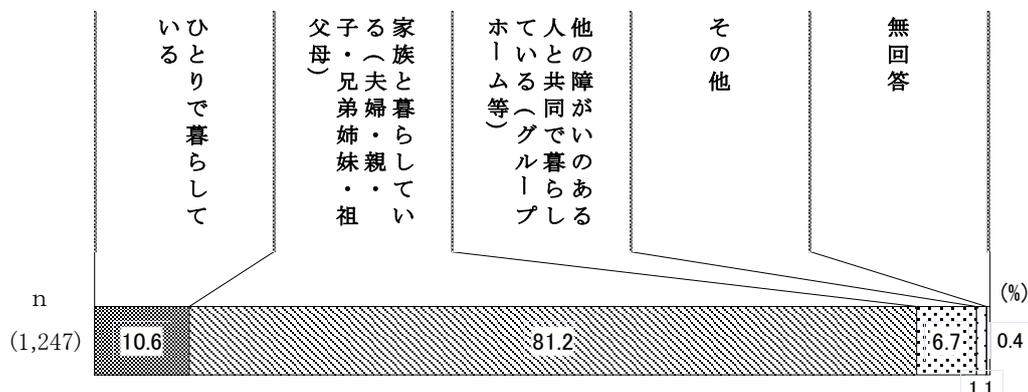
障がい種別にみると、利用者は肢体・内部・音声障がい、視覚障がい、重度重複障がいで2割台となっている。

年齢別にみると、65歳以上では35.8%となっている。

3. 暮らすことについて

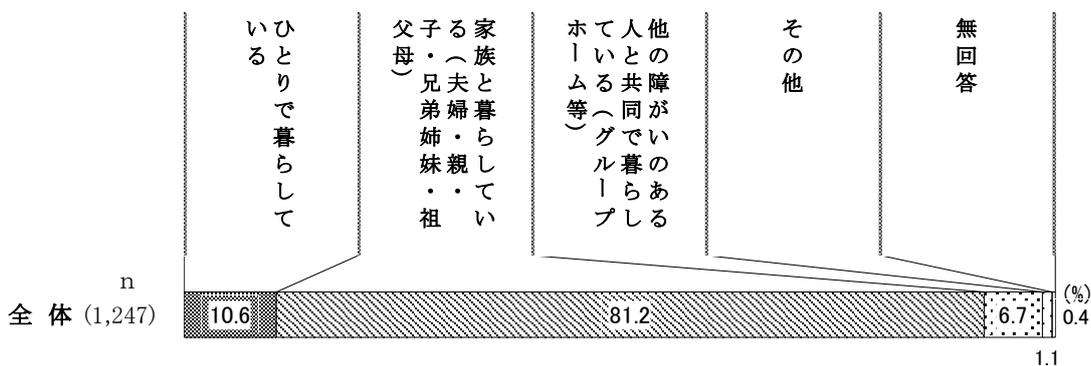
(1) 同居者

問10 あなた（本人）は、どなたと一緒に住まいですか。（あてはまるもの1つに○）
 ※1週間のうちで1番日数の多いものに○をつけてください。

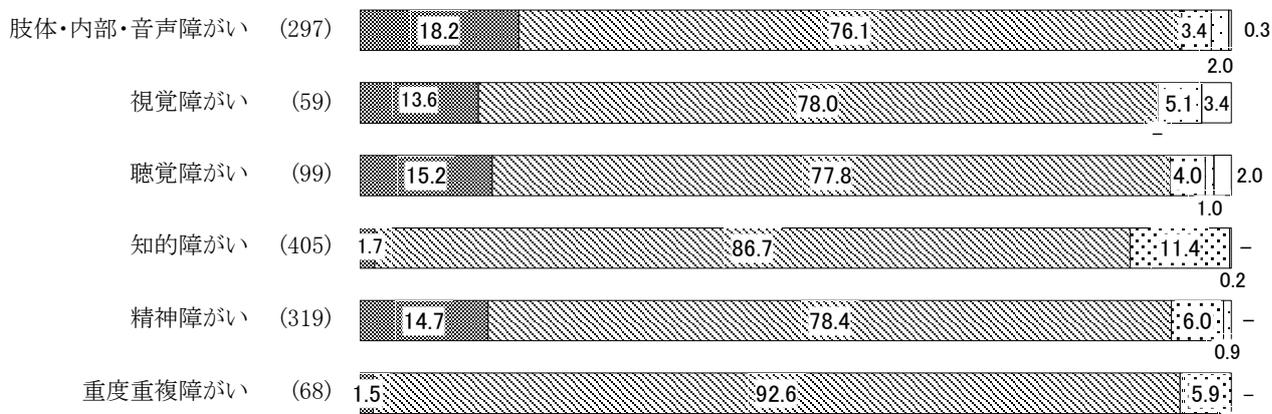


同居者は、「家族と暮らしている（夫婦・親・子・兄弟姉妹・祖父母）」が81.2%を占め、「ひとりで暮らしている」は10.6%となっている。

障がい種別



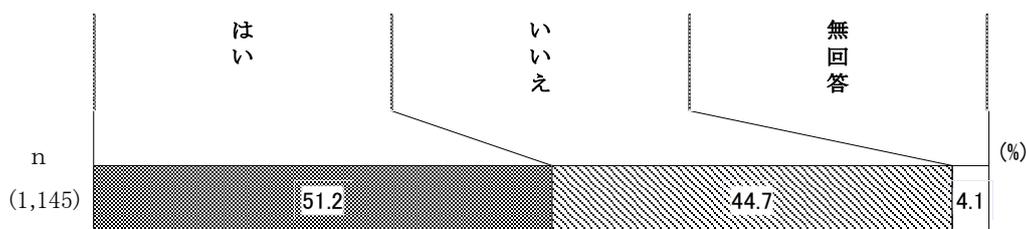
【障がい種別】



障がい種別にみると、いずれの障がいも「家族と暮らしている（夫婦・親・子・兄弟姉妹・祖父母）」が7割以上を占めている。肢体・内部・音声障がい、視覚障がい、聴覚障がい、精神障がいでは「ひとりで暮らしている」が1割台となっている。

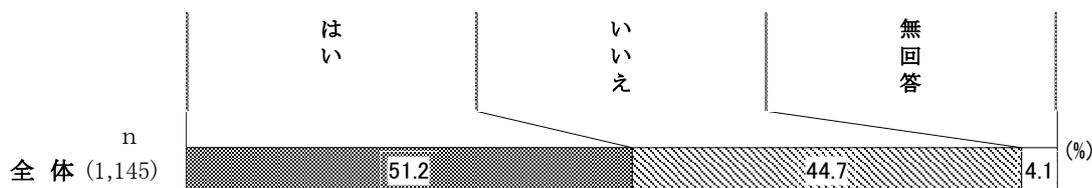
(2) 自宅での生活の支援の有無

【問10で「ひとりで暮らしている」または「家族と暮らしている」と回答した方に】
 問10-1 あなた（本人）は、自宅で、食事や入浴等の生活の支援を受けていますか。
 （あてはまるもの1つに○）
 ※支援とは、見守り、声掛け、一部介助、全介助のすべてを含みます。

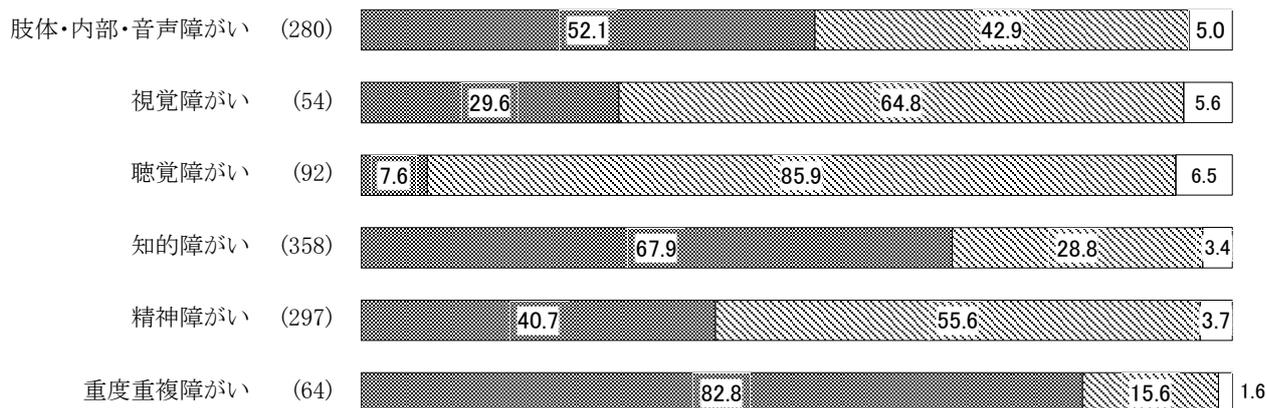


自宅での食事や入浴等の生活の支援の有無は、受けている（「はい」）が51.2%、受けていない（「いいえ」）が44.7%となっている。

障がい種別



【障がい種別】

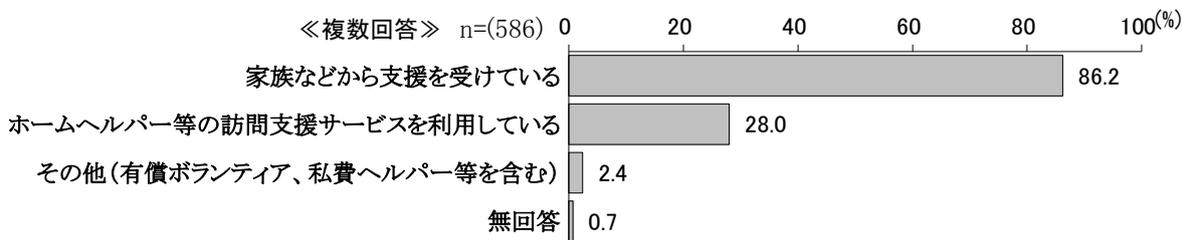


障がい種別にみると、支援を受けているは、重度重複障がい（82.8%）、知的障がい（67.9%）と多く、肢体・内部・音声障がいでも52.1%となっている。

(3) 自宅での生活の支援者

【問10-1で「はい」と回答した方に】

問10-2 あなた（本人）は、自宅で、食事や入浴等の生活の支援を誰から受けていますか。
（あてはまるものすべてに○）



自宅での食事や入浴等の生活の支援は、「家族などから支援を受けている」が86.2%と特に多く、これに「ホームヘルパー等の訪問支援サービスを利用している」が28.0%で次いでいる。

障がい種別

(単位: %)

障がい種別		n	家族などから支援を受けている	ホームヘルパー等の訪問支援サービスを利用している	その他(有償ボランティア、私費ヘルパー等を含む)	無回答
全体		586	86.2	28.0	2.4	0.7
障がい種別	肢体・内部・音声障がい	146	72.6	55.5	4.8	-
	視覚障がい	16	68.8	43.8	-	-
	聴覚障がい	7	57.1	28.6	-	28.6
	知的障がい	243	95.5	10.7	2.1	0.4
	精神障がい	121	85.1	17.4	-	0.8
	重度重複障がい	53	92.5	50.9	3.8	-

※網掛けは最も多いもの

障がい種別にみると、知的障がい、精神障がい、重度重複障がいでは「家族などから支援を受けている」が8割以上と多く、肢体・内部・音声障がい、視覚障がいでは7割前後となっている。「ホームヘルパー等の訪問支援サービスを利用している」は肢体・内部・音声障がいと重度重複障がいでは5割台となっている。

年齢別

(単位: %)

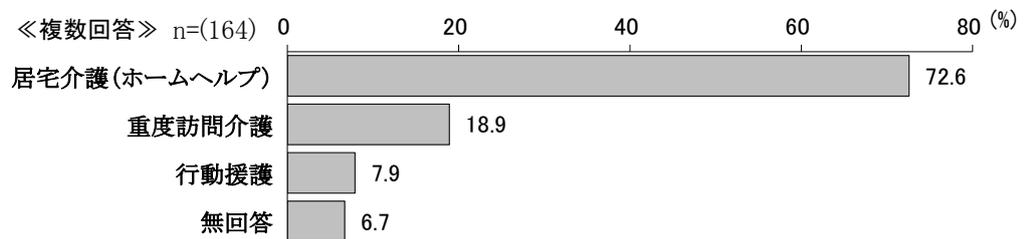
《複数回答》		n	家族などから支援を受けている	ホームヘルパー等の訪問支援サービスを利用している	その他(有償ボランティア、私費ヘルパー等を含む)	無回答
全体		586	86.2	28.0	2.4	0.7
年齢別	18歳未満	189	97.9	5.8	1.6	1.1
	18～40歳未満	172	93.0	26.2	1.7	-
	40～65歳未満	179	72.1	45.3	3.9	-
	65歳以上	38	68.4	57.9	2.6	5.3

※網掛けは最も多いもの

年齢別にみると、「家族などから支援を受けている」は40歳未満では9割台と多いが、年齢が高くなるにつれて少なくなる。一方、「ホームヘルプサービス等の訪問支援サービスを利用している」は40歳未満では3割以下となっているが、年齢が高くなるにつれて多くなり、65歳以上で57.9%となっている。しかし、65歳以上の人でも、「家族の支援を受けている」人が最も多く68.4%となっている。

(4) 利用中の訪問支援サービス

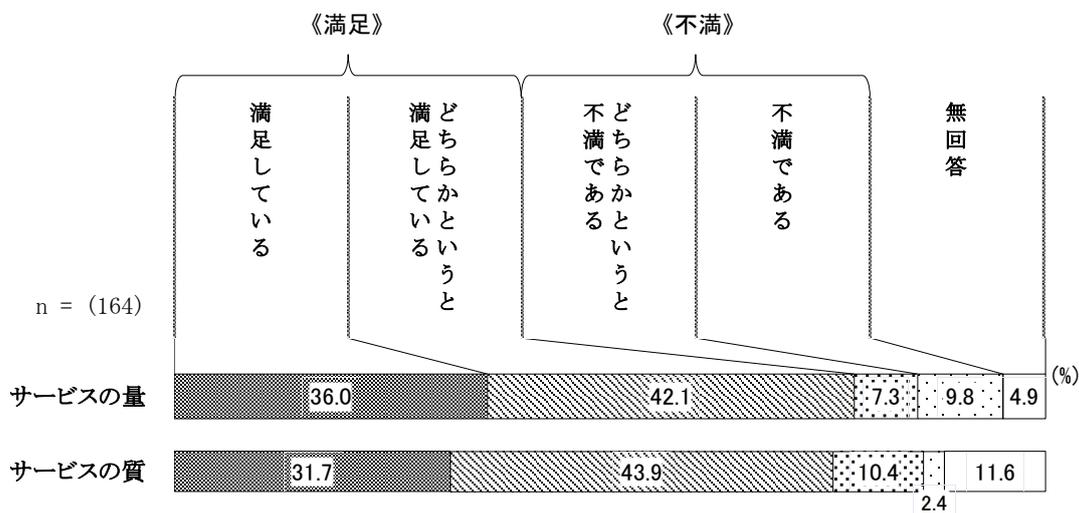
【問10-2で「ホームヘルパー等の訪問支援サービスを利用している」と回答した方に】
 問10-3 利用している訪問支援サービスに○をしてください。
 (あてはまるものすべてに○)



利用している訪問支援サービスは、「居宅介護 (ホームヘルプ)」が72.6%と特に多く、次いで「重度訪問介護」が18.9%、「行動援護」が7.9%となっている。

(5) 利用中の訪問支援サービスの満足度

【問10-2で「ホームヘルパー等の訪問支援サービスを利用している」と回答した方に】
 問10-4 利用しているホームヘルパー等の訪問支援サービスに満足していますか。
 (量と質それぞれあてはまるもの1つに○)



利用している訪問支援サービスの量について、「満足している」は36.0%、「どちらかという満足している」は42.1%で、両者をあわせた《満足》は78.1%、《不満》（「どちらかという不満である」＋「不満である」）は17.1%となっている。

サービスの質について、「満足している」は31.7%、「どちらかという満足している」は43.9%で、両者をあわせた《満足》は75.6%、《不満》（「どちらかという不満である」＋「不満である」）は12.8%となっている。

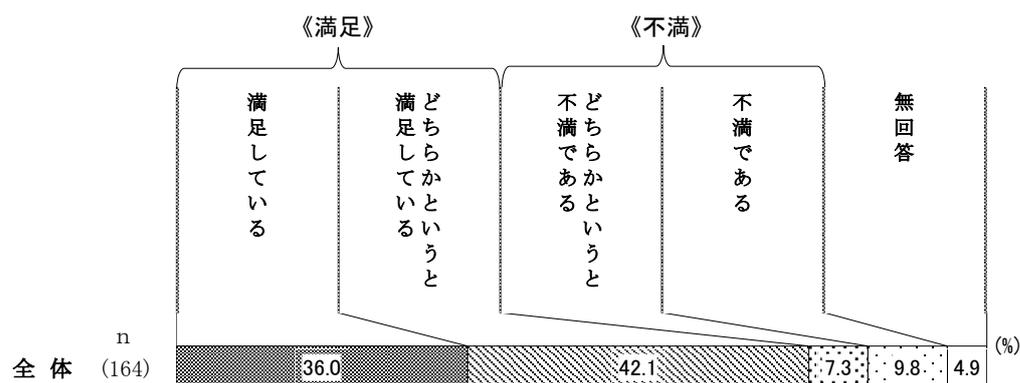
年齢別、障がい種別

		(単位:%)					(単位:%)					
		量					質					
		満足している	どちらかという満足している	どちらかという不満である	不満である	無回答	満足している	どちらかという満足している	どちらかという不満である	不満である	無回答	
全体		164	36.0	42.1	7.3	9.8	4.9	31.7	43.9	10.4	2.4	11.6
年齢別	18歳未満	11	27.3	63.6	-	-	9.1	45.5	27.3	18.2	-	9.1
	18～40歳未満	45	28.9	44.4	11.1	11.1	4.4	28.9	53.3	4.4	2.2	11.1
	40～65歳未満	81	42.0	39.5	7.4	8.6	2.5	32.1	44.4	12.3	2.5	8.6
	65歳以上	22	36.4	40.9	4.5	9.1	9.1	27.3	31.8	13.6	4.5	22.7
障がい種別	肢体・内部・音声障がい	81	33.3	43.2	7.4	13.6	2.5	25.9	50.6	12.3	2.5	8.6
	視覚障がい	7	28.6	42.9	14.3	-	14.3	42.9	14.3	14.3	-	28.6
	聴覚障がい	2	50.0	50.0	-	-	-	50.0	50.0	-	-	-
	知的障がい	26	38.5	34.6	11.5	7.7	7.7	34.6	38.5	7.7	3.8	15.4
	精神障がい	21	57.1	19.0	4.8	4.8	14.3	47.6	23.8	9.5	-	19.0
	重度重複障がい	27	25.9	63.0	3.7	7.4	-	29.6	51.9	7.4	3.7	7.4

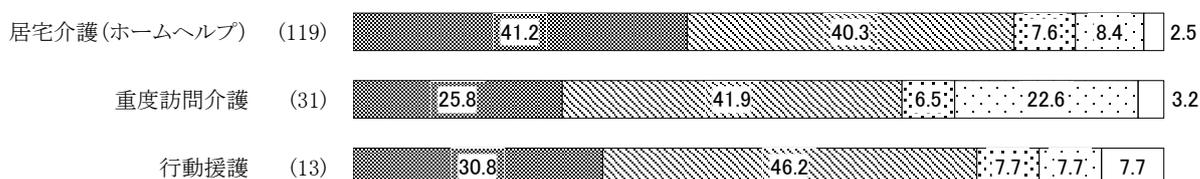
※網掛けは量、質とも《満足》計と《不満》計を比較して多い方

年齢別、障がい種別ともにいずれも《満足》が多くなっている。

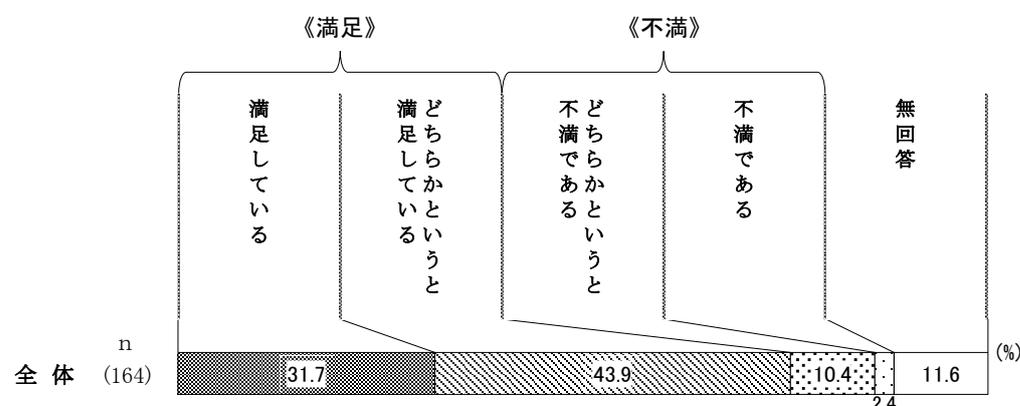
利用中の訪問支援サービス別（問 10-3） 量の満足度



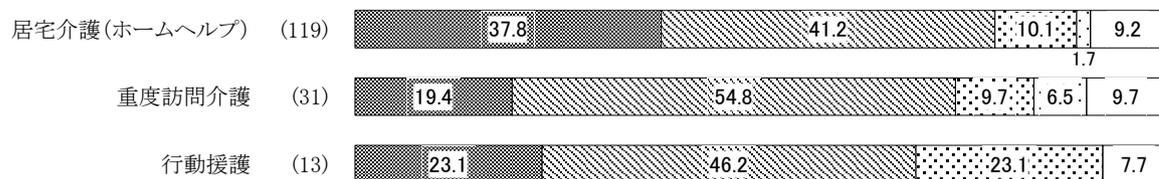
【利用中の訪問支援サービス(複数回答)別】



利用中の訪問支援サービス別（問 10-3） 質の満足度



【利用中の訪問支援サービス(複数回答)別】



利用中の訪問支援サービス別（問 10-3）に量の満足度をみると、居宅介護（ホームヘルプ）は「満足している」が 41.2%、《満足》では 81.5%と多くなっている。重度訪問介護は「満足している」は 25.8%、《満足》では 67.7%となっている。

質では、居宅介護（ホームヘルプ）は「満足している」が 37.8%、《満足》では 79.0%と多くなっている。重度訪問介護は「満足している」が 19.4%、《満足》では 74.2%となっている。

【「どちらかという不満である」または「不満である」と回答した方に】
不満の理由についてお答えください。

不満の理由について延べ41件の記述があった。

以下は一部抜粋したものである。

◆時間や回数（22件）

- ・シャワーが週に2回で、もう一回増やしたいが、仕事が終わってから、20時～21時でサービスをうけているので、きてくれるヘルパーさんがいない為。〔肢体・内部・音声〕
- ・来て下さる日時を、こちらの都合で決められない。（ヘルパーさん側の空いた時間がないとこちらの来てほしい時間に来てもらえない）。急に来て下さるヘルパーさんが変わったりする。実際に困ったことはないが、自閉症なので、関係がうまくいっている時に急に他の人に代わられることには、今後、不安があります。〔知的〕
- ・時間が足りない。1人親のため、通所施設への送り出し、迎え入れをヘルパーに頼っているが、時間数が足りないため正社員から契約社員となり勤務日数を減らした。〔知的〕
- ・ヘルパーが不足していて支給されている時間数を使えない。〔精神〕
- ・利用できる時間数が少ない。〔重度重複〕

◆ヘルパー、専門職の質や対応（8件）

- ・脳性麻痺のことをあまり知らない方が多い。これから年をとってかなり身体的に障がいが重くなる可能性があるから、生まれつきの肢体不自由者の介助をどうするか、国や都道府県、区市町村が考える時代に来たと思っています。〔肢体・内部・音声〕
- ・ヘルパー個人の問題で交代してもらいたいが、言いだしにくい。〔視覚〕
- ・まずは、専門職と言われる方達の質も量も不満です。ユーザーニーズを把握していない。サービス側の質も量も上げて欲しい。意識が低い、勘違いが多い。適した知識が乏しい。〔肢体・内部・音声〕
- ・本人の気持ちをくみとって、親身に介護してくれる方もいるし、専門性に全く欠ける人もいる。ヘルパーさんの質のばらつきが大きい。〔精神〕

◆サービスの内容、料金（6件）

- ・食事がかたよりすぎと食事の内容〔肢体・内部・音声〕
- ・受けられるサービス内容がヘルパーステーションによって異なること。身体介助の見守りのサービスの意味するところがはっきりしない。〔肢体・内部・音声〕
- ・個別的な援助内容が不明。家族に向けた連絡帳を作成し、情報の共有を図りたい。本人の体調や行動チェックすることで病状の早期発見、治療に役立てられるし、問題行動により事件になる可能性もあるので、他の援助や見守りのサービスを検討していきたい。〔知的〕

◆サービスの範囲（3件）

- ・やってもらえることが少ない（電球かえる、車に同乗して買物に行く）。〔精神〕
- ・重度障がい児であるが、家族のためのレスパイト利用時に、移動支援をどこからも受けることができない。レスパイト（泊まり）の時は、たくさんの荷物（医療ケアの物品含む）があり、レスパイトに連れていきたいのに、移動（連れ出す）ことができない。〔肢体・内部・音声〕

◆その他（2件）

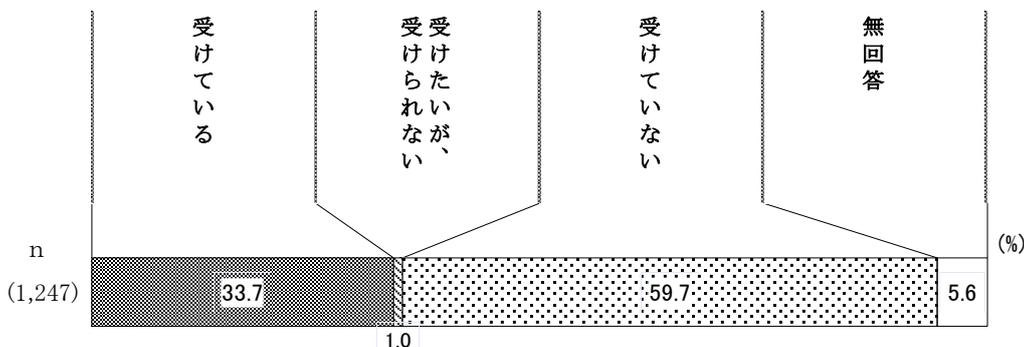
(6) 補装具や日常生活用具の給付状況

問11 あなた（本人）は補装具や、日常生活用具の給付を受けていますか。

(あてはまるもの1つに○)

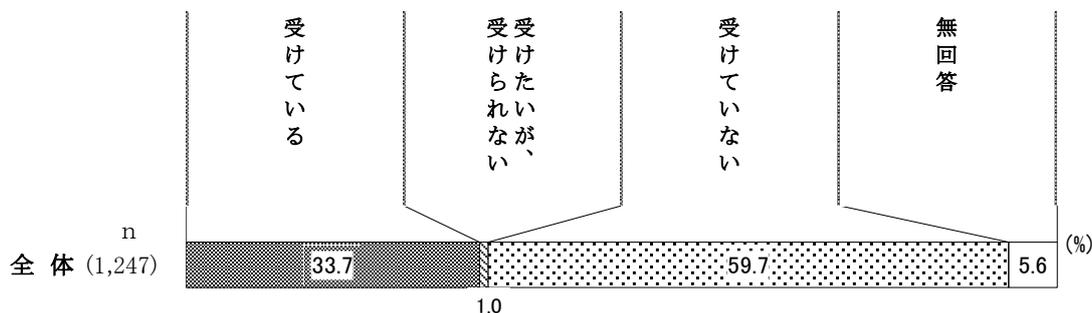
※補装具…車いす、義肢、装具、補聴器など身体機能を補完するもの。

※日常生活用具…介護用品、会話補助装置、点字器など日常生活上の困難を改善するもの。

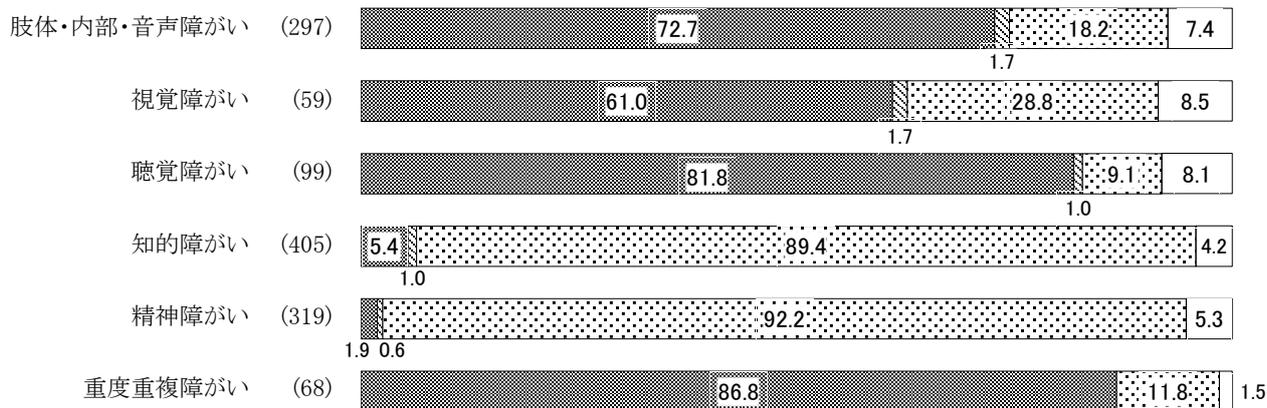


補装具や日常生活用具の給付状況は、「受けている」が33.7%、「受けていない」が59.7%となっている。

障がい種別



【障がい種別】

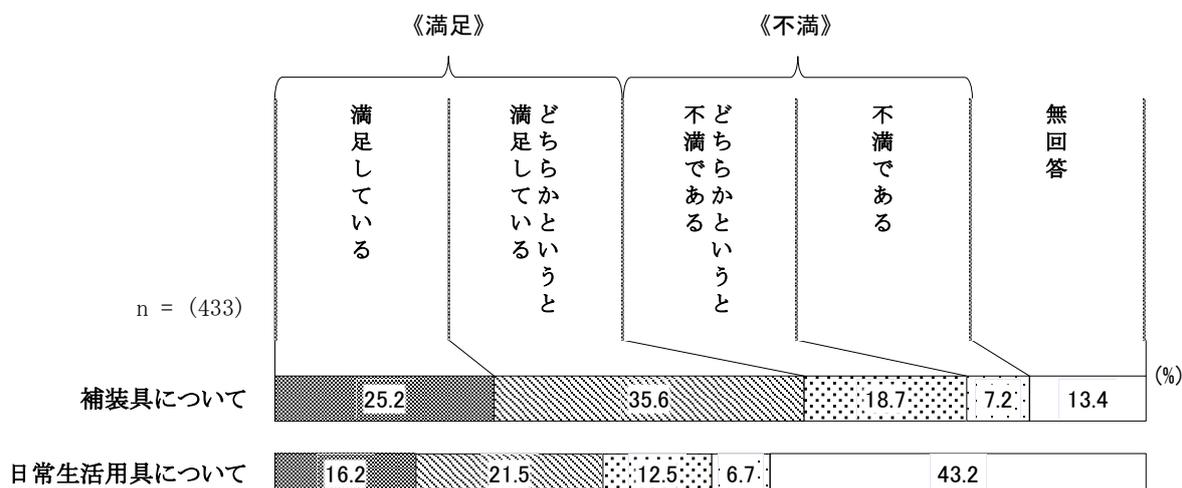


障がい種別にみると、「受けている」は肢体・内部・音声障がい (72.7%)、聴覚障がい (81.8%)、重度重複障がい (86.8%) で多くなっている。

(7) 補装具や日常生活用具の給付サービスの満足度

【問11で「受けている」または「受けたいが、受けられない」と回答した方に】

問11-1 補装具や日常生活用具の給付サービスに満足していますか。
 (補装具と日常生活用具それぞれあてはまるもの1つに○)



補装具について、「満足している」は25.2%、「どちらかという満足している」は35.6%で、両者をあわせた《満足》は60.8%、《不満》（「どちらかという不満である」＋「不満である」）は25.9%となっている。

日常生活用具について、「満足している」は16.2%、「どちらかという満足している」は21.5%で、両者をあわせた《満足》は37.7%、《不満》（「どちらかという不満である」＋「不満である」）は19.2%となっている。

年齢別、障がい種別

		(単位: %)					(単位: %)					
		補装具					日常生活用具					
	n	満足している	どちらかという満足している	どちらかという不満である	不満である	無回答	満足している	どちらかという満足している	どちらかという不満である	不満である	無回答	
全体		433	25.2	35.6	18.7	7.2	13.4	16.2	21.5	12.5	6.7	43.2
年齢別	18歳未満	61	21.3	44.3	24.6	4.9	4.9	9.8	11.5	11.5	11.5	55.7
	18～40歳未満	101	30.7	33.7	17.8	12.9	5.0	19.8	22.8	10.9	8.9	37.6
	40～65歳未満	176	22.7	39.8	21.0	5.7	10.8	15.3	23.9	14.8	5.7	40.3
	65歳以上	88	28.4	23.9	11.4	3.4	33.0	18.2	21.6	11.4	2.3	46.6
障がい種別	肢体・内部・音声障がい	221	27.6	33.9	20.8	5.9	11.8	17.6	24.4	12.2	6.3	39.4
	視覚障がい	37	16.2	21.6	16.2	8.1	37.8	10.8	24.3	27.0	10.8	27.0
	聴覚障がい	82	26.8	41.5	15.9	6.1	9.8	11.0	18.3	7.3	-	63.4
	知的障がい	26	11.5	38.5	26.9	11.5	11.5	7.7	11.5	-	7.7	73.1
	精神障がい	8	25.0	12.5	12.5	12.5	37.5	12.5	-	12.5	12.5	62.5
	重度重複障がい	59	25.4	44.1	13.6	10.2	6.8	25.4	20.3	16.9	13.6	23.7

※網掛けは補装具、日常生活用具とも《満足》計と《不満》計を比較して多い方

年齢別では補装具、日常生活用具ともに《満足》が多いが、日常生活用具の18歳未満では《不満》の割合の方が多くなっている。

障がい種別にみると、いずれの障がい種別においても《満足》が《不満》を上回っているが、補装具は知的障がいで《不満》の割合が38.4%と他の障がいと比較してやや多く、日常生活用具では視覚障がいで《不満》の割合が比較的多くなっている。

【「どちらかという不満である」または「不満である」と回答した方に】
不満の理由についてお答えください。

不満の理由について延べ159件の記述があった。

以下は一部抜粋したものである。

◆費用・金額、補助（61件）

- ・子どもの成長が日々変わるため、一度申請しても、また数ヶ月後に、他の物を申請と、毎回お金の負担がきびしいです。くつも、市販で購入しても、補助が出ないのがきびしいです。〔重度重複〕
- ・もう少し補助金額を増やして欲しい。〔肢体・内部・音声〕
- ・補装具、日常生活用具は、毎日の生活に使う物なので給付金は全額役所で負担して頂きたい。〔肢体・内部・音声〕
- ・私は補聴器と人工内耳を付けています。補聴器の補助金は出るのに人工内耳の補助金が無いのが不満です。〔聴覚〕
- ・杖の買い換えについてももう少し給付サービスを拡大してほしい。〔肢体・内部・音声〕
- ・日常使用するストーマ装具の費用が安くない為、もう少し給付額が上がると大変助かります。〔精神障がい〕

◆承認、申請、更新手続き（38件）

- ・申請が面倒くさい、1カ所ですませたい。〔肢体・内部・音声〕
- ・補聴器は、5年に1度、9割補助ですが、65才以下の現役も寝たきりの人も同じ5年というのは、おかしいと思います。現役世代は使用頻度も高く故障のリスクは大だ。〔聴覚〕
- ・体には必要でも見た目で見えないと判断されたことがある。体の変化のたびに見積りをとったりして時間がかかりすぎる。行政の方にはわからないことがあるので意見を聞いて細かく対応してもらいたい。〔重度重複〕
- ・補装具の修理の申請まで時間がかかる。修理など緊急性のあるものは、もっと事後申請を認めるなど、簡略化してほしい。〔肢体・内部・音声〕
- ・進行に合わせて器具など換えるときに、期間が長すぎて次の器具などが買えない。〔精神〕

◆用具〔内容、量〕（19件）

- ・車いすや入浴補助用具等の耐用年数が長すぎて、それ以前に壊れてしまい困っています。〔肢体・内部・音声〕
- ・足の装具とくつがあわない。〔肢体・内部・音声〕
- ・給付される補聴器のレベルが低すぎる。〔聴覚〕
- ・オムツの量が足りない。〔肢体・内部・音声〕

◆用具〔種類、範囲〕（13件）

- ・本当に必要な物が購入できない。枠がせまい。使い方が限定されている。〔視覚〕
- ・電話のできない人が、コミュニケーションをとれるように工夫してほしい。最近、FAXが使えないというところが増えてきて困っている。音声サービスも増えているため難しいのでタブレット配布などしてほしい。〔聴覚〕
- ・用具の種類をもう少し広げて欲しい。〔視覚〕
- ・日常生活用具が他の市町村で認められているのに、町田市では認められていない物が多い。〔知的〕

◆用具〔作成、予備〕（7件）

- ・靴の補装具を作らせていただいているが、季節によっては体温調整が下手な身障者にとって不都合なものになってしまっています。私達が季節によって衣類や靴を調整するように、その気候に合った補装具を作る事が出来ない事に対して不満を持っています。〔重度重複〕

第2章 サービス利用者調査結果

- ・義足を使用しているのですが、毎日使う（肌に直接、触れる）ライナーが不具合にならないければ5年間同じ物を使用しなくてはならないのは困ります。夏は一番困っています。替えがあるといい。〔肢体・内部・音声〕

◆情報提供不足（4件）

- ・日常生活の補装具をどこで受ければいいのか分からない。〔肢体・内部・音声〕
- ・紙オムツの支給を受けているが、福祉用具の事業所に頼むと市販の価格に比べて非常に高いので、必要量が確保できない。あちこちのドラッグストアに問い合わせをして、対応してくれるところを見つけたが、市役所でも調査して、一覧表を作ってほしい。〔精神〕

◆用具〔メンテナンス〕（4件）

- ・くつと一体型の装具でくつの修理が認められないから。〔肢体・内部・音声〕
- ・車椅子の修理に定期的に来てほしい。〔視覚〕

◆提供者（3件）

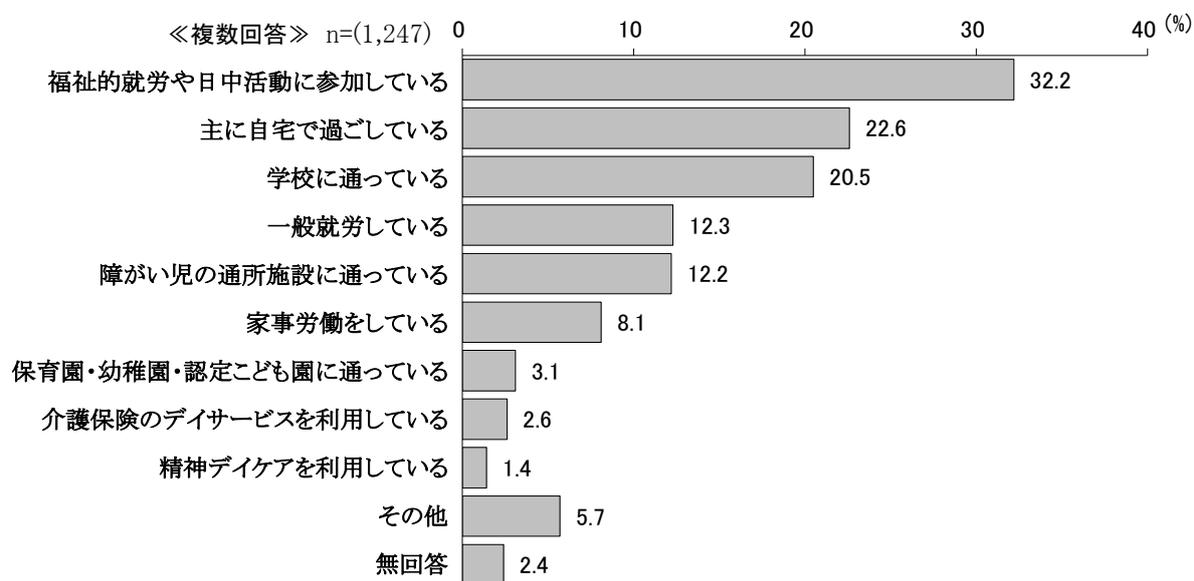
- ・施設（業者）の言われるがままに作ってしまい後悔しています。選択肢をきちんと理解する機会を設けていただけると効果的な購入ができたと思うため。〔肢体・内部・音声〕
- ・取扱業者が少ない。〔肢体・内部・音声〕

◆その他（10件）

4. 日中の活動や外出について

(1) 平日の昼間の過ごし方

問12 あなた（本人）は、平日の昼間どのように過ごしていますか。
（あてはまるものすべてに○）



※一般就労…… 雇用契約に基づく一般企業での就労。（在宅勤務や特例子会社での就労を含む）

※福祉的就労…… 就労継続支援A型や就労継続支援B型など障害福祉サービスの一つとしての就労。

※日中活動…… 生活介護、自立訓練などの障害福祉サービス。

平日の昼間の過ごし方は、「福祉的就労や日中活動に参加している」が32.2%で最も多く、次いで「主に自宅で過ごしている」（22.6%）、「学校に通っている」（20.5%）が2割台となっている。

障がい種別、年齢別

(単位:%)

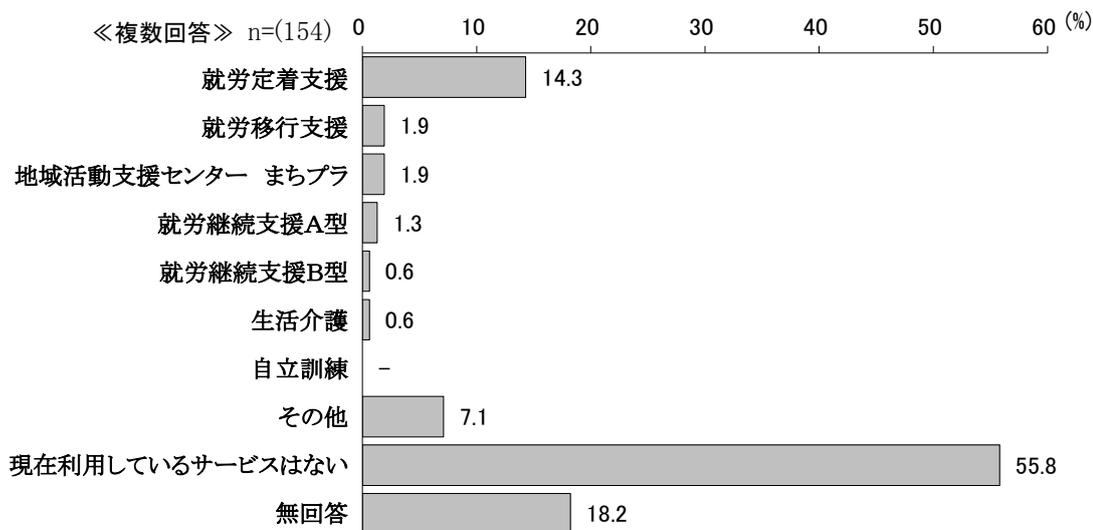
《複数回答》		n	福祉的就労や日中活動に参加している	主に自宅で過ごしている	学校に通っている	一般就労している	障がい児の通所施設に通っている	家事労働をしている	保育園・幼稚園・認定こども園に通っている	介護保険のデイサービスを利用している	精神デイケアを利用している	その他	無回答
全体		1,247	32.2	22.6	20.5	12.3	12.2	8.1	3.1	2.6	1.4	5.7	2.4
障がい種別	肢体・内部・音声障がい	297	16.5	43.8	5.1	21.5	3.0	10.1	0.7	6.4	-	7.7	4.0
	視覚障がい	59	8.5	54.2	5.1	8.5	-	40.7	-	8.5	-	18.6	1.7
	聴覚障がい	99	6.1	27.3	7.1	39.4	1.0	22.2	-	3.0	1.0	10.1	5.1
	知的障がい	405	45.9	7.7	32.1	4.7	19.8	1.5	2.5	1.0	-	1.7	1.0
	精神障がい	319	36.4	18.5	27.3	8.2	16.9	6.0	8.5	-	4.7	5.3	2.2
	重度重複障がい	68	57.4	4.4	20.6	1.5	11.8	-	-	2.9	1.5	4.4	1.5
年齢別	18歳未満	306	0.7	4.6	77.1	-	35.0	-	12.4	0.7	-	2.6	1.0
	18～40歳未満	343	63.3	11.7	2.9	16.6	5.0	5.5	0.3	0.6	1.2	3.8	1.5
	40～65歳未満	445	37.3	31.9	1.6	18.9	5.4	9.9	-	3.6	2.9	7.4	2.7
	65歳以上	137	8.0	59.9	-	8.8	1.5	27.0	-	9.5	-	11.7	6.6

※網掛けは最も多いもの(「その他」を除く)

障がい種別にみると、肢体・内部・音声障がいと視覚障がいでは「主に自宅で過ごしている」が4割以上、聴覚障がいでは「一般就労している」が39.4%と他の障がいより多くなっている。視覚障がいでは「家事労働をしている」も40.7%と多い。知的障がい、精神障がい、重度重複障がいでは「福祉的就労や日中活動に参加している」が3割から5割台と多くなっているほか、「学校に通っている」も2割から3割台を占める。

年齢別にみると、18歳未満では「学校に通っている」が77.1%、18～40歳未満では「福祉的就労や日中活動に参加している」が63.3%、40～65歳未満では「福祉的就労や日中活動に参加している」とともに「主に自宅で過ごしている」が多くなり、65歳以上では「主に自宅で過ごしている」が59.9%と多くなっている。また、65歳以上では「家事労働をしている」が27.0%と他の年齢より多くなっている。

「一般就労している」と回答した人が利用しているサービス（問12-1）

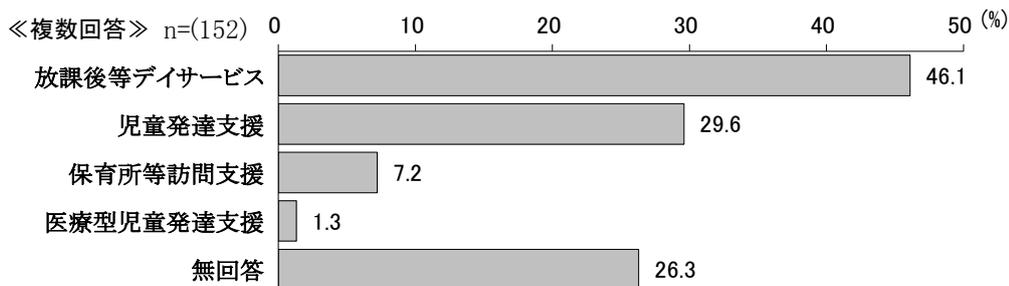


なお、問12で「一般就労をしている」と回答した人に限って利用しているサービスに絞ってみると、「現在利用しているサービスはない」が55.8%と多くなっている。利用しているものでは、「就労定着支援」が14.3%となっている。

(2) 利用中の通所サービス

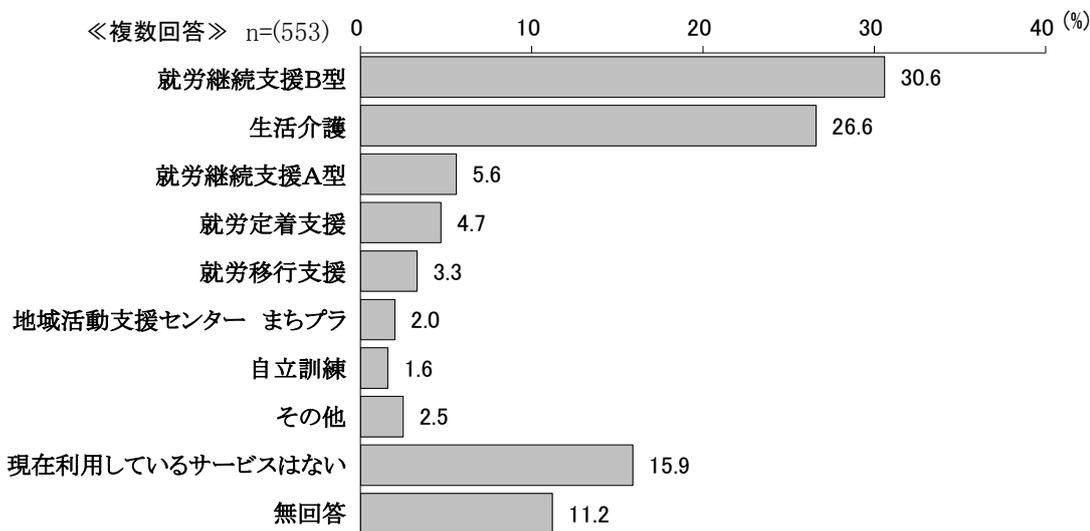
【問12で「障がい児の通所施設に通っている」、「一般就労している」、「福祉的就労や日中活動に参加している」と回答した方に】
 問12-1 利用しているサービスに○をしてください。(あてはまるものすべてに○)

【障がい児の通所施設】



障がい児の通所施設で利用しているサービスは、「放課後等デイサービス」が46.1%で最も多く、これに「児童発達支援」が29.6%で次いでいる。

【一般就労・福祉的就労や日中活動】



一般就労・福祉的就労や日中活動で利用しているサービスは、「就労継続支援B型」が30.6%、「生活介護」が26.6%と多くなっている。

障がい種別（一般就労・福祉的就労や日中活動）

(単位:%)

《複数回答》		n	就労継続支援B型	生活介護	就労継続支援A型	就労定着支援	就労移行支援	地域活動支援センター まちプラ	自立訓練	その他	現在利用しているサービスはない	無回答
全体		553	30.6	26.6	5.6	4.7	3.3	2.0	1.6	2.5	15.9	11.2
障がい種別	肢体・内部・音声障がい	113	15.9	20.4	0.9	1.8	-	0.9	2.7	1.8	45.1	14.2
	視覚障がい	10	20.0	10.0	-	-	-	10.0	-	20.0	20.0	20.0
	聴覚障がい	45	8.9	-	8.9	2.2	2.2	-	-	4.4	60.0	13.3
	知的障がい	205	36.1	35.1	7.3	2.4	2.0	1.5	1.5	1.5	2.0	13.7
	精神障がい	140	50.0	10.0	7.1	12.9	9.3	4.3	2.1	3.6	2.9	6.4
	重度重複障がい	40	2.5	92.5	2.5	-	-	-	-	-	-	2.5

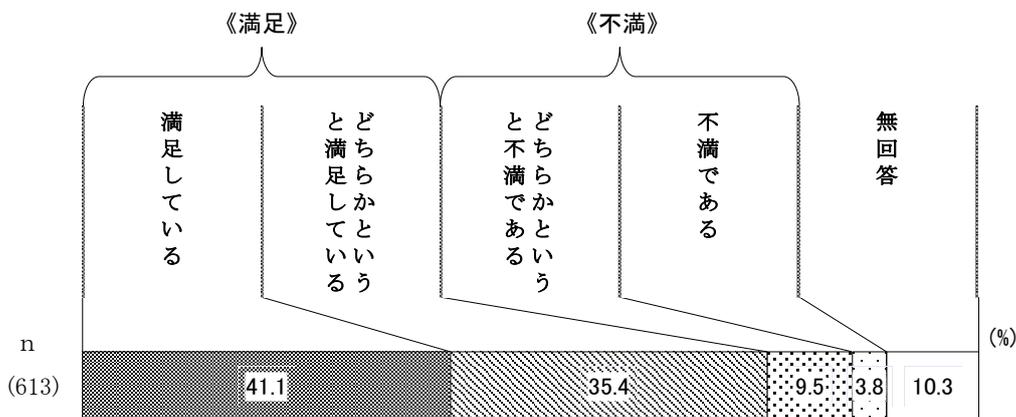
※網掛けは最も多いもの(「その他」、「現在利用しているサービスはない」を除く)

一般就労・福祉的就労や日中活動の利用サービスを障がい種別にみると、精神障がいでは「就労継続支援B型」が50.0%と多く、知的障がいでも36.1%となっている。重度重複障がいでは「生活介護」が92.5%と多く、知的障がいでも35.1%となっている。なお、聴覚障がいと肢体・内部・音声障がいでは「現在利用しているサービスはない」が4割以上で、聴覚障がいでは60.0%となっている。

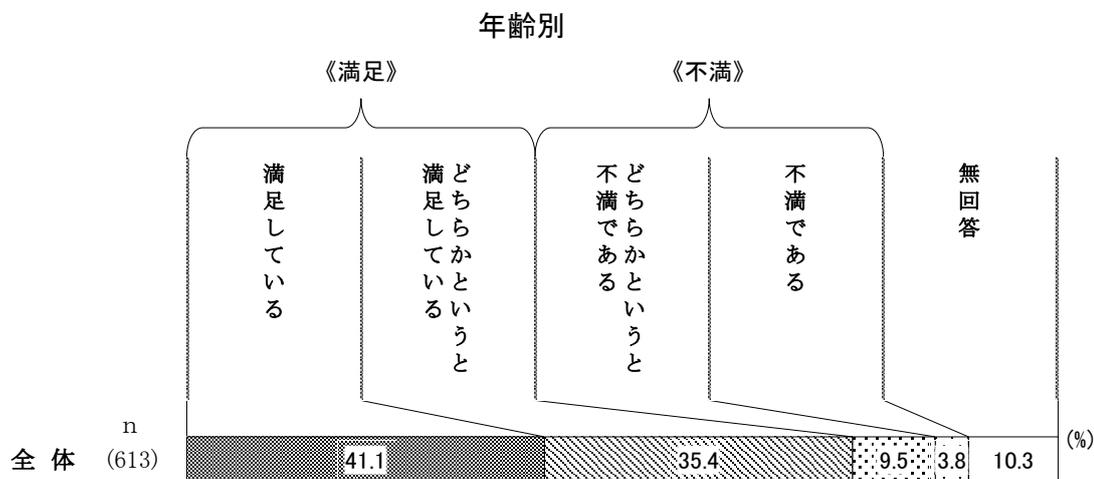
(3) 利用中の通所サービスの満足度

【問12で「障がい児の通所施設に通っている」、「一般就労している」、「福祉的就労や日中活動に参加している」と回答した方に】

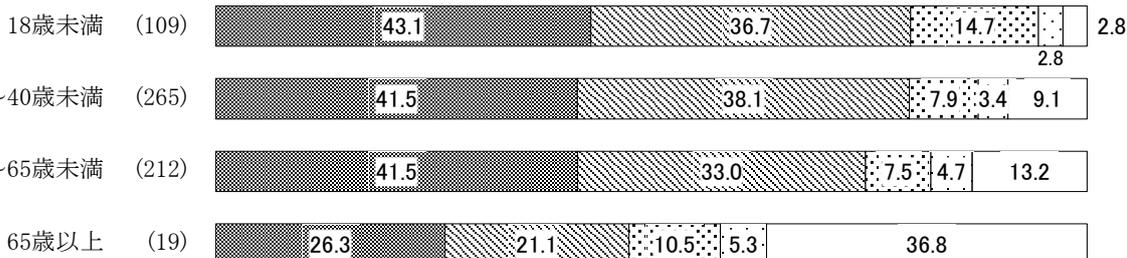
問12-2 利用している通所サービスに満足していますか。(あてはまるもの1つに○)



利用している通所サービス（障がい児の通所施設／一般就労・福祉的就労や日中活動）について、「満足している」は41.1%、「どちらかという満足している」は35.4%となっており、両者をあわせた《満足》は76.5%、《不満》（「どちらかという不満である」＋「不満である」）は13.3%となっている。

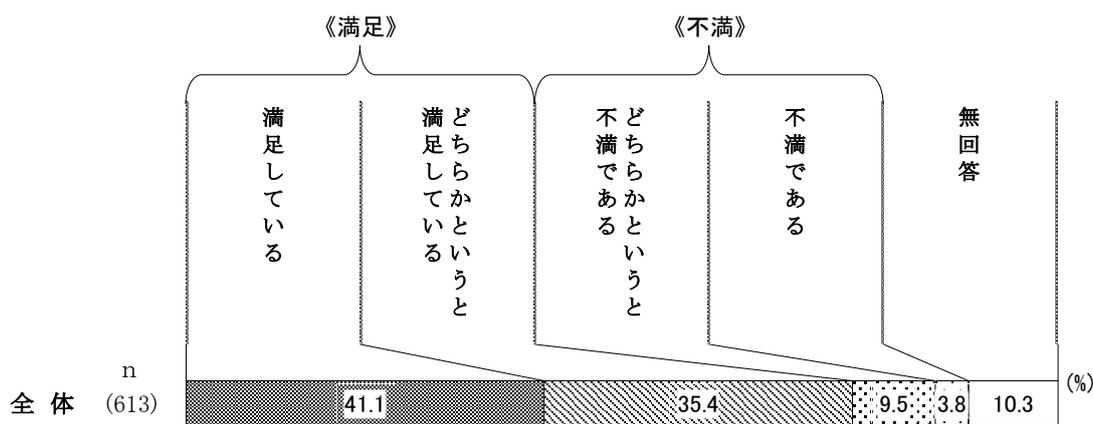


【年齢別】

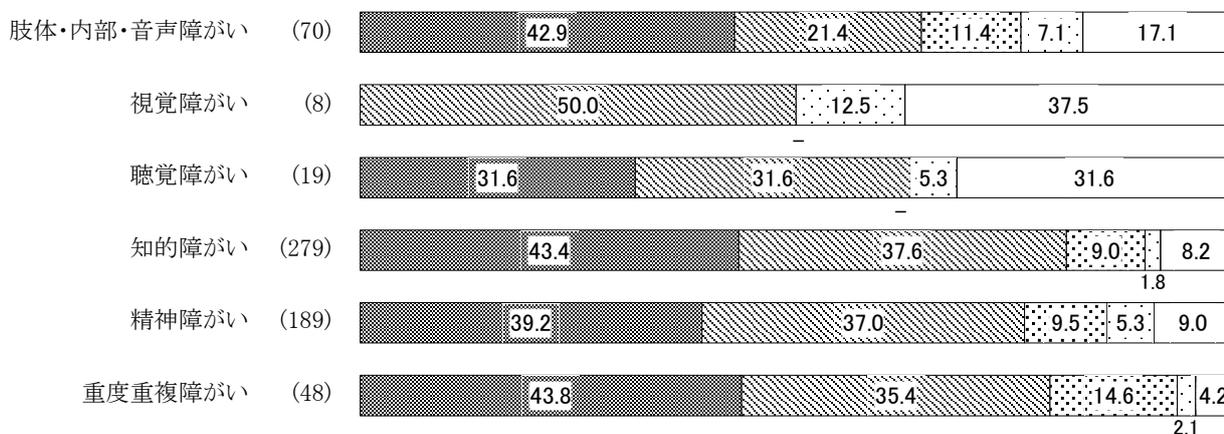


年齢別にみると、「満足している」は65歳未満までが4割台となっており、《満足》では7割以上を占めている。

障がい種別

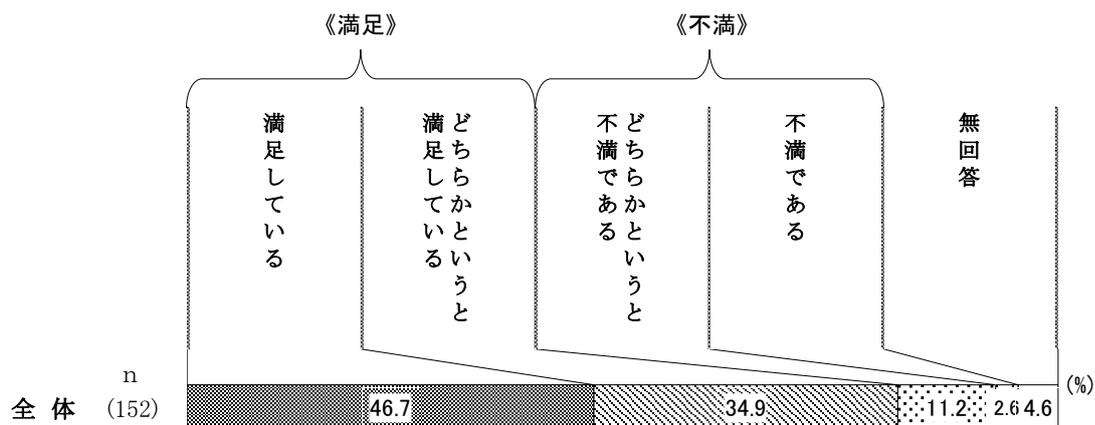


【障がい種別】

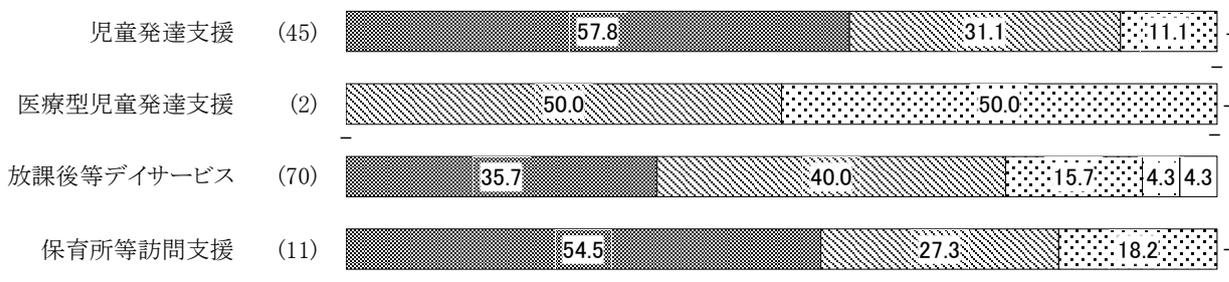


障がい種別にみると、いずれの障がい種別でも《満足》が《不満》より多く、視覚障がいを除き、6割以上が《満足》としている。

利用中の障がい児の通所施設別（問12-1）

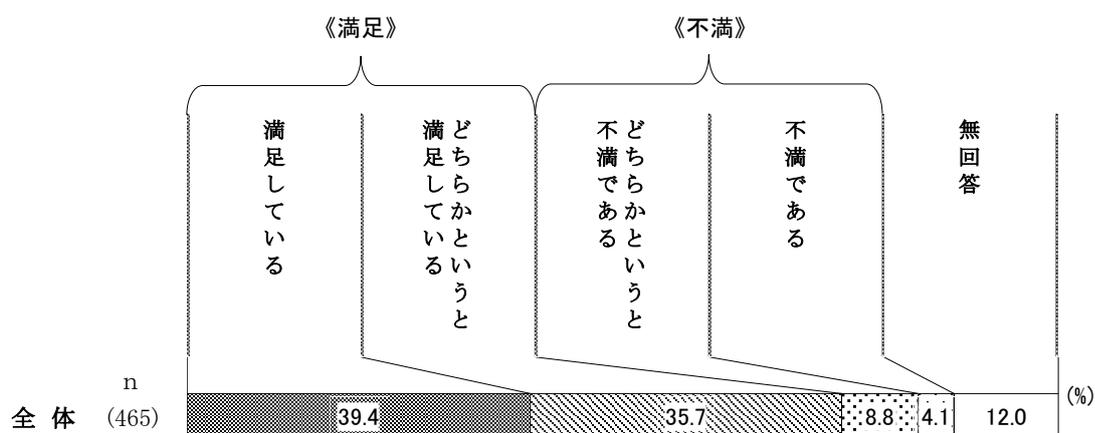


【利用中の障がい児の通所施設(複数回答)別】

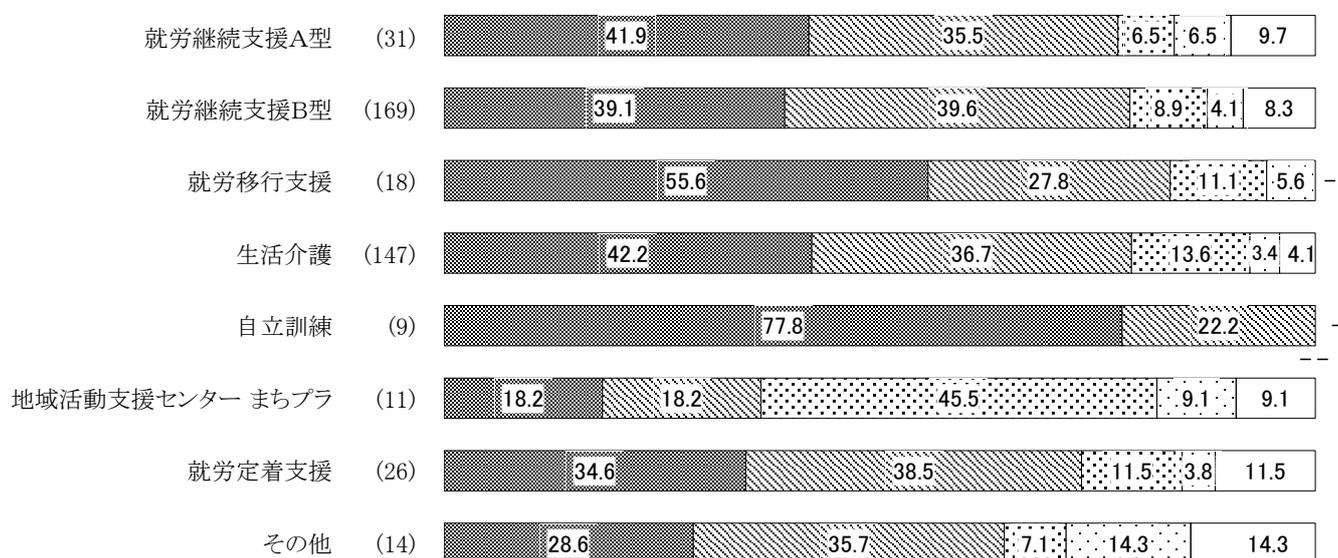


利用中の障がい児の通所施設別（問12-1）にみると、児童発達支援では「満足している」が57.8%と多く、《満足》では9割近くを占めている。放課後等デイサービスでは「満足している」が35.7%、《満足》では75.7%と多くなっている。

利用中の通所サービス別（問12-1）



【利用中の通所サービス(複数回答)別】



利用中の通所サービス別（問12-1）にみると、「満足している」は生活介護、就労継続支援A型とB型で4割前後となっている。《満足》では就労継続支援A型（79.3%）とB型（78.7%）、生活介護（79.5%）といずれも8割近くを占めている。

【「どちらかという不満である」または「不満である」と回答した方に】
不満の理由についてお答えください。

不満の理由について延べ108件の記述があった。

以下は一部抜粋したものである。

◆サービス・活動内容（25件）

- ・夏休みなど学校のない日の利用時間が短いため親が仕事に行けない。1人で家にいられない重度の子どもに対してはもっと手あついサービスが必要だと思う。〔知的〕
- ・ここ数年活動内容が貧弱になっている。特に宿泊を伴う旅行1泊が無くなったことは大いに不満である。施設長が外部での活動ばかりに向いていて施設内に力を入れていない。〔知的〕
- ・職員に対しての不満はありませんが、施設としてさまざまなサービスが受けられる選択肢はあるものの全員が受けられず、重度の障がい者には拒否する実態があり悲しい思いをしています。〔知的〕
- ・安全を重視するため自由がなく運動不足になる（人手不足が原因と思う）。〔知的〕
- ・所内でのプログラムに違和感がある。特定プログラムの目的が何のためにやっているかが、わかりにくい。〔精神〕

◆日程・時間、回数（21件）

- ・利用日数を増やしてほしいです。家族でみるのにも限界があります。〔知的〕
- ・レクリエーションがない。GW・夏期休みが長すぎる。〔知的〕
- ・利用できる日数が足りず、利用したい時に利用できない。いつでも利用できるよう、日数を増やして制限なしにして欲しい。〔知的〕
- ・利用時間が短い。自宅をゆっくり出て、早く帰宅するので家族の働く時間がとれない。〔知的〕
- ・土曜日や祝日もやって欲しい。〔肢体・内部・音声〕

◆職員の対応、人手不足（18件）

- ・施設のスタッフの数が足りていない様で、個別の対応が難しい状態である。〔肢体・内部・音声〕
- ・自閉症からくる本人の特質が理解されないことが多く、本人が安定できない。職員・スタッフの扱いで本人が傷ついている。〔知的〕
- ・職員の数が少なく待たされる事が多い。〔重度重複〕
- ・作業は生産性を重視している事業所のため、職員に休みたい理由（体調不良）を説明しても分かってもらえない。〔精神〕
- ・職員さんは頑張ってくれていると思うが、人手が足りず、安全に過ごすことで手一杯である。まだ20才代なので、もう少し発達につながる療育をしてほしい。事業所が積極的な取り組みをしたら介護報酬が高くなるようにしてほしい。〔精神〕

◆時給・工賃（14件）

- ・工賃が少ない。〔知的〕
- ・収入が安すぎる。障がい者も人間。生きていくにはお金が必要。働いていても希望や夢が持てない。〔聴覚〕
- ・給料が安い。〔聴覚〕

◆費用（9件）

- ・個別支援などを受けようとする個人負担額が多くなる。〔知的〕
- ・送迎やランチがないため、他の生活介護施設に比べ親の負担が大きい。〔肢体・内部・音声〕
- ・交通費、食費は実費。支給してほしい。〔精神〕

◆就労支援（5件）

- ・就労支援サービスにおいて、就職活動する際に、支援者が主体としてでないと動けない状況がとても面倒くさく、また厄介である。〔精神〕
- ・将来就きたい仕事と全く内容が違い、回復の途中段階と理解しつつもやる気など意欲にはつながらないので。〔肢体・内部・音声〕
- ・本当に就労が出来るのが不安である。〔精神〕

◆利用者間同士の問題（4件）

- ・作業所内で走り廻ったりする人がいるので作業に集中出来ない。〔肢体・内部・音声〕
- ・利用者間でいじめがある。〔精神〕

◆相談や利用者の声を聞く機会（2件）

- ・1年に1～2回は家族の希望、話し合いなど参加があればいい。また、見学など。〔精神〕

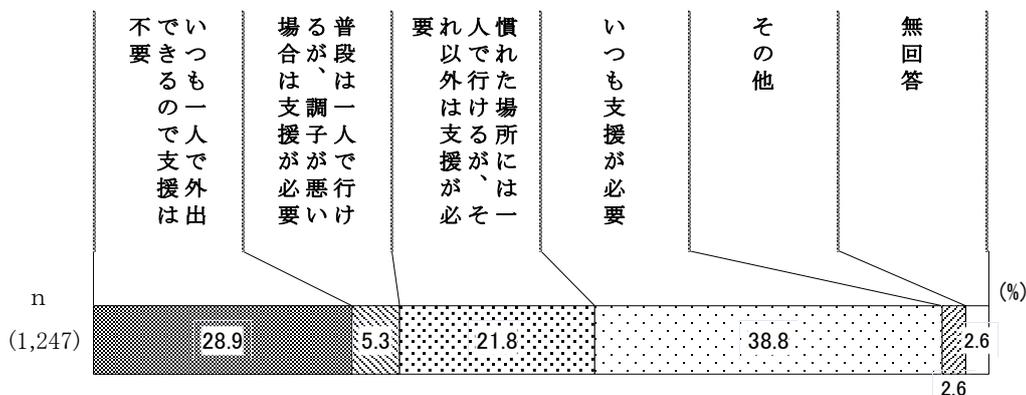
◆その他（10件）

(4) 外出時の支援の必要性

問13 あなた（本人）は、外出をするときに付き添いの支援が必要ですか。

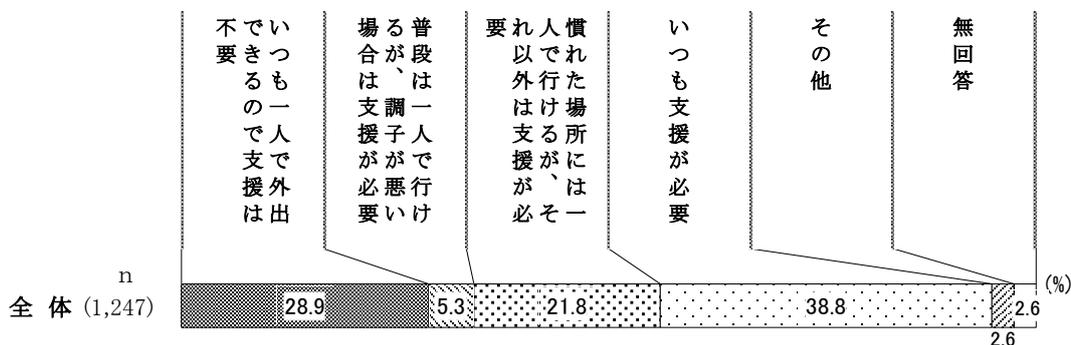
（あてはまるもの1つに○）

※支援とは、見守り、声掛け、一部介助、全介助のすべてを含みます。

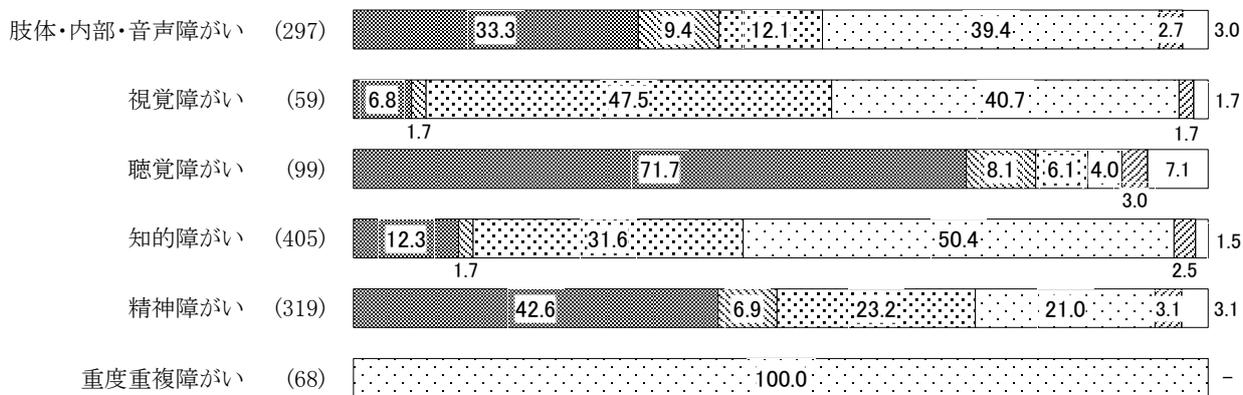


外出をするときの付き添いの支援の必要性は、「いつも支援が必要」が38.8%、「慣れた場所には一人でいけるが、それ以外は支援が必要」は21.8%となっている。一方、「いつでも一人で外出できるので支援は不要」は28.9%となっている。

障がい種別



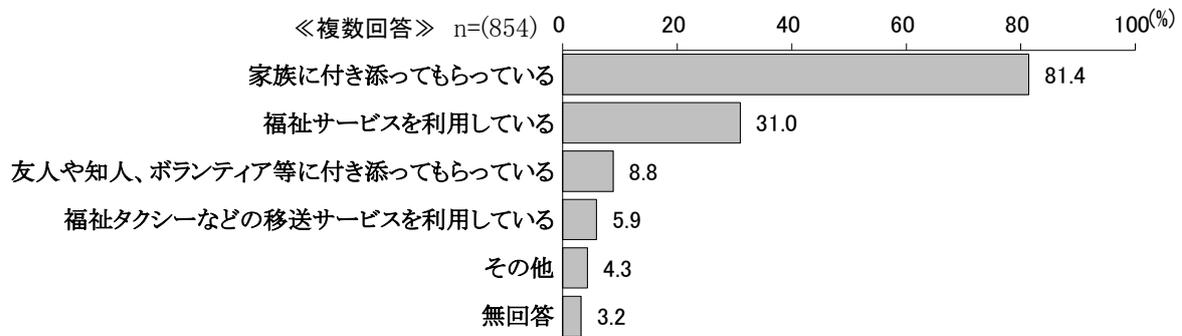
【障がい種別】



障がい種別にみると、「いつも支援が必要」は重度重複障がいでは全数に達し、知的障がいでは50.4%、肢体・内部・音声障がいと視覚障がいでは4割前後となっている。一方、「いつでも一人で外出できるので支援は不要」は聴覚障がいでは71.7%、精神障がいでは42.6%となっている。

(5) 外出の際に受けている支援

【問13で「普段は一人で行けるが、調子が悪い場合は支援が必要」、「慣れた場所には一人で行けるが、それ以外は支援が必要」、「いつも支援が必要」、「その他」のいずれかに回答した方に】
問13-1 どのような支援を受けていますか。(あてはまるものすべてに○)



外出の際に受けている支援は、「家族に付き添ってもらっている」が81.4%と特に多く、これに「福祉サービスを利用している」が31.0%で次いでいる。

障がい種別

(単位: %)

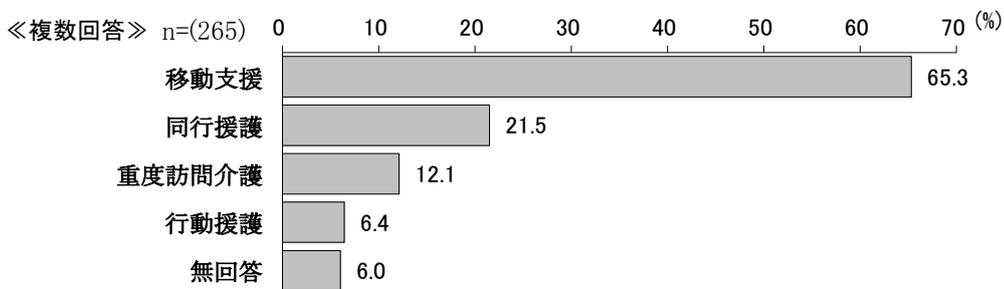
《複数回答》		n	家族に付き添ってもらっている	福祉サービスを利用している	友人や知人、ボランティア等に付き添ってもらっている	福祉タクシーなどの移送サービスを利用している	その他	無回答
全体		854	81.4	31.0	8.8	5.9	4.3	3.2
障がい種別	肢体・内部・音声障がい	189	73.0	39.7	9.5	18.5	6.9	2.1
	視覚障がい	54	66.7	53.7	20.4	-	7.4	1.9
	聴覚障がい	21	66.7	9.5	14.3	-	9.5	9.5
	知的障がい	349	87.4	30.9	6.9	1.1	2.9	2.6
	精神障がい	173	82.7	14.5	8.7	2.3	4.0	3.5
	重度重複障がい	68	86.8	38.2	5.9	10.3	1.5	7.4

※網掛けは最も多いもの(「その他」を除く)

障がい種別ごとにみると、「家族に付き添ってもらっている」はいずれの障がい種別でも6割以上と多く、「福祉サービスを利用している」は視覚障がいでは53.7%、肢体・内部・音声障がいでは約4割となっている。また、視覚障がいでは「友人や知人、ボランティア等に付き添ってもらっている」が20.4%、肢体・内部・音声障がいでは「福祉タクシーなどの移送サービスを利用している」が18.5%と他の障がいより多くなっている。

(6) 外出の際に利用している福祉サービス

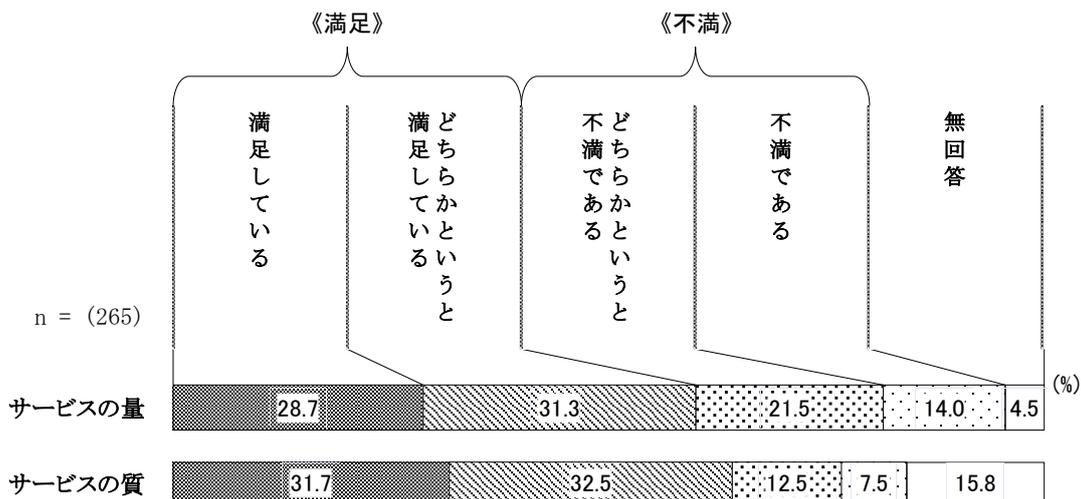
【問13-1で「福祉サービスを利用している」と回答した方に】
 問13-2 利用している福祉サービスに○をしてください。(あてはまるものすべてに○)



外出の際に利用している福祉サービスは、「移動支援」が65.3%と特に多く、次いで「同行援護」が21.5%、「重度訪問介護」が12.1%となっている。

(7) 外出の際に利用している福祉サービスの満足度

【問13-1で「福祉サービスを利用している」と回答した方に】
 問13-3 利用されている福祉サービスに満足していますか。
 (量と質それぞれあてはまるもの1つに○)



利用中の福祉サービスの量について、「満足している」は28.7%、「どちらかという満足している」は31.3%となっており、両者をあわせた《満足》は60.0%となっている。「どちらかという不満である」は21.5%、「不満である」は14.0%で、両者をあわせた《不満》は35.5%となっている。

サービスの質について、「満足している」は31.7%、「どちらかという満足している」は32.5%となっており、両者をあわせた《満足》は64.2%となっている。《不満》(「どちらかという不満である」+「不満である」)は20.0%となっている。

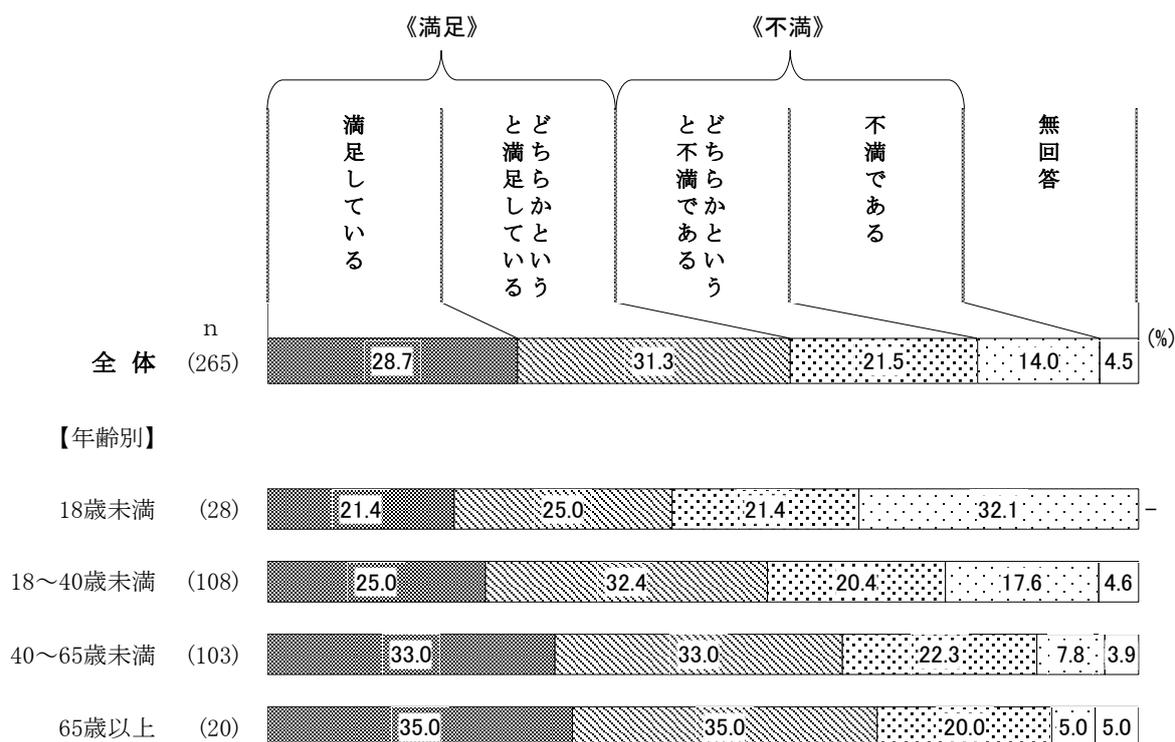
障がい種別

		(単位:%)					(単位:%)					
		量					質					
		満足している	どちらかという満足している	どちらかという不満である	不満である	無回答	満足している	どちらかという満足している	どちらかという不満である	不満である	無回答	
n												
全体		265	28.7	31.3	21.5	14.0	4.5	31.7	32.5	12.5	7.5	15.8
障がい種別	肢体・内部・音声障がい	75	24.0	30.7	24.0	13.3	8.0	28.0	30.7	16.0	12.0	13.3
	視覚障がい	29	27.6	31.0	34.5	3.4	3.4	27.6	34.5	13.8	10.3	13.8
	聴覚障がい	2	100.0	-	-	-	-	50.0	-	50.0	-	-
	知的障がい	108	28.7	27.8	21.3	18.5	3.7	31.5	34.3	11.1	4.6	18.5
	精神障がい	25	52.0	32.0	4.0	12.0	-	44.0	28.0	-	8.0	20.0
	重度重複障がい	26	15.4	50.0	19.2	11.5	3.8	34.6	34.6	15.4	3.8	11.5

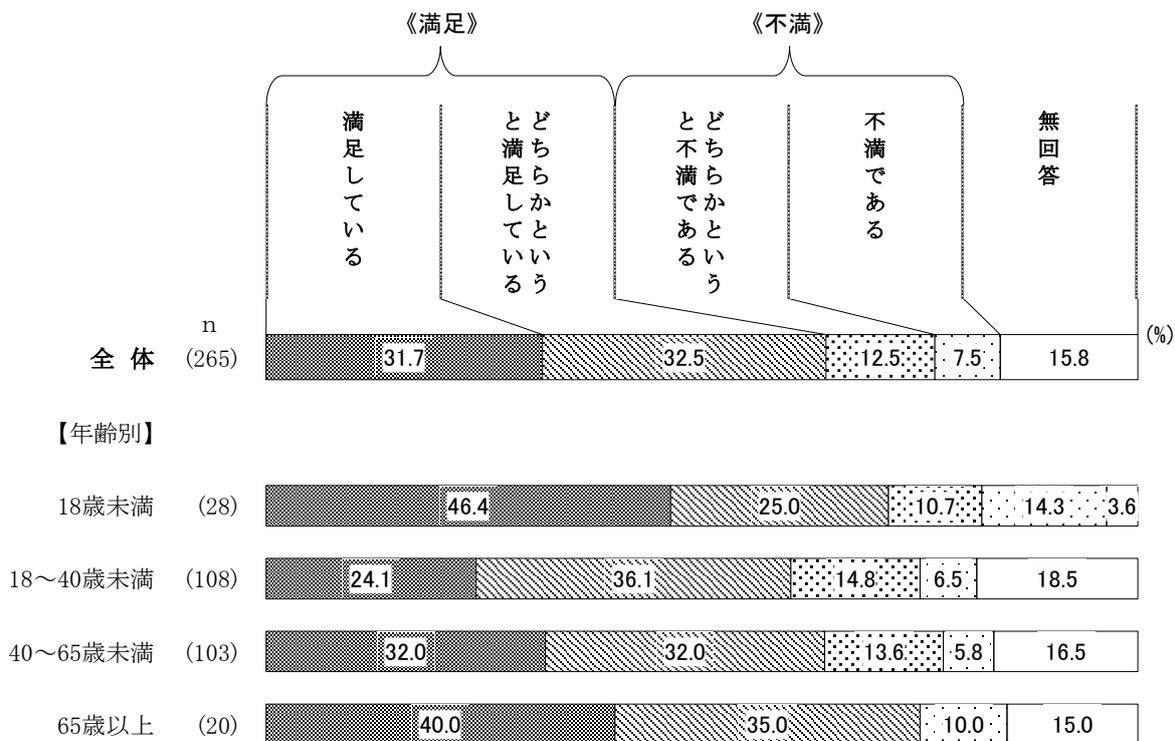
※網掛けは量、質とも《満足》計と《不満》計を比較して多い方

障がい種別にみると、いずれの障がい種別でも《満足》（「満足している」＋「どちらかという満足している」）が《不満》（「どちらかという不満である」＋「不満である」）より多く、精神障がいでは量、質とも7割以上が《満足》、重度重複障がいでは量・質とも6割台が《満足》としている。また、肢体・内部・音声障がい、視覚障がいでも量・質とも5割から6割台が《満足》としている。《不満》については、質よりも量に関して割合が多い傾向がある。

年齢別 サービスの量の満足度



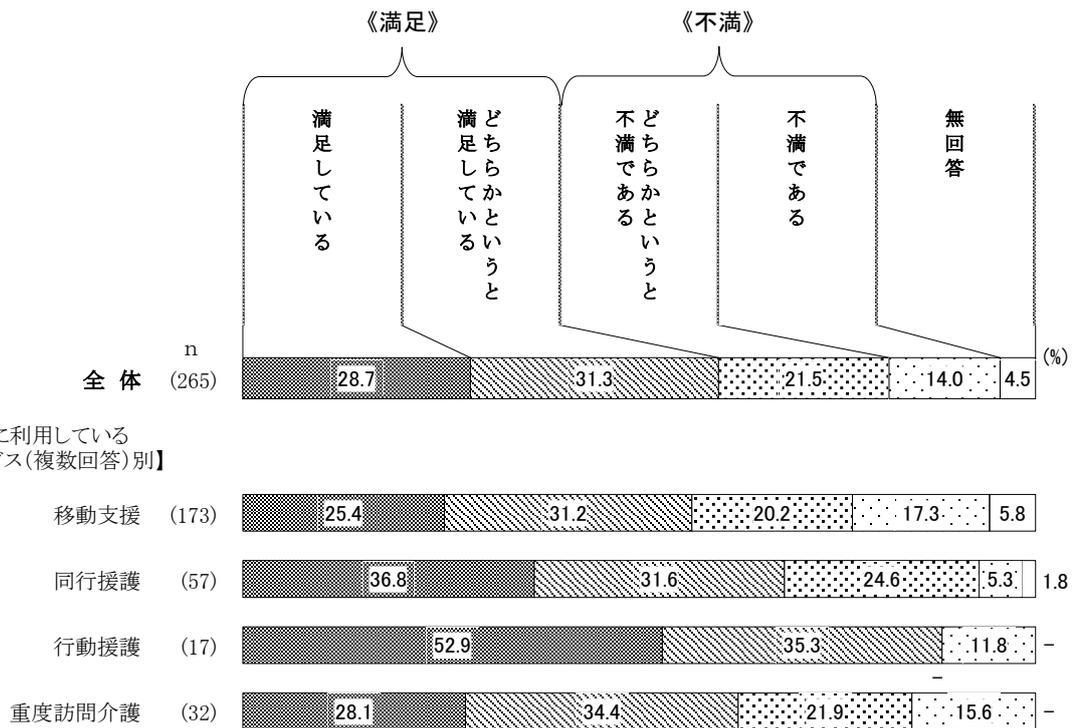
年齢別 サービスの質の満足度



年齢別にサービスの量の満足度をみると、18歳未満では《不満》が《満足》を上回り、18歳以上では年齢が高くなるにつれて徐々に《満足》が増えるが、6～7割程度となっている。

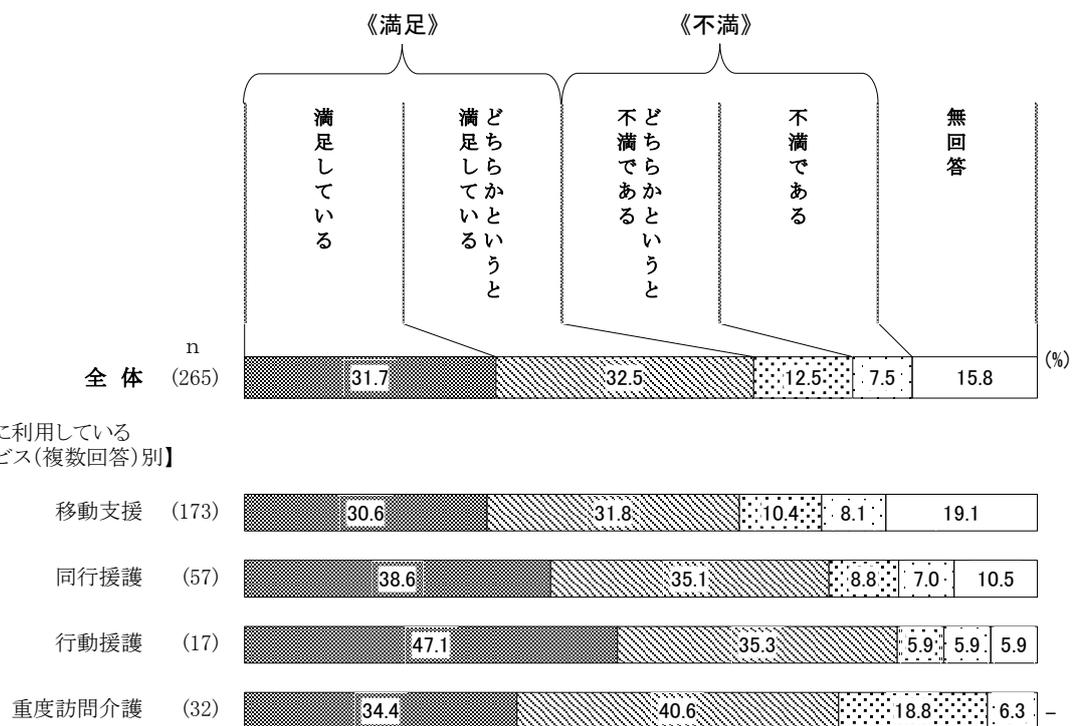
サービスの質では、18歳未満も含むすべての年齢で概ね《満足》となっている。

外出の際に利用している福祉サービス別（問13） 量の満足度



【外出の際に利用している福祉サービス(複数回答)別】

外出の際に利用している福祉サービス別（問13） 質の満足度



【外出の際に利用している福祉サービス(複数回答)別】

外出の際に利用している福祉サービス別（問13）に量の満足度をみると、いずれの福祉サービスも《満足》が5割以上となっている。《不満》は移動支援と重度訪問介護で3割台と比較的多くなっている。

質では、いずれの福祉サービスも《満足》が6割以上となっている。《不満》は重度訪問介護で25.1%と比較的多くなっている。

【「どちらかという不満である」または「不満である」と回答した方に】
不満の理由についてお答えください。

不満の理由について延べ124件の記述があった。

以下は一部抜粋したものである。

◆日程・時間、回数、場所（68件）

- ・1ヶ月に18時間では少ないと感じる。通学・通所に利用することができないので、一番困っている所に利用できない（兄弟で障がいがあり、2人とも常時見守りが必要）。〔精神的〕
- ・月の時間数が足りない。住んでいる自治体で受けられるサービスがちがっていることは問題だと思う。更に手厚いサービスを希望する。〔知的〕
- ・限られた時間数の中での利用、外出時の移動手段が不便。自家用の福祉車両を利用できると行動範囲が広がると思う。〔肢体・内部・音声〕
- ・行動援護を利用しているが、グループホームで生活（平日）しているため時間数がかなり少なくされてしまっている。市によって制限があったりなかったりするの是不平等であると思う。〔知的〕
- ・利用出来る時間が少なく外出したくても出来ない。〔重度重複〕
- ・行きたい場所に思うように行けない。時間と場所が限られてしまう。〔視覚〕
- ・使えるサービスの場所が遠い。近くに適切なサービス提供の場が少なく、選択の幅が狭い。〔知的〕
- ・利用時間が少ない上に、サービス提供側に余裕が無くて思った様に利用が出来ない。〔肢体・内部・音声〕

◆スタッフや職員の質、人材不足（17件）

- ・移動支援に必要なガイドヘルパーの数が少ない。〔知的〕
- ・経験不足か研修不足かわからないが、歩道の幅、通行量、路面の状況（段差等）を考慮して、適切な介助できるヘルパーさんが少ない（車イス）。〔肢体・内部・音声〕
- ・2、3名の決まったガイドにしてほしい。〔視覚〕
- ・ガイドヘルパーの不足、必要な時に使えない。特に男性のヘルパーが少ない。〔知的〕

◆サービスの質、内容（9件）

- ・質も量もニーズに合っていない。〔肢体・内部・音声〕
- ・量は時間が少ない。質はマンネリ化している。〔肢体・内部・音声〕
- ・通所の往復で利用できるとうい（現在は使えない）。1ヶ月18時間を25時間位まで増やして欲しい。〔精神的〕

◆移動支援、行動支援（9件）

- ・同行援護、仕事や学校関係で利用NGであることが意味不明、障がい者は仕事も学校もリスクを背負えという事か。基本的人権の尊重に法の上の平等に反している。〔視覚〕
- ・肢体不自由で全介助が必要。トイレ（オムツ交換）はベッドが必要な状態です。付き添いの人1人ではとても無理だと思い、なかなか利用できません。〔肢体・内部・音声〕
- ・頼んでいる介護事業所のガイドヘルパーが少ないため、同行援護を申し込んでも対応不能な場合がある。〔知的〕

◆予約がとりづらい（7件）

- ・福祉サービスの移動支援を時々利用しているがなかなか予約が取れない（タクシー）。〔肢体・内部・音声〕
- ・利用する月の1ヶ月以上前に予約しなくてはいけないので使い勝手が悪いのと、予約は親にしてもらわないと難しい。〔知的〕

◆制度（4件）

- ・通所出来る施設が1日に1箇所限定されている所が困る。午前と午後で違う施設を複数箇所利用出来る様にして欲しい。〔知的〕
- ・重度訪問介護を扱っている事業所が少なく、医療ニーズに対応できる人も少ないことから人材確保するのに困難を極めています。それと同時に障がい者が自立(一人暮らし)を目指すとなると、支給決定時間があまりにも少な過ぎると思います。私の場合、知的障がいはありませんが、身体的には重度の障がいがあるのに心身障がい認定が認められず、稀な病気ではあるものの難病指定も受けられないという制度の狭間にいるため、いつまで経っても両親の手から離れることが出来ません。障害者であっても20歳を過ぎたら両親以外の人が支えて生きていけるようにして欲しいです。〔肢体・内部・音声〕

◆緊急対応（4件）

- ・急に必要な場合、対応してもらえない。〔視覚〕
- ・2ヶ月以上前に申し込まないと、移動支援等引き受けてもらえないことが多い。急に親や家族が付き添えなくなった時、とても困る。全く初めての人と一緒に外出させなければならない不安がある。（意志を伝えられる子でない為）。〔知的〕

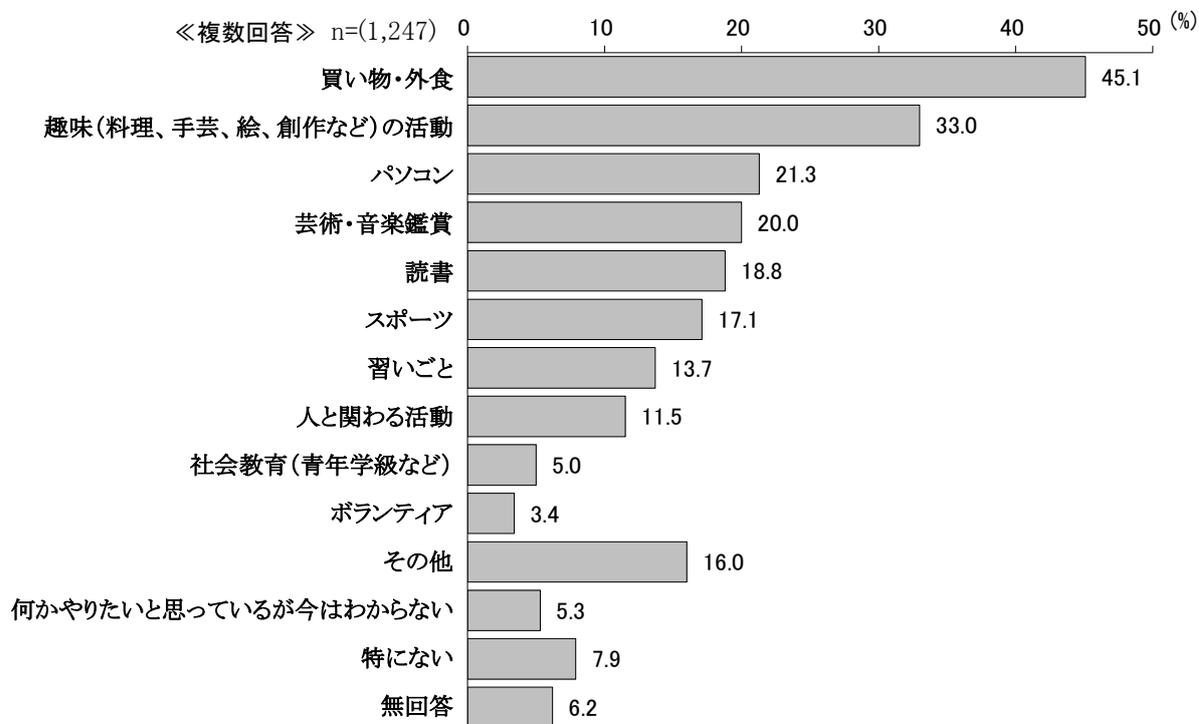
◆費用、料金（2件）

- ・土・日に利用すると料金が高くなるので大変。〔視覚〕

◆その他（4件）

(8) 休みの日やあき時間の過ごし方

問14 あなた（本人）は、仕事や学校などの用事のない休みの日や時間があったら、どのように過ごしたいと考えていますか。（あてはまるものすべてに○）



仕事や学校などの休みの日や時間があるときの過ごし方は、「買い物・外食」が45.1%、次いで「趣味（料理、手芸、絵、創作など）の活動」が33.0%、「パソコン」（21.3%）、「芸術・音楽鑑賞」（20.0%）などとなっている。

障がい種別、年齢別

(単位:%)

《複数回答》		n	買い物・外食	趣味（料理、手芸、絵、創作など）の活動	パソコン	芸術・音楽鑑賞	読書	スポーツ	習いごと	人と関わる活動	社会教育（青年学級など）	ボランティア	その他	何かやりたいと思っているが今はわからない	特にない	無回答
全体		1,247	45.1	33.0	21.3	20.0	18.8	17.1	13.7	11.5	5.0	3.4	16.0	5.3	7.9	6.2
障がい種別	肢体・内部・音声障がい	297	47.5	31.0	25.6	20.2	20.2	12.8	11.1	10.1	4.0	4.0	10.4	6.7	9.1	10.1
	視覚障がい	59	39.0	30.5	28.8	30.5	33.9	27.1	16.9	25.4	5.1	13.6	13.6	8.5	6.8	8.5
	聴覚障がい	99	59.6	43.4	28.3	17.2	25.3	25.3	12.1	13.1	3.0	6.1	12.1	2.0	7.1	7.1
	知的障がい	405	47.4	28.1	17.8	18.5	11.1	20.0	13.3	11.1	7.4	1.2	16.8	5.9	7.2	5.2
	精神障がい	319	40.4	43.6	21.9	20.4	26.0	13.8	18.5	7.2	1.9	3.8	19.7	3.8	6.6	2.5
	重度重複障がい	68	27.9	8.8	4.4	22.1	1.5	13.2	4.4	26.5	11.8	-	26.5	4.4	14.7	8.8
年齢別	18歳未満	306	34.0	41.2	19.0	9.8	14.1	21.2	23.2	9.2	1.0	0.7	23.9	8.8	4.9	3.6
	18～40歳未満	343	53.9	33.8	24.8	26.5	17.8	19.5	15.5	16.0	6.1	2.9	17.5	4.1	6.1	4.1
	40～65歳未満	445	50.6	30.8	22.2	23.1	20.4	13.9	7.6	10.1	7.6	4.3	11.9	4.0	9.4	6.5
	65歳以上	137	32.1	21.2	16.1	15.3	27.0	12.4	8.8	8.8	1.5	6.6	8.0	5.1	14.6	15.3

※網掛けは最も多いもの（「その他」「何かやりたいと思っているが今はわからない」「特にない」を除く）

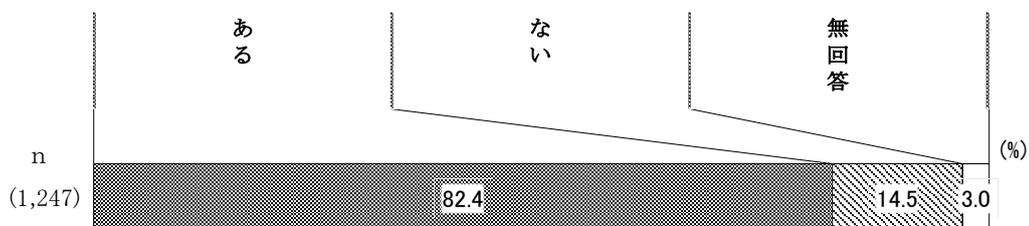
障がい種別にみると、「買い物・外食」はいずれの障がい種別でも多くなっている。また、「趣味（料理、手芸、絵、創作など）の活動」は精神障がい43.6%、聴覚障がい43.4%、「読書」は視覚障がい33.9%、「芸術・音楽鑑賞」は視覚障がい30.5%、「人と関わる活動」は重度重複障がい26.5%と他の障がいより多くなっている。

年齢別にみると、「買い物・外食」は18～40歳未満、40～65歳未満で5割台と多くなっている。「趣味（料理、手芸、絵、創作など）の活動」は18歳未満41.2%と他の年齢より多くなっている。

5. 医療について

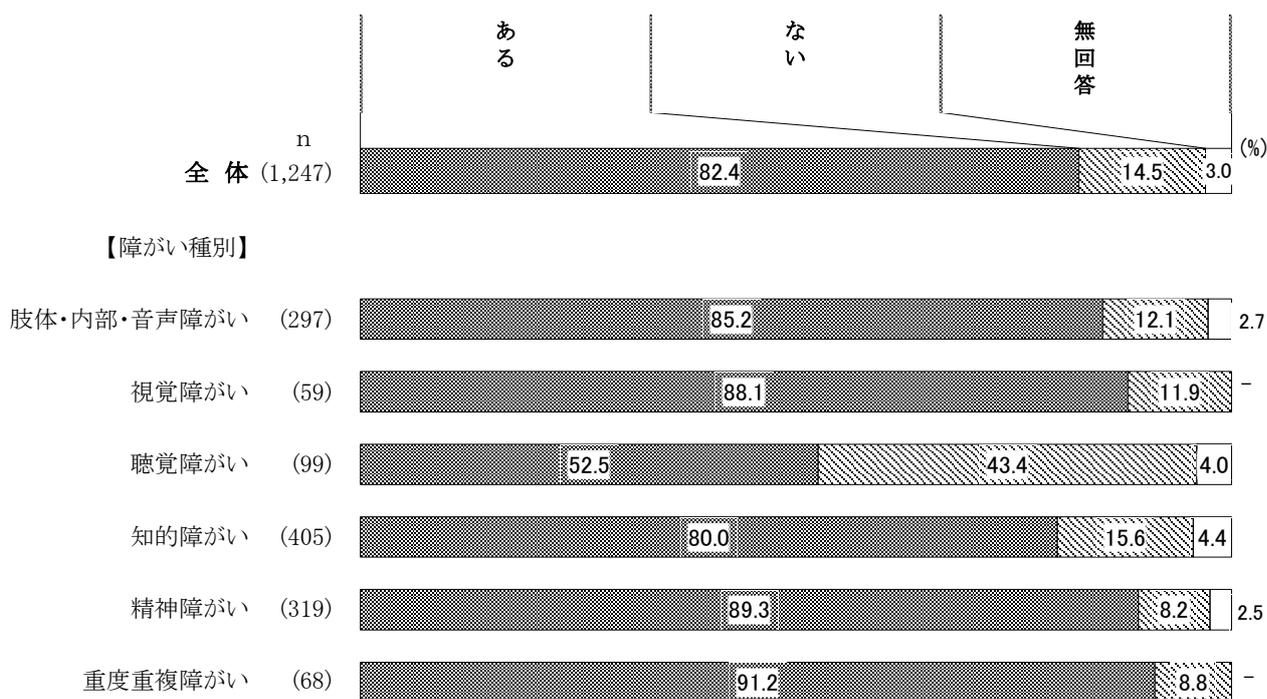
(1) かかりつけ医療機関の有無

問15 あなた（本人）は、継続的に治療を受けたり、ご自身の健康や悩み、障がいや疾病について相談できる「かかりつけ医療機関」はありますか。（あてはまるもの1つに○）



かかりつけ医療機関が「ある」は82.4%を占め、「ない」は14.5%となっている。

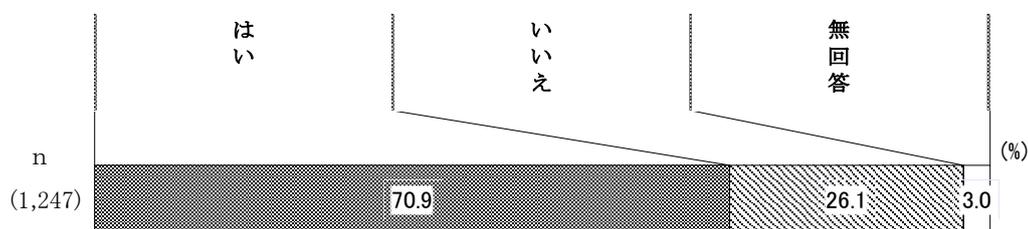
障がい種別



障がい種別にみると、かかりつけ医が「ある」は聴覚障がいを除くすべての障がいで8割以上と多く、視覚障がい、精神障がい、重度重複障がいでは9割前後となっている。

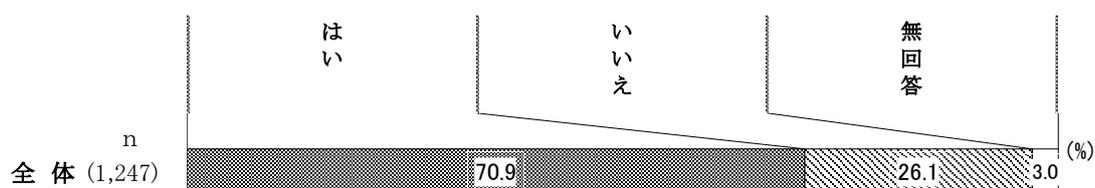
(2) 障がいの特性等に応じた専門医療機関での受診

問16 あなた（本人）は、障がいの特性や疾病に応じた専門医療機関にかかっていますか。
（あてはまるもの1つに○）

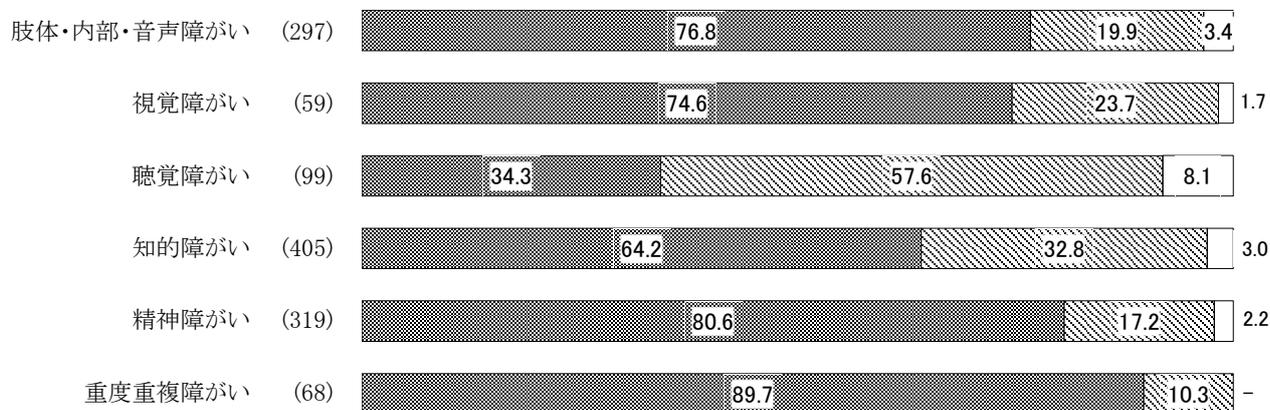


障がいの特性や疾病に応じた専門医療機関の受診状況は、かかっている（「はい」）は70.9%、かかっていない（「いいえ」）は26.1%となっている。

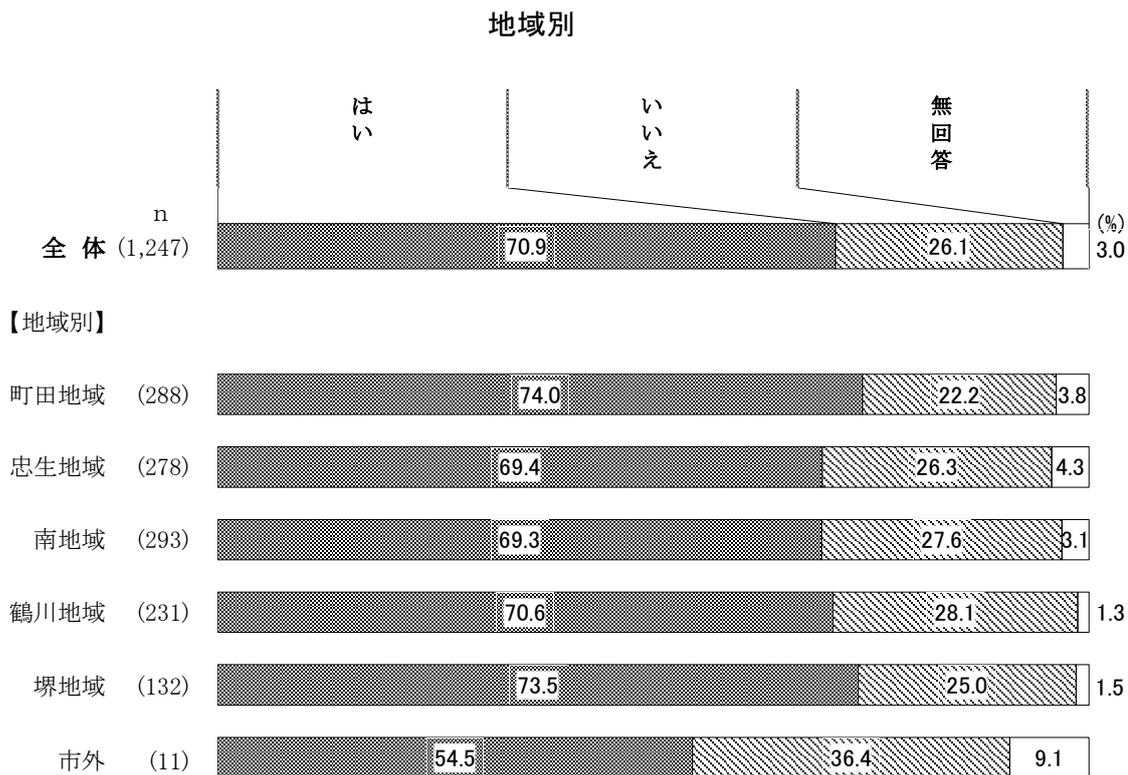
障がい種別



【障がい種別】

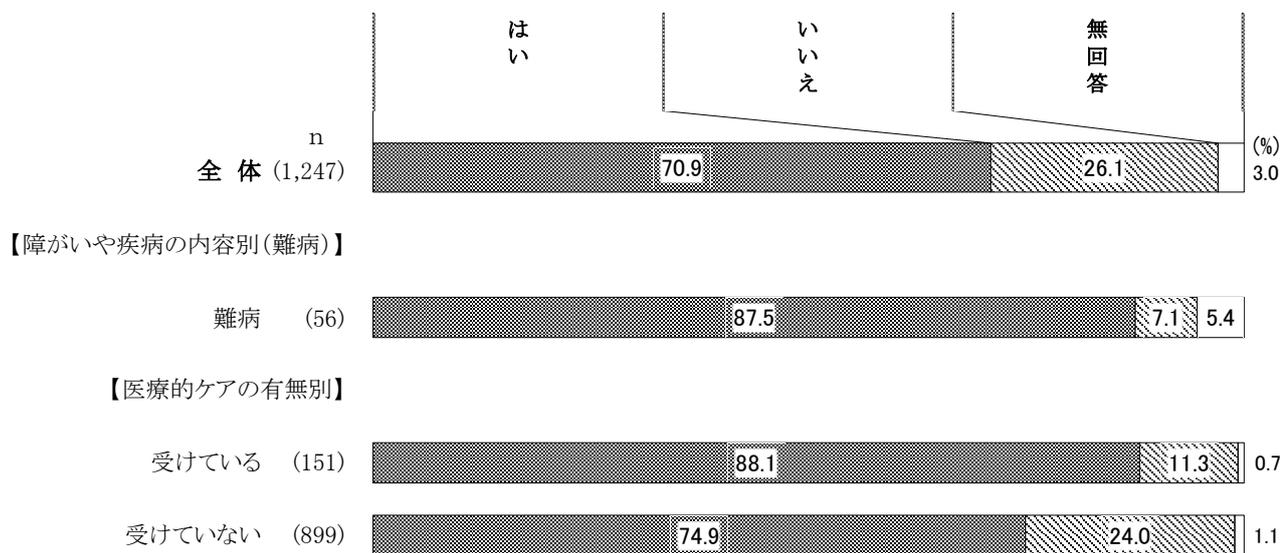


障がい種別にみると、専門医療機関にかかっている人は重度重複障がいと精神障がいでは8割台となっている。



地域別にみると、専門医療機関にかかっている人は、忠生地域、南地域、鶴川地域で7割前後、町田地域と堺地域で7割台となっている。

障がいや疾病の内容別（難病 問6）、医療的ケアの有無別（問17）



※障がいや疾病の内容別（問6）の難病、および医療的ケアの有無別（問17）は、各障がいとの重複も含む

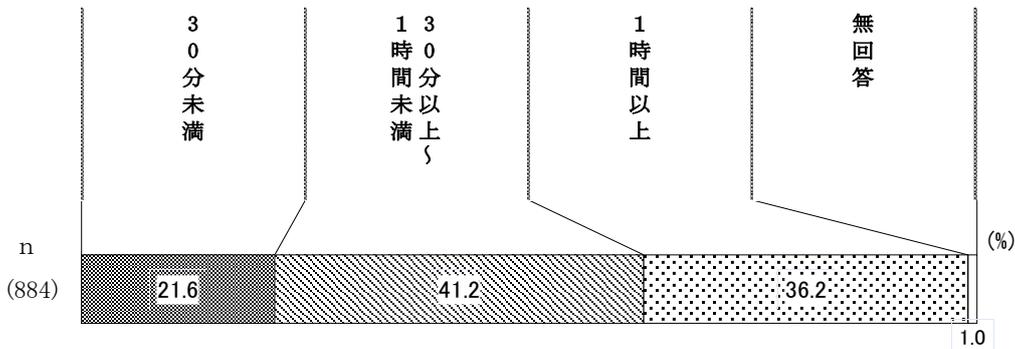
障がいや疾病の内容別（難病 問6）では、87.5%が専門医療機関にかかっている。

医療的ケアの有無別（問17）にみると、医療的ケアを“受けている”人では、88.1%が専門医療機関にかかっている。

(3) 通院時間

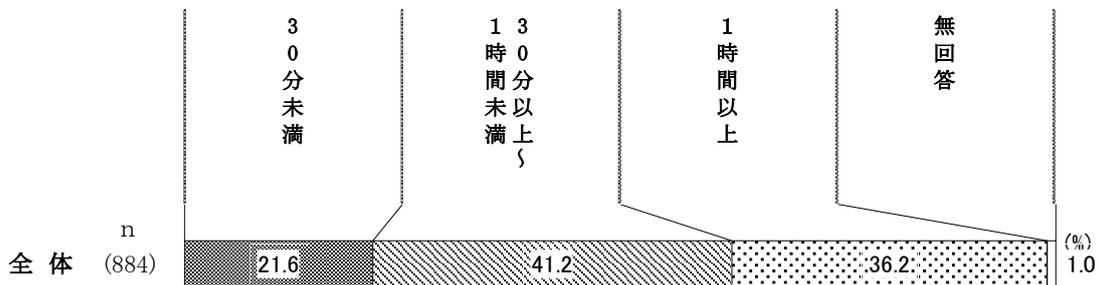
【問16で「はい」と回答した方に】

問16-1 その障がい専門医療機関まで通院する際にどのくらいの時間がかかりますか。
(あてはまるもの1つに○)

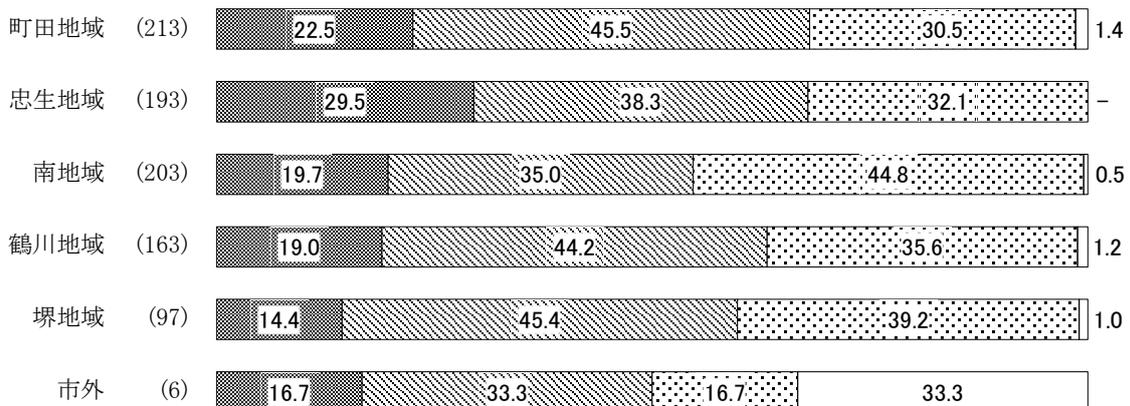


専門医療機関までの通院時間は、「30分以上～1時間未満」が41.2%、「1時間以上」が36.2%となっている。

地域別



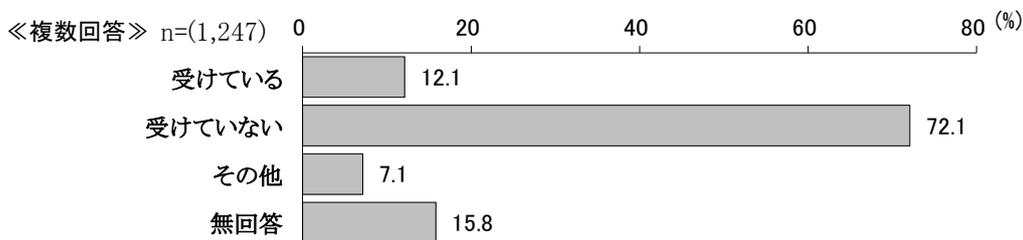
【地域別】



地域別にみると、「30分未満」は忠生地域で29.5%と他の地域より多く、「30分以上～1時間未満」は町田地域、堺地域、鶴川地域で4割台となっている。「1時間以上」かけて通院は南地域で44.8%、市内の各地域でも3割台となっている。

(4) 医療的ケアの状況

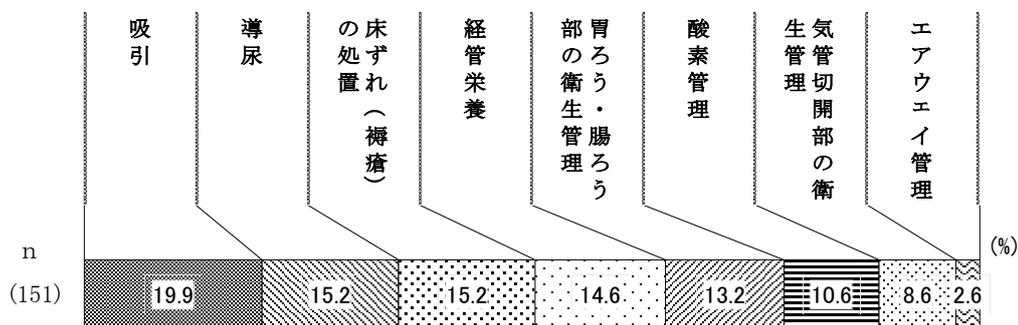
問17 あなた（本人）は、以下のような医療的ケアを受けていますか。
 （あてはまるものすべてに○）



※受けているは、「人工呼吸器の作動状況の確認及び緊急時の連絡等」「その他」「無回答」以外を選んだ方の割合
 ※上記グラフの「その他」には、「人工呼吸器の作動状況の確認及び緊急時の連絡等」も含めている。

医療的ケアを「受けている」は12.1%、「受けていない」は72.1%となっている。

医療的ケアを受けている人の内訳

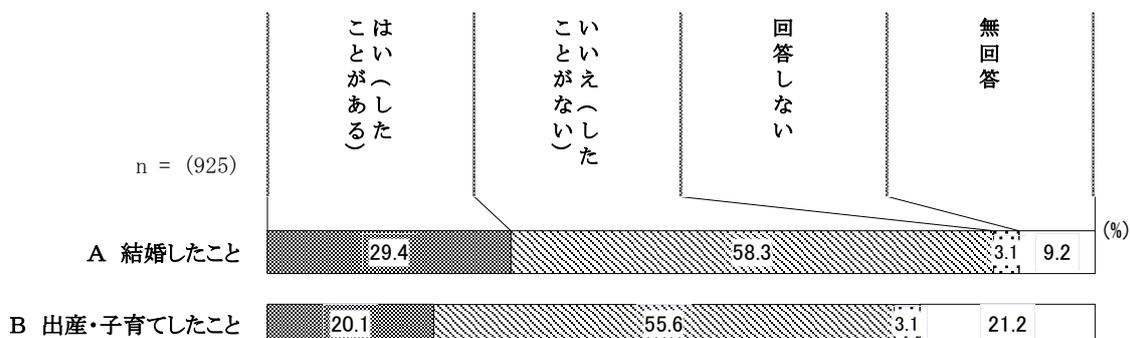


医療的ケアを受けている151人の状況を見ると、「吸引」が19.9%、「導尿」、「床ずれ（褥瘡）の処置」が15.2%、「経管栄養」が14.6%となっている。

6. 家庭・家族について

(1) 結婚・出産・子育ての経験

問18 あなた（本人）は、結婚・出産・子育てをしたことがありますか。
 （あてはまるもの1つに○）
 ※いずれか1つでもされたことがある方は、「はい（したことがある）」に○

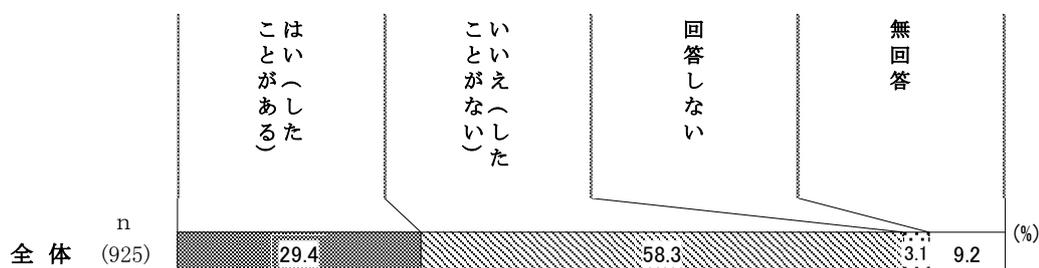


*上図は18歳以上の回答者

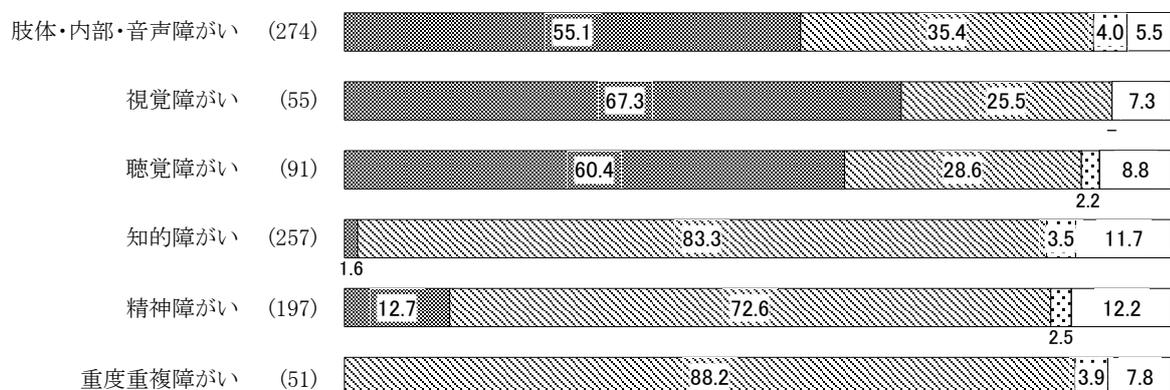
結婚の経験は、「はい（したことがある）」は29.4%となっている。

出産・子育ての経験は「はい（したことがある）」は20.1%となっている。

障がい種別 A 結婚したこと



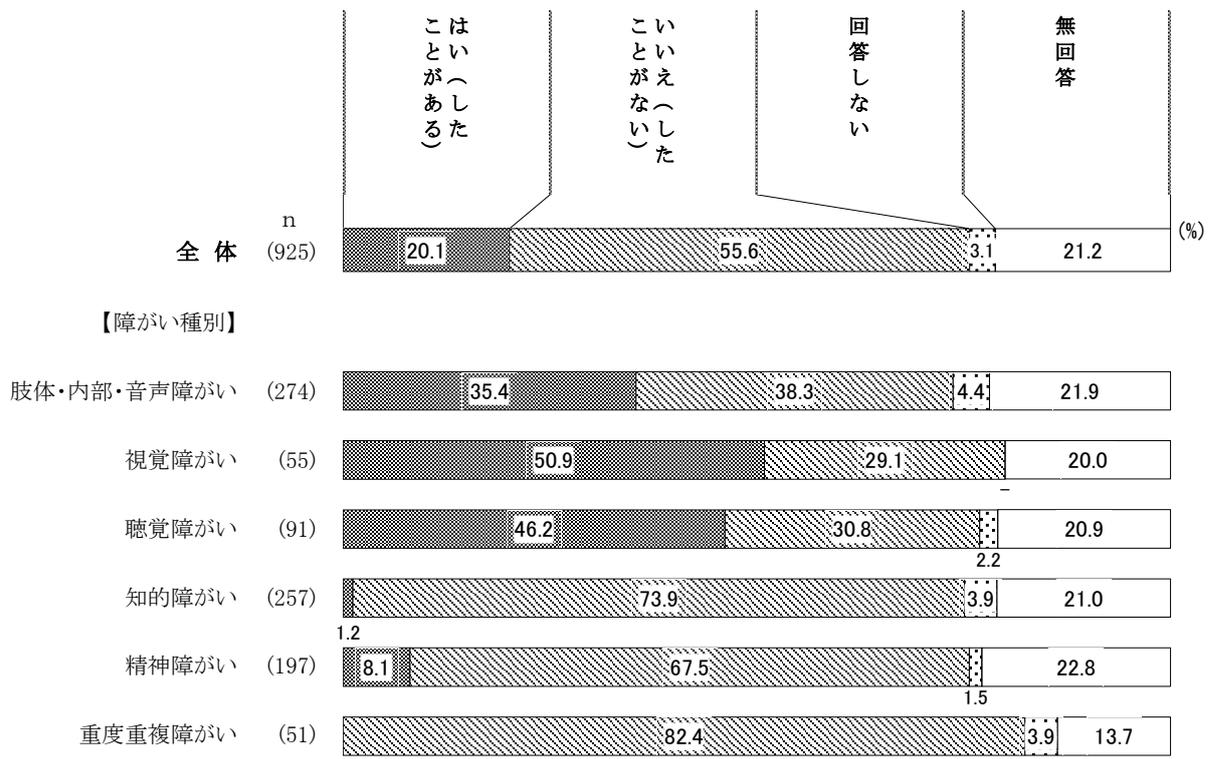
【障がい種別】



*上図は18歳以上の回答者

障がい種別にみると、「はい（したことがある）」は視覚障がいと聴覚障害で6割台、肢体・内部・音声障がいでも55.1%となっている。

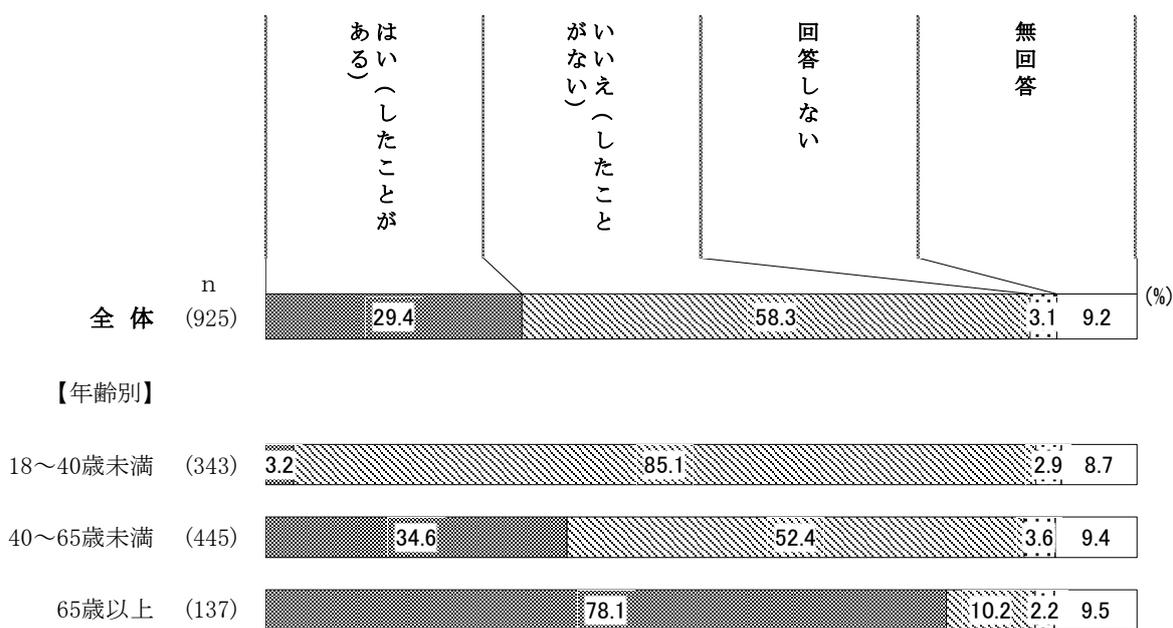
障がい種別 B 出産・子育てしたこと



*上図は18歳以上の回答者

障がい種別にみると、「はい(したことがある)」は視覚障がい49.2%、聴覚障がい42.4%、肢体・内部・音声障がいでも33.0%となっている。

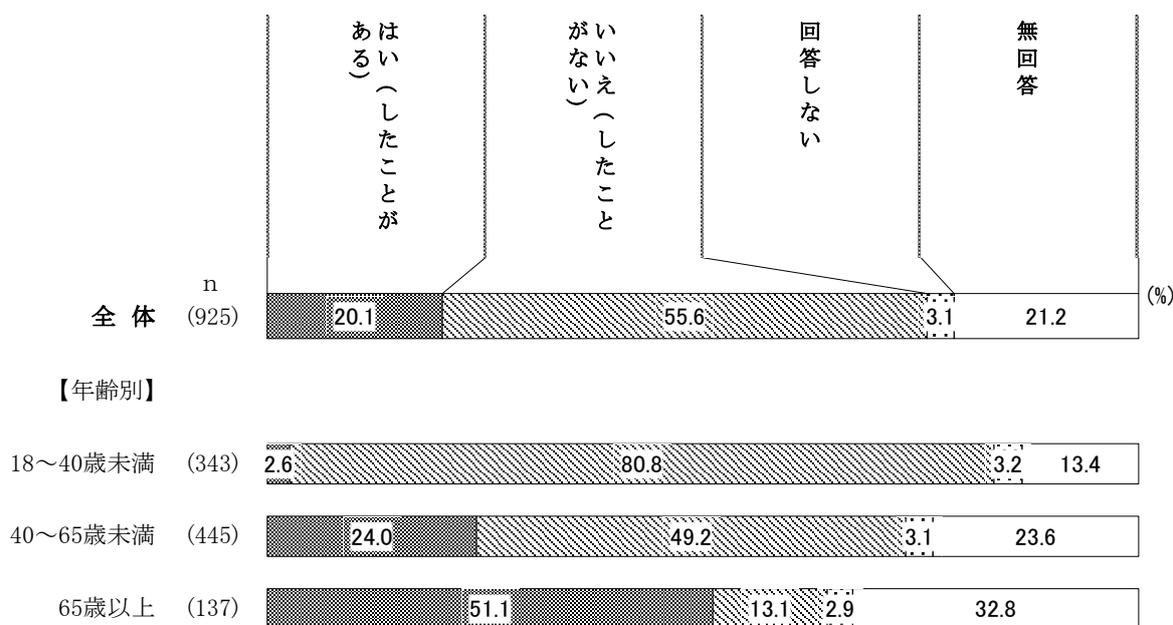
年齢別 A 結婚したこと



* 上図は18歳以上の回答者

結婚の経験を年齢別にみると、「はい（したことがある）」は40～65歳未満で34.6%、65歳以上で78.1%と多くなっている。

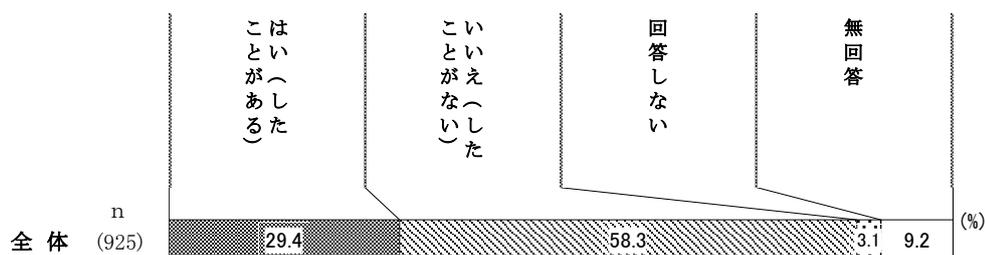
年齢別 B 出産・子育てしたこと



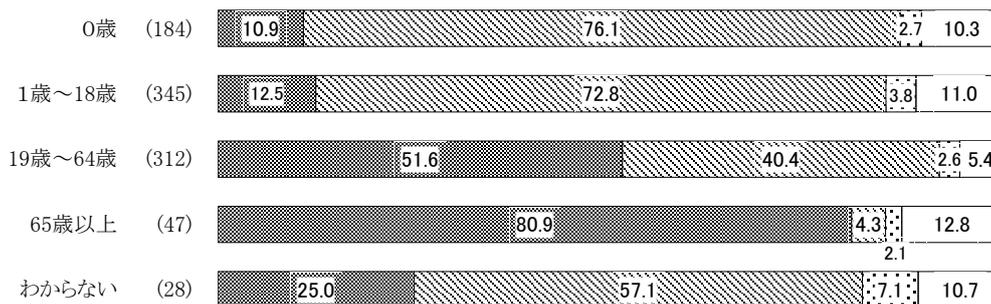
* 上図は18歳以上の回答者

出産・子育ての経験を年齢別にみると、「はい（したことがある）」は40～65歳未満で24.0%、65歳以上で51.1%となっている。

障がいや疾病に気づいた時期別（問7） A 結婚したこと



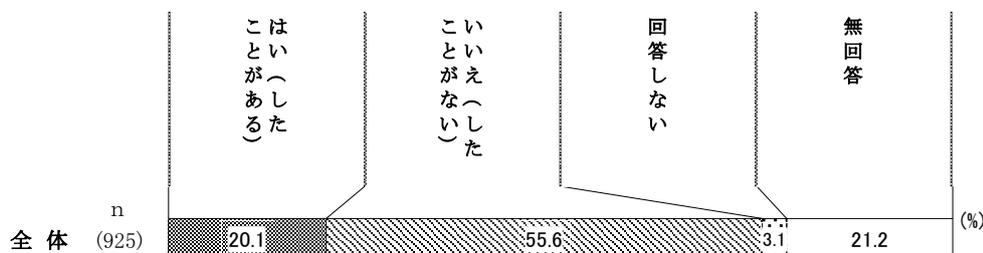
【障がいや疾病に気づいた時期】



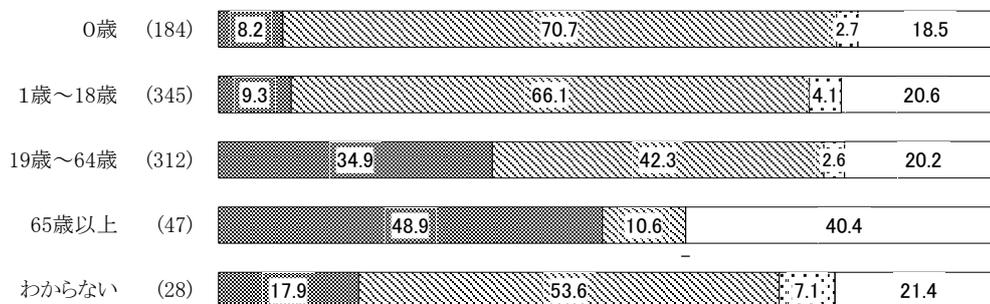
*上図は18歳以上の回答者

障がいや疾病に気づいた時期別（問7）にみると、「はい（したことがある）」は65歳以上で81.3%、19歳～64歳のときで51.6%と多くなっている。

障がいや疾病に気づいた時期別（問7） B 出産・子育てしたこと



【障がいや疾病に気づいた時期】



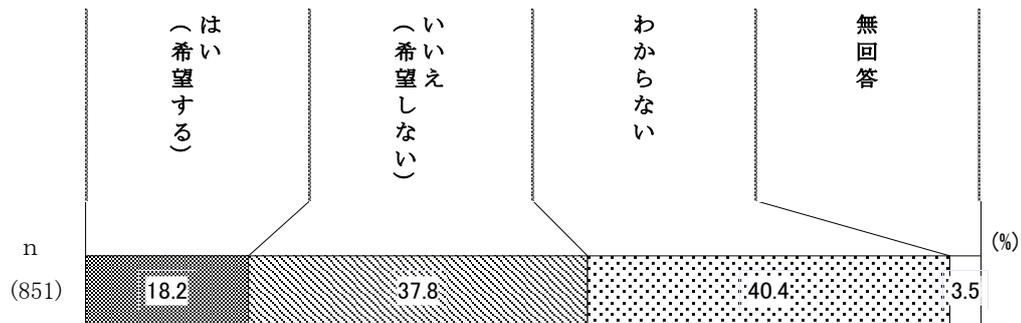
*上図は18歳以上の回答者

障がいや疾病に気づいた時期別（問7）にみると、「はい（したことがある）」は65歳以上で47.9%、19歳～64歳のときで34.5%と多くなっている。

(2) 結婚や出産・子育ての希望

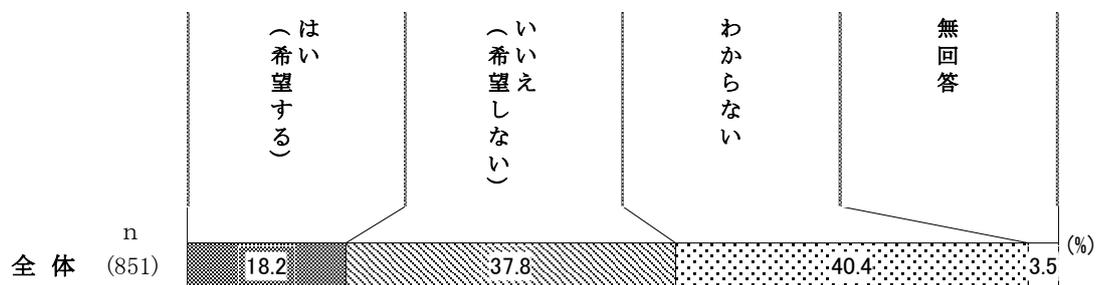
【問18で“A 結婚したこと”、“B 出産・子育てしたこと”のいずれかに「いいえ（したことがない）」と回答した方に】

問18-1 あなた（本人）は、将来的に結婚や出産・子育てすることを希望されますか。
（あてはまるもの1つに○）

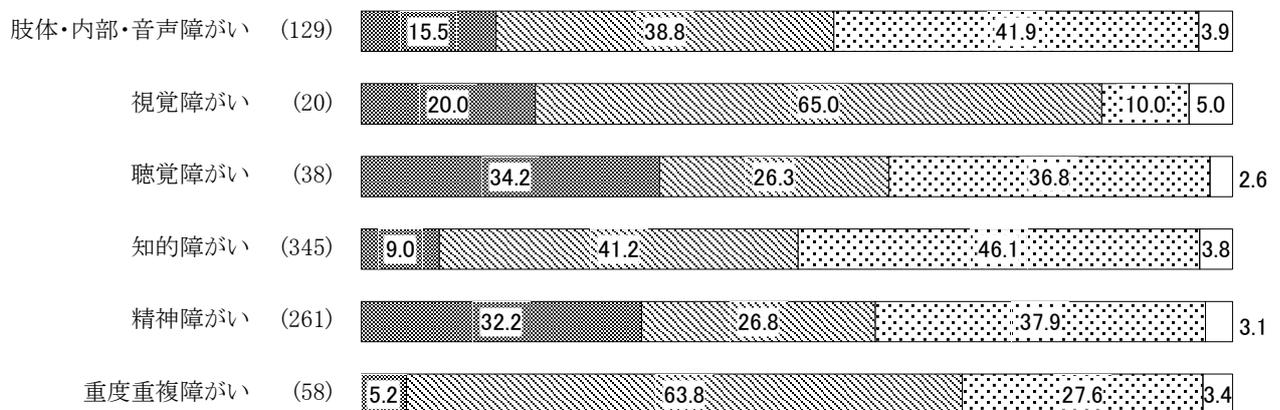


将来的に結婚や出産・子育てを希望するかどうかでは、「はい（希望する）」は18.2%、「いいえ（希望しない）」は37.8%、「わからない」は40.4%となっている。

障がい種別

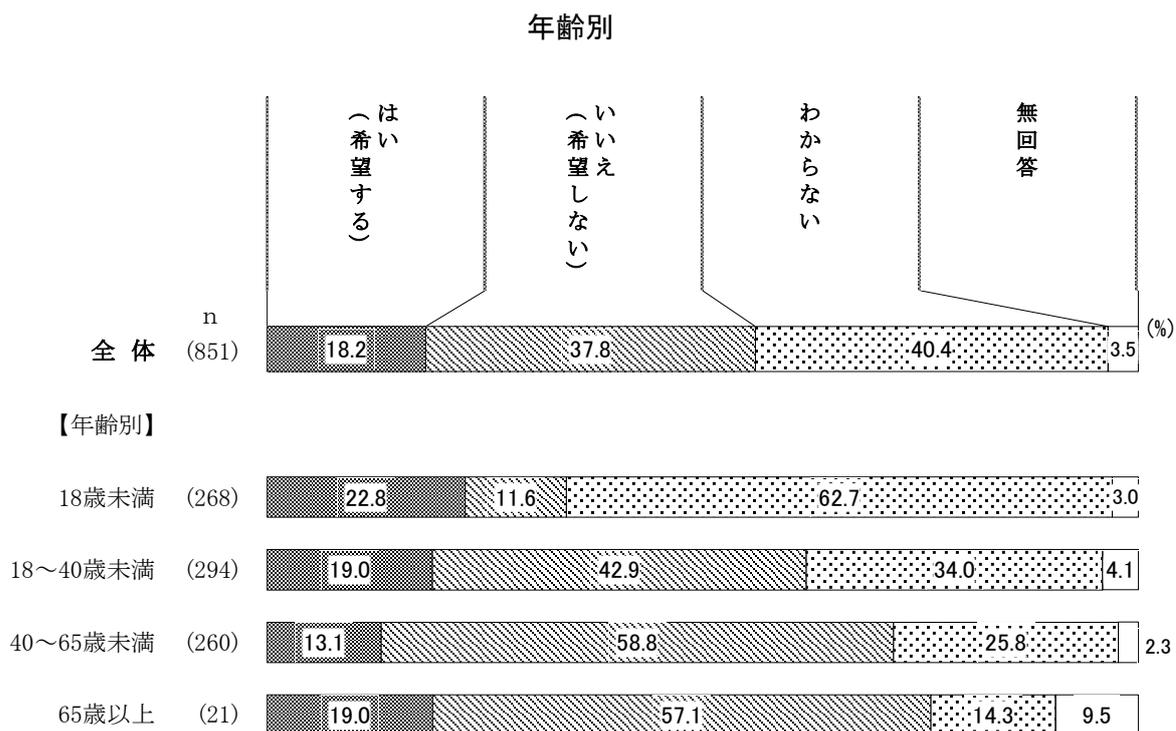


【障がい種別】



障がい種別にみると、視覚障がいと重度重複障がいでは「いいえ（希望しない）」が6割台、肢体・内部・音声障がいと知的障がいで4割前後となっている。また、肢体・内部・音声障がいと知的障がいでは「わからない」が4割台となっている。

第2章 サービス利用者調査結果

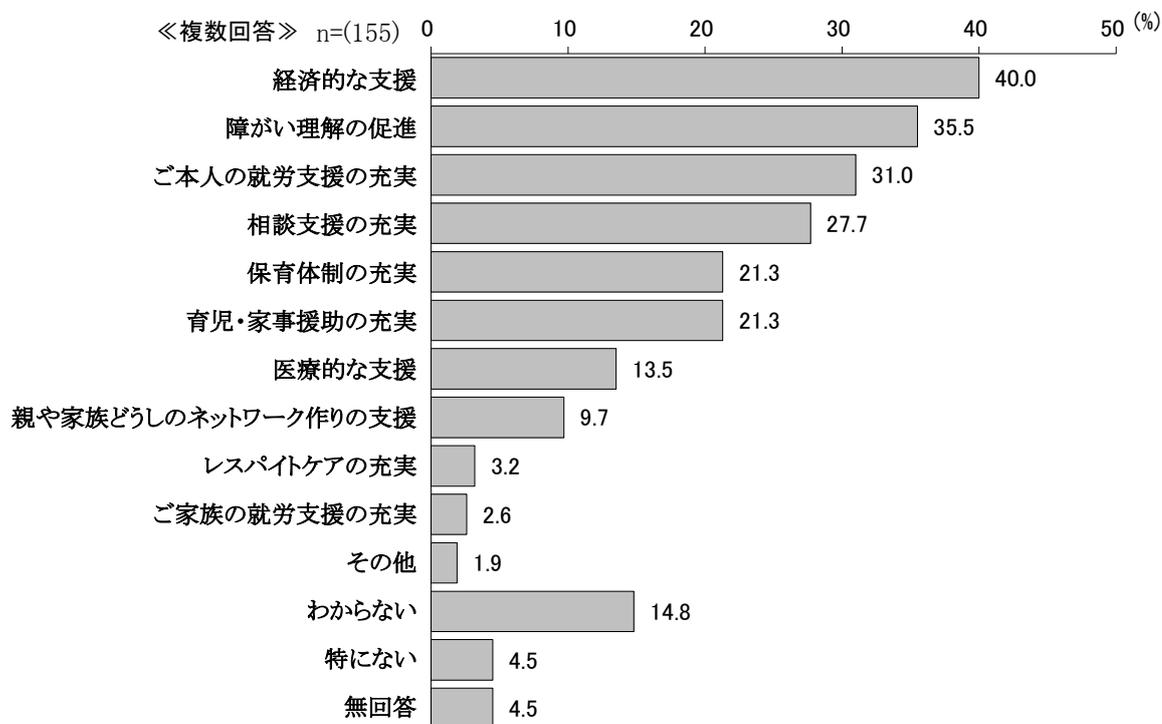


年齢別にみると、18歳以上の年齢では「いいえ (希望しない)」が4割以上となっている。また、18歳未満では「わからない」が62.7%となっている。

(3) 結婚や出産・子育てで必要なこと

【問18で「はい（したことがある）」と回答した方、または問18-1で「はい（希望する）」と回答した方に】

問18-2 結婚や出産・子育てをするにあたりどのようなことが必要ですか。
(あてはまるもの3つまで○)



※レスパイトケア・・・一時的にケアを代わりに行き、家族など介護者の負担軽減を図るサービス。

結婚や出産・子育てをするにあたって必要なことは、「経済的な支援」が40.0%で最も多く、次いで「障がい理解の促進」(35.5%)、「ご本人の就労支援の充実」(31.0%)が3割台、「相談支援の充実」(27.7%)、「保育体制の充実」(21.3%)、「育児・家事援助の充実」(21.3%)が2割台となっている。

障がい種別

(単位:%)

《複数回答》		n	経済的な支援	障がい理解の促進	ご本人の就労支援の充実	相談支援の充実	保育体制の充実	育児・家事援助の充実	医療的な支援	親や家族どうしのネットワーク作りの支援	レスパイトケアの充実	ご家族の就労支援の充実	その他	わからない	特にない	無回答
全体		155	40.0	35.5	31.0	27.7	21.3	21.3	13.5	9.7	3.2	2.6	1.9	14.8	4.5	4.5
障がい種別	肢体・内部・音声障がい	20	40.0	15.0	30.0	15.0	40.0	25.0	40.0	15.0	-	5.0	-	5.0	-	5.0
	視覚障がい	4	-	-	-	-	25.0	25.0	25.0	-	-	-	-	25.0	50.0	-
	聴覚障がい	13	53.8	38.5	7.7	23.1	38.5	30.8	-	7.7	7.7	-	-	7.7	7.7	-
	知的障がい	31	45.2	19.4	35.5	41.9	12.9	25.8	-	9.7	3.2	3.2	-	19.4	-	9.7
	精神障がい	84	36.9	47.6	34.5	28.6	17.9	16.7	14.3	9.5	3.6	2.4	2.4	15.5	4.8	3.6
	重度重複障がい	3	66.7	33.3	33.3	-	-	33.3	-	-	-	-	-	33.3	33.3	-

※網掛けは最も多いもの(「その他」「わからない」「特にない」を除く)

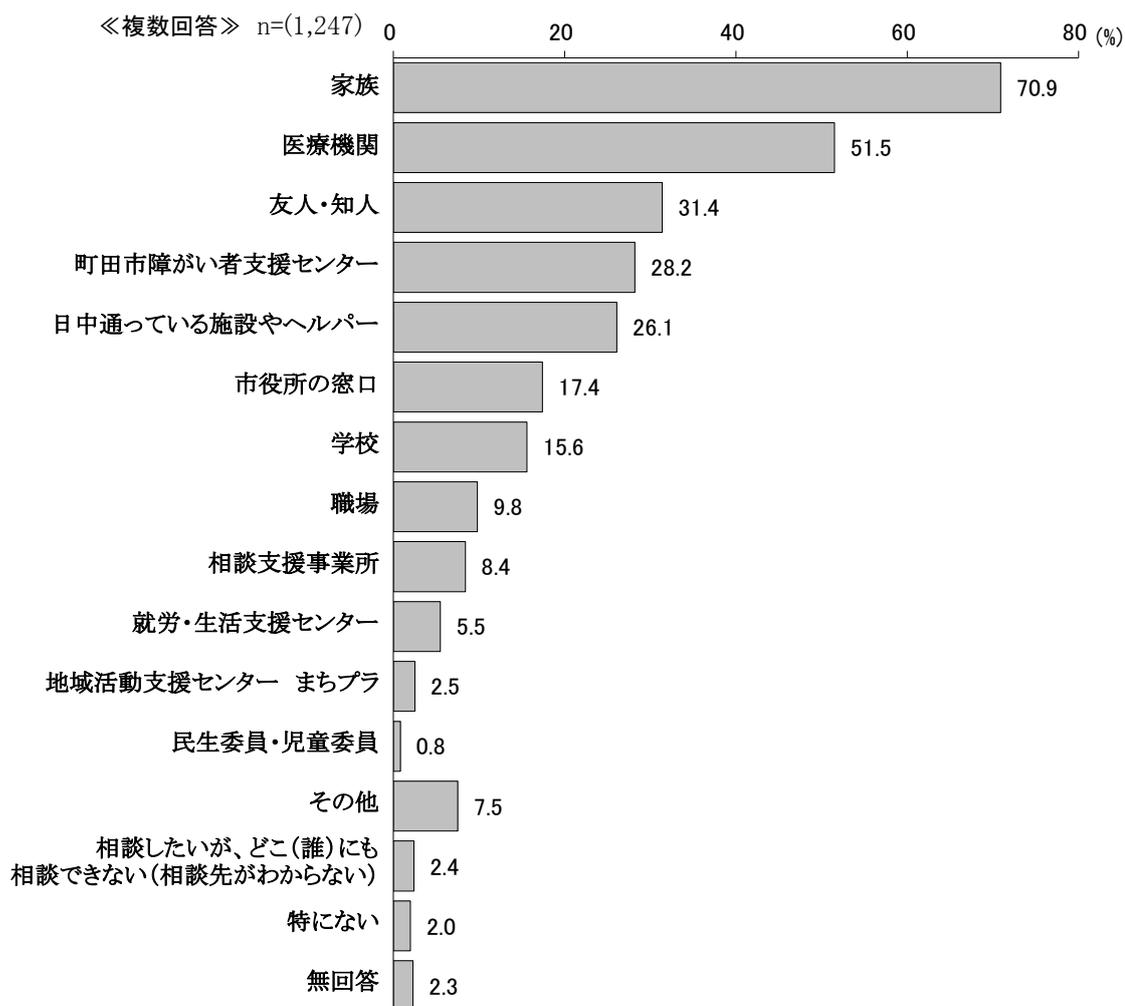
障がい種別にみると、知的障がいでは、「経済的な支援」、「相談支援の充実」が4割台となっている。精神障がいでは「障がい理解の促進」が47.6%、「経済的な支援」、「ご本人の就労支援の充実」が3割台となっている。

7. 相談することについて

(1) 困ったときの相談先

※ ここからは、あなた（本人）もしくは家族や支援者など本人に代わって回答している方にお聞きします。

問19 あなた（本人）の事で、困ったことがあったとき、どこ（誰）に相談しますか。
（あてはまるものすべてに○）



本人の事で困ったことがあったときの相談先は、「家族」が70.9%で最も多く、これに「医療機関」が51.5%が続いている。この他、「友人・知人」が31.4%、「町田市障がい者支援センター」（28.2%）と「日中通っている施設やヘルパー」（26.1%）が2割台となっている。

障がい種別、年齢別

(単位:%)

《複数回答》		n	家族	医療機関	友人・知人	町田市障がい者支援センター	日中通っている施設やヘルパー	市役所の窓口	学校	職場	相談支援事業所	就労・生活支援センター	地域活動支援センター まちプラ	民生委員・児童委員	その他	相談したいが、どこ(誰)にも相談できない (相談先がわからない)	特にない	無回答
全体		1,247	70.9	51.5	31.4	28.2	26.1	17.4	15.6	9.8	8.4	5.5	2.5	0.8	7.5	2.4	2.0	2.3
障がい種別	肢体・内部・音声障がい	297	66.3	48.5	25.3	27.9	18.5	22.2	4.0	9.1	5.4	2.7	2.7	1.3	6.4	3.7	4.4	2.0
	視覚障がい	59	57.6	39.0	28.8	27.1	6.8	18.6	5.1	3.4	1.7	5.1	3.4	1.7	5.1	5.1	6.8	6.8
	聴覚障がい	99	76.8	31.3	40.4	17.2	4.0	15.2	6.1	13.1	7.1	4.0	-	1.0	1.0	1.0	4.0	2.0
	知的障がい	405	73.3	48.6	31.4	31.9	35.8	15.6	24.9	12.1	10.6	6.7	2.2	0.2	7.7	1.0	0.7	1.5
	精神障がい	319	73.7	65.2	36.1	23.5	25.4	13.8	20.1	7.8	9.1	8.5	3.4	0.9	11.3	2.5	0.3	3.1
	重度重複障がい	68	66.2	57.4	26.5	47.1	52.9	26.5	11.8	8.8	13.2	-	1.5	-	4.4	4.4	-	1.5
年齢別	18歳未満	306	81.4	61.4	39.9	19.6	24.2	11.4	59.8	0.7	7.5	0.3	-	0.3	12.7	2.6	0.7	0.3
	18～40歳未満	343	72.9	49.3	33.8	32.4	39.7	18.1	1.7	15.2	12.5	11.4	2.9	-	5.8	1.5	0.6	2.6
	40～65歳未満	445	64.5	49.7	26.5	32.1	22.0	19.3	0.9	14.8	7.2	5.8	3.1	1.1	5.8	3.1	3.4	2.5
	65歳以上	137	64.2	40.1	21.9	24.1	9.5	21.2	-	0.7	4.4	1.5	4.4	2.9	5.1	2.2	4.4	5.8

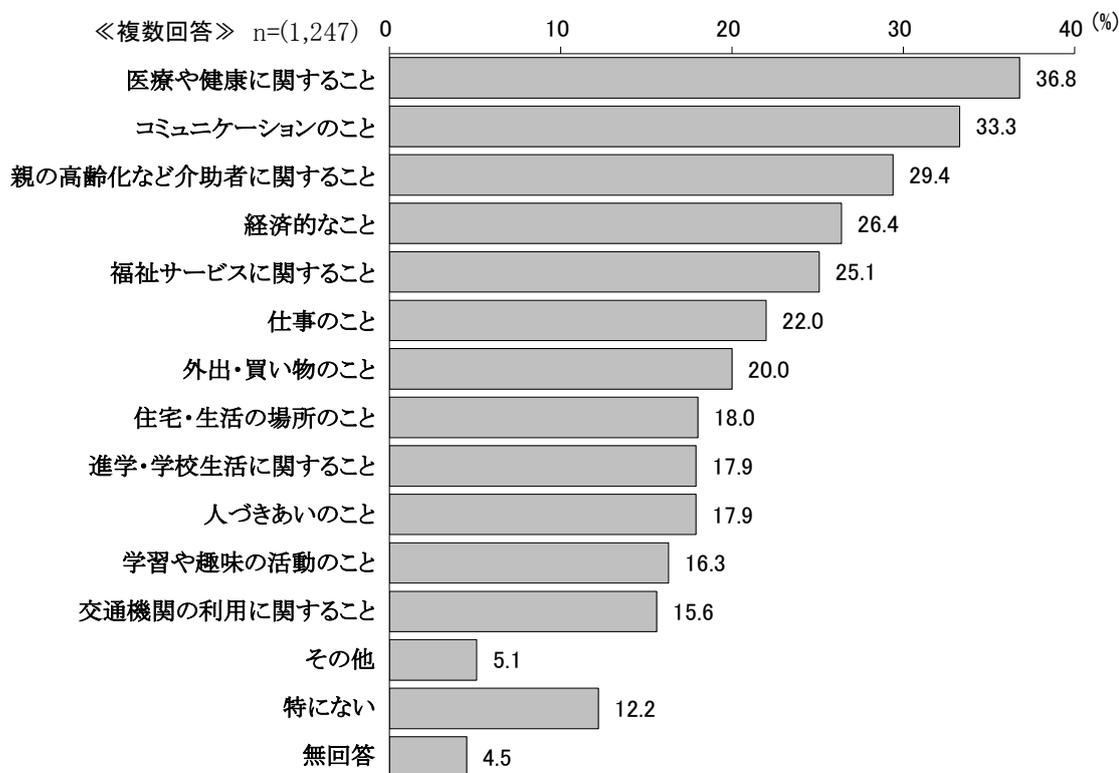
※網掛けは最も多いもの(「その他」「相談したいが、どこ(誰)にも相談できない(相談先がわからない)」「特にない」を除く)

障がい種別にみると、「家族」は視覚障がいを除くすべての障がい種別で6割以上と最も多くなっている。「医療機関」はいずれの障がい種別でも3割以上で、特に精神障がいでは65.2%となっている。また、重度重複障がいでは「日中通っている施設やヘルパー」が52.9%、「町田市障がい者支援センター」が47.1%と他の障がいより多くなっている。

年齢別にみると、「家族」と「医療機関」はいずれの年齢でも多くなっている。「学校」は18歳未満で59.8%、「日中通っている施設やヘルパー」は18～40歳未満で39.7%、「町田市障がい者支援センター」は18～40歳未満、40～65歳未満で3割台と他の年齢より多くなっている。

(2) 相談したい内容

問20 あなた（本人）の事でふだんの生活で困ったり、不安に思ったりして相談したいと思っていることはどのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）



ふだんの生活で困ったり、不安に思うことで相談したいと思っていることは、「医療や健康に関すること」(36.8%)と「コミュニケーションのこと」(33.3%)の2項目が3割台となっている。次いで「親の高齢化など介助者に関すること」(29.4%)、「経済的なこと」(26.4%)、「福祉サービスに関すること」(25.1%)、「仕事のこと」(22.0%)、「外出・買い物のこと」(20.0%)が2割台となっている。

障がい種別、年齢別

(単位:%)

《複数回答》		n	医療や健康に関すること	コミュニケーションのこと	親の高齢化など介助者に関すること	経済的なこと	福祉サービスに関すること	仕事のこと	外出・買い物のこと	住宅・生活の場所のこと	進学・学校生活に関すること	人づきあいのこと	学習や趣味の活動のこと	交通機関の利用に関すること	その他	特にない	無回答
全体		1,247	36.8	33.3	29.4	26.4	25.1	22.0	20.0	18.0	17.9	17.9	16.3	15.6	5.1	12.2	4.5
障がい種別	肢体・内部・音声障がい	297	44.4	14.8	27.6	29.6	26.9	17.8	20.9	21.2	5.7	11.4	9.8	18.2	3.4	15.2	4.0
	視覚障がい	59	39.0	10.2	16.9	15.3	27.1	13.6	28.8	15.3	6.8	11.9	10.2	23.7	1.7	22.0	8.5
	聴覚障がい	99	24.2	31.3	15.2	22.2	10.1	26.3	6.1	15.2	7.1	14.1	7.1	6.1	2.0	19.2	8.1
	知的障がい	405	33.1	37.3	36.0	23.5	27.9	18.3	22.7	17.5	24.2	17.3	20.2	16.8	6.7	10.6	4.4
	精神障がい	319	31.3	51.4	19.4	32.9	21.3	33.5	18.8	14.4	28.2	29.8	22.9	14.4	6.3	8.5	3.8
	重度重複障がい	68	67.6	27.9	75.0	14.7	38.2	8.8	19.1	30.9	10.3	4.4	8.8	10.3	5.9	7.4	1.5
年齢別	18歳未満	306	27.8	57.2	21.2	23.2	31.0	15.7	25.5	14.1	67.0	22.2	40.8	19.9	6.5	6.2	1.3
	18～40歳未満	343	38.5	37.0	41.1	26.5	26.2	30.9	19.5	23.9	2.3	20.4	10.5	14.0	6.4	10.5	4.1
	40～65歳未満	445	42.7	21.8	33.0	31.9	23.1	24.3	18.0	19.1	1.6	16.4	7.9	15.7	3.6	14.6	3.8
	65歳以上	137	33.6	8.0	5.1	16.8	14.6	5.1	16.1	8.8	0.7	8.8	2.9	9.5	4.4	23.4	13.9

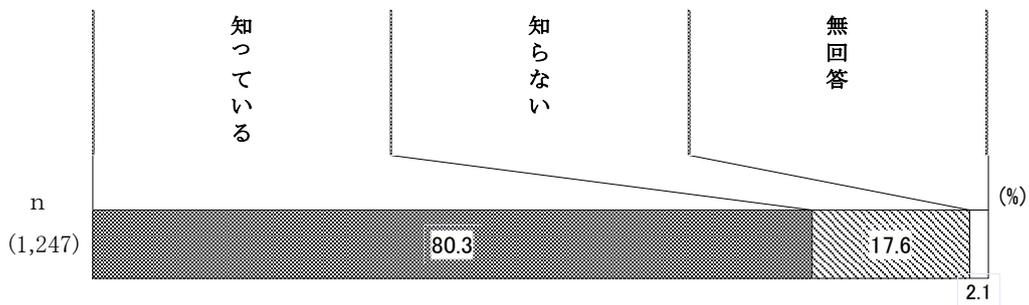
※網掛けは最も多いもの(「その他」「特にない」を除く)

障がい種別にみると、肢体・内部・音声障がいでは「医療や健康に関すること」が特に多く、この他、「親の高齢化など介助者に関すること」、「経済的なこと」、「福祉サービスに関すること」が2割台となっている。視覚障がいでは「医療や健康に関すること」が特に多く、「交通機関の利用に関すること」が他の障がいより多い。聴覚障がいでは「コミュニケーションのこと」が特に多くなっている。知的障がいでは「コミュニケーションのこと」や「親の高齢化など介助者に関すること」が多く、「医療や健康に関すること」を上回っている。精神障がいでは「コミュニケーションのこと」が特に多く、「仕事のこと」や「経済的なこと」が続いている。重度重複障がいでは「親の高齢化など介助者に関すること」と「医療や健康に関すること」が6割を超える。また、「福祉サービスに関すること」や「住宅・生活の場所のこと」についても多くなっている。

年齢別にみると、18歳未満では「進学・学校生活に関すること」が67.0%と多く、「コミュニケーションのこと」(57.2%)や「学習や趣味の活動のこと」(40.8%)も4割以上となっている。18～40歳未満では「親の高齢化など介助者に関すること」(41.1%)や「仕事のこと」(30.9%)、40～65歳未満では「医療や健康に関すること」(42.7%)や「経済的なこと」(31.9%)が多くなっている。

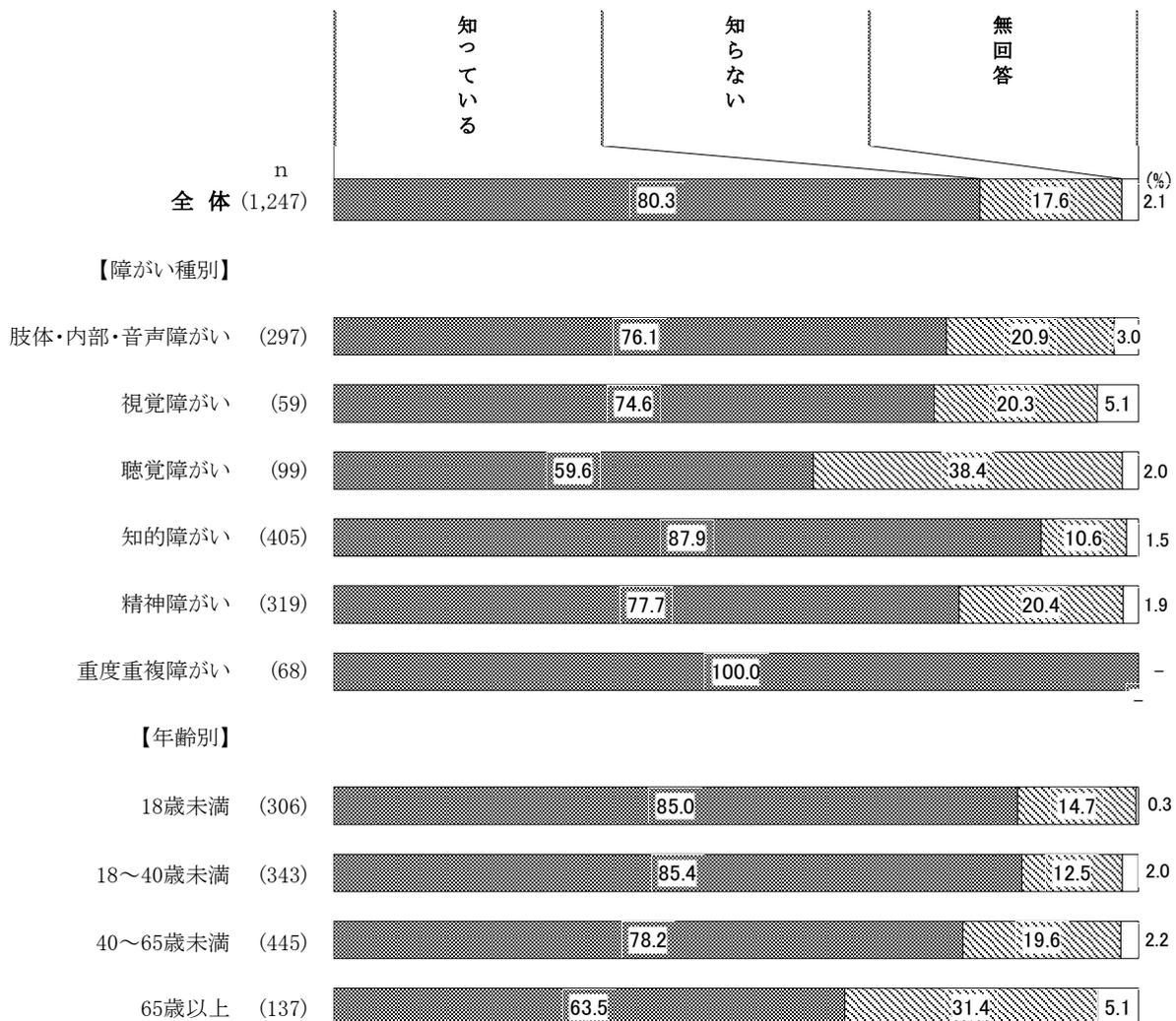
(3) 町田市の障がい者支援センターの認知

問21 町田市の障がい者支援センターを知っていますか。(あてはまるもの1つに○)



町田市障がい者支援センターの認知は、「知っている」が80.3%となっている。

障がい種別、年齢別

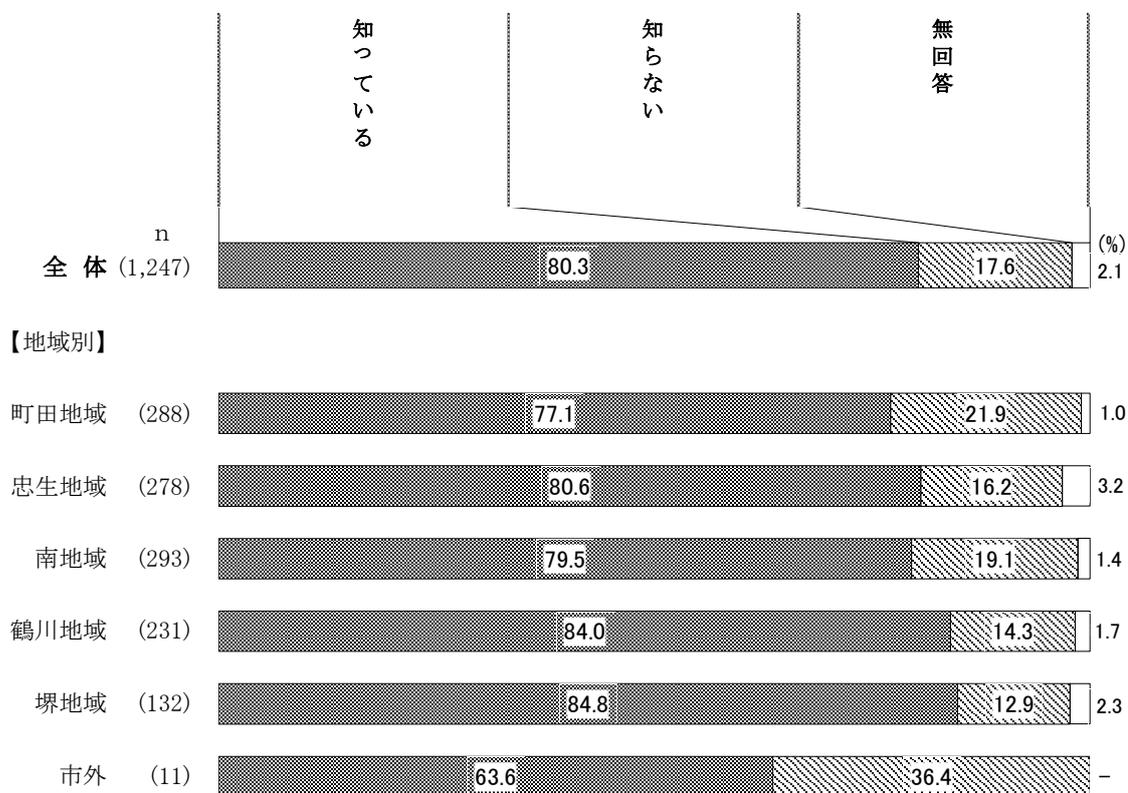


障がい種別では、「知っている」は聴覚障がいを除くすべての障がいで7割以上で、特に重度重複障がいでは全数に達している。

年齢別にみると、「知っている」は40歳未満の年齢では85%台、40～65歳未満でも78.2%となっている。65歳以上では「知らない」が31.4%と他の年齢より多くなっている。

第2章 サービス利用者調査結果

地域別



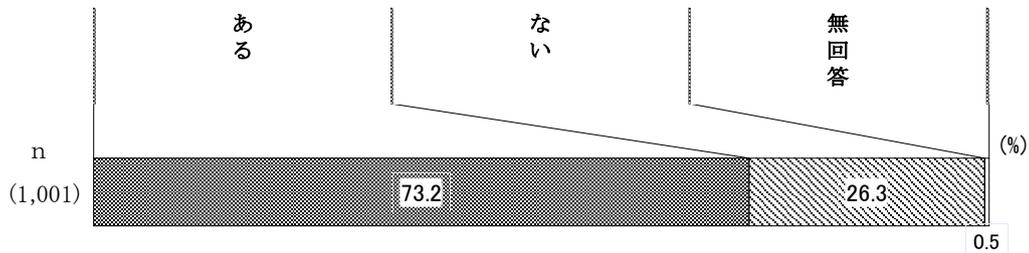
地域別にみると、「知っている」は町田市内の地域ではいずれも多数を占め、鶴川地域、堺地域では8割半ばとなっている。

(4) 障がい者支援センターの利用経験

【問21で「知っている」と回答した方に】

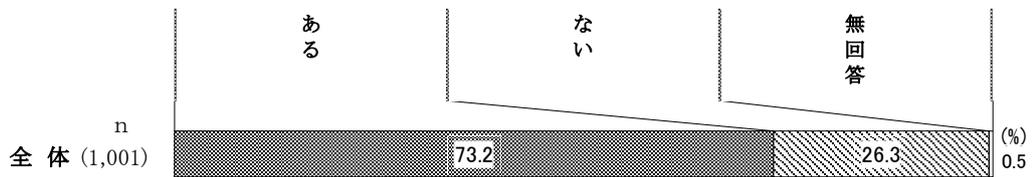
問21-1 障がい者支援センターを利用されたことはありますか。

(あてはまるもの1つに○)

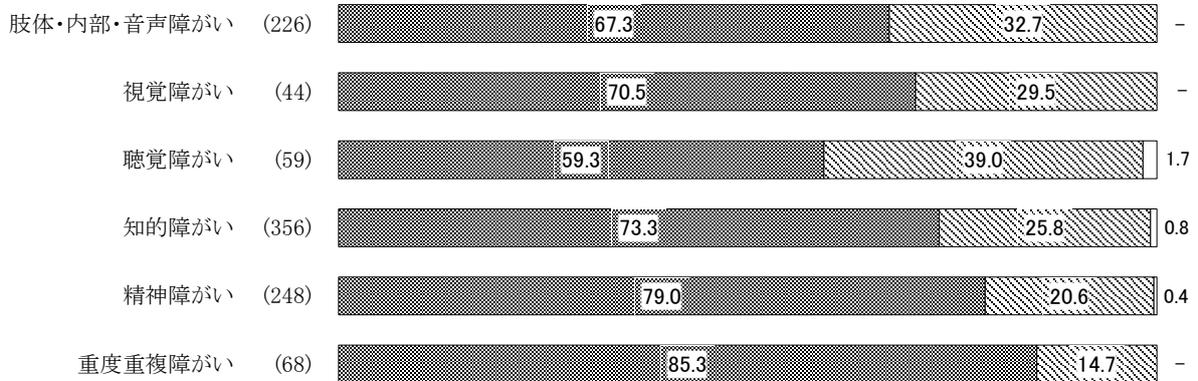


障がい者支援センターの利用経験は、「ある」が73.2%、「ない」が26.3%となっている。

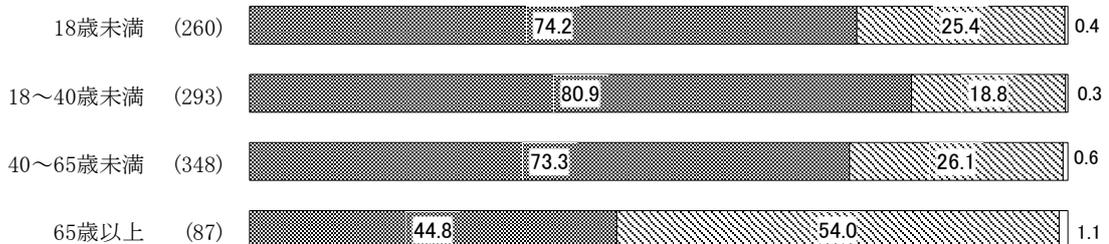
障がい種別、年齢別



【障がい種別】

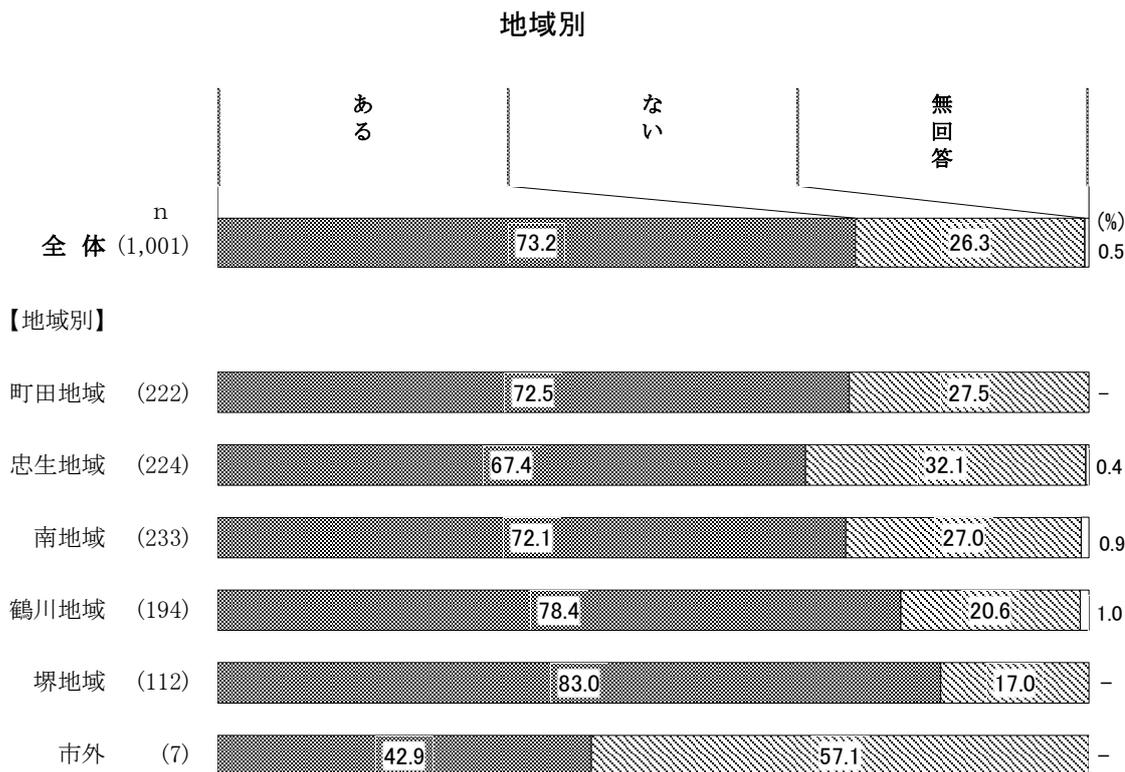


【年齢別】



障がい種別にみると、いずれの障がいも概ね6割以上で利用経験があり、特に重度重複障がいでは85.3%となっている。

年齢別にみると、65歳以上を除く年齢で、7割以上で利用経験がある。65歳以上では利用経験なしが54.0%となっている。

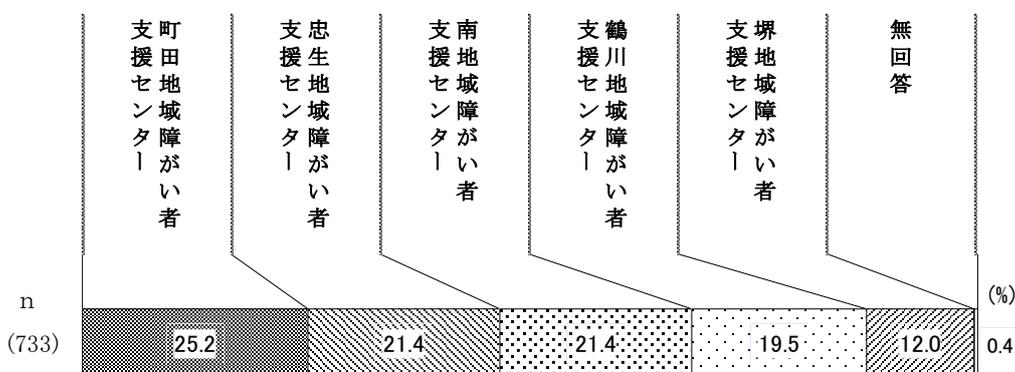


地域別にみると、町田市内ではいずれの地域も利用経験ありが多数を占めるが、忠生地域では、利用経験なしが32.1%と他の地域より多くなっている。

(5) 利用経験のある障がい者支援センター

【問21-1で「ある」と回答した方に】

問21-2 あなた（本人）もしくは家族や支援者の方が主に利用したことがある障がい者支援センターはどれですか。（あてはまる番号1つに○）



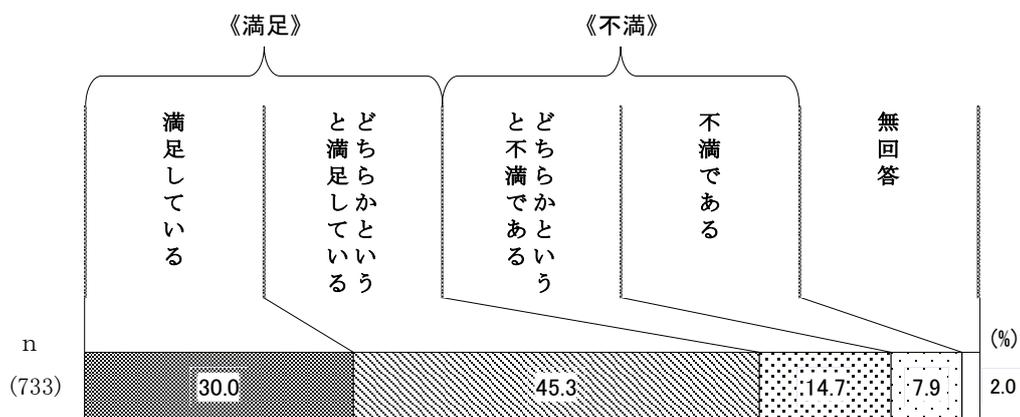
利用経験のある障がい者支援センターは、「町田地域障がい者支援センター」が25.2%で、「忠生地域」、「南地域」、「鶴川地域」の各センターが2割前後となっている。

(6) 障がい者支援センターの満足度

【問21-1で「ある」と回答した方に】

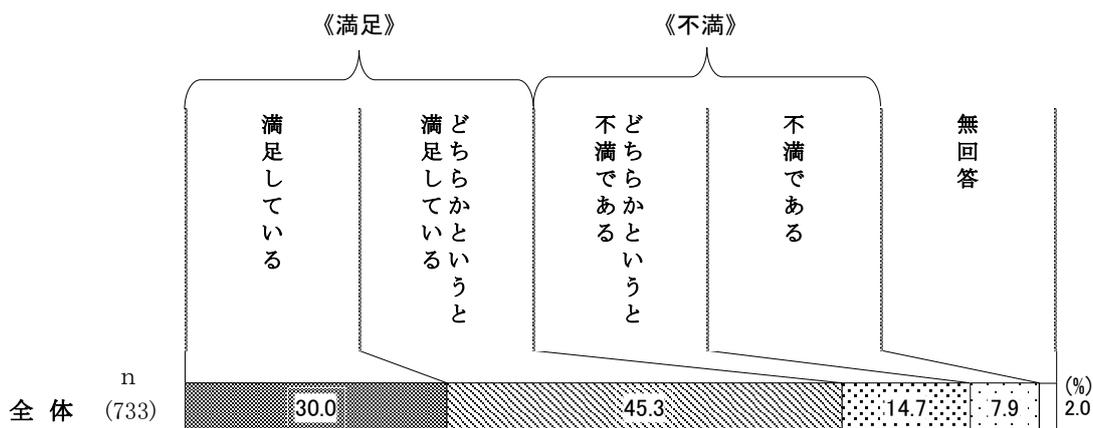
問21-3 障がい者支援センターの対応・サービス等に満足していますか。

(あてはまるもの1つに○)

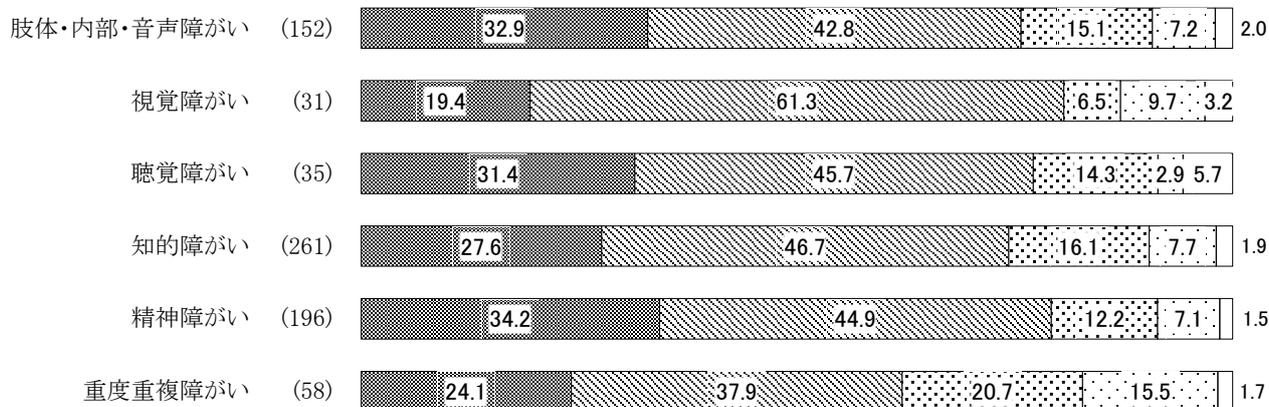


利用中の障がい者支援センターの対応・サービス等について、「満足している」は30.0%、「どちらかという満足している」は45.3%となっており、両者をあわせた《満足》は75.3%となっている。《不満》（「どちらかという不満である」+「不満である」）は22.6%となっている。

障がい種別

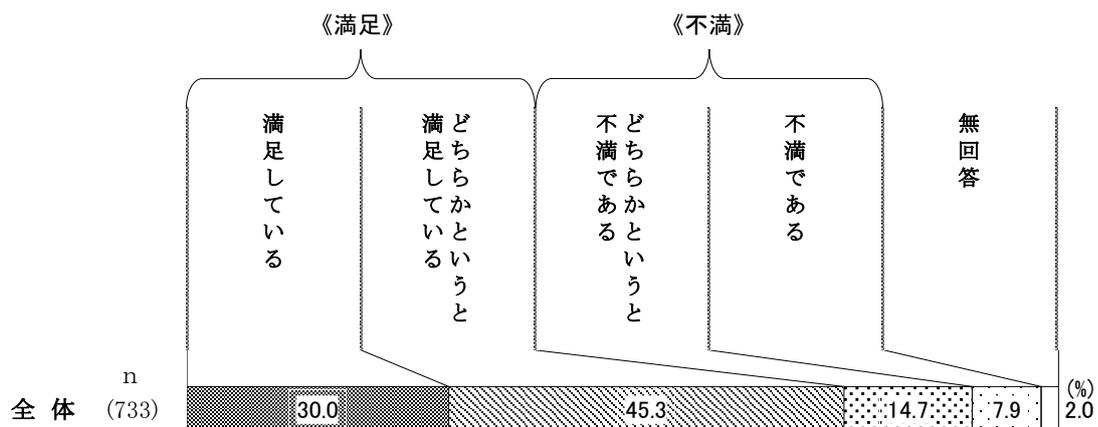


【障がい種別】

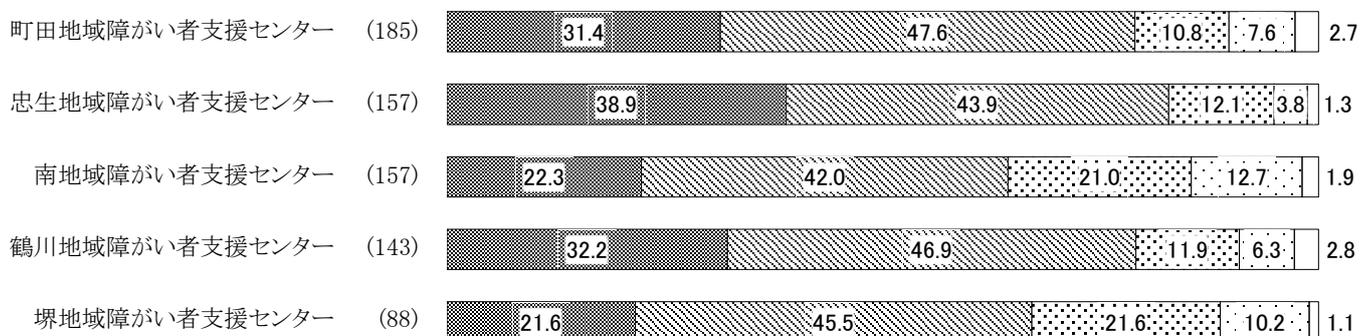


障がい種別にみると、《満足》はほとんどの障がい種別で7割台であるが、重度重複障がいでは62.0%となっており、《不満》が36.2%と他の障がいより多くなっている。

利用経験のある障がい者支援センター別（問21-2）



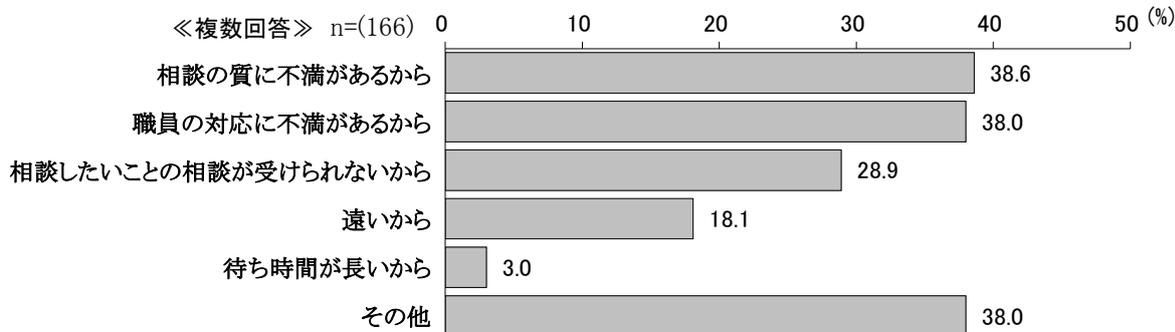
【利用経験のある障がい者支援センター別】



利用経験のある障がい者支援センター別（問21-2）にみると、「満足している」は忠生地域障がい者支援センターで4割近く、町田地域障がい者支援センターと鶴川地域障がい者支援センターで3割台となっている。《満足》では忠生地域障がい者支援センター、町田地域障がい者支援センター、鶴川地域障がい者支援センターで8割前後だが、堺地域障がい者支援センターと南地域障がい者支援センターでは6割台となっている。

(7) 不満の理由

【問21-3で「どちらかという不満である」または「不満である」と回答した方に】
 問21-4 不満の理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)



障がい者支援センターの不満理由は、「相談の質に不満があるから」(38.6%)、「職員の対応に不満があるから」(38.0%)の2項目が3割台で多く、次いで「相談したいことの相談が受けられないから」が28.9%となっている。

障がい種別

(単位:%)

《複数回答》		n	か ら 相 談 の 質 に 不 満 が あ る	る 職 員 の 対 応 に 不 満 が あ る	が 相 談 し た い こ と の 相 談 が 受 け ら れ な い こ と か ら	遠 い か ら	待 ち 時 間 が 長 い か ら	そ の 他
全体		166	38.6	38.0	28.9	18.1	3.0	38.0
障 が い 種 別	肢体・内部・音声障がい	34	47.1	32.4	20.6	20.6	-	44.1
	視覚障がい	5	20.0	80.0	40.0	20.0	-	-
	聴覚障がい	6	33.3	16.7	16.7	83.3	-	50.0
	知的障がい	62	38.7	37.1	24.2	14.5	4.8	37.1
	精神障がい	38	28.9	50.0	34.2	13.2	5.3	36.8
	重度重複障がい	21	47.6	23.8	47.6	14.3	-	38.1

※網掛けは最も多いもの(「その他」を除く)

障がい種別にみると、肢体・内部・音声障がいでは「相談の質に不満があるから」が47.1%、精神障がいでは「職員の対応に不満があるから」が50.0%となっている。

利用経験のある障がい者支援センター別（問21-2）

（単位：％）

《複数回答》		n	から相談の質に不満がある	る職員の対応に不満がある	が相談したいことからの相談が受けられないから	遠いから	待ち時間が長いから	その他
全体		166	38.6	38.0	28.9	18.1	3.0	38.0
利用経験のある障がい者支援センター別	町田地域障がい者支援センター	34	44.1	38.2	26.5	17.6	5.9	47.1
	忠生地域障がい者支援センター	25	32.0	20.0	28.0	20.0	8.0	40.0
	南地域障がい者支援センター	53	37.7	52.8	20.8	17.0	-	34.0
	鶴川地域障がい者支援センター	26	42.3	30.8	46.2	19.2	3.8	26.9
	堺地域障がい者支援センター	28	35.7	32.1	32.1	17.9	-	42.9

※網掛けは最も多いもの（「その他」を除く）

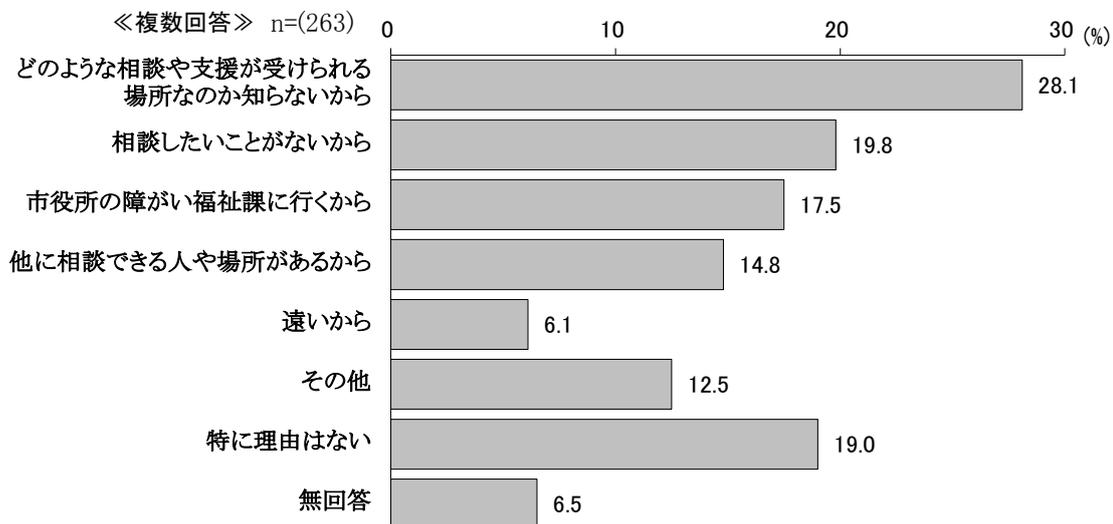
利用経験のある障がい者支援相談センター別（問21-2）は、いずれの地域でも「相談の質に不満があるから」が3割から4割台となっている。南地域では「職員の対応に不満があるから」が52.8%、鶴川地域では「相談したいことからの相談が受けられないから」が46.2%と他の地域より多くなっている。

(8) 障がい者支援センターを利用しない理由

【問21-1で「ない」(障がい者支援センター未利用)と回答した方に】

問21-5 障がい者支援センターを利用しない理由は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

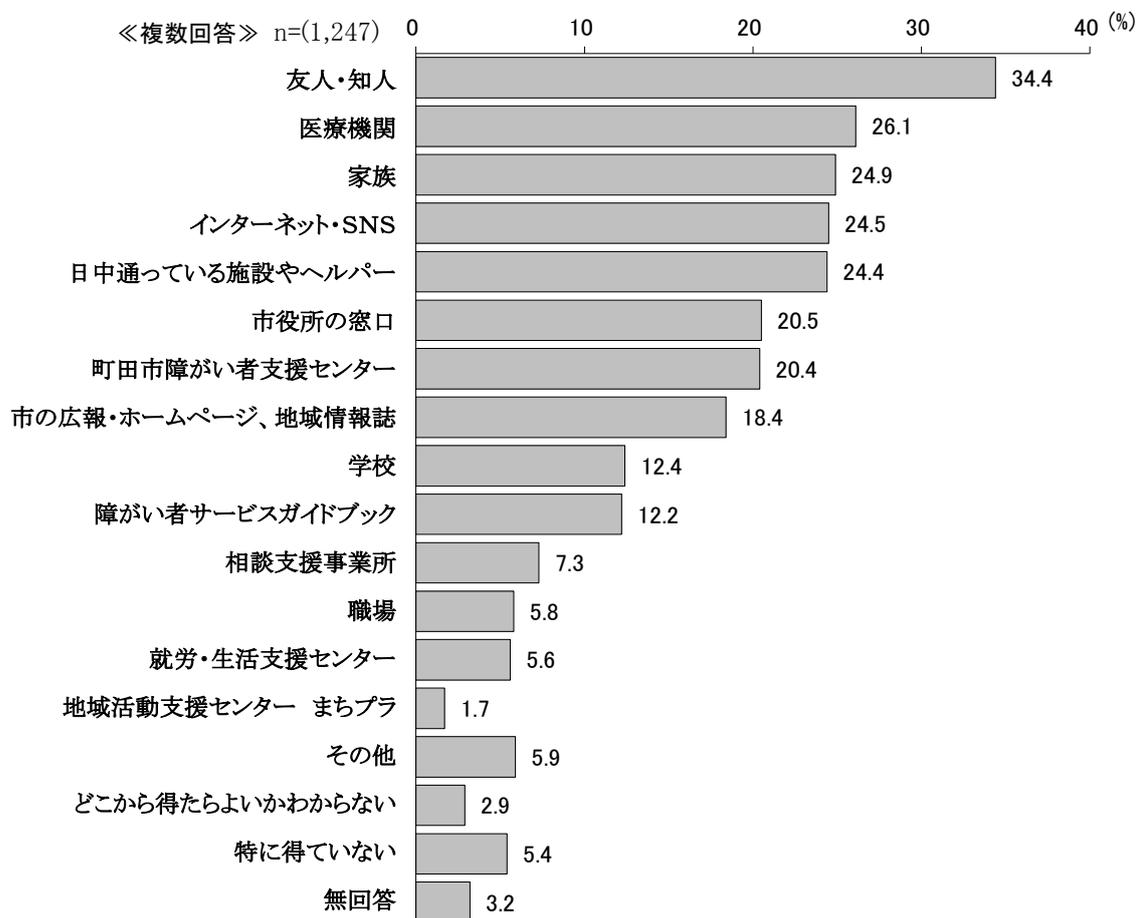


障がい者支援センターを利用しない理由は、「どのような相談や支援が受けられる場所なのか知らないから」が28.1%で最も多く、次いで「相談したいことがないから」(19.8%)、「市役所の障がい福祉課に行くから」(17.5%)、「他に相談できる人や場所があるから」(14.8%)が1割台となっている。

8. 情報の取得について

(1) 福祉に関する情報の取得先

問22 あなた（本人）もしくは、家族や支援者の方は、福祉に関する情報をどこから（誰から）得ていますか。（あてはまるものすべてに○）



福祉に関する情報の取得先は、「友人・知人」が34.4%で最も多く、次いで「医療機関」（26.1%）、「家族」（24.9%）、「インターネット・SNS」（24.5%）、「日中通っている施設やヘルパー」（24.4%）、「市役所の窓口」（20.5%）、「町田市障がい者支援センター」（20.4%）が2割台となっている。

障がい種別、年齢別

(単位:%)

《複数回答》		n	友人・知人	医療機関	家族	インターネット・SNS	日中通っている施設やヘルパー	市役所の窓口	町田市障がい者支援センター	市の広報・ホームページ、地域情報誌	学校	障がい者サービスガイドブック	相談支援事業所	職場	就労・生活支援センター	地域活動支援センター まちプラ	その他	どこから得たらよいかわからない	特に得ていない	無回答
全体		1,247	34.4	26.1	24.9	24.5	24.4	20.5	20.4	18.4	12.4	12.2	7.3	5.8	5.6	1.7	5.9	2.9	5.4	3.2
障がい種別	肢体・内部・音声障がい	297	21.9	27.3	20.5	26.6	16.2	24.9	21.5	15.5	2.4	13.1	6.1	3.7	1.7	0.7	6.7	3.4	8.4	3.7
	視覚障がい	59	23.7	18.6	23.7	20.3	11.9	30.5	15.3	25.4	1.7	18.6	1.7	1.7	-	6.8	3.4	6.8	8.5	3.4
	聴覚障がい	99	29.3	13.1	31.3	22.2	3.0	21.2	14.1	23.2	6.1	15.2	3.0	3.0	5.1	1.0	4.0	3.0	11.1	6.1
	知的障がい	405	45.2	18.3	25.7	19.3	34.1	15.1	22.7	19.3	22.5	12.3	7.7	9.4	6.4	1.7	5.2	2.0	2.2	2.5
	精神障がい	319	32.9	38.6	26.3	31.7	24.1	22.3	17.9	16.9	13.2	6.9	9.1	5.0	10.0	2.2	7.5	2.8	4.7	3.1
	重度重複障がい	68	48.5	35.3	25.0	20.6	45.6	16.2	27.9	19.1	11.8	22.1	13.2	4.4	2.9	-	4.4	2.9	2.9	1.5
年齢別	18歳未満	306	52.3	33.3	21.2	37.3	19.9	14.4	11.4	16.3	44.8	10.5	8.2	0.3	0.3	-	6.5	2.6	2.9	1.3
	18～40歳未満	343	39.7	22.4	28.0	22.7	35.6	19.8	27.1	20.7	2.9	16.3	8.2	8.2	12.2	3.2	5.0	2.9	3.5	1.7
	40～65歳未満	445	24.5	25.8	25.4	22.0	24.0	22.5	23.6	18.4	1.6	11.0	6.7	9.4	5.4	1.3	6.3	2.5	7.2	3.8
	65歳以上	137	11.7	22.6	23.4	10.2	8.0	28.5	14.6	17.5	-	8.0	4.4	0.7	2.2	2.9	5.8	4.4	10.2	8.8

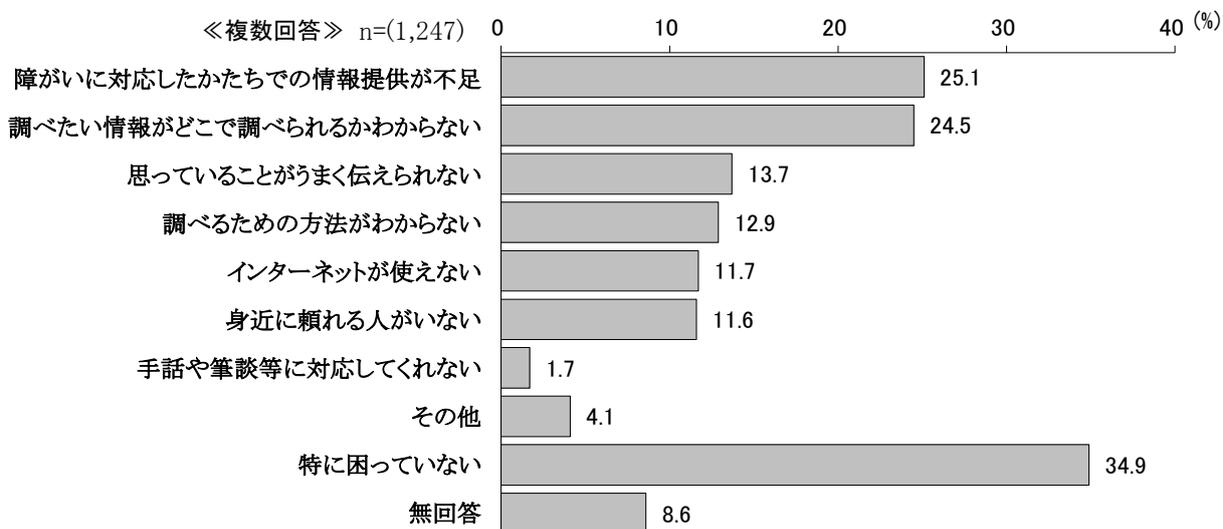
※網掛けは最も多いもの(「その他」「どこから得たらよいかわからない」「特に得ていない」を除く)

障がい種別にみると、「友人・知人」、「医療機関」、「家族」はいずれの障がい種別でも比較的多くあげられている。この他、視覚障がいでは「市役所の窓口」(30.5%)、知的障がいでは「学校」(22.5%)、精神障がいでは「インターネット・SNS」(31.7%)、重度重複障がいでは「日中通っている施設やヘルパー」(45.6%)、「障がい者サービスガイドブック」(22.1%)が他の障がいより多くなるなど、障がいによって取得先の違いもみられる。

年齢別にみると、18歳未満では「友人・知人」(52.3%)、「学校」(44.8%)の他、「インターネット・SNS」(37.3%)、「医療機関」(33.3%)も3割台と幅広く示されている。18～40歳未満では「日中通っている施設やヘルパー」や「町田市障がい者支援センター」が高くなっている。40歳以上では分散しつつ、65歳以上では「市役所の窓口」が中心となっている。

(2) 情報取得の時に困ること

問23 あなた（本人）もしくは、家族や支援者の方は、情報を知りたい時、以下のような事で困ることがありますか。（あてはまるものすべてに○）



情報を知りたい時に困ることは、「障がいに対応したかたちでの情報提供が不足」（25.1%）と「調べたい情報がどこで調べられるかわからない」（24.5%）の2項目が2割台で多くなっている。また、「特に困っていない」は34.9%となっている。

障がい種別、年齢別

(単位:%)

障がい種別		n	障がいに対応したかたちでの情報提供が不足	調べたい情報がどこで調べられるかわからない	思っていることがうまく伝えられない	調べるための方法がわからない	インターネットが使えない	身近に頼れる人がいない	手話や筆談等に対応してくれない	その他	特に困っていない	無回答
全体		1,247	25.1	24.5	13.7	12.9	11.7	11.6	1.7	4.1	34.9	8.6
障がい種別	肢体・内部・音声障がい	297	24.9	22.2	11.4	10.8	14.1	12.1	0.3	3.4	38.4	9.8
	視覚障がい	59	28.8	20.3	5.1	11.9	25.4	13.6	-	1.7	39.0	5.1
	聴覚障がい	99	29.3	14.1	12.1	7.1	7.1	10.1	18.2	5.1	35.4	13.1
	知的障がい	405	23.2	25.9	16.0	12.6	9.9	7.9	-	4.2	31.4	9.4
	精神障がい	319	23.8	30.4	16.0	17.6	10.3	15.4	0.3	5.0	35.4	6.6
	重度重複障がい	68	33.8	16.2	8.8	11.8	13.2	14.7	1.5	2.9	33.8	4.4
年齢別	18歳未満	306	27.5	32.0	11.8	11.4	1.3	9.5	-	6.2	34.3	4.2
	18～40歳未満	343	30.9	24.8	17.5	12.8	9.3	13.1	0.9	3.5	31.8	6.7
	40～65歳未満	445	22.0	22.9	14.2	13.9	17.5	13.0	3.6	3.6	36.4	9.0
	65歳以上	137	13.9	13.1	5.1	13.1	21.2	8.0	0.7	2.9	40.1	19.7

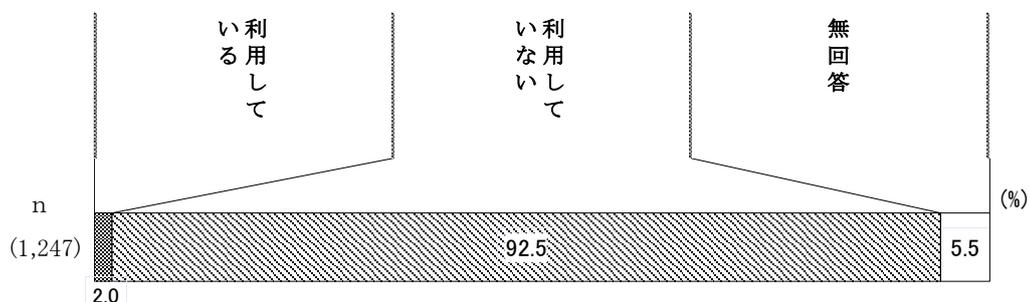
※網掛けは最も多いもの(「その他」「特に困っていない」を除く)

障がい種別にみると、「インターネットが使えない」は視覚障がい25.4%、「手話や筆談等に対応してくれない」は聴覚障がい18.2%、「障がいに対応したかたちでの情報提供が不足」は重度重複障がい33.8%、「調べたい情報がどこで調べられるかわからない」は精神障がい30.4%と他の障がいより多くなっている。

年齢別にみると、18歳未満では「調べたい情報がどこで調べられるかわからない」が32.0%と他の年齢より多くなっている。「インターネットが使えない」は40歳未満の年齢では1割以下であるが、40～65歳未満では17.5%、65歳以上では21.2%と比較的多くなっている。

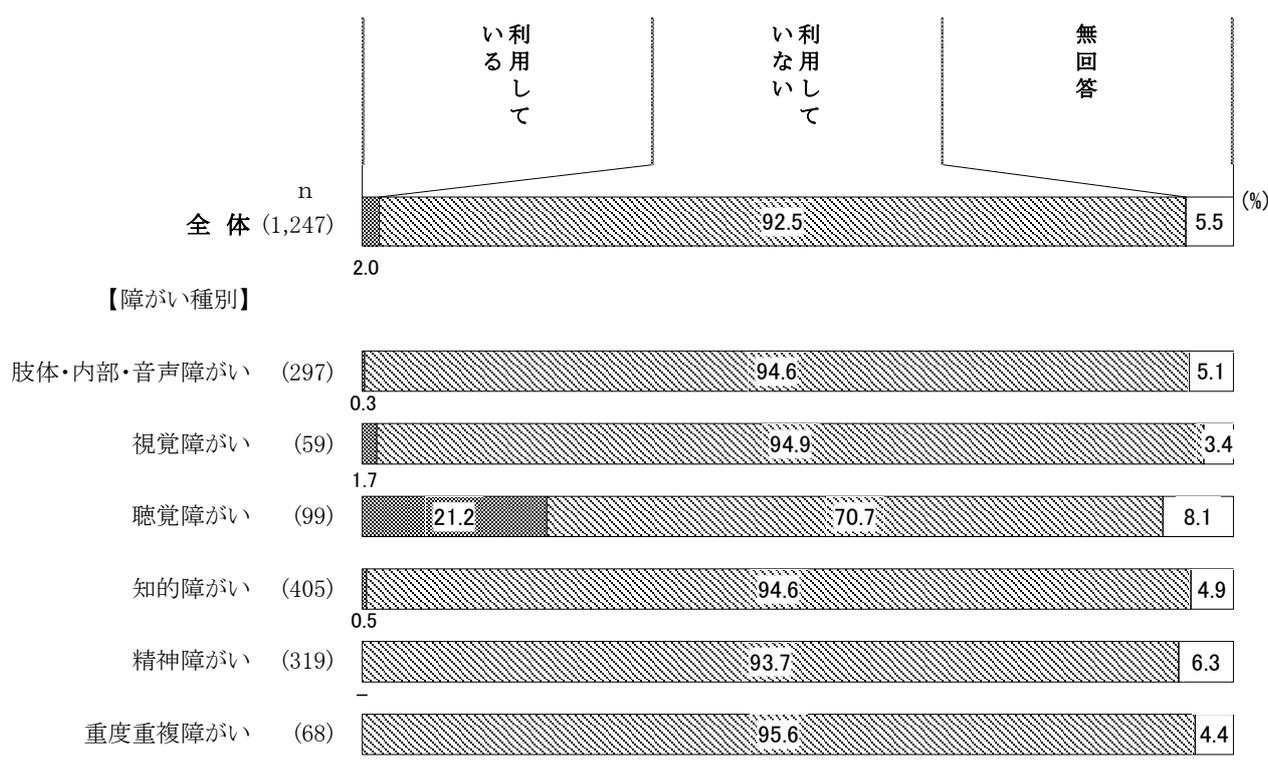
(3) 情報保障のサービスの利用状況

問24 あなた（本人）は、手話通訳や要約筆記など情報保障のサービスを利用していますか。
（あてはまるもの1つに○）



手話通訳や要約筆記など情報保障のサービス利用状況は、「利用してない」が92.5%を占めている。

障がい種別

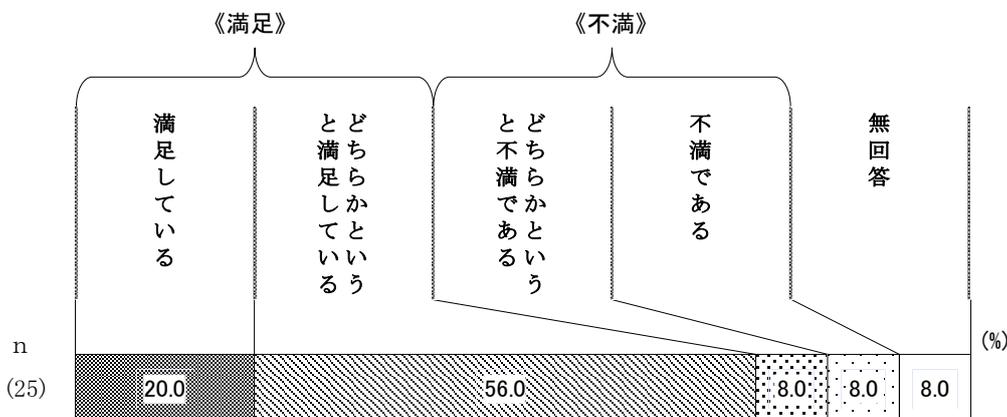


障がい種別にみると、聴覚障がいでは「利用している」が21.2%となっているが、それ以外では「利用してない」が9割以上を占めている。

(4) 利用している情報保障のサービスの満足度

【問24で「利用している」とお答えした方に】

問24-1 利用されている情報保障のサービスに満足していますか。



利用中の情報保障のサービスについて、「満足している」は20.0%、「どちらかという満足している」は56.0%となっており、両者をあわせた《満足》は76.0%となっている。《不満》（「どちらかという不満である」+「不満である」）は16.0%となっている。

障がい種別

(単位: %)

		n	満足している	どちらかという満足している	どちらかという不満である	不満である	無回答
全体		25	20.0	56.0	8.0	8.0	8.0
障がい種別	肢体・内部・音声障がい	1	100.0	-	-	-	-
	視覚障がい	1	-	100.0	-	-	-
	聴覚障がい	21	9.5	61.9	9.5	9.5	9.5
	知的障がい	2	100.0	-	-	-	-

※網掛けは《満足》計と《不満》計を比較して多い方

※精神障がい、重度重複障がいは回答者がいないため表示を省略している

障がい種別では回答者数が少ないため、聴覚障がい以外は参考とする。

【「どちらかというと不満である」または「不満である」と回答した方に】
不満の理由についてお答えください。

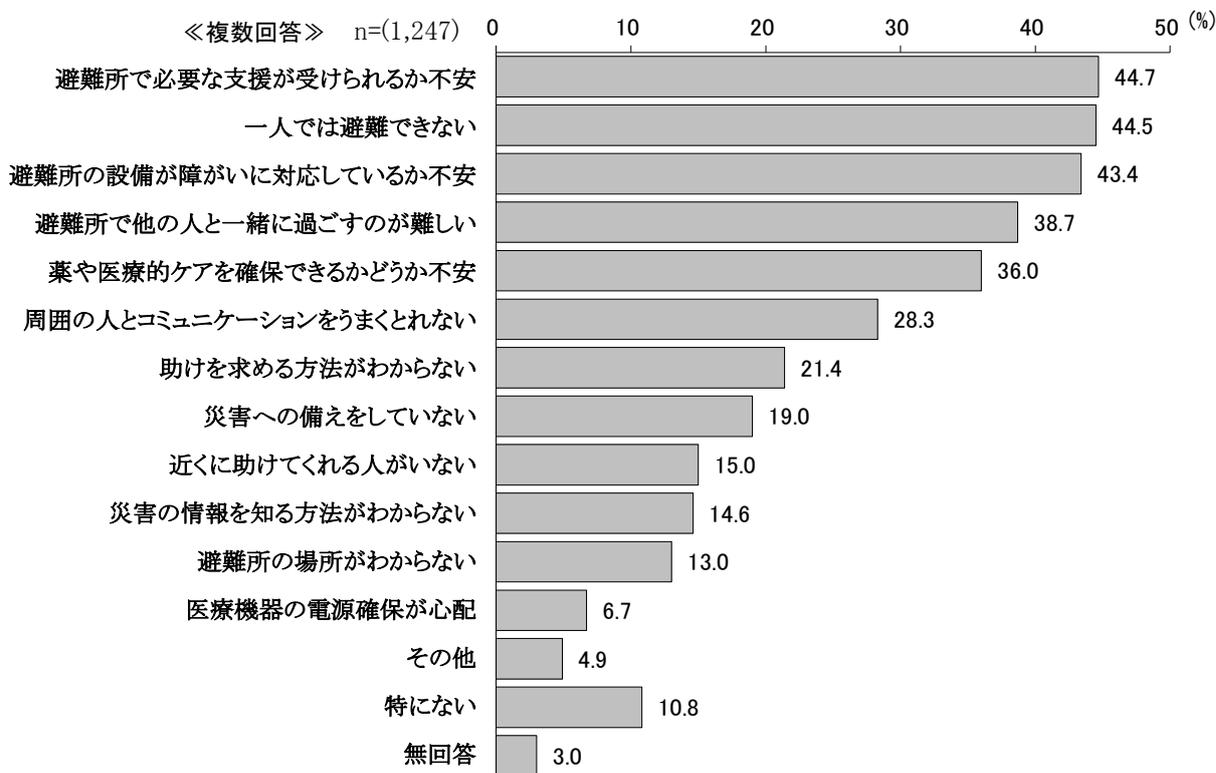
不満の理由について5件の記述があった。件数が少ないため全文掲載とする。

- ・趣味のときは手話通訳を断られている。出来れば受けてほしい。〔聴覚〕
- ・技術的にまだまだである。聴覚障がい者を理解していない。通訳できる範囲が限られている。〔聴覚〕
- ・手話通訳者が僕の発言を理解していないまま復唱する人が多い。まだ、聴覚障がい者側の発言を保障するという倫理観が低いのではないか。〔聴覚〕
- ・手話通訳者のスキルにばらつきがある。通訳者の採用の基準がわからない。命を預かる場所で通訳の間違いで、不安になった聾者もいる。役所の方で、通訳者のあるべき姿と実際のギャップ、そのギャップを埋めるためにはどうするかをしっかりと考え、言動一致でやってほしいと思います。〔聴覚〕
- ・講座（有料）に参加したくて手話通訳依頼が出来ない事。〔聴覚〕

9. 防災のことについて

(1) 地震などの災害発生時に困ること

問25 あなた（本人）もしくは、家族や支援者の方が、地震などの災害が発生したときに困ることは何ですか。（あてはまるものすべてに○）



地震などの災害が発生したときに困ることは、「避難所で必要な支援が受けられるか不安」（44.7%）、「一人では避難できない」（44.5%）、「避難所の設備が障がいに対応しているか不安」（43.4%）の3項目が4割台と多く、次いで「避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい」（38.7%）、「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」（36.0%）が3割台となっている。

障がい種別

(単位:%)

《複数回答》		n	避難所で必要な支援が受けられるか不安	一人では避難できない	避難所の設備が障がいに対応しているか不安	避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい	薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安	周囲の人とコミュニケーションをうまくとれない	助けを求める方法がわからない	災害への備えをしていない	近くに助けしてくれる人がいない	災害の情報をする方法がわからない	避難所の場所がわからない	医療機器の電源確保が心配	その他	特にない	無回答
全体		1,247	44.7	44.5	43.4	38.7	36.0	28.3	21.4	19.0	15.0	14.6	13.0	6.7	4.9	10.8	3.0
障がい種別	肢体・内部・音声障がい	297	47.1	46.8	52.9	26.3	50.8	10.8	19.2	17.5	14.1	7.7	12.1	13.1	6.4	8.1	3.0
	視覚障がい	59	45.8	66.1	35.6	22.0	30.5	8.5	25.4	11.9	16.9	25.4	23.7	3.4	8.5	18.6	1.7
	聴覚障がい	99	23.2	10.1	33.3	10.1	9.1	30.3	16.2	13.1	11.1	28.3	12.1	9.1	9.1	20.2	5.1
	知的障がい	405	52.3	54.8	46.9	51.9	24.4	40.7	23.7	21.0	13.3	16.3	12.3	2.7	4.2	7.2	2.2
	精神障がい	319	32.3	30.1	27.3	38.2	41.1	32.9	21.3	22.9	18.2	15.0	13.2	2.2	2.8	16.0	4.4
	重度重複障がい	68	77.9	72.1	77.9	72.1	60.3	23.5	22.1	10.3	17.6	2.9	11.8	22.1	2.9	-	-

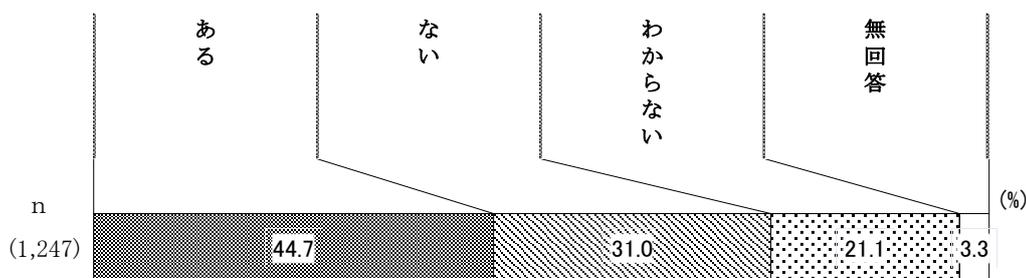
※網掛けは最も多いもの(「その他」「特にない」を除く)

障がい種別等でみると、「避難所で必要な支援が受けられるか不安」、「一人では避難できない」、「避難所の設備が障がいに対応しているか不安」は各層で多く、特に重度重複障がいではいずれも7割を超えている。この他、重度重複障がいでは「避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい」が72.1%、「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」も60.3%となっており、他の障がいより不安を感じる割合が多くなっている。肢体・内部・音声障がいでは「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」(50.8%)、知的障がいでは「避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい」(51.9%)や「周囲の人とコミュニケーションをうまくとれない」(40.7%)も多くなっている。

10. 差別をなくすこと・理解協働について

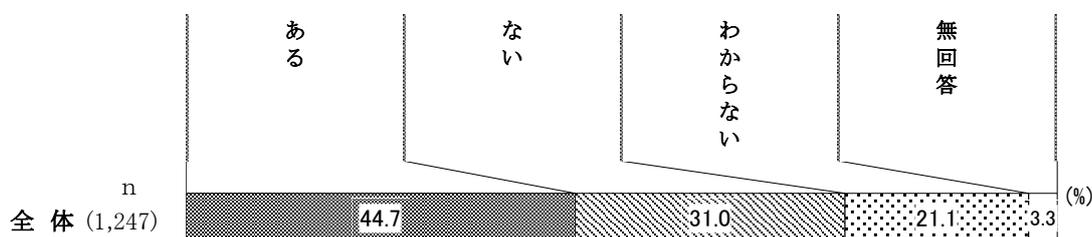
(1) 差別や偏見を受けた経験

問26 障がいがあることを理由にあなた（本人）が差別（偏見を含む）を受けたことがありますか。（あてはまるもの1つに○）

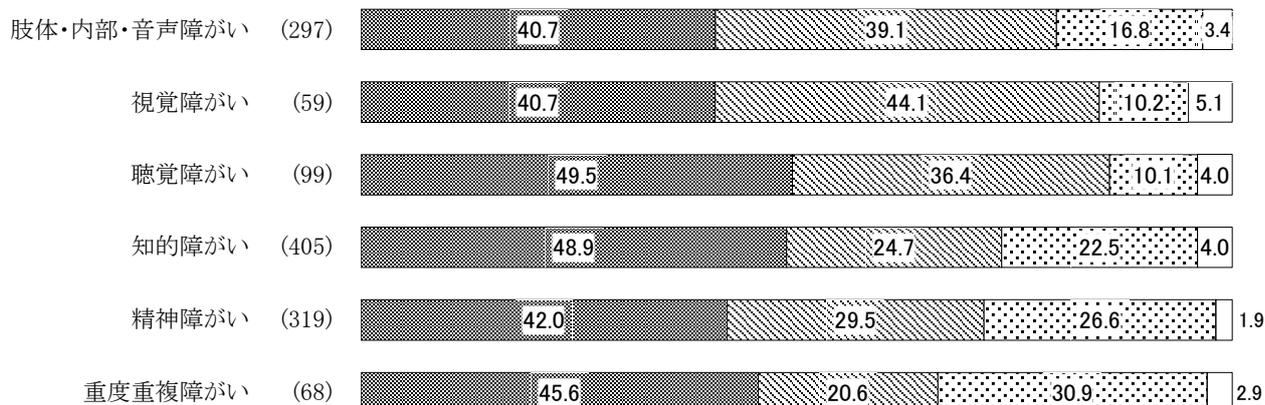


障がいがあることを理由に差別（偏見を含む）を受けたことが「ある」は44.7%、「ない」は31.0%となっている。

障がい種別

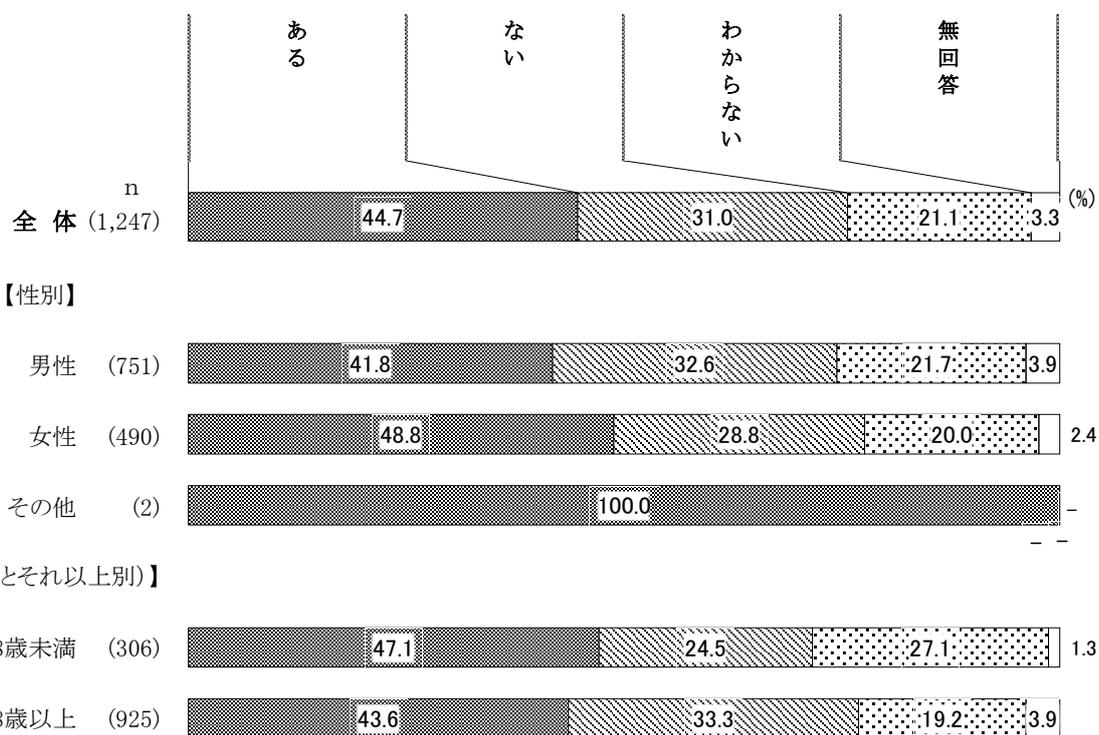


【障がい種別】



障がい種別にみると、「ある」はいずれの障がいも4割台となっている。肢体・内部・音声障がいでは「ない」が39.1%で「ある」と拮抗し、視覚障がいでは「ない」(44.1%)が唯一「ある」を上回っている。

性別、年齢別（18歳未満とそれ以上）



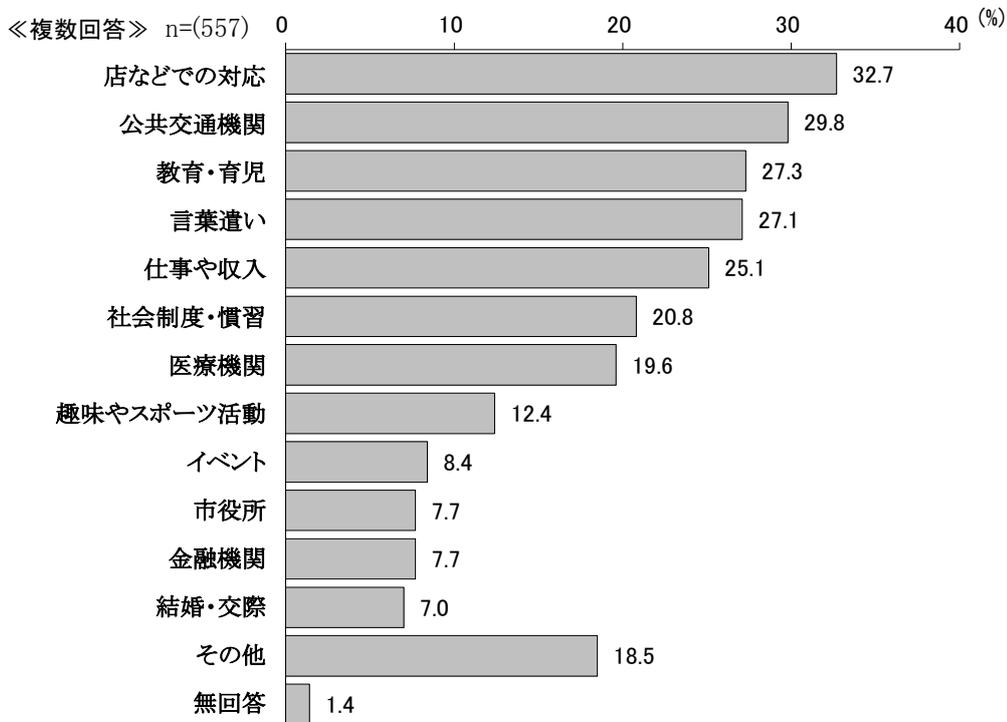
性別にみると、「ある」は女性で48.8%と男性（41.8%）より多くなっている。

年齢別（18歳未満とそれ以上）にみると、「ある」は18歳未満で47.1%と18歳以上（43.6%）よりやや多くなっている。

(2) 差別や偏見等を受けた場面

【問26で「ある」と回答した方に】

問26-1 それはどのような場面や事ごらですか。(あてはまるものすべてに○)



差別や偏見等を受けた場面や事ごらは、「店などでの対応」が32.7%で最も多く、次いで「公共交通機関」(29.8%)、「教育・育児」(27.3%)、「言葉遣い」(27.1%)、「仕事や収入」(25.1%)が2割台、「社会制度・慣習」(20.8%)、「医療機関」(19.6%)が2割前後となっている。

障がい種別

(単位:%)

《複数回答》		n	店などでの対応	公共交通機関	教育・育児	言葉遣い	仕事や収入	社会制度・慣習	医療機関	趣味やスポーツ活動	イベント	市役所	金融機関	結婚・交際	その他	無回答
全体		557	32.7	29.8	27.3	27.1	25.1	20.8	19.6	12.4	8.4	7.7	7.7	7.0	18.5	1.4
障がい種別	肢体・内部・音声障がい	121	38.0	42.1	19.8	24.8	36.4	24.8	19.0	9.9	9.9	7.4	10.7	10.7	17.4	1.7
	視覚障がい	24	58.3	37.5	25.0	33.3	29.2	25.0	16.7	16.7	12.5	29.2	37.5	12.5	12.5	-
	聴覚障がい	49	44.9	24.5	26.5	34.7	53.1	16.3	16.3	16.3	8.2	18.4	10.2	20.4	8.2	2.0
	知的障がい	198	30.8	24.7	29.3	28.3	15.2	18.7	21.7	14.6	7.6	4.0	4.0	2.5	16.7	2.0
	精神障がい	134	19.4	25.4	31.3	26.9	23.9	20.1	14.9	10.4	7.5	5.2	4.5	4.5	27.6	-
	重度重複障がい	31	41.9	35.5	29.0	12.9	3.2	25.8	35.5	6.5	9.7	9.7	6.5	6.5	16.1	3.2

※網掛けは最も多いもの(「その他」を除く)

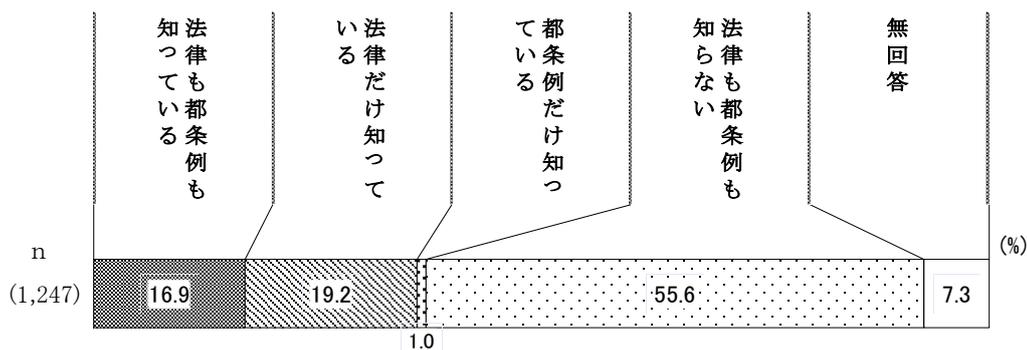
障がい種別等でみると、「店などでの対応」、「公共交通機関」、「教育・育児」は各種別において多い。この他、「仕事や収入」は肢体・内部・音声障がいでは36.4%、聴覚障がいでは53.1%と多くなっている。

(3) 差別禁止や権利擁護に関する法令等の認知

問27 あなた（本人）もしくは、家族や支援者の方は、差別をなくすことや権利を守るための法律や都条例があることを知っていますか。（あてはまるもの1つに○）

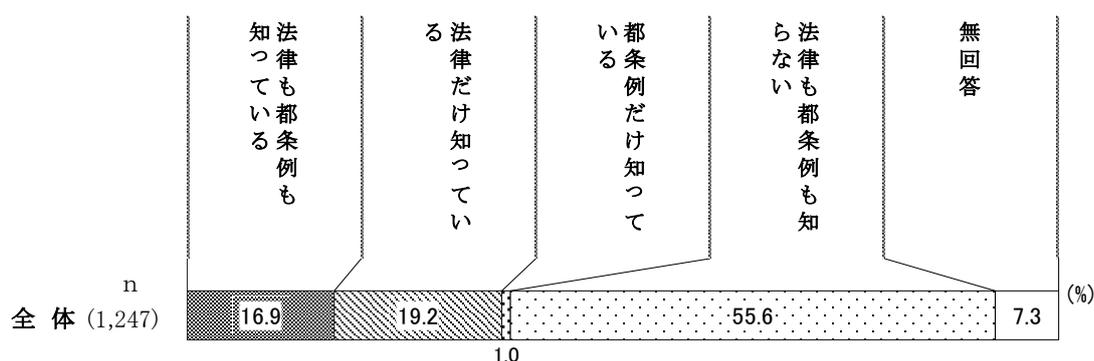
法律 ※「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（「障害者差別解消法」）2016年度施行

都条例 ※「東京都障害者への理解促進及び差別解消の推進に関する条例」（東京都条例）2018年度施行

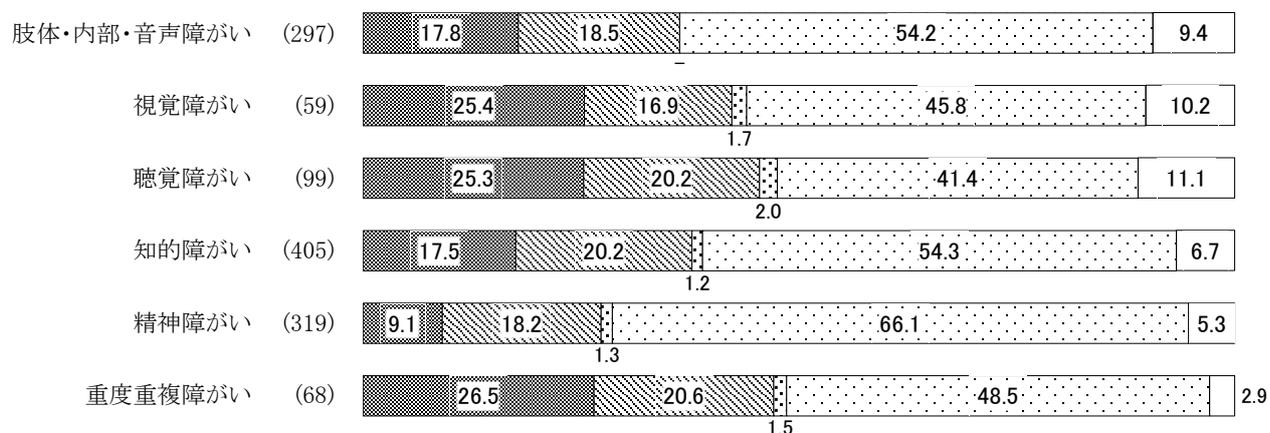


差別や権利に関する法律や都条例の認知度は、「法律も都条例も知っている」は16.9%、「法律だけ知っている」は19.2%となっている。一方、「法律も都条例も知らない」は55.6%と半数以上となっている。

障がい種別



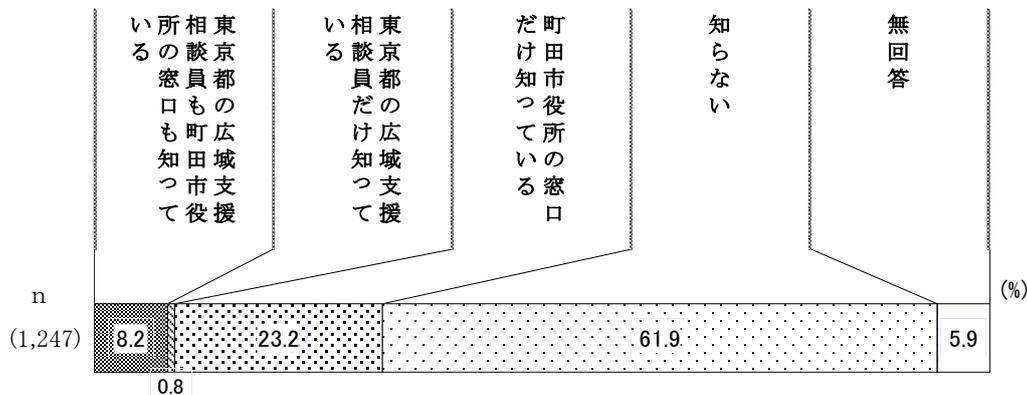
【障がい種別】



障がい種別にみると、「法律も都条例も知っている」は視覚障がいと聴覚障がい、重度重複障がいでは2割台、「法律だけ知っている」は視覚障がいを除くすべての障がいで2割前後となっている。一方、「法律も都条例も知らない」は肢体・内部・音声障がい、知的障がい、精神障がいでは半数を超え、特に精神障がいでは66.1%となっている。

(4) 差別に関する相談先の認知

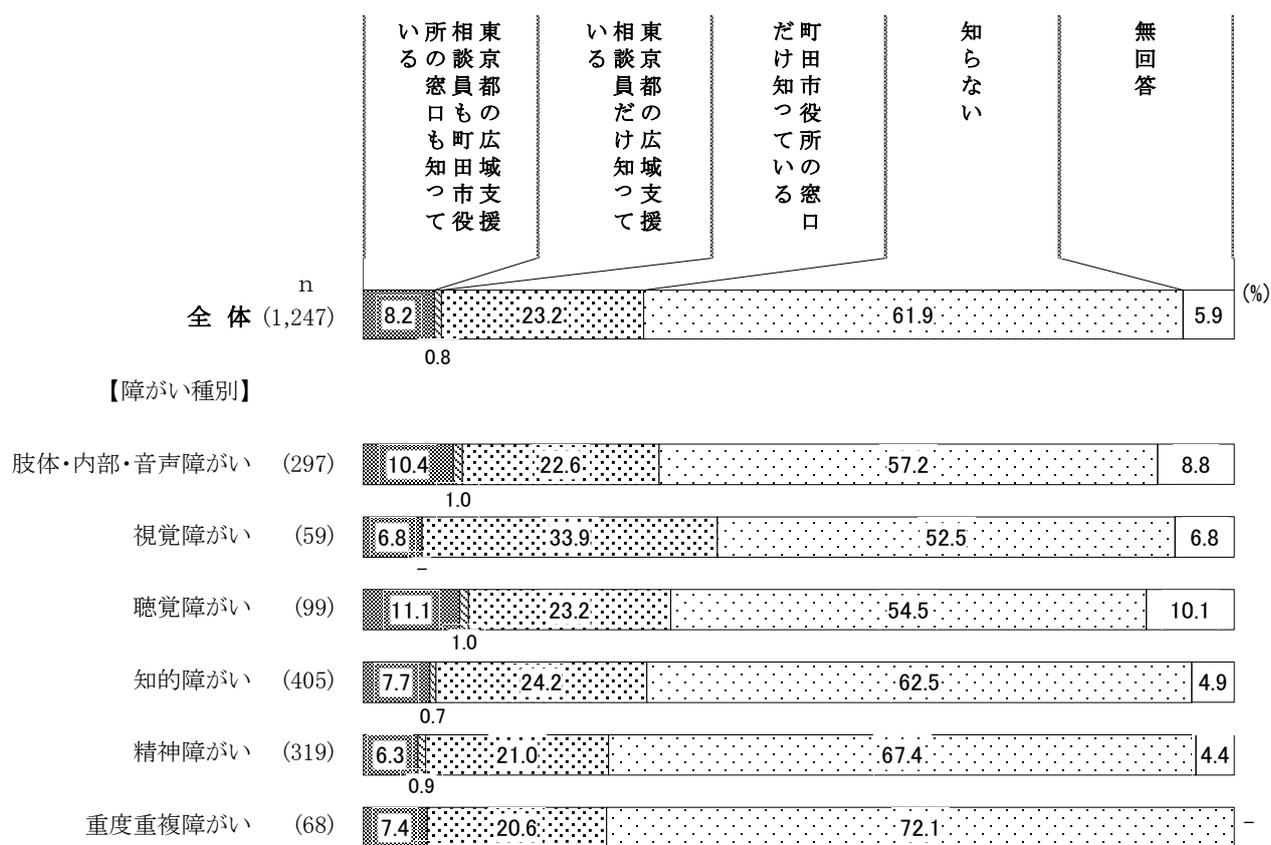
問28 あなた（本人）もしくは、家族や支援者の方は、障がいがあることを理由に差別を受けた場合にどこに相談したらよいか知っていますか。（あてはまるもの1つに○）



※広域支援相談員・・・障がいのある方やその関係者ならびに事業者などから、障がい者差別に関する相談を受け、助言や関係者間の調整などを行う人

障がいを理由とした差別の相談先として、「東京都の広域支援相談員も町田市役所の窓口も知っている」は8.2%、「東京都の広域支援相談員だけ知っている」は0.8%と少ないが、「町田市役所の窓口だけ知っている」は23.2%となっている。一方、「知らない」が61.9%と多くなっている。

障がい種別



障がい種別にみると、「町田市役所の窓口だけ知っている」はいずれの障がいも2割から3割台である。「東京都の広域支援相談員だけ知っている」や「東京都の広域支援相談員も町田市役所の窓口も知っている」は少なく、「知らない」が多くを占めている。

(5) 人権意識の啓発方法（自由記述）

問29 障がいのある人の権利について社会や市民の意識を高めるには、どのようなことが必要だと思いますか。ご自由にお書きください。

障がいのある人の権利について社会や市民の意識を高めるために必要なことについて延べ656件の記述があった。

以下は一部抜粋したものである。

健全者の意識改革、障がいを理解してもらうための情報提供が必要（143件）

- ・病気の内容を、わかりやすく（例えばマンガで表現）健全者に理解してもらうこと。〔精神〕
- ・ネット等による宣伝、活動〔精神〕
- ・色々なメディアで情報を流す。見た目で障がいを持っている事が分からない人もいるということを広く周知してほしい。〔精神〕
- ・障がいのある人が、なぜ、特有の行動を取ってしまうのか、知らない人が多い。周知が必要ではないか。〔精神〕
- ・イベント、ちらし、講演など、まず、目に触れる機会を増やして「知ってもらう」ことが大切だと思います。〔精神〕
- ・いわゆる健全者といわれる人達の障がい者に対する認識を高める。〔知的〕

子どものうちから一緒に過ごす、学校教育や家庭教育を通じて（124件）

- ・子どもの頃からもっと障がいを持った人々との交流が必要。大人になると偏見でしか見られないと思っています。子どもは説明するとすぐ理解をしてくれます。理解できない子どももいますが、それが人間だと思います。〔知的〕
- ・共存している意識がない。学校・家庭での教育が不可欠。障がい者は別物と思っているように思う。〔視覚〕
- ・小さいうちから健全者と障がい者の交流。ふだんの生活の中に障がいのある人がいると認識させる。〔知的〕
- ・「色々な人がいて当たり前」という感覚が子どものうちから備わると良いと思います。障がいの有無に関わらず、「相手を大切にすること」を各家庭や学校等で学んでもらえたら良いと思います。〔精神〕
- ・特別な施設ではなく、障がいがある人もない人も一緒に学校に行けること。特別なクラスではなく、ふつうのクラスに入れること。特別なクラスがあるから差別が生まれ、理解が深まらないのではないかと思います。〔知的〕

交流の場・機会の提供、コミュニケーションを通じて（61件）

- ・交流が自然に行える場があると良いと思う。〔精神〕
- ・障がいのある人がもっと自然に健全者の人たちとふれ合うこと。〔肢体・内部・音声〕
- ・障がい者と健全者が一緒に楽しくふれ合える機会を増やしていくことで、理解してもらえるのではないかと思います。〔知的〕
- ・障がい者自身が外に出て行き、障がいのあるなしにかかわらず多くの人と交わること。〔重度重複〕
- ・交流する場面を多く作ってもらいたい。たくさんの人に理解してもらえる様にしてもらいたい。特に目に見えにくい障がいのある人。〔精神〕

誰もが障がいを持つ可能性があることを意識し、相互に思いやる（51件）

- ・どういう障がいなのかをもっとわかりやすく知ってもらう。誰でも障がいになりうることを知ってもらうなど、自分の身近にあることをわかってもらう。〔知的〕
- ・障がい者の立場に立った考えをしてほしい。〔肢体・内部・音声〕
- ・他人事だと思わず、障がいのある人に、自分になる可能性がある事を常に考えて行動する必要があると思う。〔精神〕

- ・自分も弱者となる可能性を含んでいると言う事を念頭に置き、弱者への理解と協力を考えて行く事。〔知的〕

障がい者自身ももっと発信したり、社会に出てアピール、その支援（38件）

- ・障がいのある本人、家族が色々なイベント、外出などを積極的にして自分達を知ってもらう必要がある。社会や市民の意識以前に障がいのある人を知ってもらわないとその先には進めない。お願いするだけではいけないと思う。〔重度重複〕
- ・もっと障がい者は、公共イベントなどに進んで参加する。公共交通機関を使う。自分の障がいを個性としてアピールする。〔肢体・内部・音声〕
- ・障がいのある人も街に出て、同じ生活ができるようになれば良い。皆さんに知ってもらう事が大事。〔重度重複〕

差別、偏見をなくす（32件）

- ・障がいがあっても同じ人間であるということを知ってほしい。何も他人に危害を加えることはないので、差別的な目で見てもらいたくない。〔知的〕
- ・困った時に気軽に手をさしのべてほしい。じろじろ見ないでほしい。〔視覚〕
- ・障がいについての多様さを周知すること。意図的な差別があった場合の罰則。〔精神〕

イベントやスポーツを通じて（21件）

- ・障がい者を巻き込んだ（又は主役に）オリ・パラに向けたイベントを市内で開催する。〔知的〕
- ・目で見てわかる障がいと、わからない障がいがあることを知ってほしいので、パッと見、障がいがあるとわからない人たち、子どもたちのイベントなどがあると良いと思う。〔精神〕

福祉全般（21件）

- ・差別は無くそうとは思っていない。差別をされる事で助けてもらえる事が多いと思っている。差別を無くす事を考えると、健常者から逆に助けを得られなくなると思う。〔肢体・内部・音声〕
- ・ノーマライゼーション、ダイバーシティの推進。〔聴覚〕

行政からまず動いてほしい（20件）

- ・障がいのある人だけで活動するのは限界がある。市役所も動いて欲しい。〔聴覚〕
- ・声をあげた際に政府が耳をかたむけてくれる事が重要だと考えています。国の考え方が変わらなければ、何も変わっていかないと思います。〔肢体・内部・音声〕

バリアフリー（心／設備）・ユニバーサルデザイン（20件）

- ・私は電動車いすを使っていますが、公道のバリアフリー化をもう少し頑張ってもらいたい。建物内、レストランなどではバリアフリー化は進んでいるのですが、車いすサイズを考慮して通るスペースを作って欲しい。車いすトイレを増やして欲しい。〔肢体・内部・音声〕
- ・街のバリアフリー化を進め、障がい者の外出などの社会交流を自然な感じで増やす。障がい者も溶け込める社会。〔精神〕

意識向上は無理、まだまだ難しいと思う（17件）

- ・なかなか難しいと思う。その立場にならないと理解出来ない事ばかりです。〔知的〕
- ・世の中に障がい者が増えることで世の中にやっと認められる現状、少数の弱者は無いものとされていると日々思います。〔知的〕

健常者と同様に接する、障がい者だからと甘やかさない（甘えない）（17件）

- ・権利ばかりを主張したくない。昔と違い社会はあたたかくなっていると思う。障がい者を可哀想だとは思ってほしくない。〔重度重複〕
- ・障がいのある人がすぐ隣にいても、違和感のない社会にするためにできることは、障がいを持つ人達にもやらせてみようと思えること。〔知的〕

第2章 サービス利用者調査結果

- ・とても無理な話。同じ障がい児を育てている人の中には障がいがあるから、やってもらって当たり前や、優先という意識が強い人達もかなりいる。まずそういう人達の意識から変えていかないと皆が平等平和な社会は永遠に無理。
〔重度重複〕

障がい者雇用（16件）

- ・社会に働く場をもうけて欲しい。軽度の障がいの方が働ける場所を市なり国なりが積極的に作るべき（市役所やシルバー人材の中でいっしょに働くとか）。〔知的〕
- ・障がい者が自由に働ける社会〔精神〕

サービスや支援体制（11件）

- ・同じ障がい者であっても必要なサービス時間が違う。必要な年金も1と2で違う。2級の年金で、親亡き後生活できるか心配でたまらない。〔精神〕
- ・障がい児向けのマンツーマンなどの学習場などはとても月謝が高い。もっと無料などで対応して頂けると助かります。
〔肢体・内部・音声〕
- ・サポート体制の充実〔精神〕

健常者自身が知ろうとすること（11件）

- ・障がいを持つ人がこの世界には実在しているのだという、当たり前の状況に対する理解と寛容さが必要だと思います。
〔精神〕
- ・障がいや病気についての理解があれば、差別・偏見もおこりにくいと思いますので、障がい者の抱えている障がいや病気について、またそれによってどんな困難を抱えているか、どんな気持ちなのかを知っていただく努力が引き続き必要だと思います。〔精神〕

身近に当事者がいないと理解は難しい（10件）

- ・障がいを持つ人間が身近にいないと意識は高まらない。情報を広めたところで受けとる側が意識してないとそんなものは残らない。〔知的〕
- ・外出などたくさんの人と交流を持てるといいが、見せ物ととらえる人もいるので難しい。理解してもらうには時間がかかると思う。身近にいないと難しい。〔重度重複〕

教員が理解していないので、教職者の理解向上が先（6件）

- ・小学校や中学校の教師にも、障がい児への対応について、専門的な内容を学ぶ研修を増やすことが必要だと思います。小学校へ見学に行ったお母さんの話を聞いていると、特別支援学級の先生でも偏見をもっているような発言をする方もいるようなので。あわせて、障がい児にかかわることが教員の方々にとってステイタスになるような待遇を設けることも必要だと思います。〔精神〕

ヘルプカード、マーク等の周知（6件）

- ・ヘルプカードを障がい者支援センターからもらいましたが、市民の方はヘルプマークが何のマークなのかわからない人も多いため、医療機関などでの宣伝、マークの意味がわかるように、テレビ、コマーシャルなどで宣伝してほしい。
〔知的〕

障がい者施設が多くの人目に触れること（3件）

議員の障がい者枠の設定（3件）

相談員・相談場所を増やす（3件）

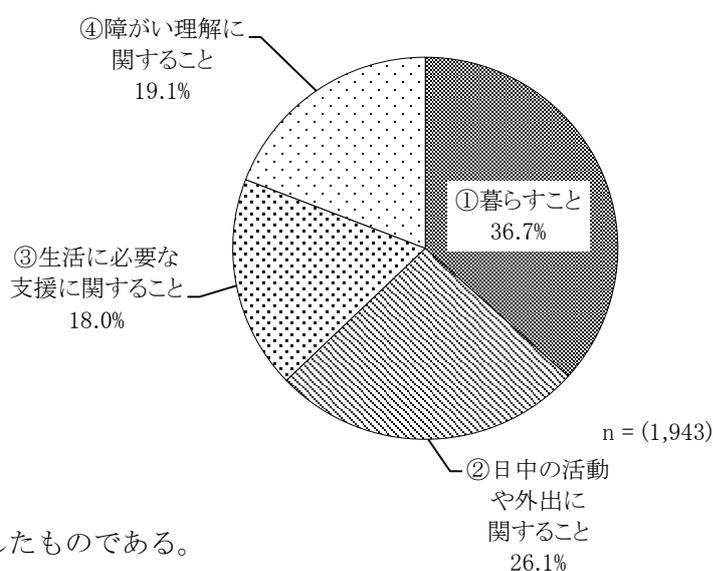
その他（22件）

11. 生活上の困りごとについて

(1) 生活上の困りごと（自由記述）

問30 あなた（本人）は、生活している中でどのようなことに困っていますか。関心のある項目に記載ください。

生活している中で困っていることを「①暮らすこと」（713件）、「②日中の活動や外出に関すること」（508件）、「③生活に必要な支援に関すること」（350件）、「④障がい理解に関すること」（372件）の4つの大きな項目に分けて自由に記述していただいた。①～④の各項目において、1人で2つ以上の内容を記述している場合は、それぞれカウントしているため、件数は延べ件数となる。



以下は一部抜粋したものである。

①暮らすこと

お金のこと〔老後の資金、生活費・医療費、収入など経済的な不安〕（235件）

- ・年金が少ないためこれから先、増税等による物価の高価で不安。〔肢体・内部・音声〕
- ・家族が高齢になっていく。年金、障害手当だけでこれからやっていけるか。〔肢体・内部・音声〕
- ・医療費にお金がかかりすぎて、貯金が減っている。〔知的〕
- ・子どもの体調などで仕事を休まなければいけなくなるので、収入が安定しない。〔精神〕
- ・生活保護費は昨年5%下がり、今年も下がる予定らしいです。貯蓄もあまりできないため、自立するのをやめた。〔精神〕

家族のこと〔配偶者や親等介護者が亡くなった場合の不安や高齢で介護できなくなったあとのこと〕（145件）

- ・両親がいなくなったあと、どうやって1人でくらししていけるか不安。〔肢体・内部・音声〕
- ・親が突然死したら障がい児は生きていけるのか。死ななくても入院、体調不調時はどこに助けを求めたらいいのか、誰が助けてくれるのか。〔知的〕
- ・一人では何もできないので、親や親せき亡き後、どうしたら良いか全く想像できない。お金の観念も分かりません。兄弟や従妹もいません。〔肢体・内部・音声〕
- ・夫が先に亡くなれば年金だけでは暮らせなくなる。〔視覚〕

第2章 サービス利用者調査結果

住まいのこと（住居や設備、グループホーム等）（80件）

- ・将来はグループホームで暮らしたいが、どこもいっぱいではなかなか入れない。〔精神〕
- ・住居費が日本は高すぎる。もっと国や地方自治体が有意義に税金を国の為に活用させて欲しい。〔精神〕
- ・1Fに住んでいるがバリアフリーでないので、階段の登り降りが大変（車椅子なので）。〔精神〕

健康と日常生活、将来のこと〔体調、病気、親の介護等日常生活や将来の不安〕（58件）

- ・夫婦で病気、働く事ができず生活を維持して行く事に対する不安が強い。〔肢体・内部・音声〕
- ・現在は大丈夫だが、近い将来の老親の面倒や自分の収入が不安。〔肢体・内部・音声〕
- ・セールスや詐欺にまきこまれないように、本人へ口頭で注意を呼びかけてはいる。判断に困る時もあり、すぐに対応できないので、事件にまきこまれないかいつも心配です。〔知的〕

災害時の不安〔被害、避難、避難生活〕（56件）

- ・災害がおきた時、1人では避難出来ないのではとても心配です。車いすでは避難所に行っても生活出来ません。特に水害が心配です。〔肢体・内部・音声〕
- ・災害があっても避難所には行けないと思っている。障がいがあるからと、特別扱いもできないと思うので居場所がないと思う。〔知的〕
- ・この日本ではいつでもどこで大地震が起こってもおかしくありません。大地震が起きれば、多くの人間が避難しなければなりません。その場合、どこまで障害者に対応してもらえるのか心配です。〔肢体・内部・音声〕

制度、サービス受給、条件、手続きのこと（41件）

- ・障害手当の診断書が手当毎にフォーマットが違う為、医療機関で親が対処しなくてはならない等、受け取りまでもストレスになっている。〔知的〕
- ・入所先、ショートステイ先が少ない。町田市で2件、一日数名しか受け入れがない。〔知的〕

仕事のこと（就労、就労継続、能力的な不安）（40件）

- ・給料をもらえるような仕事に就けるか、また生活していけるのか不安。〔知的〕
- ・仕事内容を理解していても、それが動作へ繋がらない。結果、出来ないという事になり、対価に繋がらず評価はされない。知識が仕事、賃金にならない。〔肢体・内部・音声〕

保護者(介護者)の困りごと（11件）

- ・レスパイトが必要だが、利用できる施設が少ない。利用するための移動支援もなく、休息もできず倒れかねない。〔肢体・内部・音声〕
- ・集団生活が苦手で幼稚園に短時間・数日しか通えないため、保護者が共働きすることができず、収入が増えない。通えないことの相談や通院も保護者にとって大きな時間の負担。〔精神〕

教育、習い事、進学のこと（9件）

- ・どのような進路に進んでいけば良いのか分からず不安です。〔精神〕
- ・習い事をさせたいが、どのようなところで受け入れてくれるかわからない。〔精神〕

外出の不安（交通、移動、通院等）（8件）

- ・バスに乗る時、毎回手帳を見せるのが大変。〔視覚〕
- ・病院へ行くにも車に乗って行くことが多いので、他の市や区でもあるように町田市でもガソリン費の一部補助があると嬉しい。〔肢体・内部・音声〕

自立への懸念（8件）

- ・いずれ1人で生活しなくてはならない事、生活していけるか。〔知的〕

グレーゾーン、制度の狭間（8件）

- ・グレーゾーンの子は障害手帳等発行してくれない為、補助がなくて困っている。〔精神〕

周囲の理解、差別のこと（3件）

- ・全てにおいて周りの理解が必要。もっと幼稚園や小学校でも理解を求めたい。〔精神〕

その他（11件）

②日中の活動や外出に関すること

活動（余暇活動、文化芸術、スポーツ、通所施設）の問題（120件）

- ・障がいがある人が参加できる余暇活動が少ない。〔知的〕
- ・毎週（土日のどちらか）1回、スポーツなどができるサークルがあると友達もでき、余暇活動が楽しいと思う。〔知的〕
- ・NPOやよい活動をしている団体を援助して、発達障害者（大人）が楽しめる環境を整えてほしい。〔精神〕
- ・何か習い事をさせたいと思っても、障がいがあることでやらせたくても受け入れる施設がないと思います。〔知的〕
- ・一般的な社会人サークル等は、コミュニケーションに少し難がある人でも、受け入れてくれるかどうかという不安。〔精神〕

外出時の問題〔交通、移動、買物・散歩、バリアフリー〕（96件）

- ・通学以外の外出には必ず付き添いが必要であること。〔知的〕
- ・バリアフリー化が進んでいるとは思いますが、もっと増やしてほしい。〔肢体・内部・音声〕
- ・自宅周辺の道路のアスファルトがガタガタで、車イス移動時に腰などの身体への衝撃、負担があり辛い時があります。〔肢体・内部・音声〕
- ・障害があると利用できない交通機関があり、自由な旅行等が出来ない（例えば船旅：車椅子である事を理由に断られた）。〔肢体・内部・音声〕

外出のための支援、サービス等の問題（58件）

- ・まだ車いすではなくても、行動援助を希望している障害者も多いです。病院受診・買い物等 援助が受けられる体制をつくってほしいです。〔精神〕
- ・ガイドヘルパーが少なく、依頼してもなかなか見つからず、外出をあきらめることもある。〔知的〕
- ・移動支援をお願いすることもあるが、月18時間ではすぐに上限になってしまうので活動が制限される。〔知的〕

幼稚園、学校の問題（51件）

- ・幼稚園で他の子より手がかかることが多いので、担任の先生の負担が大きくなりすぎていないか心配。〔精神〕
- ・この先、小学校の支援級に進みたいと思っているが、給食が食べられなければ（ペースト食の対応なし）、進学をあきらめなければならないこと。〔知的〕
- ・義務教育でもすべての学校で受け入れてくれる訳ではなく、遠くまで通学しなければならない。〔精神〕

障がいの特性や体調の問題（23件）

- ・1人では何も出来ない、動けない。手が使えないので車イスをおしてもらわないとどこにも行けない。〔肢体・内部・音声〕
- ・体がだるく外出に気持ちが向かない。〔精神〕

仕事・就労支援施設の問題（22件）

- ・まだ学生ですが、今後社会に出て仕事をするにあたって、自分に向いている仕事があるのか、きちんと仕事をこなせるのか不安。〔精神〕
- ・やりたい仕事内容があっても“就労継続支援A型orB型”施設が多く一般企業の就職先が少ない（障がい者雇用であっても求人内容が自分と合わない）。〔精神〕

第2章 サービス利用者調査結果

対人、コミュニケーションの問題（22件）

- ・人と関わる事がないので、どうしたらいいかわからない。〔聴覚〕
- ・発達障害によるコミュニケーション困難があり、学校などの社会におけるコミュニケーションが円滑にできない。それが本人のストレスになってしまっている。〔精神〕

情報提供／情報保障、相談（19件）

- ・手話対応が出来る市民がもの足りない。せめて、市としても手話言語条例法を導入するべきだ。〔聴覚〕
- ・地域の市民センター活動を利用したいが、受け入れてくれる団体があるか、どうかもわからない。（受け入れてくれない団体があることだけは、わかった。）その様な情報がほしい。〔知的〕

その他福祉サービスの問題（15件）

- ・介護保険サービスと障害者サービスの連けいがない。〔聴覚〕
- ・町田に民間の療育施設がほとんどなく近隣市町村へ通うことが負担になっているので、市の方からも積極的に誘致してもらいたい。〔精神〕

親等の高齢化、亡きあとの問題（15件）

- ・親が高齢になっているのですべての面で不安。送迎も大変。〔知的〕

外出した際の周囲の理解や視線（13件）

- ・いつも近隣に迷惑をかけるのではと心が休まることはありません。歩いている時（姿勢、顔）おかしい人とおもわれる為、皆の理解が必要です。〔知的〕

学校卒業後の受け皿の問題（12件）

- ・成人して就労すると、平日夕方にすることがなくなってしまう。親もパートをやめざるを得ないかもしれない。平日夕方や土日にあずかってもらえる場所が少ない。また、超高額である。〔精神〕

入所、預かり施設の問題（10件）

- ・平日はありがたい事に通所施設が助けてくれているので外出などの活動もできていますが、休日はとても難しいです。障害が重すぎてショートを受け入れてくれる所がほとんどなく、両親の休める日はありません。〔知的〕

放課後デイサービス／学童保育の問題（8件）

- ・求める放課後デイサービスがなかなかない。ただ送迎して狭い部屋で遊ばせるだけの所が多い。南地域に少ない。〔精神〕

お金の問題（2件）

- ・お金がないから、活動範囲がせまい。〔精神〕

その他（22件）

③生活に必要な支援に関すること

相談（相談、窓口の対応）、情報の取得・保障（112件）

- ・窓口対応者の知識が不十分（何度も書類の訂正をした等）。〔精神〕
- ・情報が入って来ないので、どんな情報があるのかまったくわからない。〔肢体・内部・音声〕
- ・今後の生活や支援等に関する事をどこかに相談したい。行政手続きの為に市役所に行かなければならないのが苦痛。〔精神〕
- ・警察署、病院で手話通訳や要約筆記などを付けてほしい。〔聴覚〕
- ・行政サービスのことがわからないので、わかりやすく説明してくれる人がほしい。〔精神〕

医療・健康（60件）

- ・疾病や、障がいのことで受診できる場所はあるが（大学病院の脳外科や療育センター）ちょっとした風邪などのときに診てもらえるところがなくて困っています。（診察や注射の時に大声が出てしまうため。）〔重度重複〕
- ・精神科、てんかん専門病院が少ない。〔精神〕
- ・医療面において、生命保険に入っていないので不安。障がい者の医療保険について詳しい事が知りたい。〔知的〕

制度、サービス給付、施設（46件）

- ・私は日本各地に行く事があるが、介護保険サービスの地域による違いをなくして欲しい。また、違いがあればその事を明確に伝えて欲しい。〔肢体・内部・音声〕
- ・福祉サービスが足りないので増やしてください。〔知的〕
- ・補装具費の申請に手間がかかる。〔聴覚〕
- ・手当よりも、施設の充実をお願いしたい。〔知的〕

手続きや更新、等級判定（20件）

- ・書類の手続きをもっと簡略化出来ませんか。〔肢体・内部・音声〕
- ・書類関係を窓口を持っていくのに家族が休みを取れない。全て郵送可にして欲しい。〔肢体・内部・音声〕
- ・愛の手帳の何度かとかの判定があいまい。今困まっているのに、「もう少ししたら良くなる」とかの発言はやめてほしい。〔知的〕

医療費（14件）

- ・医療費の一部負担金の上限額がどんどん上がること。〔肢体・内部・音声〕
- ・高齢の両親は医療費1割負担だが、本人は3割なので障害者の割合を低くしていただきたい。〔知的〕

一人になったとき（親等亡き後）の不安（12件）

- ・生活の多くの面（電気・ガス・届け物・店からの連絡など）で電話が必要です。1人になったら全ての面で困ります。〔聴覚〕

外出、交通（11件）

- ・横断歩道があっても信号機がないと道が凸凹しているのでバスの振動でぐらつくから直してほしい。バスの本数とバスのルートが少なく、家のまわりは坂道が多いから交通手段に困る。作ってほしい。〔肢体・内部・音声〕

経済的（収入、助成・手当・補助）支援（10件）

- ・今グループホームで生活していますがサービス利用料（自己負担分）がかなり負担になっています。自治体や国からの補助金をもっとお願いしたいです。〔知的〕

結婚、出産、子育て支援（8件）

- ・結婚・出産・子育てに必要な情報や支援がない。〔肢体・内部・音声〕

教育、学校（7件）

- ・サービス等々を受けるのにあたり、幼稚園の頃、小学校に入ってから、また色々なところで、自分のことについて聞かれるがうまく表現できない。担当者や相談先の先生なども転勤などで変わってしまい、ずっと自分のことを知っていてくれる人がいないこと。障害については、ずっと自分のことを知っていてくれる人が、親以外にほしいと思っている。〔精神〕

生活の場、グループホーム（6件）

- ・とにかく将来の生活の場が確保されていない。グループホームが少なく、その支援の質の低さもある。〔知的〕

家族・介護者の不安（5件）

- ・家庭で上手に過ごせない場合、どう支援してもらえるのか。暴力をふるったりする人は施設に入りづらいようだし、結局家族しかみることができないのか…。〔精神〕

災害時、緊急時の不安（4件）

- ・地震など起こったら、避難所に避難しても障害者は何もできない。障害を持つ人だけの避難所が欲しい。〔聴覚〕

他人からの理解、差別（4件）

- ・本人のことをよく知る人が、周りにいなくなった場合、本人の満足度はいかばかりかと不安。発することができないので相手の言いなりになってしまうこと。〔知的〕

必要な支援・サービスがない、受けられない（3件）

- ・本当に必要な支援が受けられない（制約が多すぎる）。〔知的〕

就労（2件）

- ・高校卒業後、仕事ができるか心配です。〔精神〕

その他（26件）

④障がい理解に関すること

理解促進〔理解不足、見た目によりわかりづらい、交流〕（185件）

- ・自閉症で知的障害があるため行動障害がなかなか理解されにくい。〔知的〕
- ・見た目では分からない障がいについての周りの理解が不十分。〔精神〕
- ・当事者が気軽に地域に出て行けるようになれば、おのずと理解が深まっていくと思います。〔知的〕
- ・相模原障害者施設殺傷事件（2016年）のように障がい者に対する偏見や差別が最近の閉塞した社会の雰囲気の中で大きくなるか不安である。〔肢体・内部・音声〕
- ・周囲の理解が不十分。居るだけでジロジロ見られる。すごく嫌な気分になり、外出先も遠くを選んでしまう。下の子が学校に入ったら、その事で嫌な思いをしないか心配。〔重度重複〕

差別〔差別、周囲の目〕（52件）

- ・特別な人に扱われることがある。もっと普通の人と見てほしい。〔知的〕
- ・障害者に対して言葉遣いが悪い人がいます。言い方を酷く心に傷がつかしました。〔知的〕
- ・関わる機会がなく、知らないから、差別の意識が出てきてしまうものだと思います。実際に関わってみないかぎり、差別の感覚はなくなるものだと思います。〔精神〕
- ・ダウン症は見るだけで、すぐに障がい者とわかってしまうので、じろじろ見られたり、何もしないのに、さげられたりします。〔知的〕

外出や交通面で（26件）

- ・歩きスマホ、走って来る人が多く、危険がたくさんある。〔視覚〕
- ・座席を譲ってもらえない。無視をされる。〔精神〕
- ・スーパーやアミューズメント施設などの駐車場で障害者用スペースに停められない（普通車に停められている。専用スペースの数も少ない）。〔重度重複〕

学校・教育の面で（15件）

- ・障害の種別に限らず、どんな相手にも礼節を重んじる姿勢がすべての人間に必要な教育が子どもにも大人にも必要だと思います。〔精神〕
- ・学校の先生達も発達障がいについて勉強してほしい。学校の先生達も発達障がいをもう少し理解してほしい。〔精神〕

福祉全般、サービス等の面で（15件）

- ・福祉サービスでは、支援者（健常者）が上、利用者（障害者）が下。この差別はありえない。利用者の立場をきちんと確立して欲しい。〔精神〕
- ・市行政の委託化拡大等により、市職員との直接対話の減少が感じられ、若干の不安を感じます。障害者行政の後退がないよう、コミュニケーションの円滑化によりしくをお願いします。〔知的〕

医療機関にかかる際に（14件）

- ・特に医療関係者の方が、一般の方々よりも冷たい面があると思います。〔知的〕
- ・医療機関での待ち時間が長いと待つことが難しかったり、検査ができなかったりするので、もう少し配慮していただきたいと思う。〔精神〕

障がいを理解してもらうのは困難（11件）

- ・様々な障がいがあるなかで、理解は不十分であたりまえの気がする。〔肢体・内部・音声〕
- ・当事者にならないとわからない事が多いので、半ばあきらめている現状。〔精神〕

就労・就業の面で（9件）

- ・仕事をさがして、なんとか就職したいが、まず仕事が見つからず困っています。〔精神〕

情報・相談の面で（7件）

- ・親自身もまだまだ理解できないことだらけ。情報など探さないとわからないのもっと身近に情報やアドバイス、経験談などがわかるようになったら助かりますし、うれしいです。〔精神〕

ヘルプカード、ヘルプマークの周知（5件）

- ・目に見えにくい障がいは、理解がしにくいようです。ヘルプマーク、カードがたくさんの人に理解できると良い。〔肢体・内部・音声〕

症状や健康の面で（3件）

- ・運動動作制限があったり、肺呼吸が落ちた事による弊害。〔肢体・内部・音声〕

その他（30件）

(2) 将来望む生活（自由記述）

問31 あなた（本人）は、将来どのような生活をしたいと考えていますか。ご自由にご記載ください。

将来どのような生活をしたいと考えているか自由に記述していただいたところ、884件の記述があった。1人で2つ以上の内容を回答している場合は、それぞれカウントしているため、件数は延べ件数となる。

以下は一部抜粋したものである。

住み慣れた町田市で「普通」に暮らしたい（145件）

- ・必要な福祉サービスを利用しながら、子どもの頃から住んでいる家のあるこの町で暮らし続けたい。〔知的〕
- ・障がい者の有無に関係なく市民が安心した生活を送れる社会になった生活をしたい。〔聴覚〕
- ・できれば、住み慣れた地域で暮らし続けたい。〔知的〕
- ・障がい者として特に扱われる事なく、出来るだけ普通に暮らしたい。〔精神〕
- ・今後も、施設ではなく地域で生活していきたい。〔知的〕

グループホームで生活したい（94件）

- ・必要な支援を受けられて騒音に苦しめられる事のない住環境のグループホーム等に入居したい。〔精神〕
- ・一人では生活できないので、地域にGHのようなものができれば素晴らしいと願っています。〔知的〕
- ・重度知的グループホームの拡大（補助金）を願います。生涯安心して住める場所を求めます。（親の高齢化に伴い）〔肢体・内部・音声〕

できるだけ自立した生活／一人暮らししたい（89件）

- ・趣味を続けながら自立して住み慣れた地域でグループホームを利用しないで、暮らしたい。〔知的〕
- ・一人で自立をして、家族からはなれて生活をしていきたいと思っています。〔精神〕
- ・いつかは自立して親に負担をかけないようにしたい。その為には自分が出来る所から変わる意識を持ちたい。〔精神〕

仕事をしたい、働き続けたい（80件）

- ・将来というより、今すぐ仕事に就いて母親をよろこばせてやりたいです。〔精神〕
- ・自分のことを理解してくれる職場で仕事をして給料をもらって一人で生活していけるようになりたい。〔精神〕
- ・いつか独立して今の仕事内容で生活していけたらと夢はあります。現実にはなかなか難しい。〔知的〕

自由に楽しみながら暮らしたい（50件）

- ・精神疾患を抱えながらも仕事や趣味を楽しんで暮らしていきたい。〔精神〕
- ・もっと自由に選択したい。限られた世界でしか生活できていない。行きたいと思った時に行きたい場所に行きたい。〔視覚〕
- ・障がいがあっても、本人がやりたいことをして、一般の人と変わらない生活をしてほしい。それを受け入れてくれる社会になってほしいと思います。〔知的〕

施設で生活したい（44件）

- ・一人で立ちゆかなくなったら老人ホーム（特養）など施設に入りたい。本人の希望です。〔視覚〕
- ・親が高齢になったら。町田市内に入所施設があって、そこで生活し、日中は、今までと同じ通所施設に通い、たまに自宅に帰る。そんな生活が理想です。〔知的〕
- ・施設入所を希望している。入所待機4年になるが入れない。〔重度重複〕

サービスや支援がもっと充実してほしい（42件）

- ・必要な福祉サービスは、こちらから検索して申請するという流れだが、知らないサービスは知らないままになっていたり、もう少し、国や都で個別にサービスの案内等があると嬉しいです。〔知的〕
- ・必要な福祉サービスが受けられるようでありたい。〔肢体・内部・音声〕

自宅で暮らしたい（37件）

- ・必要な支援を受けて、住みなれた家で暮らしたい。〔視覚〕
- ・福祉サービスを利用しながら、積極的に外出し、住み慣れた自宅で生活したい。〔精神〕

現状のままでよい・現状に満足（35件）

- ・今と変わらない生活が将来も続くことを望んでいます。〔重度重複〕
- ・できればこのままの生活がしたい。〔精神〕

家族と一緒に暮らしたい・続けたい（34件）

- ・妻と一緒に家で暮らし続けたい。〔肢体・内部・音声〕
- ・入院・入所せず、できるだけ本人が過ごしやすい環境で一緒に暮らしたいと思っています。〔重度重複〕

穏やかで、安定して不安のない生活をしたい（30件）

- ・住みなれた場所でおだやかに暮らせたらと思う。災害などが起こらない事を願っています。〔肢体・内部・音声〕
- ・心身を穏やかに、頑張らない生活を送りたい。〔肢体・内部・音声〕

家族等亡きあとが心配、安心して生活したい（27件）

- ・親亡き後も安心して生活できる事。（親が安心して逝けること）〔知的〕
- ・家族がいなくなったら1人で生活が出来ないと思っています。お金も不安です。〔知的〕

結婚したい、家庭を持ちたい（25件）

- ・結婚して、家族を持ち、暮らしたい。〔知的〕
- ・子育てがしたい。〔精神〕

障がい者に理解ある地域・社会で、助け合いながら生活したい（25件）

- ・サービスだけでなく周囲の方達の協力のもと、人とのかかわりを保ちながら楽しく過ごしてほしい。〔知的〕
- ・障がい者に理解のある地域で家族、もしくは施設の人々の助けをかりて暮らしたい。〔重度重複〕

経済的に心配のない暮らしをしたい（23件）

- ・お金に困らない位の安心が欲しい。（障がい年金だけでも暮らせる）〔視覚〕
- ・生活費の心配がなく、安心して幸せに暮らしたい。〔知的〕

まだわからない、考えていない、考える余裕がない、不安（21件）

- ・まだ小さいので、これから先、どうなるかわからないのが現状です。〔重度重複〕
- ・「なるようにしか、ならないのが現状なので」という事は、いけない考え方なのですが…。〔肢体・内部・音声〕

制度や環境の良い場所での生活を希望（15件）

- ・難病支援金制度のある区などへ引っ越したい。〔肢体・内部・音声〕
- ・いろいろと不便なこともあるので、退職したら地方のもっと環境や制度が充実したところに転居したい。〔肢体・内部・音声〕

前向きで健康な生活をしたい／回復に努めたい（11件）

- ・健康で1人で歩けるようになりたいです。〔肢体・内部・音声〕
- ・パートの仕事に行けるくらい回復したい。〔精神〕

仲間や同じ障がいのある人と一緒に暮らしたい（8件）

- ・将来一人になった時同じ障がいの人と暮らせたら…。〔視覚〕

第2章 サービス利用者調査結果

長生きはしたくない、死を受け入れる（6件）

- ・仕事等もそうですが、悔いなき人生を歩みたい。が、人間いずれ亡くなるのですから、あまり長生きせず最期を迎えたい。〔精神〕

交流・活動の場がある生活をしたい（4件）

グレーゾーンであっても充実した暮らしができるように（4件）

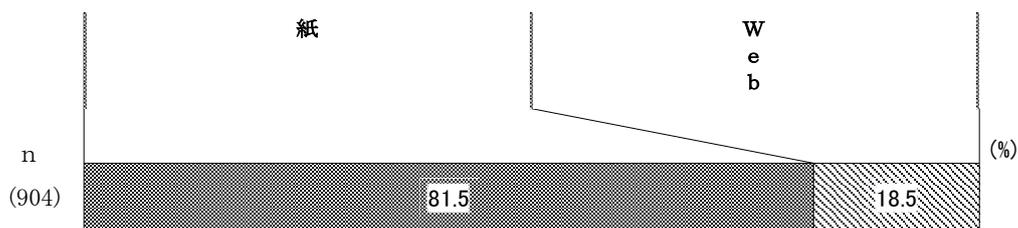
車いすでも不自由のない生活（4件）

より良い装具・補聴器等が使える生活（3件）

その他（28件）

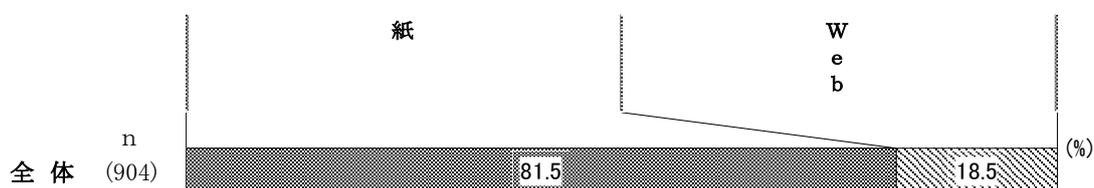
第3章 サービス未利用者調査結果

1. 回収方法

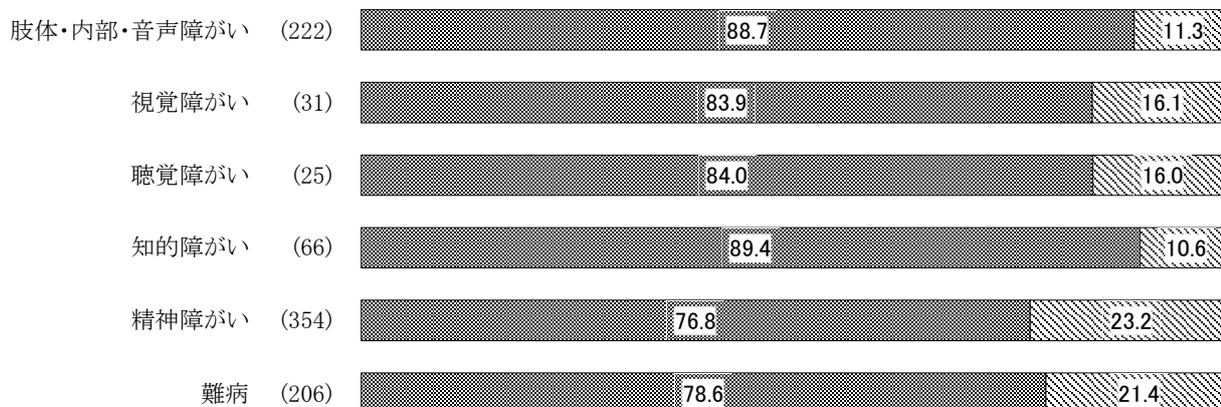


サービス未利用者調査では、2,000件の発送に対して904件の回収があり、回収率は45.2%であった。904件の回収方法内訳は「紙」での回答が81.5%、「Web」での回答が18.5%となっている。

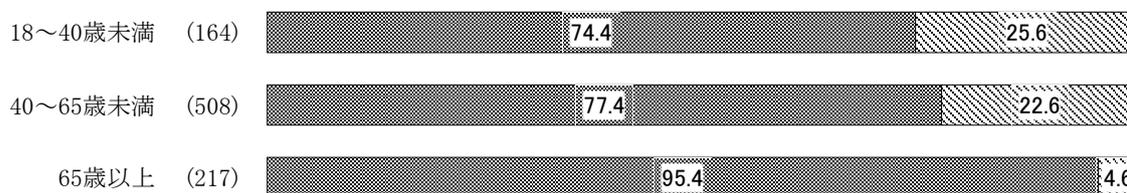
障がい種別、年齢別



【障がい種別】



【年齢別】



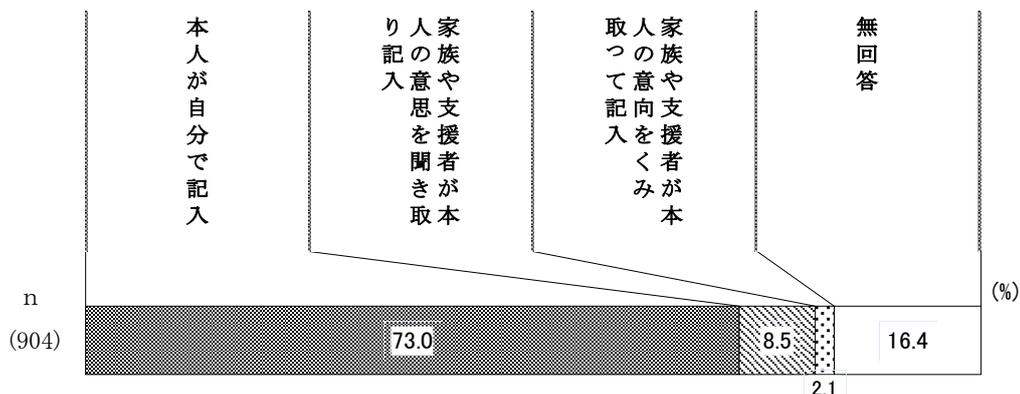
障がい種別や年齢別にみると、いずれも「紙」の方が多いが、「Web」は障がい種別の精神障がいと難病で、年齢別の65歳未満で2割台となっている。

2. 回答者と本人の基本属性

(1) 調査票記入者

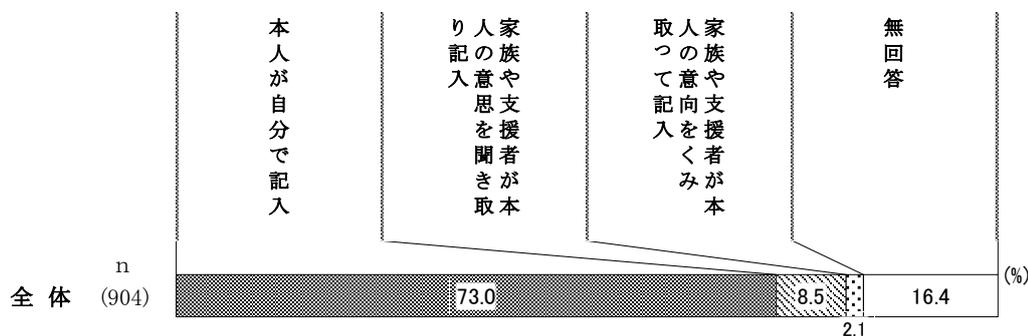
問1 本調査の記入方法について回答ください。(あてはまるもの1つに○)

封筒の宛名のご本人以外の方が回答を記入された場合は、記入された方とご本人との関係について、あてはまるものに○をしてください。

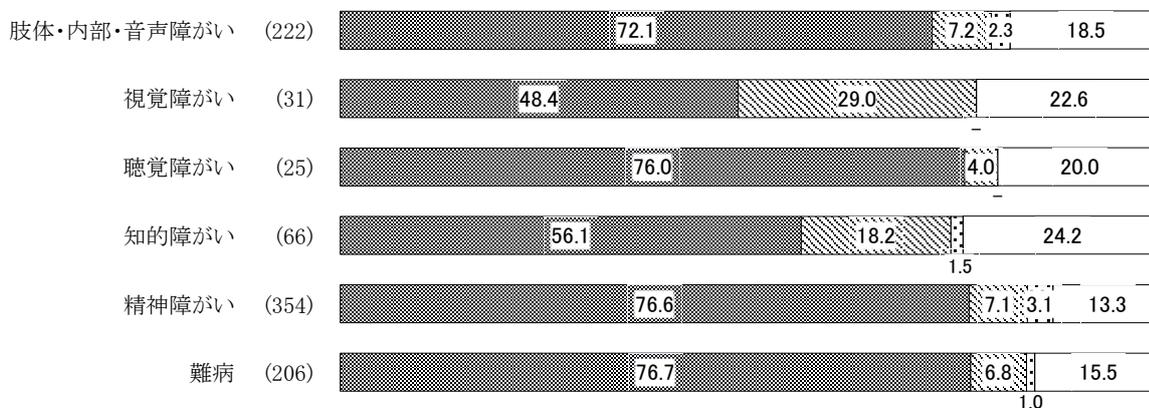


調査票記入者は、「本人が自分で記入」が73.0%、「家族や支援者が本人の意思を聞き取り記入」や「家族や支援者が本人の意向をくみ取って記入」は1割未満となっている。

障がい種別

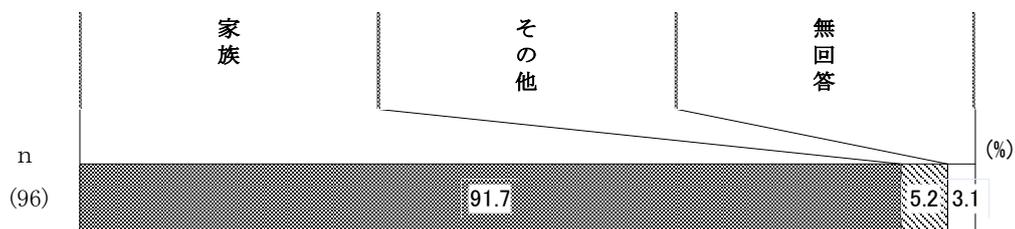


【障がい種別】



障がい種別にみると、本人の記入は肢体・内部・音声障がい、聴覚障がい、精神障がい、難病で7割台となっている。「家族や支援者が本人の意思を聞き取り記入」は視覚障がい29.0%、知的障がいでも18.2%と他の障がいより多くなっている。

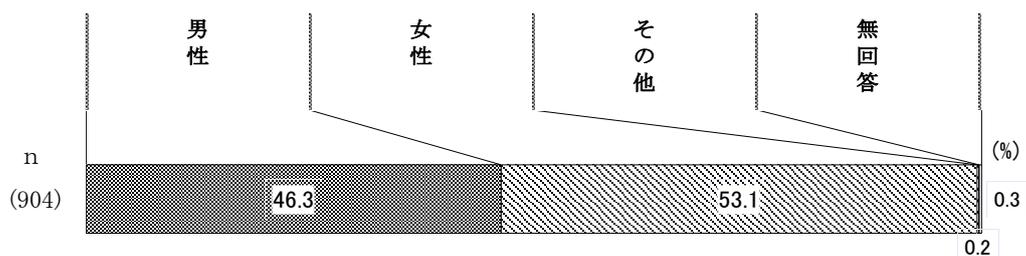
【「家族や支援者が本人の意思を聞き取り記入」または「家族や支援者が本人の意向をくみ取って記入（本人が児童の場合や、ご自身で意思を伝えられない場合など）」に回答した方】



本人に代わって家族や支援者が意思を聞き取る、あるいは意向をくみ取るなどで調査票の記入をしたケースでは、「家族」が91.7%となっている。

(2) 性別

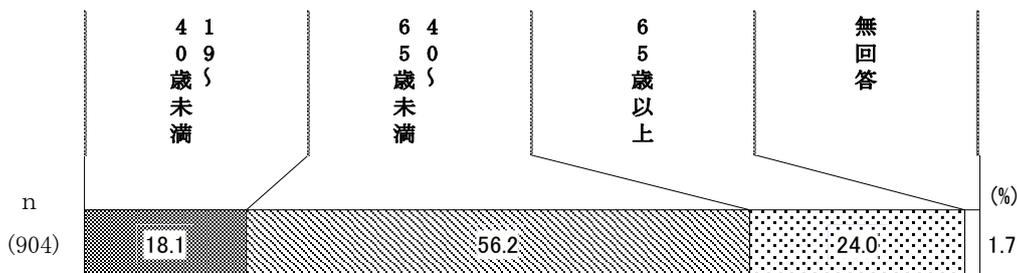
問2 あなた（本人）の性別をお答えください。（あてはまるもの1つに○）



性別は、「男性」が46.3%、「女性」が53.1%となっている。

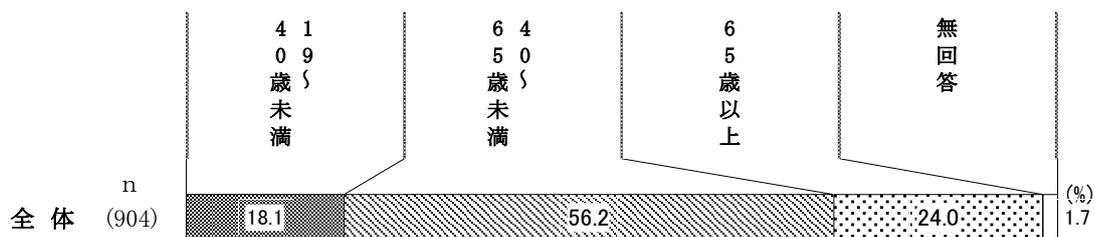
(3) 年齢

問3 あなた（本人）の年齢（2019年4月1日現在）をお答えください。

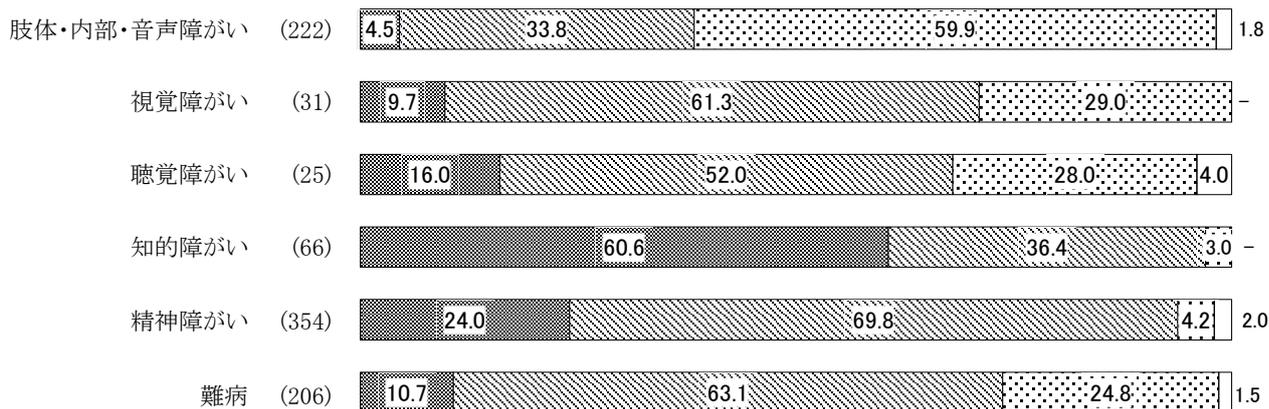


年齢は、「40～65歳未満」が56.2%となっている。

障がい種別



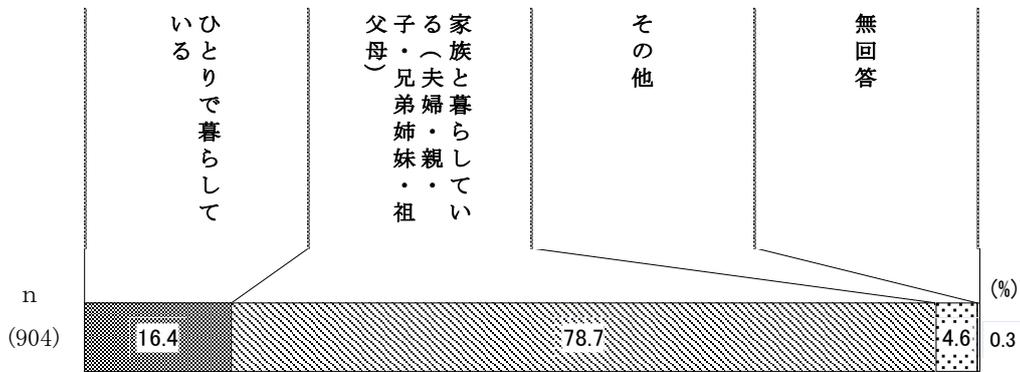
【障がい種別】



障がい種別にみると、「65歳以上」は肢体・内部・音声障がい59.9%、知的障がいでは「19～40歳未満」が60.6%、精神障がい、難病では「40～65歳未満」が6割台と多くなっている。

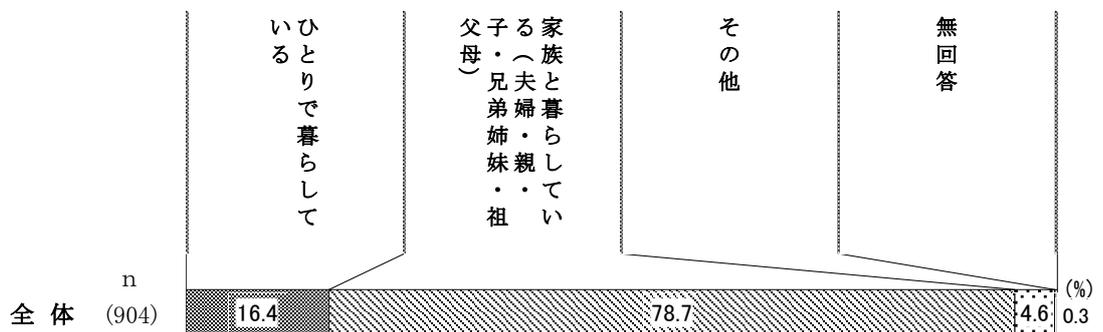
(4) 同居者

問4 あなた(本人)は、どなたと一緒に住みますか。(あてはまるもの1つに○)

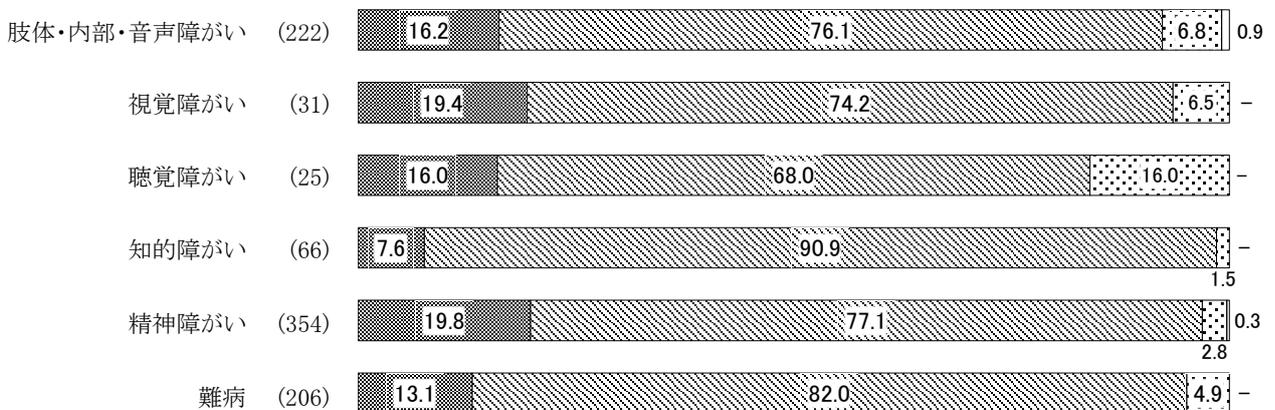


同居者は、「家族と暮らしている (夫婦・親・子・兄弟姉妹・祖父母)」が78.7%を占め、「ひとりで暮らしている」は16.4%となっている。

障がい種別



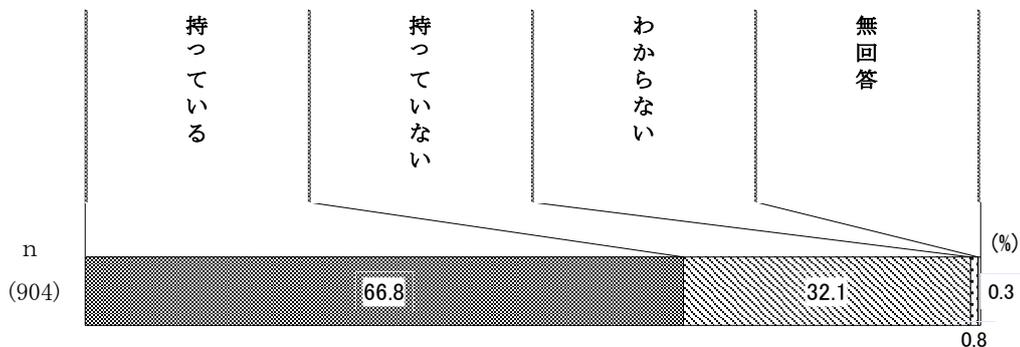
【障がい種別】



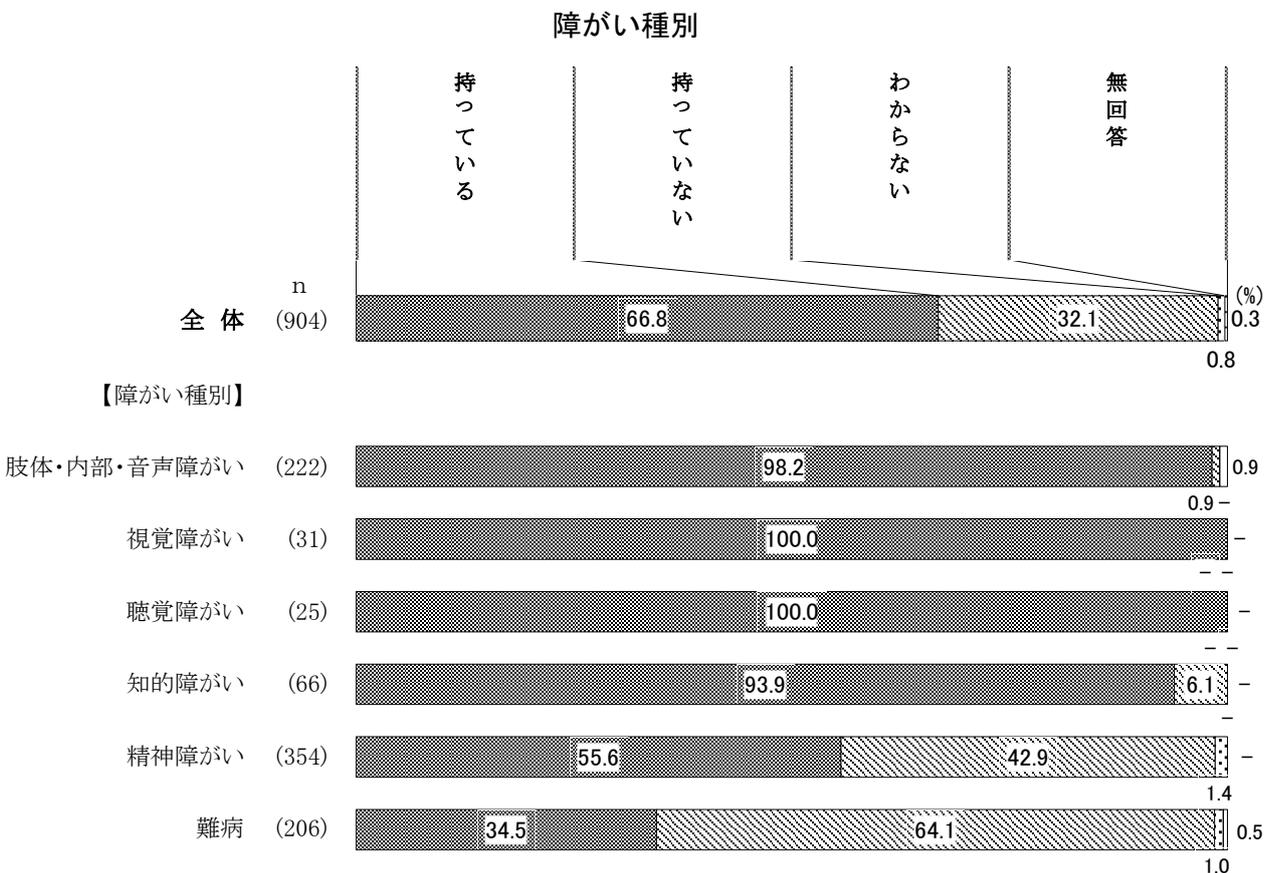
障がい種別にみると、すべての障がいで「家族と暮らしている (夫婦・親・子・兄弟姉妹・祖父母)」が多数となっている。「ひとりで暮らしている」は視覚障がいと精神障がいで2割弱となっている。

(5) 障がい者手帳の所持

問5 あなた（本人）は障がい者に関する手帳をお持ちですか。（あてはまるもの1つに○）



障がい者に関する手帳を「持っている」は66.8%、「持っていない」は32.1%となっている。



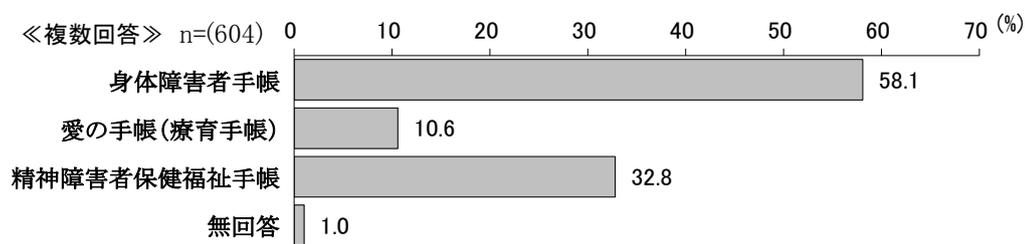
障がい種別にみると、「持っている」は肢体・内部・音声障がい、視覚障がい、聴覚障がい、知的障がい、で9割から全数を占めている。難病では「持っていない」が64.1%と多くなっている。

(6) 所持している障がい者手帳の種類

【問5で「持っている」と回答した方に】

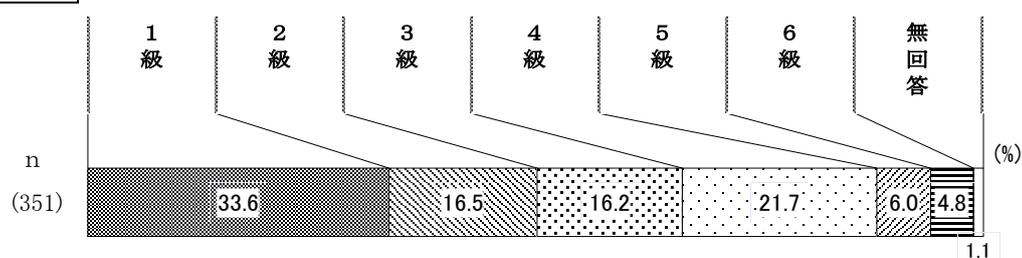
問5-1 お持ちの手帳の種類と等級をお答えください。

(あてはまる手帳の等級すべてに○)

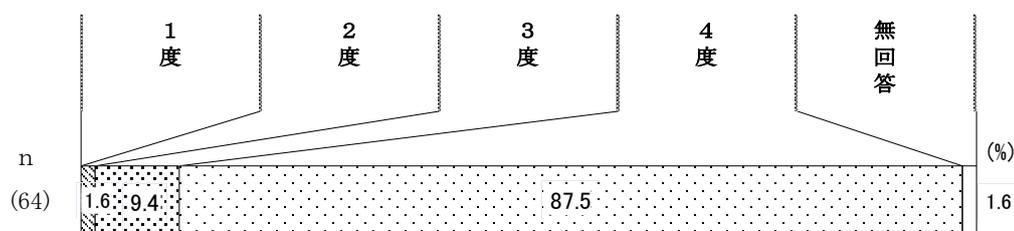


所持している手帳の種類は、「身体障害者手帳」が58.1%、「愛の手帳（療育手帳）」が10.6%、「精神障害者保健福祉手帳」が32.8%となっている。

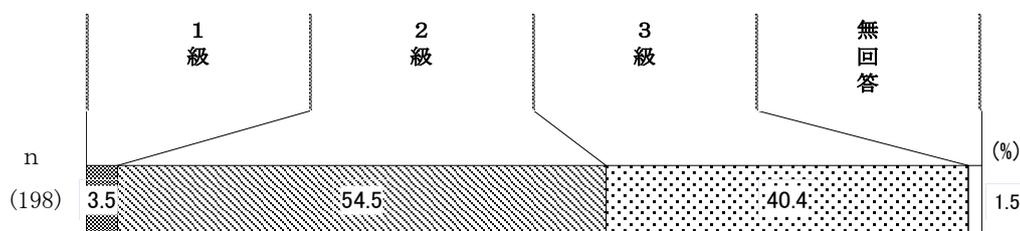
身体障害者手帳



愛の手帳(療育手帳)



精神障害者保健福祉手帳



※上図は重複して障がいのある方を含む。

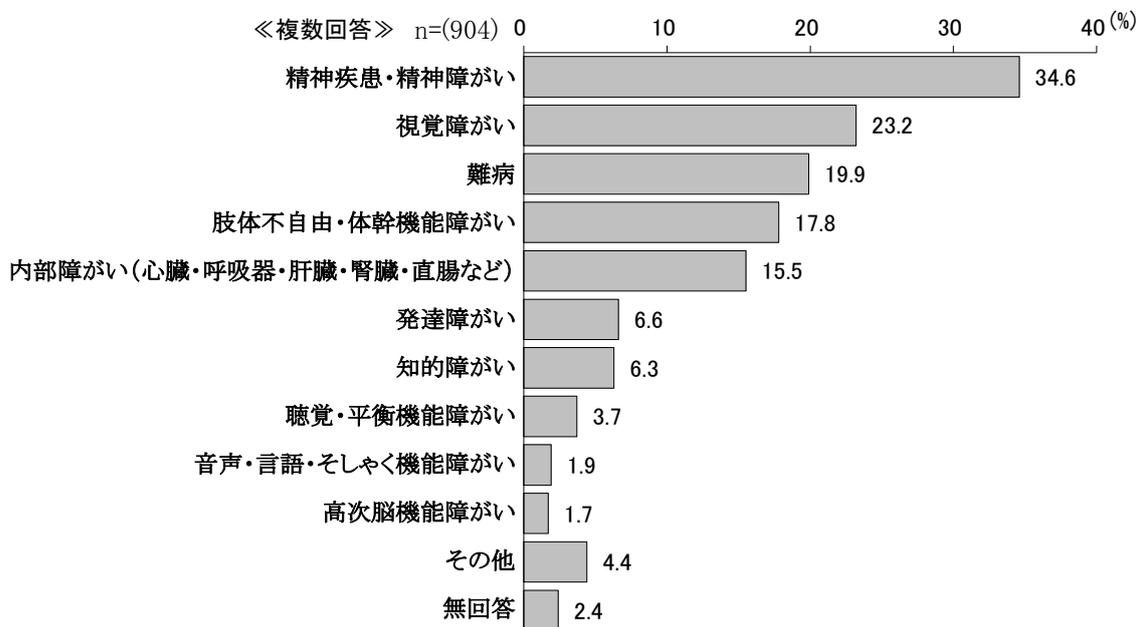
身体障害者手帳の等級は「1級」が33.6%、「2級」が16.5%で程度の重い方が50.1%となっている。

愛の手帳（療育手帳）の等級は「4度」が87.5%を占めている。

精神障害者保健福祉手帳の等級は「2級」が54.5%、「3級」が40.4%となっている。

(7) 障がいや疾病の内容

問6 あなた（本人）の障がいや疾病の内容についてお答えください。
 （あてはまるものすべてに○）



※サービス未利用者調査の対象となった方の回答結果であって、町田市の障がい者全体の構成比を示すものではない。

障がいや疾病の内容は、「精神疾患・精神障がい」が34.6%で最も多い。この他、「視覚障がい」が23.2%、「難病」(19.9%)、「肢体不自由・体幹機能障がい」(17.8%)、「内部障がい(心臓・呼吸器・肝臓・腎臓・直腸など)」(15.5%)が1割台となっている。

(8) 難病の種類

【問6で「難病」と回答した方に】

問6-1 難病の種類をお答えください。(疾病名を記入)

難病と回答した方に、その種類を記述してもらったところ、強皮症や多発性筋炎、シェーグレン症候群などの「膠原病」が50件と多く、次いで「潰瘍性大腸炎」(22件)、「パーキンソン病」(17件)、「全身性エリテマトーデス」(12件)、「クローン病」(11件)などがあげられている。

障がい種別（難病のみ）・手帳所持者

(単位:%)

身体障害者 手帳	n	1級	2級	3級	4級	5級	6級	無回答
	66	62.1	6.1	13.6	13.6	1.5	3.0	-

(単位:%)

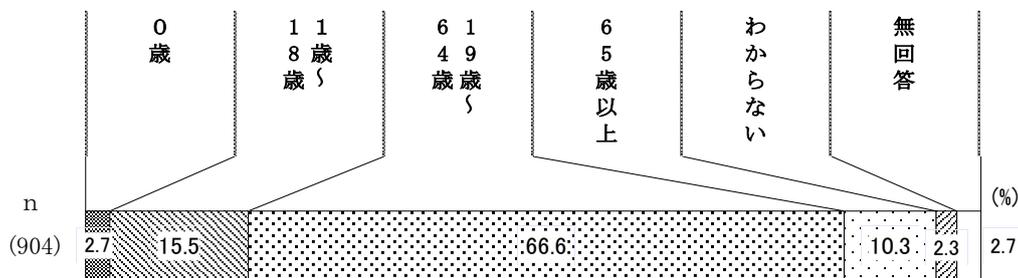
精神障害者 保健福祉 手帳	n	1級	2級	3級	無回答
	4	-	75.0	25.0	-

※愛の手帳（療育手帳）の所持者はなし

難病のみで見ると、所持している障がい者手帳の種類と等級は、身体障害者手帳の「1級」が最も多くなっている。

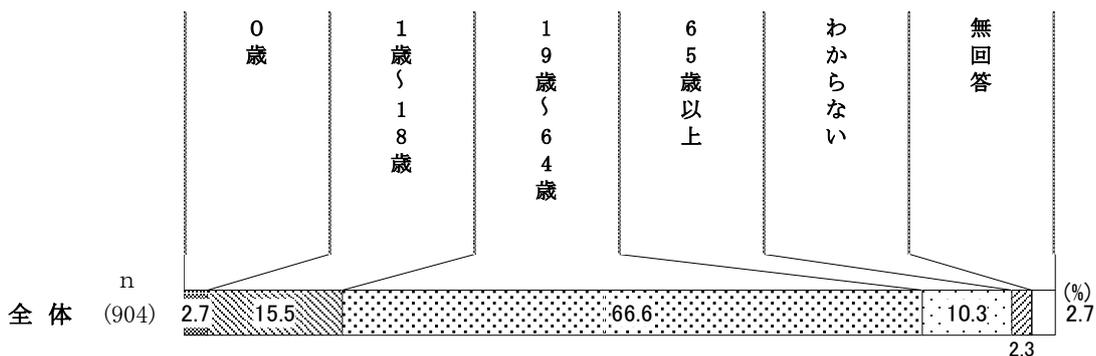
(9) 障がいや疾病に気づいた時期

問7 あなた（本人）の障がいや疾病に気づいたのはいつ頃ですか。
 （あてはまるもの1つに○）

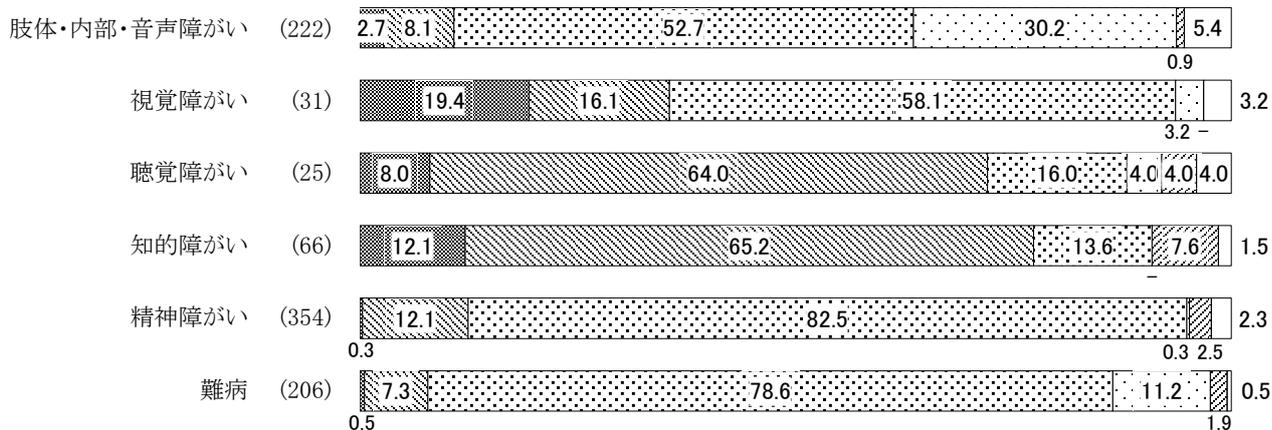


自分の障がいや疾病に気づいたのは、「19歳～64歳」が66.6%、「1歳～18歳」が15.5%となっている。

障がい種別



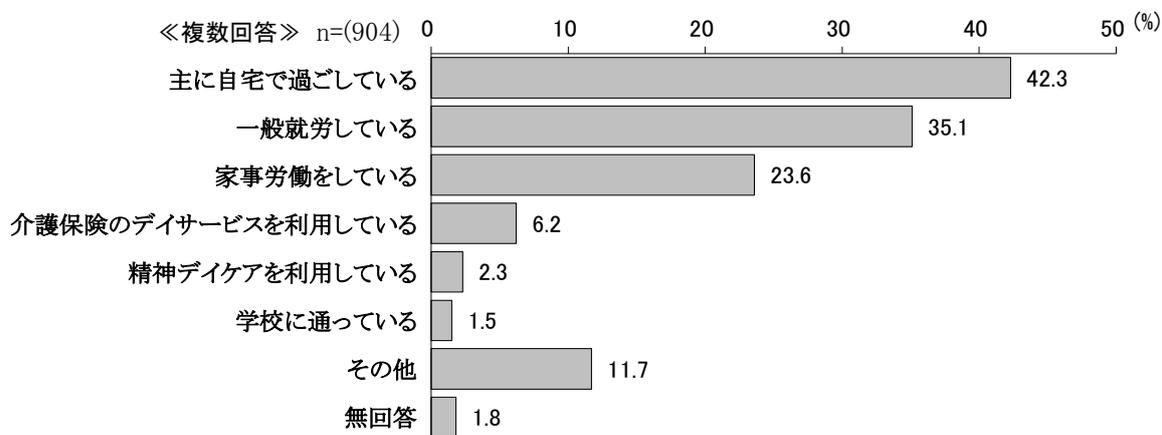
【障がい種別】



障がい種別にみると、「19歳～64歳」は精神障がいと難病で8割前後を占め、肢体・内部・音声障がい、視覚障がいでも5割を超えている。聴覚障がいと知的障がいでは「1歳～18歳」が6割台と多い。また、視覚障がいや知的障がいでは「0歳」も1割台と比較的が多くなっている。

(10) 平日の昼間の過ごし方

問8 あなた（本人）は、平日の昼間どのように過ごしていますか。
（あてはまるものすべてに○）



※一般就労… 雇用契約に基づく一般企業での就労。（在宅勤務や特例子会社での就労を含む）

平日の昼間の過ごし方は、「主に自宅で過ごしている」が42.3%で最も多く、次いで「一般就労している」が35.1%、「家事労働をしている」が23.6%となっている。

障がい種別、性別、年齢別、性・年齢別

(単位:%)

《複数回答》		n	主に自宅で過ごしている	一般就労している	家事労働をしている	介護保険のサービスを利用している	精神デイケアを利用している	学校に通っている	その他	無回答
全体		904	42.3	35.1	23.6	6.2	2.3	1.5	11.7	1.8
障がい種別	肢体・内部・音声障がい	222	47.7	23.9	26.6	13.1	0.5	0.5	15.8	3.2
	視覚障がい	31	48.4	29.0	12.9	19.4	-	-	9.7	-
	聴覚障がい	25	24.0	52.0	16.0	4.0	-	4.0	12.0	-
	知的障がい	66	21.2	65.2	7.6	-	1.5	-	9.1	3.0
	精神障がい	354	45.8	33.3	23.7	1.4	5.1	2.0	8.8	2.0
	難病	206	38.3	39.3	27.7	7.3	0.5	2.4	13.6	-
性別	男性	419	41.3	43.4	8.6	5.3	3.1	2.1	13.6	0.7
	女性	480	43.1	27.9	36.7	7.1	1.7	1.0	10.2	2.3
	その他	2	50.0	50.0	50.0	-	-	-	-	-
年齢別	19～40歳未満	164	34.8	50.0	20.1	-	3.0	7.9	6.1	-
	40～65歳未満	508	38.0	41.9	24.4	2.0	2.8	-	12.0	1.2
	65歳以上	217	58.5	7.8	24.9	21.2	0.9	0.5	15.2	3.2
性・年齢別	男性 19～40歳未満	81	28.4	63.0	7.4	-	2.5	9.9	6.2	-
	女性 19～40歳未満	82	40.2	37.8	31.7	-	3.7	6.1	6.1	-
	男性 40～65歳未満	244	36.9	48.0	9.4	2.9	4.1	-	13.9	0.8
	女性 40～65歳未満	263	39.2	36.1	38.4	1.1	1.5	-	10.3	1.5
	男性 65歳以上	91	65.9	13.2	7.7	16.5	1.1	1.1	18.7	1.1
	女性 65歳以上	126	53.2	4.0	37.3	24.6	0.8	-	12.7	4.8

※網掛けは最も多いもの(「その他」を除く)

障がい種別にみると、肢体・内部・音声障がい、視覚障がい、精神障がいでは「主に自宅で過ごしている」が4割台、聴覚障がいと知的障がいでは「一般就労している」が5割以上、難病では「主に自宅で過ごしている」と「一般就労している」が4割近くで二分している。

性別にみると、「主に自宅で過ごしている」は男女とも4割台で、男性では「一般就労している」(43.4%)が、女性では「家事労働をしている」(36.7%)がより多くなっている。

年齢別にみると19～40歳未満では「一般就労している」が50.0%、40～65歳未満でも41.9%となっている。65歳以上では「主に自宅で過ごしている」が58.5%を占める。

性・年齢別にみると、男性の19～40歳未満では「一般就労している」が63.0%と特に多くなっている。女性の19～40歳未満では「主に自宅で過ごしている」が40.2%、「一般就労している」、「家事労働をしている」が3割台となっている。男女とも40～65歳未満では「主に自宅で過ごしている」、「一般就労している」が3割以上となっており、女性では「家事労働をしている」も38.4%と多くなっている。男女とも65歳以上では「主に自宅で過ごしている」が5割以上で、男性では65.9%を占める。女性の65歳以上では「家事労働をしている」が37.3%、「介護保険のデイサービスを利用している」も24.6%とより多くなっている。

年齢・障がい種別

(単位:%)

《複数回答》		n	主に自宅で過ごしている	一般就労している	家事労働をしている	介護サービスの利用している	精神デイケアを利用している	学校に通っている	その他	無回答	
全体		904	42.3	35.1	23.6	6.2	2.3	1.5	11.7	1.8	
年齢・障がい種別	肢体・内部・音声障がい	19～40歳未満	10	10.0	80.0	20.0	-	-	-	-	
		40～65歳未満	75	34.7	41.3	25.3	4.0	1.3	-	21.3	
		65歳以上	133	59.4	9.8	28.6	19.5	-	0.8	13.5	3.8
	視覚障がい	19～40歳未満	3	66.7	33.3	-	-	-	-	-	-
		40～65歳未満	19	47.4	42.1	15.8	5.3	-	-	15.8	-
		65歳以上	9	44.4	-	11.1	55.6	-	-	-	-
	聴覚障がい	19～40歳未満	4	-	75.0	-	-	-	25.0	-	-
		40～65歳未満	13	15.4	69.2	15.4	-	-	-	-	-
		65歳以上	7	57.1	-	14.3	14.3	-	-	42.9	-
	知的障がい	19～40歳未満	40	27.5	70.0	7.5	-	2.5	-	2.5	-
		40～65歳未満	24	12.5	62.5	4.2	-	-	-	20.8	4.2
		65歳以上	2	-	-	50.0	-	-	-	-	50.0
	精神障がい	19～40歳未満	85	44.7	37.6	24.7	-	4.7	8.2	8.2	-
		40～65歳未満	247	43.7	34.0	24.7	1.6	5.3	-	8.9	2.0
		65歳以上	15	73.3	6.7	6.7	6.7	6.7	-	13.3	6.7
難病	19～40歳未満	22	22.7	45.5	31.8	-	-	22.7	9.1	-	
	40～65歳未満	130	34.6	50.8	29.2	1.5	-	-	11.5	-	
	65歳以上	51	56.9	5.9	23.5	25.5	2.0	-	19.6	-	

※網掛けは最も多いもの(「その他」を除く)

年齢・障がい種別にみると、各区分とも65歳未満までは「一般就労している」、65歳以上は「主に自宅で過ごしている」傾向がみられるが、視覚障がいと精神障がいでは65歳未満でも「主に自宅で過ごしている」の占める割合が多くなっている。

(障がいや疾病のため) 支援が必要と感じる困りごと (問9)・障がい種別

(単位:%)

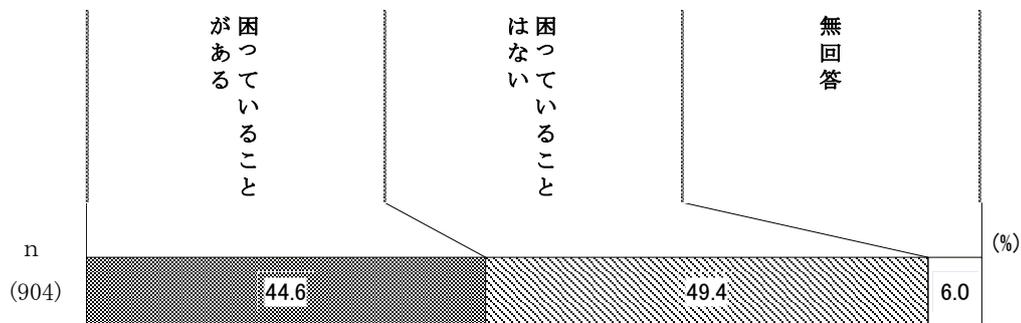
《複数回答》		n	主に自宅で過ごしている	一般就労している	家事労働をしている	介護サービスの利用している	精神デイケアを利用している	学校に通っている	その他	無回答	
全体		904	42.3	35.1	23.6	6.2	2.3	1.5	11.7	1.8	
支援が必要と感じる困りごと・障がい種別	肢体・内部・音声障がい	困っていることがある	81	63.0	11.1	25.9	21.0	1.2	1.2	19.8	-
		困っていることはない	124	40.3	35.5	28.2	5.6	-	-	13.7	1.6
	視覚障がい	困っていることがある	20	45.0	20.0	15.0	30.0	-	-	10.0	-
		困っていることはない	9	55.6	55.6	11.1	-	-	-	-	-
	聴覚障がい	困っていることがある	13	23.1	53.8	15.4	-	-	7.7	7.7	-
		困っていることはない	12	25.0	50.0	16.7	8.3	-	-	16.7	-
	知的障がい	困っていることがある	24	33.3	45.8	8.3	-	-	-	16.7	4.2
		困っていることはない	38	10.5	81.6	7.9	-	2.6	-	5.3	-
	精神障がい	困っていることがある	188	53.2	30.3	25.0	1.1	5.3	1.6	11.7	1.1
		困っていることはない	146	37.7	39.0	23.3	1.4	4.1	2.7	5.5	-
	難病	困っていることがある	77	42.9	35.1	19.5	10.4	1.3	3.9	20.8	-
		困っていることはない	118	35.6	43.2	33.9	4.2	-	1.7	9.3	-

※網掛けは最も多いもの(「その他」を除く)

(障がいや疾病による) 支援が必要と感じる困りごと (問9)・障がい種別にみると、肢体・内部・音声障がい、視覚障がいは困りごとの有無に関わらず「主に自宅で過ごしている」が、聴覚障がい、知的障がいは困りごとの有無に関わらず「一般就労している」が多くなっている。精神障がいと難病では“困っていることがある”の方が「主に自宅で過ごしている」傾向が強い。

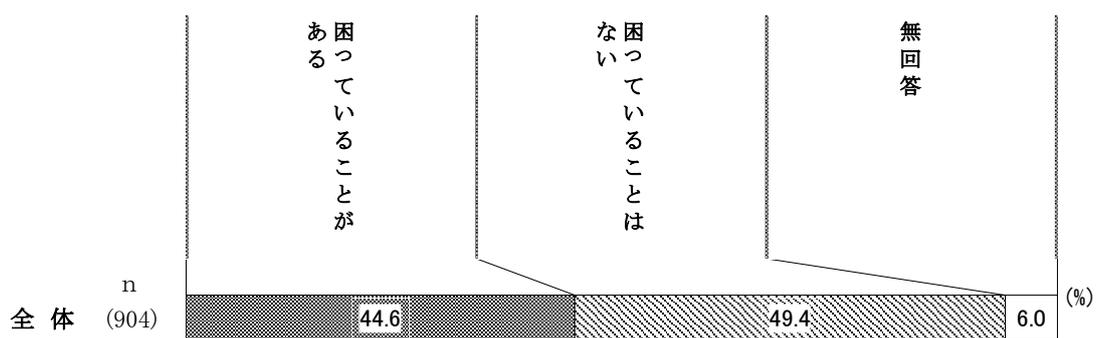
(11) 障がいや疾病のため、支援が必要と感じる困りごと

問9 あなた（本人）は障がいや疾病があることで、支援が必要と感じる困りごとがありますか。（あてはまるもの1つに○）

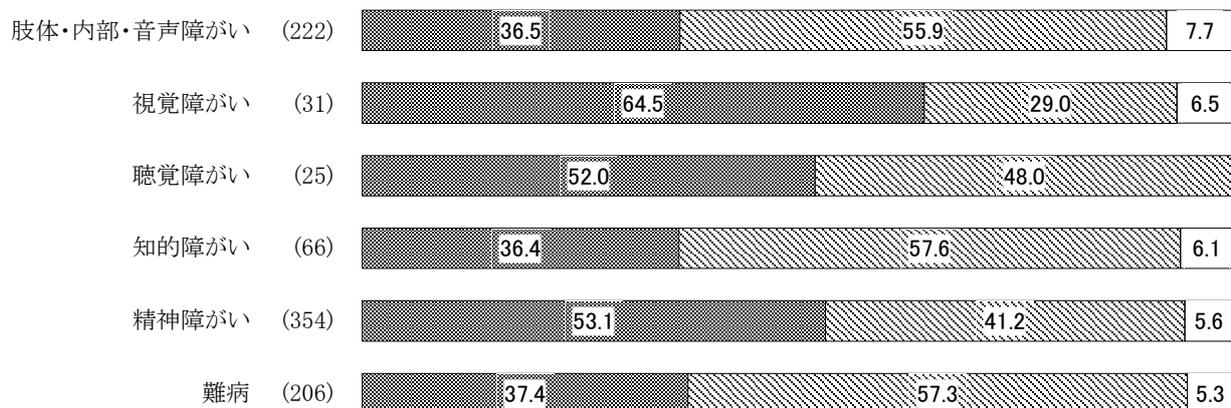


障がいや疾病があることで、支援が必要と感じる困りごとは、「困っていることがある」が44.6%、「困っていることはない」が49.4%となっている。

障がい種別

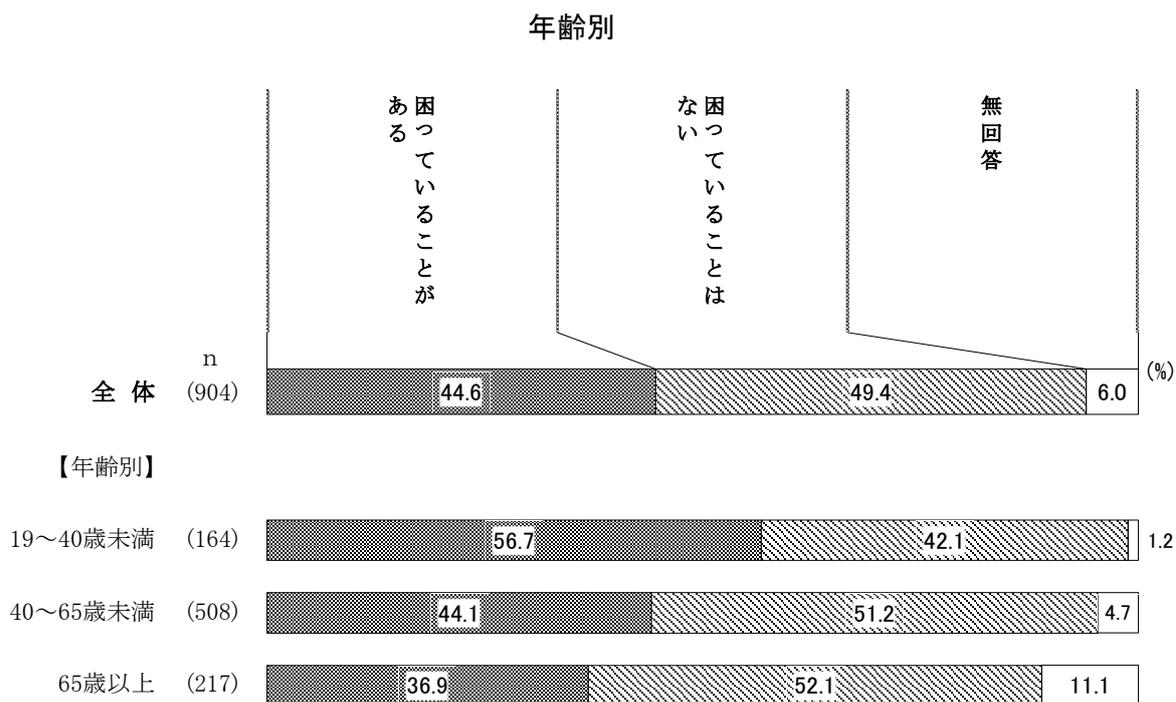


【障がい種別】



障がい種別にみると、「困っていることがある」は視覚障がいと精神障がいが多い障がい種別で5割台と多くなっている。

第3章 サービス未利用者調査結果



年齢別にみると、「困っていることがある」は19～40歳未満では56.7%と半数を超えている。以降、年齢が高くなるにつれて少なくなるが、65歳以上でも36.9%みられる。

年齢・障がい種別

(単位:%)

	n	困っていることがある			困っていない			無回答	
		未19歳未満	未40歳未満	65歳以上	未19歳未満	未40歳未満	65歳以上		
全体	904	10.3	24.8	8.8	7.6	28.8	12.5	7.2	
障がい種別	肢体・内部・音声障がい	222	1.8	13.5	21.2	2.7	19.8	32.4	8.6
	視覚障がい	31	9.7	29.0	25.8	-	29.0	-	6.5
	聴覚障がい	25	12.0	32.0	8.0	4.0	20.0	20.0	4.0
	知的障がい	66	21.2	15.2	-	37.9	18.2	1.5	6.1
	精神障がい	354	16.1	34.5	1.1	7.9	30.5	2.5	7.3
	難病	206	5.8	21.8	9.2	4.4	39.8	12.6	6.3

※網掛けは最も多いもの

年齢別・障がい種別にみると、「困っていることがある」は精神障がいの40～65歳未満、聴覚障がいの40～65歳未満で3割台となっている。

同居者・障がい種別

(単位:%)

	n	困っていることがある		困っていない		無回答	
		ひとり暮らし	それ以外*	ひとり暮らし	それ以外*		
全体	904	8.6	35.8	6.6	42.8	6.1	
障がい種別	肢体・内部・音声障がい	222	5.9	30.6	9.0	46.8	7.7
	視覚障がい	31	9.7	54.8	6.5	22.6	6.5
	聴覚障がい	25	12.0	40.0	4.0	44.0	-
	知的障がい	66	6.1	30.3	1.5	56.1	6.1
	精神障がい	354	11.0	41.8	7.6	33.6	5.9
	難病	206	7.8	29.6	4.4	52.9	5.3

※網掛けは最も多いもの

*「家族と暮らしている」「その他」

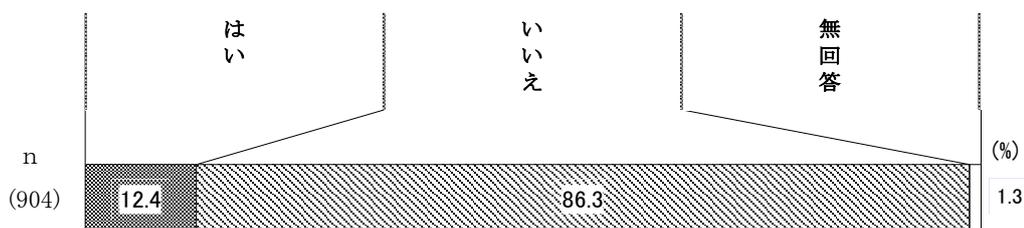
同居者・障がい種別にみると、「困っていることがある」は視覚障がいのひとり暮らし以外で54.8%、精神障がいと聴覚障がいのひとり暮らし以外で4割台となっている。

3. 福祉サービスの利用について

(1) 介護保険サービスの利用の有無

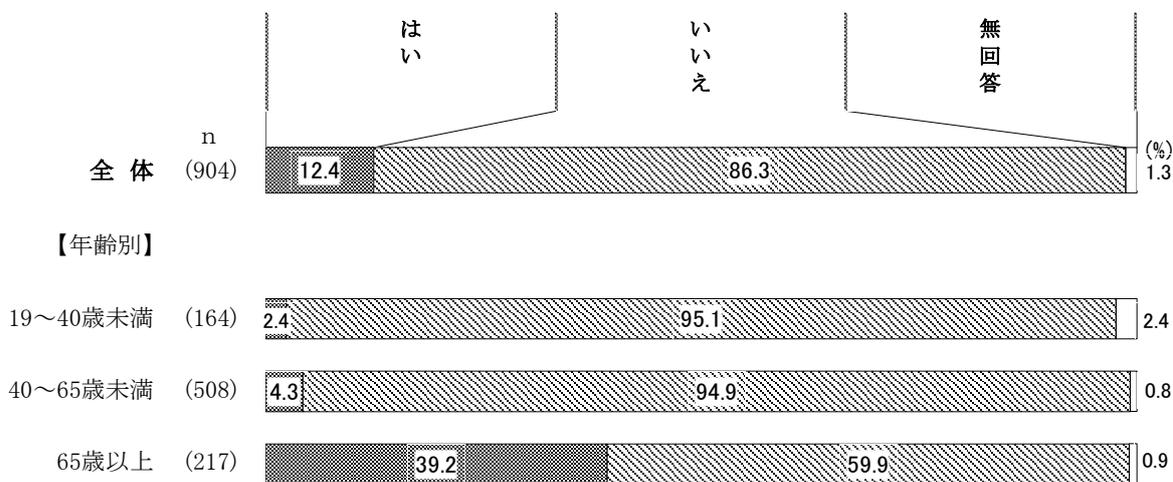
問10 あなた（本人）は、介護保険のサービスを利用していますか。
 （あてはまるもの1つに○）

注) 65歳以上の人については、介護保険サービス優先となり障害福祉サービス等は対象外となるが、介護保険サービスにない一部のサービス（※）については、利用の対象となる。
 ※就労継続支援、同行援護
 *受給要件を満たす場合には65歳未満の方でも介護保険サービスの対象となります。



介護保険サービスの利用者（「はい」）は12.4%、未利用者（「いいえ」）は86.3%となっている。

年齢別

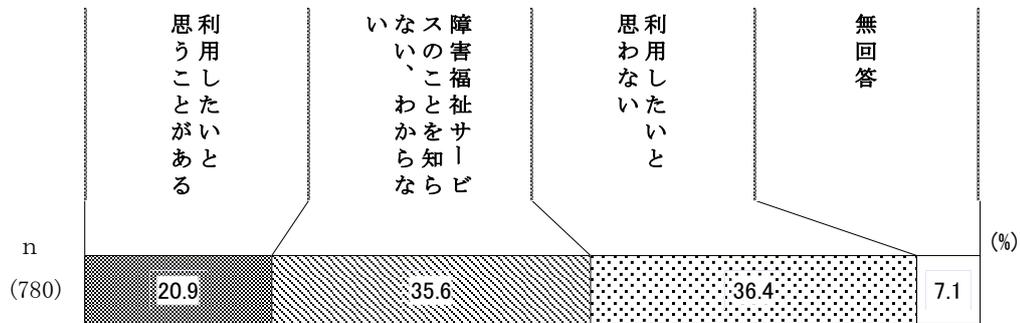


年齢別にみると、65歳以上では利用者が39.2%となっている。

(2) 障害福祉サービスの利用意向

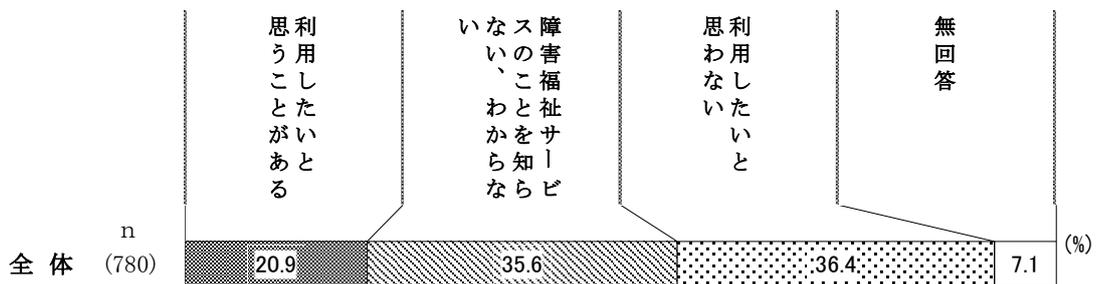
【介護保険サービス未利用者（問10）のみ】

問11 あなた（本人）は、障害福祉サービス（障がい、精神疾患、難病等がある方のための公的な福祉サービス）を利用したいと思いますか。（あてはまるもの1つに○）

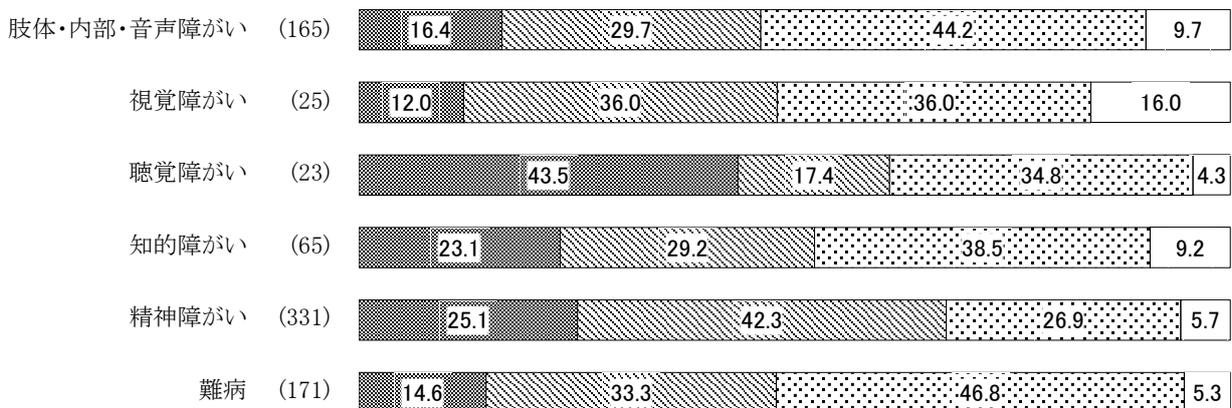


障害福祉サービスについて、「利用したいと思うことがある」は20.9%、「障害福祉サービスのことを知らない、わからない」は35.6%、「利用したいと思わない」は36.4%となっている。

障がい種別

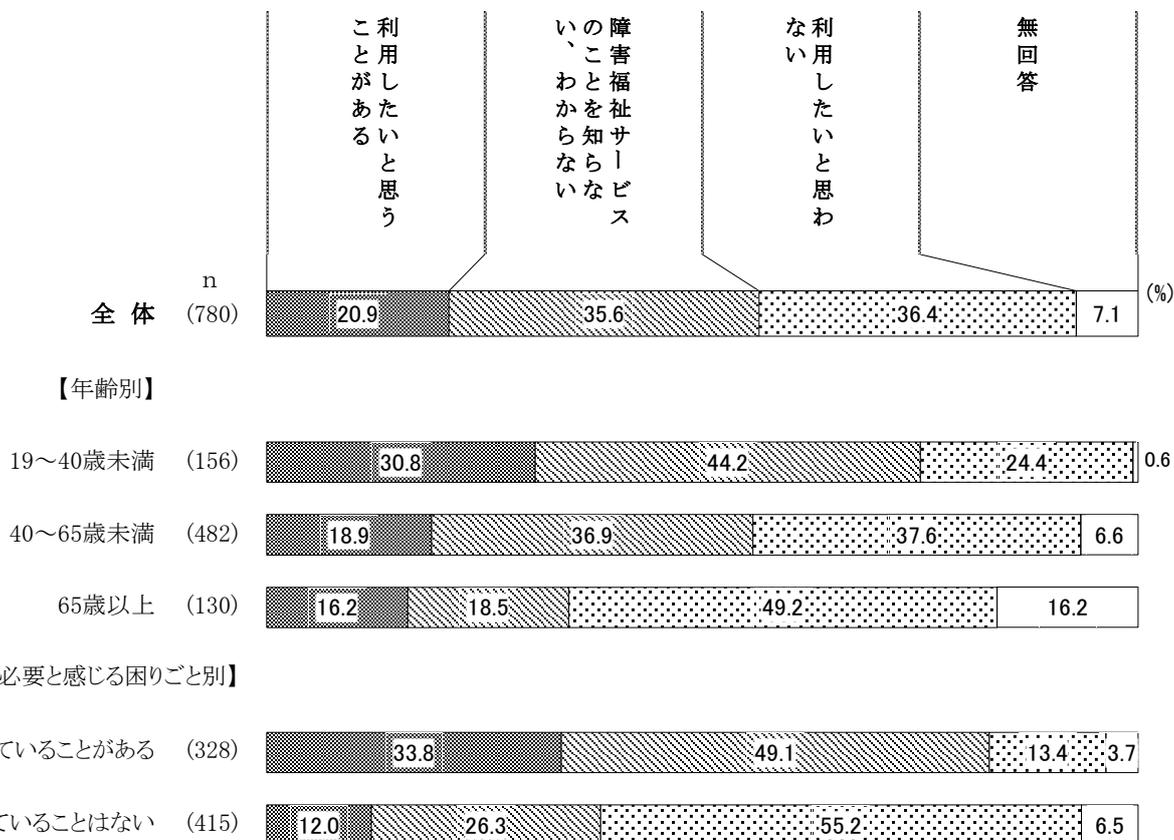


【障がい種別】



障がい種別にみると、「利用したいと思うことがある」は聴覚障がい43.5%と多く、知的障がいと精神障がいでも2割台となっている。「障害福祉サービスのことを知らない、わからない」は精神障がい42.3%と他の障がいより多くなっている。「利用したいと思わない」は肢体・内部・音声障がいと難病で4割台と比較的多くなっている。

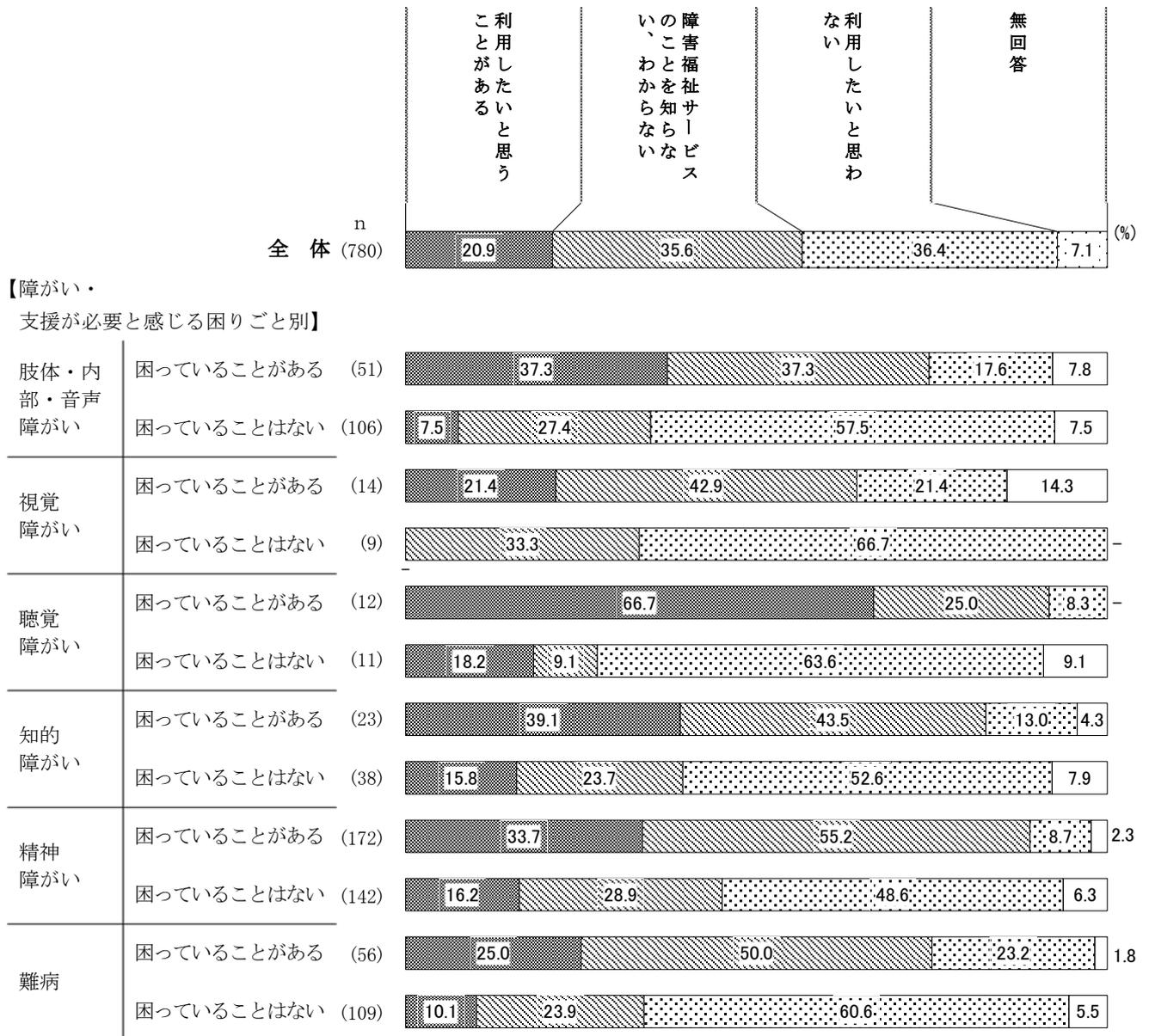
年齢別
 (障がいや疾病のため) 支援が必要と感じる困りごと別 (問9)



年齢別にみると、「利用したいと思うことがある」は19～40歳未満で30.8%となっているが、それ以上の年齢では1割台となっている。また、19～40歳未満では「障害福祉サービスのことを知らない、わからない」が44.2%と多くなっている。

(障がいや疾病のため) 支援が必要と感じる困りごと別 (問9) にみると、“困っていることがある”では「障害福祉サービスのことを知らない、わからない」(49.1%) が半数近くを占めている。

障がい・(障がいや疾病のため) 支援が必要と感じる困りごと別 (問9)

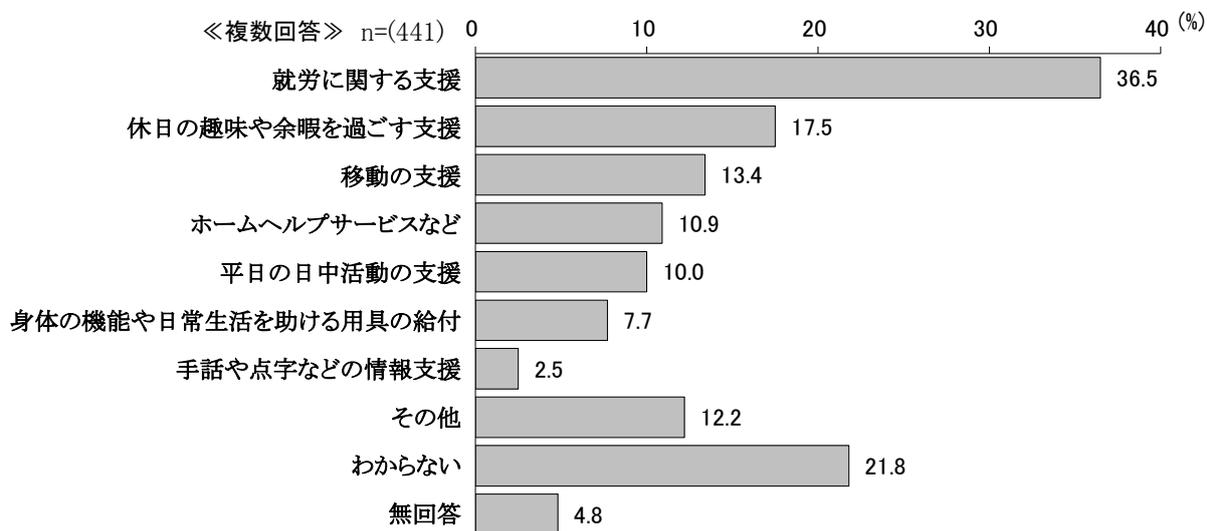


障がい・(障がいや疾病のため) 支援が必要と感じる困りごと別 (問9) にみると、“困っていることがある”では、いずれの障がい種別も「利用したいと思うことがある」や「障害福祉サービスのことを知らない、わからない」が多くなっている。「利用したいと思わない」はいずれの障がい種別でも“困っていることはない”で多くなっている。

(3) 利用したい障害福祉サービス

【問11で「利用したいと思うことがある」または「障害福祉サービスのことを知らない、わからない」と回答した方に】

問11-1 どんなサービスを利用したいですか。(あてはまるものすべてに○)



※日中活動・・・通所先の施設等において、身体機能や生活能力の向上に向けた訓練を受けたり、入浴・排せつ・食事の介助を受けながら、生産活動などを行うこと。

利用したい障害福祉サービスは、「就労に関する支援」が36.5%で最も多い。この他、「休日の趣味や余暇を過ごす支援」(17.5%)、「移動の支援」(13.4%)、「ホームヘルプサービスなど」(10.9%)、「平日の日中活動の支援」(10.0%)が1割台となっている。

障がい種別、年齢別

(単位:%)

《複数回答》		n	就労に関する支援	援 休日の趣味や余暇を過ごす支援	移動の支援	ホームヘルプサービスなど	平日の日中活動の支援	身体 の機能や日常生活を助ける 用具の給付	手話や点字などの情報支援	その他	わからない	無回答
全 体		441	36.5	17.5	13.4	10.9	10.0	7.7	2.5	12.2	21.8	4.8
障がい種別	肢体・内部・音声障がい	76	18.4	18.4	19.7	13.2	7.9	17.1	-	13.2	23.7	7.9
	視覚障がい	12	33.3	16.7	33.3	8.3	8.3	16.7	8.3	-	8.3	8.3
	聴覚障がい	14	21.4	14.3	7.1	7.1	7.1	57.1	57.1	7.1	-	7.1
	知的障がい	34	32.4	26.5	11.8	-	8.8	2.9	-	20.6	20.6	5.9
	精神障がい	223	47.1	19.7	9.0	12.6	13.0	1.8	0.9	10.8	20.2	3.6
	難病	82	29.3	7.3	18.3	9.8	4.9	7.3	-	14.6	30.5	3.7
年齢別	19～40歳未満	117	50.4	21.4	12.0	8.5	10.3	6.8	1.7	11.1	19.7	2.6
	40～65歳未満	269	35.7	16.7	12.6	11.9	9.3	7.8	3.0	13.4	21.2	4.5
	65歳以上	45	4.4	15.6	22.2	13.3	11.1	11.1	2.2	8.9	26.7	13.3

※網掛けは最も多いもの(「その他」「わからない」を除く)

障がい種別にみると、「就労に関する支援」は精神障がいでは47.1%と特に多くなっている。この他、知的障がいでは「休日の趣味や余暇を過ごす支援」が26.5%と他の障がいより多くなっている。また、回答者数が少ないため参考程度であるが、視覚障がいでは「移動の支援」、聴覚障がいでは「身体
の機能や日常生活を助ける用具の給付」、「手話や点字などの情報支援」が多くなっている。

年齢別にみると、「就労に関する支援」は19～40歳未満で50.4%と特に多くなっている。65歳以上では「移動の支援」が22.2%と他の年齢より多くなっている。

障がい・（障がいや疾病のため）支援が必要と感じる困りごと別（問9）

（単位：％）

《複数回答》		n	就労に関する支援	休日の趣味や余暇を過ごす支援	移動の支援	ホームヘルプサービスなど	平日の日中活動の支援	身体の機能や日常生活を助ける用具の給付	手話や点字などの情報支援	その他	わからない	無回答	
全体		441	36.5	17.5	13.4	10.9	10.0	7.7	2.5	12.2	21.8	4.8	
障がい・支援が必要と感じる困りごと別	肢体・内部・音声障がい	困っていることがある	38	26.3	21.1	28.9	21.1	13.2	23.7	-	15.8	7.9	2.6
		困っていることはない	37	10.8	16.2	8.1	5.4	2.7	10.8	-	10.8	40.5	13.5
	視覚障がい	困っていることがある	9	44.4	11.1	44.4	11.1	11.1	22.2	-	-	-	11.1
		困っていることはない	3	-	33.3	-	-	-	-	33.3	-	33.3	-
	聴覚障がい	困っていることがある	11	27.3	18.2	9.1	9.1	9.1	63.6	63.6	-	-	-
		困っていることはない	3	-	-	-	-	-	33.3	33.3	33.3	-	33.3
	知的障がい	困っていることがある	19	31.6	31.6	15.8	-	10.5	5.3	-	15.8	15.8	5.3
		困っていることはない	15	33.3	20.0	6.7	-	6.7	-	-	26.7	26.7	6.7
	精神障がい	困っていることがある	153	51.0	21.6	11.1	17.6	13.7	2.0	0.7	12.4	15.7	1.3
		困っていることはない	64	42.2	17.2	4.7	1.6	12.5	1.6	1.6	6.3	26.6	7.8
難病	困っていることがある	42	33.3	2.4	26.2	16.7	4.8	9.5	-	21.4	16.7	4.8	
	困っていることはない	37	24.3	13.5	10.8	2.7	5.4	5.4	-	5.4	45.9	2.7	

※網掛けは最も多いもの（「その他」「わからない」を除く）

障がい・（障がいや疾病のため）支援が必要と感じる困りごと別（問9）にみると、肢体・内部・音声障がいの“困っていることがある”は「移動の支援」が、“困っていることはない”は「休日の趣味や余暇を過ごす支援」が、聴覚障がいでは困りごとの有無に関わらず「身体の機能や日常生活を助ける用具の給付」や「手話や点字などの情報支援」が多くなっている。

障がい・障害福祉サービスの利用意向別（問11）

（単位：％）

《複数回答》		n	就労に関する支援	休日の趣味や余暇を過ごす支援	移動の支援	ホームヘルプサービスなど	平日の日中活動の支援	身体を助ける機能や日常生活用具の給付	手話や点字などの情報支援	その他	わからない	無回答	
全体		441	36.5	17.5	13.4	10.9	10.0	7.7	2.5	12.2	21.8	4.8	
障がい・障害福祉サービスの利用意向別	肢体・内部・音声障がい	利用したいと思うことがある	27	22.2	18.5	33.3	25.9	11.1	18.5	-	22.2	11.1	3.7
		知らない、わからない*	49	16.3	18.4	12.2	6.1	6.1	16.3	-	8.2	30.6	10.2
	視覚障がい	利用したいと思うことがある	3	33.3	33.3	33.3	-	33.3	33.3	-	-	-	-
		知らない、わからない*	9	33.3	11.1	33.3	11.1	-	11.1	11.1	-	11.1	11.1
	聴覚障がい	利用したいと思うことがある	10	20.0	10.0	10.0	10.0	10.0	70.0	70.0	10.0	-	-
		知らない、わからない*	4	25.0	25.0	-	-	-	25.0	25.0	-	-	25.0
	知的障がい	利用したいと思うことがある	15	40.0	33.3	20.0	-	13.3	-	-	20.0	6.7	6.7
		知らない、わからない*	19	26.3	21.1	5.3	-	5.3	5.3	-	21.1	31.6	5.3
	精神障がい	利用したいと思うことがある	83	53.0	26.5	9.6	12.0	20.5	1.2	-	8.4	12.0	3.6
		知らない、わからない*	140	43.6	15.7	8.6	12.9	8.6	2.1	1.4	12.1	25.0	3.6
難病	利用したいと思うことがある	25	24.0	8.0	28.0	8.0	16.0	12.0	-	24.0	12.0	4.0	
	知らない、わからない*	57	31.6	7.0	14.0	10.5	-	5.3	-	10.5	38.6	3.5	

※網掛けは最も多いもの（「その他」「わからない」を除く）

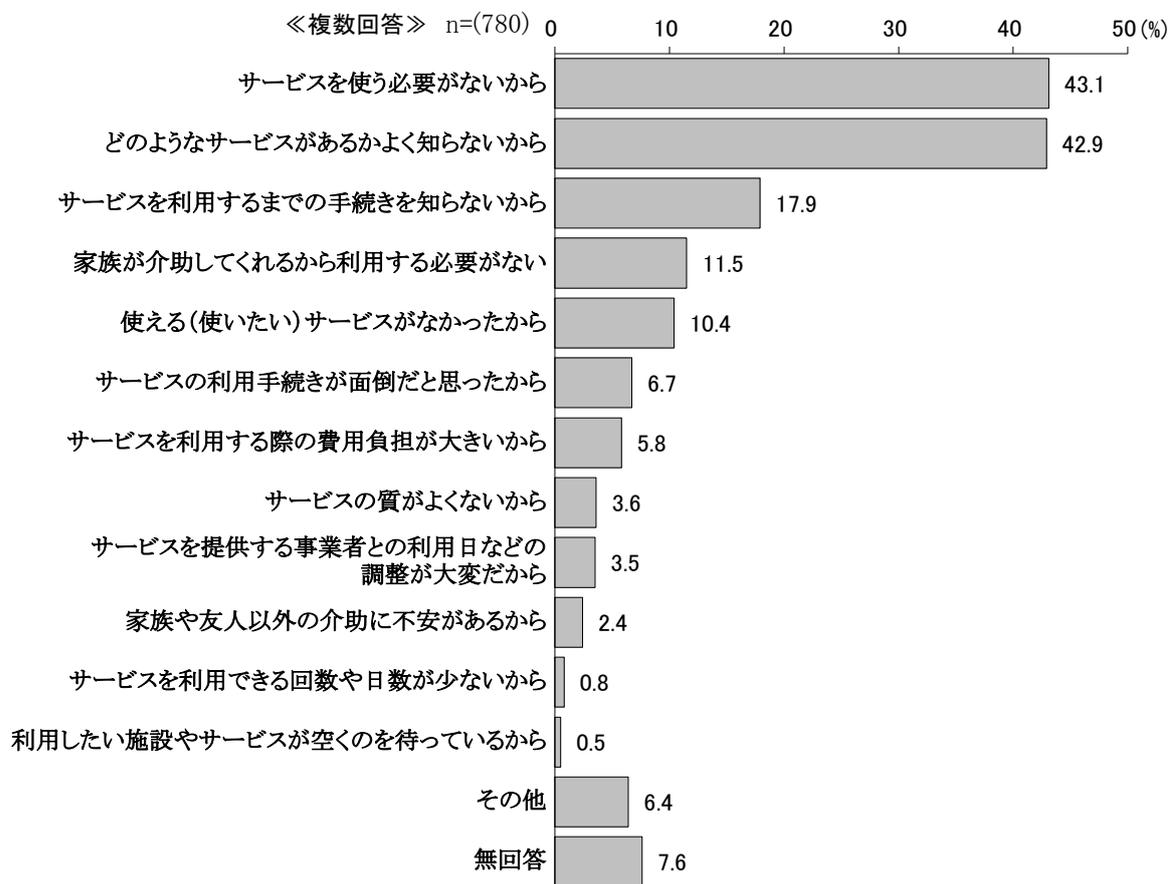
*障害福祉サービスのことを知らない、わからない

障がい・障害福祉サービスの利用意向別（問11）にみると、肢体・内部・音声障がいの“利用したいと思うことがある”は「移動の支援」が、“障害福祉サービスのことを知らない、わからない”は「休日の趣味や余暇を過ごす支援」が、聴覚障がいでは利用意向に関わらず「身体を助ける機能や日常生活を助ける用具の給付」や「手話や点字などの情報支援」が多くなっている。また、難病の“利用したいと思うことがある”では「移動の支援」も比較的多い。

(4) 障害福祉サービスを利用していない理由

【介護保険サービス未利用者（問10）のみ】

問12 現在、障害福祉サービスを利用していない理由をお答えください。
（あてはまるものすべてに○）



障害福祉サービスを利用していない理由は、「サービスを使う必要がないから」（43.1%）と「どのようなサービスがあるかよく知らないから」（42.9%）の2項目が4割台と多くなっている。

この他、「サービスを利用するまでの手続きを知らないから」（17.9%）、「家族が介助してくれるから利用する必要がない」（11.5%）、「使える（使いたい）サービスがなかったから」（10.4%）が1割台となっている。

障がい種別、年齢別

(障がいや疾病のため) 支援が必要と感じる困りごと別 (問9)

(単位:%)

障がい種別	n	サービスを使う必要がないから	どのようなサービスがあるかよく知らないから	サービスを知らないから	家族が介助してくれるから利用する必要がない	使えなかったから	サービスの手続きが面倒だ	サービスを利用する際の費用負担が大きいから	サービスの質がよいから	サービスを提供する事業者との調整が大変だから	家族や友人以外の介助に不安があるから	サービスを利用できる回数や日数が少ないから	利用したい施設やサービスが空	その他	無回答	
		43.1	42.9	17.9	11.5	10.4	6.7	5.8	3.6	3.5	2.4	0.8	0.5	6.4	7.6	
全体	780	43.1	42.9	17.9	11.5	10.4	6.7	5.8	3.6	3.5	2.4	0.8	0.5	6.4	7.6	
障がい種別	肢体・内部・音声障がい	165	50.9	32.7	11.5	12.7	9.7	3.0	2.4	3.6	1.2	1.2	0.6	-	6.7	8.5
	視覚障がい	25	40.0	44.0	20.0	44.0	16.0	8.0	16.0	4.0	4.0	4.0	-	-	4.0	4.0
	聴覚障がい	23	13.0	43.5	17.4	8.7	17.4	13.0	4.3	-	8.7	-	-	4.3	17.4	13.0
	知的障がい	65	35.4	27.7	16.9	18.5	10.8	10.8	7.7	4.6	4.6	3.1	1.5	-	3.1	12.3
	精神障がい	331	32.9	54.1	23.9	7.6	12.7	8.5	8.2	3.6	4.5	3.6	1.2	0.9	6.6	6.9
	難病	171	62.6	36.8	12.9	11.1	4.7	4.1	2.3	3.5	2.3	1.2	-	-	5.8	5.8
年齢別	19～40歳未満	156	30.1	46.8	22.4	11.5	15.4	12.8	8.3	2.6	4.5	5.1	1.9	1.3	6.4	7.7
	40～65歳未満	482	45.2	45.9	18.0	9.8	10.0	5.2	5.2	4.1	3.7	1.9	0.6	0.4	6.4	6.0
	65歳以上	130	52.3	26.2	10.8	17.7	6.2	3.8	2.3	3.1	0.8	1.5	-	-	6.2	13.8
問9別	困っていることがある	328	14.9	58.8	29.0	11.6	15.9	10.4	7.9	5.5	5.8	5.2	0.3	0.9	11.3	5.8
	困っていることはない	415	66.5	31.3	9.6	11.8	7.0	3.9	4.1	2.2	1.4	0.5	1.0	0.2	2.7	6.5

※網掛けは最も多いもの(「その他」を除く)

障がい種別にみると、「サービスを使う必要がないから」は難病で62.6%と特に多く、肢体・内部・音声障がいでも50.9%となっている。精神障がいでは「どのようなサービスがあるかよく知らないから」が54.1%と特に多くなっている。視覚障がいと聴覚障がいは「どのようなサービスがあるかよく知らないから」、また、視覚障がいでは「家族が介助してくれるから利用する必要がない」も多くなっている。

年齢別にみると、「サービスを使う必要がないから」は65歳以上で52.3%を占めている。19～40歳未満、40～65歳未満では「どのようなサービスがあるかよく知らないから」が4割台となっている。

(障がいや疾病のため) 支援が必要と感じる困りごと (問9) 別にみると、“困っていることがある”では「どのようなサービスがあるかよく知らないから」が58.8%と多く、「サービスを利用するまでの手続きを知らないから」も29.0%となっている。一方、“困っていることはない”では「サービスを使う必要がないから」が66.5%と多くなっている。

第3章 サービス未利用者調査結果

障がい・(障がいや疾病のため) 支援が必要と感じる困りごと別 (問9)

(単位:%)

障がい・(障がいや疾病のため) 支援が必要と感じる困りごと別		n	サービスを使う必要がないから	どのようなサービスがあるかよく知らないから	どのようなサービスがあるかよく知らないから	サービスをj利用するまでの手続きを知らないから	家族が介助してくれるから利用する必要がない	使える(使いたい)サービスがなかったから	思ったから	サービスの利用手続きが面倒だと	サービスを利用する際の費用負担が大きいから	サービスの質がよくないから	サービスを提供する事業者との利用日などの調整が大変だから	家族や友人以外の介助に不安があるから	サービスを利用できる回数や日数が少ないから	利用したい施設やサービスが空くのを待っているから	その他	無回答		
全体		780	43.1	42.9	17.9	11.5	10.4	6.7	5.8	3.6	3.5	2.4	0.8	0.5	6.4	7.6				
障がい・支援が必要と感じる困りごと別	肢体・内部・音声障がい	困っていることがある	51	17.6	49.0	23.5	15.7	15.7	3.9	5.9	5.9	3.9	3.9	-	-	17.6	7.8			
		困っていることはない	106	67.9	24.5	4.7	12.3	7.5	2.8	0.9	2.8	-	-	0.9	-	1.9	7.5			
	視覚障がい	困っていることがある	14	14.3	57.1	28.6	50.0	14.3	7.1	21.4	-	7.1	7.1	-	-	7.1	-			
		困っていることはない	9	88.9	33.3	11.1	33.3	22.2	11.1	11.1	11.1	-	-	-	-	-	-	-		
	聴覚障がい	困っていることがある	12	-	50.0	25.0	-	16.7	25.0	8.3	-	16.7	-	-	-	8.3	16.7	25.0		
		困っていることはない	11	27.3	36.4	9.1	18.2	18.2	-	-	-	-	-	-	-	-	18.2	-		
	知的障がい	困っていることがある	23	8.7	34.8	26.1	17.4	17.4	13.0	8.7	13.0	8.7	8.7	-	-	-	-	8.7		
		困っていることはない	38	55.3	23.7	13.2	15.8	7.9	10.5	7.9	-	2.6	-	2.6	-	5.3	10.5			
	精神障がい	困っていることがある	172	11.0	69.8	35.5	5.2	18.6	12.2	8.7	5.2	5.8	5.8	0.6	1.2	10.5	2.9			
		困っていることはない	142	59.2	38.7	12.0	11.3	7.0	4.2	7.0	1.4	2.1	1.4	1.4	0.7	1.4	7.7			
	難病	困っていることがある	56	30.4	46.4	16.1	17.9	7.1	7.1	3.6	5.4	3.6	3.6	-	-	12.5	8.9			
		困っていることはない	109	80.7	30.3	10.1	8.3	3.7	1.8	1.8	2.8	1.8	-	-	-	2.8	3.7			

※網掛けは最も多いもの(「その他」を除く)

障がい・(障がいや疾病のため) 支援が必要と感じる困りごと別 (問9) にみると、“困っていることがある” はいずれの障がいでも「どのようなサービスがあるかよく知らないから」が多くなっている。

障がい・障害福祉サービスの利用意向別（問11）

（単位：％）

《複数回答》		n	サービスを使う必要がないから	どのようなサービスがあるかよく知らないから	サービスをj利用するまでの手続きを知らないから	家族が介助してくれるから利用する必要がない	使える（使いたい）サービスがなかったから	サービスの利用手続きが面倒だと思っjたから	サービスを利用する際の費用負担が大きいから	サービスの質がよくないから	サービスを提供する事業者との利用日などの調整が大変だから	家族や友人以外の介助に不安があるから	サービスを利用できる回数や日数が少ないから	利用したい施設やサービスが空くのを待っているから	その他	無回答	
全体		780	43.1	42.9	17.9	11.5	10.4	6.7	5.8	3.6	3.5	2.4	0.8	0.5	6.4	7.6	
障がい・障害福祉サービスの利用意向別	肢体・内部・音声障がい	利用したいと思うことがある	27	11.1	25.9	14.8	7.4	25.9	3.7	7.4	7.4	3.7	-	-	-	18.5	14.8
		知らない、わからない*	49	38.8	67.3	20.4	16.3	6.1	4.1	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	-	4.1	8.2
		利用したいと思わない	73	74.0	15.1	4.1	13.7	6.8	2.7	1.4	2.7	-	-	-	-	4.1	4.1
	視覚障がい	利用したいと思うことがある	3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-
		知らない、わからない*	9	22.2	88.9	44.4	33.3	22.2	22.2	11.1	11.1	-	11.1	-	-	-	-
		利用したいと思わない	9	77.8	11.1	-	55.6	11.1	-	-	-	11.1	-	-	-	-	-
	聴覚障がい	利用したいと思うことがある	10	-	40.0	30.0	10.0	20.0	10.0	10.0	-	10.0	-	-	10.0	20.0	30.0
		知らない、わからない*	4	-	75.0	-	-	-	50.0	-	-	-	25.0	-	-	-	-
		利用したいと思わない	8	37.5	25.0	12.5	12.5	12.5	-	-	-	-	-	-	-	25.0	-
	知的障がい	利用したいと思うことがある	15	-	40.0	26.7	13.3	6.7	6.7	6.7	6.7	6.7	13.3	-	-	6.7	6.7
		知らない、わからない*	19	36.8	42.1	26.3	10.5	21.1	5.3	5.3	5.3	5.3	-	-	-	5.3	10.5
		利用したいと思わない	25	64.0	16.0	8.0	28.0	8.0	20.0	12.0	4.0	4.0	-	4.0	-	-	-
	精神障がい	利用したいと思うことがある	83	9.6	54.2	28.9	6.0	25.3	10.8	12.0	3.6	7.2	2.4	-	1.2	15.7	10.8
		知らない、わからない*	140	21.4	78.6	35.0	3.6	12.1	10.0	7.9	5.0	5.0	5.7	2.9	1.4	6.4	1.4
		利用したいと思わない	89	71.9	21.3	4.5	16.9	4.5	5.6	5.6	1.1	1.1	2.2	-	-	-	4.5
難病	利用したいと思うことがある	25	32.0	36.0	12.0	8.0	8.0	4.0	-	-	4.0	4.0	-	-	28.0	8.0	
	知らない、わからない*	57	36.8	68.4	24.6	14.0	1.8	8.8	5.3	3.5	1.8	1.8	-	-	3.5	7.0	
	利用したいと思わない	80	91.3	17.5	5.0	10.0	6.3	1.3	1.3	5.0	2.5	-	-	-	1.3	1.3	

※網掛けは最も多いもの（「その他」を除く）

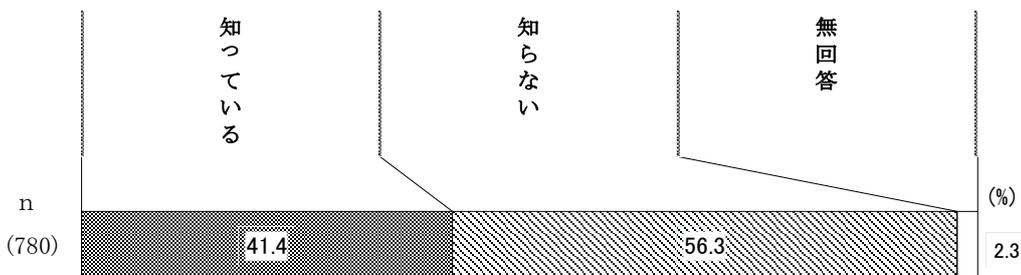
*障害福祉サービスのことを知らない、わからない

障がい・障害福祉サービスの利用意向別（問11）にみると、“利用したいと思うことがある”、“障害福祉サービスのことを知らない、わからない”は「どのようなサービスがあるかよく知らないから」が多くなっている。

(5) 町田市の障がい者支援センターの認知

【介護保険サービス未利用者（問10）のみ】

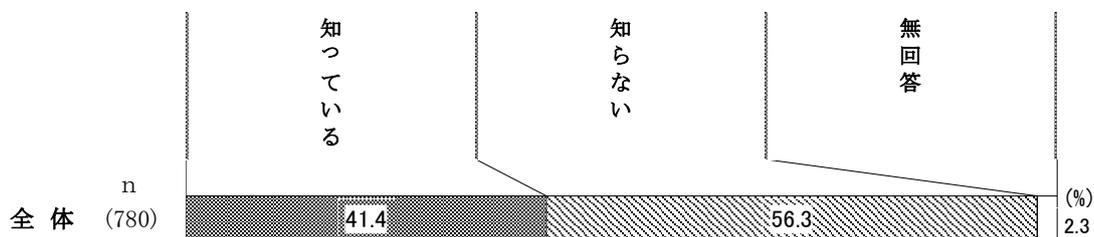
問13 あなた（本人）、もしくは家族や支援者の方は、障害福祉サービス等に関する相談や申請が出来る、町田市の障がい者支援センターのことを知っていますか。
（あてはまるもの1つに○）



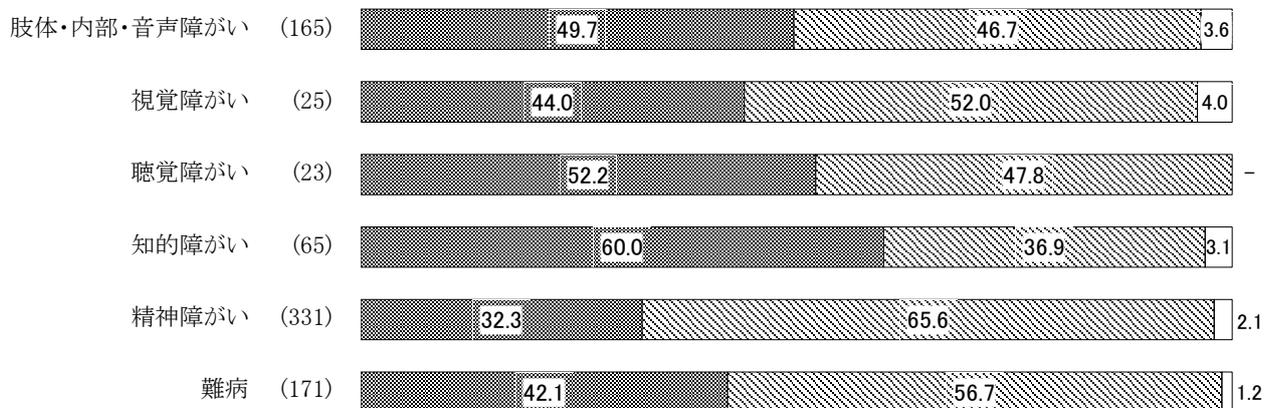
町田市の障がい者支援センターを「知っている」は41.4%、「知らない」が56.3%で、「知らない」がやや多い。

（障害福祉サービス利用者では「知っている」が80.3%、「知らない」が17.6%。）

障がい種別



【障がい種別】



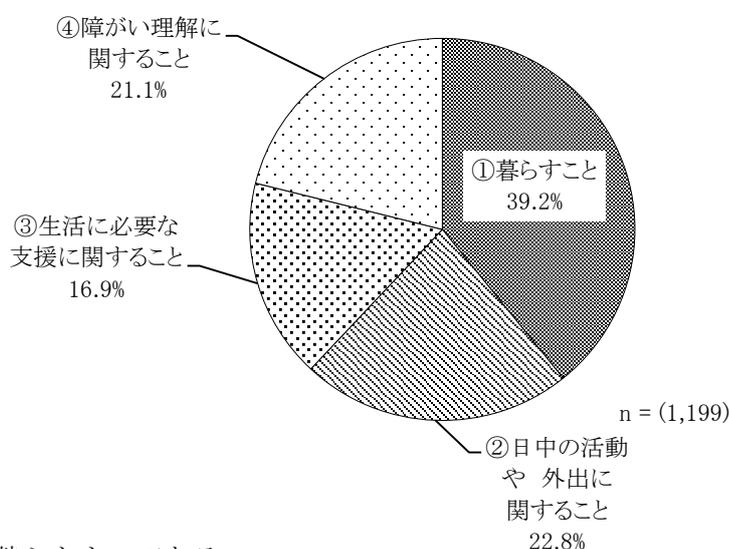
障がい種別にみると、「知っている」は知的障がい60.0%、肢体・内部・音声障がいと聴覚障がい5割前後となっている。視覚障がい、精神障がい、難病では「知らない」が5割以上となっている。

4. 生活上の困りごとについて

(1) 生活上の困りごと（自由記述）

問14 あなた（本人）は、生活している中でどのようなことに困っていますか。関心のある項目に記載ください。

生活している中で困っていることを「①暮らすこと」（470件）、「②日中の活動や外出に関すること」（273件）、「③生活に必要な支援に関すること」（203件）、「④障がい理解に関すること」（253件）4つの大きな項目に分けて自由に記述していただいた。①～④の各項目において、1人で2つ以上の内容を記述している場合は、それぞれカウントしているため、件数は延べ件数となる。



以下は一部抜粋したものである。

①暮らすこと

お金のこと〔老後の資金、生活費・医療費、収入など経済的な不安〕（224件）

- ・老後のお金が足りない。〔精神〕
- ・現在は年金生活なので特別の出費（結婚式、葬儀など）があると生活費が足りなくなる。〔難病〕
- ・給料が少ないため、障がい者年金が入っても、家のローンや病院へ行くための車の維持が大変。夫も私も自己破産しているので、どこからもお金を借りる事ができない。苦しい。〔精神〕
- ・お給料が少ないため不安。〔知的〕
- ・体がいつまでもつか、いつまで働けるか、それが心配です。また年金も少なく、老後が心配です。〔肢体・内部・音声〕

健康や日常生活、将来のこと〔体調、病気、親の介護等日常生活や将来の不安〕（76件）

- ・障がいがあっても、明るく仕事や趣味に頑張って生活しています。友人にも障がいの事を一切言っていない。父母の介護で体力的、経済的に厳しいです。主人にはあまり頼りません。〔肢体・内部・音声〕
- ・目が不自由なので身の回りのことを家族に頼らないとできない。〔視覚〕
- ・家族二人おりますが二人とも病気をもっており心配です。〔肢体・内部・音声〕

第3章 サービス未利用者調査結果

- ・病気の完治が出来ない事。〔精神〕

仕事のこと〔就労、就労継続、能力的な不安〕（55件）

- ・共働きだったが、ドクターストップがかかり世帯の収入が減ってしまったこと。いつ働ける分らないこと。〔精神〕
- ・働きたいと思っているが、サポートを受けながら就労場所を見つける手立てが不明。将来自立できるか不安。〔精神〕
- ・20年あまり勤めてきた会社にて、疾病由来の勤怠不良を問われ、能力にも劣ると解雇通知を受けた。現在弁護士を介して解雇無効の争議中。勿論、無収入になり生活不安が大きい事も有ります。〔難病〕
- ・通院のため、有給休暇取得が必要なこと。〔精神〕

家族のこと〔配偶者や親等の介護者が亡くなった場合の不安、高齢で介護できなくなったあとのこと〕（33件）

- ・将来、主人が亡くなったら生活していけるか不安。〔精神〕
- ・日常生活全般親にしてもらっているのに、いなくなった時自立できるかどうか不安。〔知的〕
- ・家族とは暮らしてはいるが、一人になった時今の年金では暮らしてはいけないと思うので不安。〔精神〕

災害時の不安〔被害、避難、避難生活〕（20件）

- ・災害時、薬が足りなくなることの不安。〔肢体・内部・音声〕
- ・昨今、災害が多く発生し、なるべく自宅にて自力で過ごし、避難所へは行かないようにしたいと思っていますが、断水の際など重い物が持てない（夫婦共に）ので、ニュースを聞く度、どうなるのだろうと心配です。〔肢体・内部・音声〕

住まいのこと〔住居や設備〕（20件）

- ・アパートや団地だと、もめやすいので平屋とかの物件を増やしてほしいです。〔精神〕
- ・電気機器の故障が不安。〔精神〕

外出の不安〔交通、移動、通院等〕（15件）

- ・交通手段！ 無料バスかタクシーがあれば良い。〔肢体・内部・音声〕
- ・駅などの階段が怖い。〔精神〕

サービス受給、手続き（15件）

- ・自立支援更新手続き等、休日対応や郵送対応をしてほしい。〔精神〕
- ・精神障がいに対するサポートやサービスが、身体障がいと比べると少ない。（交通、様々な料金の割引など）〔精神〕

その他（12件）

②日中の活動や外出に関すること

外出時の問題〔交通、移動、買物・散歩、バリアフリー〕（98件）

- ・運転免許証を返上した事により近くに出かける事（買物、旅行等）が行き詰まる。そのため引きこもりになる。〔難病〕
- ・バリアフリーの充実。階段だけの場所にスロープ、エスカレーター、エレベーターの設置。〔肢体・内部・音声〕
- ・音や匂い、人が苦手な外出しづらい。〔精神〕
- ・通院、散歩等の外出に付き添いを要する。〔視覚〕

- ・自分で自由に外出したい。〔肢体・内部・音声〕

障がいの特性や体調の問題（41件）

- ・疾患のせいで日中の活動が困難。〔精神〕
- ・「××をしなければならない」となってしまうと、どのような事であれ苦痛になってしまう。薬で落ち着くことはできるが活動ができない。〔精神〕
- ・睡眠障がいのため、日々生活時間が変動し、買い出しなどに困る時があります。〔精神〕

仕事、就労支援施設の問題（41件）

- ・障がい者の仕事が限られている。パワハラなどは耐えるしかない。〔精神〕
- ・都心に障がい者雇用が集中し通勤するのが大変。もっと地域に一般就労できる場所、企業を増やしてほしい。〔精神〕
- ・寛解していても（双極性障がい）、服薬を継続する必要があるため治療中とみなされ、就職活動で選択肢が大幅に限られてしまう。〔難病〕

活動〔余暇、スポーツ、コミュニティ〕の問題（39件）

- ・パソコンや資格の取れる勉強がしたい。支援して頂きたい。〔精神〕
- ・交流が無い事。〔知的〕
- ・余暇活動。スポーツがしたい。仲間がほしい。〔精神〕

情報提供／情報保障、相談の問題（10件）

- ・講演などに手話通訳があれば良いと思います。〔聴覚〕
- ・手話に関するイベントの情報が分からない。〔聴覚〕

外出のための支援・サービス等の問題（8件）

- ・身体障がい者手帳3級までバスの無料にパスがほしい（シルバーバスのようなもの）。〔肢体・内部・音声〕
- ・一人で外出するのが不安な時があり、外出ヘルパーボランティア等が居てくれたら良いと思う時がある。〔精神〕

対人、コミュニケーションの問題（8件）

- ・すぐにつかれやすいので、すぐにうつ状態になりやすいことが頻繁にあったので、人とのコミュニケーションが取りづらくなってしまって困っています。〔精神〕
- ・他人と交流する自信がないため、夫とともに外出する以外は、通院を除き家に引きこもっている事。〔精神〕

外出した際の周囲の理解、人の目（6件）

- ・公共の乗り物で、内部障がいの場合、なかなか理解してもらえない。ヘルプカード（マーク）等の受け取り場所を増やしてほしい。〔難病〕
- ・周りの目が気になる。〔知的〕

お金の問題（5件）

- ・お金を使うことができないため休日は出かける気にならない。〔精神〕

その他福祉施設の問題（3件）

- ・ショートステイとデイサービスの併用が出来たら嬉しい。〔精神〕

その他（14件）

③生活に必要な支援に関すること

相談〔相談、窓口の対応〕、情報の取得・保障（62件）

- ・相談場所が分からない。〔難病〕
- ・病院や窓口などで要約筆記などの情報保障がない。〔聴覚〕
- ・医療費負担の軽減、受けられるサービスを郵便などで送ってほしい。今は自分で調べないとわからないから、どのような申請があるかさえ知らず困っています。〔精神〕

手続きや更新、等級判定（26件）

- ・窓口に出向かなくても電話、FAX等で、自宅できると助かる。パソコンは時間がかかって苦手である。〔肢体・内部・音声〕
- ・証明書等の文書が分かりづらい、提出書類を簡略化して欲しい。〔精神〕
- ・身体障がい者手帳の等級が見合っていない。〔肢体・内部・音声〕

制度、サービス給付（18件）

- ・身体的状況にサービス内容が適さないこと。〔精神〕
- ・風呂券とかほしいです。月2枚とか。〔精神〕
- ・精神病は自立支援しか対応してくれない。〔精神〕

結婚、出産、子育て支援（16件）

- ・自立支援などを受けているような人でも安心して出産、子育てができる支援があると心強い。〔精神〕
- ・嫁、パートナーが欲しい。〔肢体・内部・音声〕

医療費・服薬代（14件）

- ・難病の方が多くなってきている為、支援の基準が厳しく難病でも除外されてしまい医療費が膨らむ。〔難病〕
- ・持病あるので医療費の支払いが大変です。〔知的〕

経済的〔収入、助成・手当・補助〕支援（13件）

- ・生活に必要な収入が得られるように助けて頂きたい。〔精神〕
- ・年金が少ないのでこれから先が心配。〔肢体・内部・音声〕

医療・健康〔現状、障がいの進行〕（11件）

- ・病気になった時の医療制度などが分かりづらい。いろいろなパターンに応じ、その冊子など各家庭に欲しい。〔難病〕
- ・体が動かない時大変困り果てます。トイレも厳しい状態等。〔難病〕

外出、交通（10件）

- ・単独で外出することが出来ない。〔視覚〕
- ・難病による生活困難さは、高齢になるほど深刻で、シルバーパスなどの優遇があっても、バスに乗れなくなると、家族の支援が必要となる。もっと交通面での支援が必要である。〔精神〕

一人になったとき〔親等亡き後〕の不安（7件）

- ・自分の定年後（老後）、親の死亡後が心配。住宅、食事等。〔知的〕

家族・介護者の困り事（5件）

- ・主人がデイサービスを拒否するため認知症でも絶対に行かない。今のままでしかたないと思います。〔精神〕

就労（4件）

- ・働きたいけれど、病気のせい、なかなかその気になれない。〔精神〕

住まい（2件）

- ・市営住宅などバリアフリーの環境で暮らしたい。〔聴覚〕

その他（15件）

④障がい理解に関すること

理解促進〔理解不足、見た目に関わりづらい〕（104件）

- ・内部障がいの為、外見で分かってもらえないこと。〔肢体・内部・音声〕
- ・障がいに関しての知識がない人への説明が大変。〔精神〕
- ・精神障がいなので外的には健康に見られて、職場での理解がむずかしい。〔精神〕
- ・自分自身が自らの障がい（発達障がい）を理解しきれていない。〔精神〕
- ・周囲からどう扱ったらよいかかわからないといった印象を感じる。〔肢体・内部・音声〕

障がいがあることを知られたくない、告白について（29件）

- ・障がいがあることを開示するべきか悩む時がある。〔精神〕
- ・透析を打ち明けただけで、友人が去ってしまい、とても悲しいです。だからと言って、隠して生活するのもとてもつらいです。〔肢体・内部・音声〕
- ・「精神疾患＝心が弱い。甘え」という図式が出来あがっているので隠しています。知られてしまったときが怖いです。〔精神〕

就労・就業の面で（24件）

- ・職場で他の同僚と同等以上に働いても評価が低く役割も良いものに就かせてもらえない。〔精神〕
- ・就職で理解されず採用されない。〔精神〕
- ・働いた場合、仕事先で偏見がないか、普通の人と同じ様に接してくれるかどうか。〔精神〕

外出や交通面で（18件）

- ・バスで手帳を見せると、「写真を見せろ」と言う運転手がいる。〔難病〕
- ・人との接点が少ないのでよく分からないが、歩いていたら、歩道を走っている自転車の人から罵声を浴びた事は何度もあります。〔肢体・内部・音声〕

差別（差別、周囲の目）（17件）

- ・知的障がいについて、周囲は差別的だ。〔知的〕
- ・見える障がいには、対処してもらえるが、外からわかりづらいものは、“変な人”という目で見られがちです。〔精神〕

障がいを理解してもらうのは困難（14件）

- ・家族内でも病気について理解なく、きつい言葉が返される。〔難病〕
- ・精神障がいは見た目ではわからない部分であるし、偏見も多いと思うので理解されることは難しいと思っています。〔精神〕

福祉全般、サービス等の面で（10件）

- ・緑の手帳のケースの色を黒にするなど、あまりおおよけにはわからない色にしてほしい。〔精神〕
- ・制度にあまえ過ぎていないか。〔難病〕

第3章 サービス未利用者調査結果

ヘルプマーク、ヘルプカード等の周知（9件）

- ・ヘルプマークの認知度が低いこと。〔難病〕
- ・赤いマークをバックにつけているのに、バスや電車で座っていると、責められたり非難されます。〔肢体・内部・音声〕

症状や健康の面で（8件）

- ・自分は成人したのちに発達障がいであることが判明したため、周囲よりまず自分で自分の症状が理解できていない。どこまでが症状でどこまでが性格なのか。どこまでを障がいのせいにしていいのかわからないため、自分の症状の度合いや、どの程度周囲に支援を求めているのかわからない。〔精神〕

情報提供／情報保障の面で（4件）

- ・障害福祉サービスで難病は何のサポートが提供されているのかわからない。（ホームページ見てもわからなかった。）〔難病〕

医療機関にかかる際に（4件）

- ・精神・神経科以外のクリニックにおける精神疾患のある者に対する差別が町田市、その近郊で多いと感じる。また保健師も相談事の直接関係のないことを興味本位で聞いてくるなど、医療関係者の質が低い。〔精神〕

その他（12件）

(2) 将来望む生活（自由記述）

問15 あなた（本人）は、将来どのような生活をしたいと考えていますか。ご自由にご記載ください。

将来どのような生活をしたいと考えているか自由に記述していただいたところ、延べ707件の記述があった。

以下は一部抜粋したものである。

今後必要であればサービスや制度を利用したい（135件）

- ・支援が必要になった時には、必要な福祉サービスを利用し家族の負担にならないよう自立した生活をしたい。〔難病〕
- ・なるべく自力で生活したいが、それが不可能になったらしかるべき支援を受けたい。サービスも受けたい。〔肢体・内部・音声〕
- ・現在は特に問題ないが高齢になった時に色々問題が出てくると思う。そんな時に相談に乗ってもらえたり、支援してもらえたりすると良いと思う。〔難病〕
- ・何か良い福祉サービスがあれば利用させていただきたい。〔難病〕
- ・家族と一緒に住み慣れた町で暮らしたい。それを実現できるための福祉サービスを充実して欲しい。具体的には、細かく様々なプランを選択できるような柔軟性のあるサービスがあると望ましいか。〔精神〕

住み慣れた町田市で「普通」に暮らしたい（76件）

- ・ごく普通に日常生活が送れることが出来れば良い。〔難病〕
- ・住み慣れた地域で住みなれた生活を続けたい。〔精神〕
- ・生活に不安なく住み慣れた町田で暮らしていきたいです。〔難病〕
- ・住み慣れた町で暮らしていきたい。いろいろと困難がありそうですが。〔難病〕

仕事をしたい、働き続けたい（71件）

- ・自分の好きなことを将来の仕事とし、それを突き詰めたと思っています。〔精神〕
- ・普通に働きたい。〔精神〕
- ・今の職場の正社員になり、継続して働きたい。〔精神〕
- ・できれば症状が改善されて、就労したい。〔精神〕

できるだけ自立した生活/一人暮らししたい（59件）

- ・家族に頼らず出来る事は自分でやって自立して地域で生活していきたい。〔肢体・内部・音声〕
- ・自立して生活していきたい。その為に、頼りにできる相談場所、安心できる場所があると良いです。〔精神〕
- ・自分で可能な限り、金銭面も含め自立していきたいです。家族には迷惑をかけるとは思いますが。〔難病〕

前向きで健康な生活をしたい/回復に努めたい（45件）

- ・早朝散歩や体操により体力維持に努めています。将来いつまで体力維持可能かは、心配はある。〔肢体・内部・音声〕
- ・寝たきりにならず、車椅子のいない生活。〔肢体・内部・音声〕
- ・難病に対する新薬が出てきて、体が自由に動かせるようになりたい。〔難病〕

現状のままでよい・現状に満足（39件）

- ・現状維持で暮らして行きたいです。〔肢体・内部・音声〕

第3章 サービス未利用者調査結果

- ・なるべくなら、現在と同じ生活をしていきたい。〔精神〕
- ・今の所何とか生活していますので、現状を保てればいいかな。〔難病〕

経済的に心配のない暮らし（29件）

- ・金銭上の心配をしなくて済むような生活費を得て暮らしたい。〔精神〕
- ・少々で良いから蓄えをする事が出来るくらいの、安定した暮らしを取り戻したい。〔精神〕

自由に楽しみながら暮らしたい（24件）

- ・自然豊かなところで、ログハウスを建てて旦那さんと犬と楽しく暮らしたい。〔精神〕
- ・自由に生きたい。〔難病〕

穏やかで、安定して不安のない生活をしたい（23件）

- ・毎日、おだやかに過ごしてゆきたい。〔精神〕
- ・とにかく人並み以上には、老後も含め不安なく平穏に暮らしたい。老後も独りの場合、定期的な訪問があると嬉しい。〔聴覚〕
- ・ささやかでも平穏な生活をこの町田市で続けていけることが望みです。〔視覚〕

自宅で暮らしたい（23件）

- ・我が家から離れたたくなく生きていて良かったと思える生活をしたい。〔難病〕
- ・自分の育った家で過ごしたい。〔難病〕
- ・施設へはできるだけ入らずに自宅で暮らしたい（入所中の親の生活を見ていて）。子どもに迷惑をかけるようになれば、それはさけたいので施設への入所を考えますが。〔肢体・内部・音声〕

家族等亡きあとも安心して生活したい（21件）

- ・親が亡くなり、一人になった時、どうすれば良いか不安です。〔精神〕
- ・今の所主人が居ますので、病院の送り迎えすべて、やってくれます。一人になった時が不安です。〔難病〕
- ・障がい者年金と収入だけで、生活をしていけるか。今は母と妹といるが、1人になっても生活していけるか。〔聴覚〕

家族と一緒に暮らしたい・続けたい（20件）

- ・ずっと親と一緒に生活したい。〔聴覚〕
- ・可能な限り、家族全員で穏やかに暮らせるならばそれ以上の望みはありません。〔精神〕

障がい者に理解ある地域・社会で、助け合いながら生活したい（19件）

- ・精神疾患でもきかねなく、理解が得られる環境で静かにくらしたい。〔精神〕
- ・周囲の理解が不十分で焦りを感じてしまい、不安定になることがあります。頑張っているのにと悲しくなることがあります。〔精神〕

まだわからない、考えていない、考える余裕がない、不安しかない（17件）

- ・将来を考える余裕がない。〔難病〕
- ・今のところ、元気なので考えていない。〔難病〕

制度や環境の良い場所での生活を希望（11件）

- ・日本は不安だから、海外で暮らしたい。沢山年金払って障がい者なのに5級なのであまり福祉に助けて貰えていない。
- ・福祉サービスの良い地域に住みたいと思います。〔視覚〕

外出しやすい生活（11件）

- ・施設の中だけでなくもっと外の空気を吸いたい。近くの公園、季節の移り変わりを見たい。〔肢体・内部・音声〕
- ・市内循環バスがあれば行動しやすくなる。〔肢体・内部・音声〕

結婚したい、家庭を持ちたい（10件）

- ・結婚も出産もしたいので、疾患があることを理由に諦めたくはないです。〔精神〕
- ・自立して普通に結婚して子どもを持ち暮らしていきたい。〔難病〕

家族や周りに迷惑をかけずに過ごしたい（9件）

- ・将来は子ども達に迷惑をかけたくない。介護が必要になったら受けたいと思う。〔肢体・内部・音声〕
- ・人にあまり迷惑をかけないで生き続けたい。〔肢体・内部・音声〕

将来の生活について相談・情報を得たい（9件）

- ・特別扱いは必要ありません。何が必要かはその人の数だけあって、健常も障がいもそれは変わらないです。“話し合う時間”を下さい。前例がないなら、一緒に創る相談をさせて下さい。私たちは、同じ人間です。〔精神〕
- ・先々に必要になってくる介護サービスを受ける為の準備をしたいので、手続きの仕方を教えてくれる資料が欲しい。〔難病〕

施設で生活したい（8件）

- ・難病が進行したら、家族に迷惑・負担をかけさせない様に施設に入所したい。〔難病〕
- ・多少元気な人が入れる施設で暮らしたい。〔精神〕

社会貢献、地域還元したい（6件）

- ・自分も何かしら役立つ事が出来ると思えるものを探して行動していきたい。〔精神〕
- ・体調と向き合いながら、今居る場所で今ある人間関係を保ちながら暮らしたい。また、何かして頂くだけでなく私でも出来ることで社会の役にたちたいと考えています。〔肢体・内部・音声〕

長生きはしたくない、死を受け入れる（6件）

- ・人工透析をしながら、もしこの先重病を覆うことになるようならば治療をせず死を受け入れたいと思います。今の所守るものもないし、散々わがままな事ばかりしてきたので。後は、周りに迷惑かけないようにしたいと考えています。〔肢体・内部・音声〕

グループホームで生活したい（5件）

- ・将来、グループホームに入って、暮らしたい。〔知的〕
- ・一般就労でもグループホームに入所できるようになって欲しい（食事が心配な為）〔知的〕

手助けや援助を受けながら（4件）

福祉や医療がより充実してほしい（4件）

交流・活動の場がある生活をしたい（2件）

仲間や同じ障がいのある人と一緒に暮らしたい（2件）

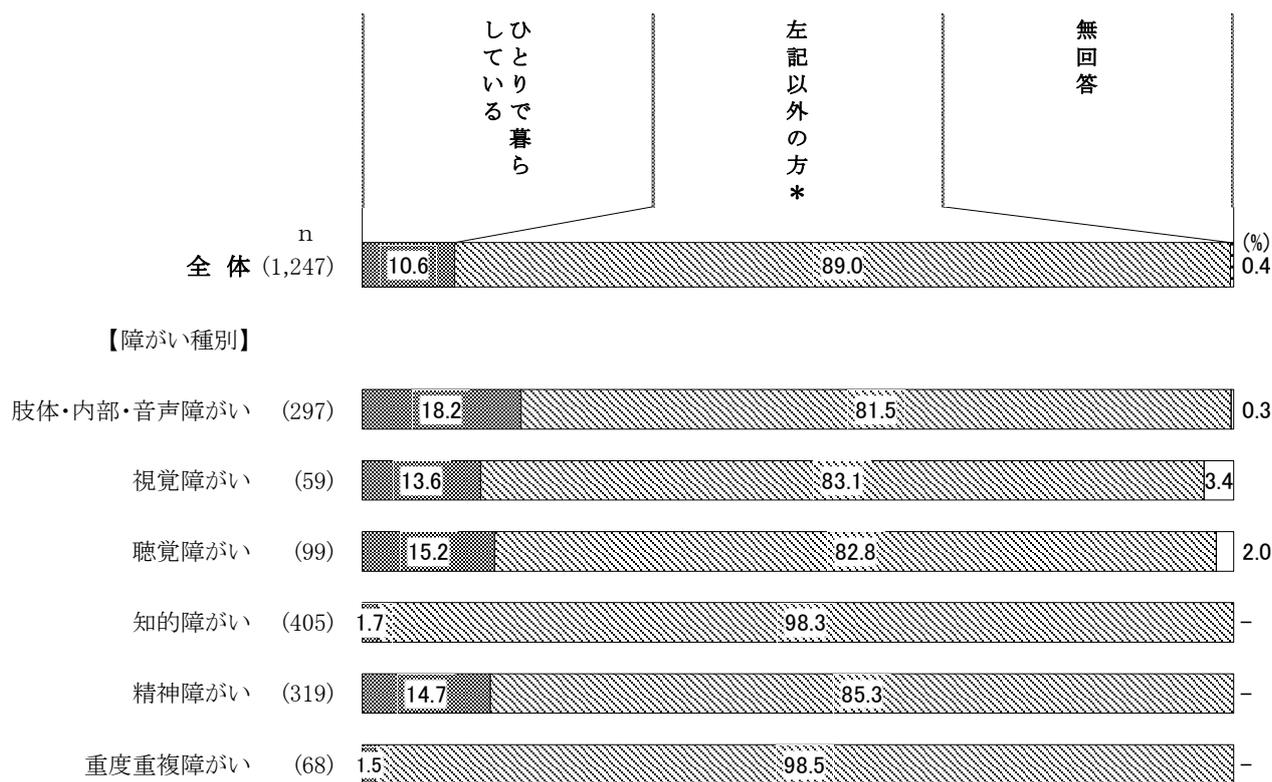
その他（19件）

第4章 暮らしの形態や障がい・ 疾病の内容からみえてくること

1. ひとり暮らしの状況（サービス利用者）

介助者の高齢化や親亡きあとの問題などを見すえた、障がいのある人の地域での暮らしを支える仕組みづくりが求められていることを踏まえ、ひとり暮らしの方の困り事やニーズ等について調査結果からみえてきたことを本項目に掲載している。

障がい種別 同居者（ひとり暮らし／それ以外の2区分）

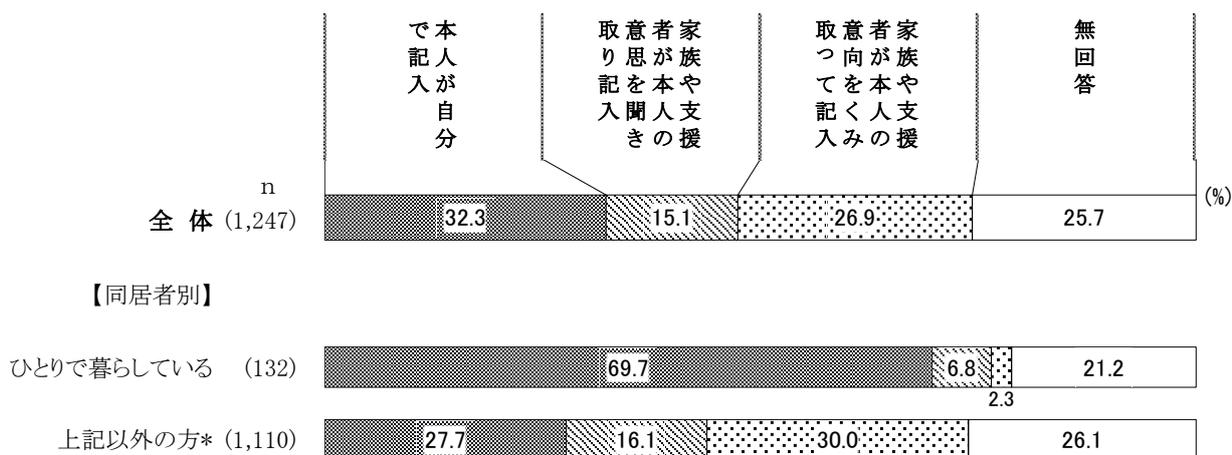


* 「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した方

独居は10.6%、独居以外は89.0%となっている。

障がい種別にみると、独居は肢体・内部・音声障がい、視覚障がい、聴覚障がい、精神障がいで1割台となっている。独居以外はいずれも8割以上で、知的障がいや重度重複障がいでは全数近くを占めている。

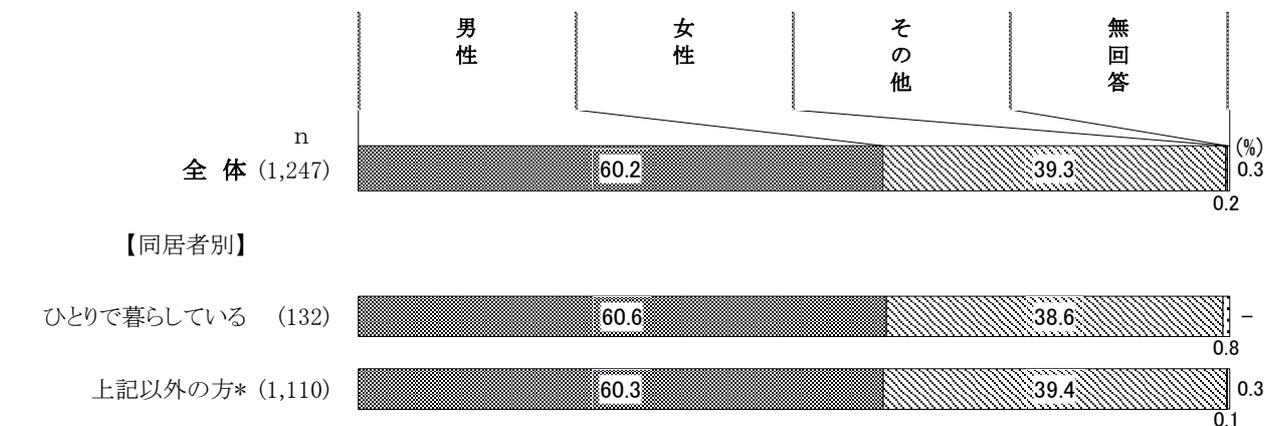
問1 調査票記入者



* 「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した方

独居では本人の記入が7割近くと多く、本人以外（「家族や支援者が本人の意向をくみ取って記入」と「家族や支援者が本人の意思を聞き取り記入」）は独居以外で46.1%となっている。

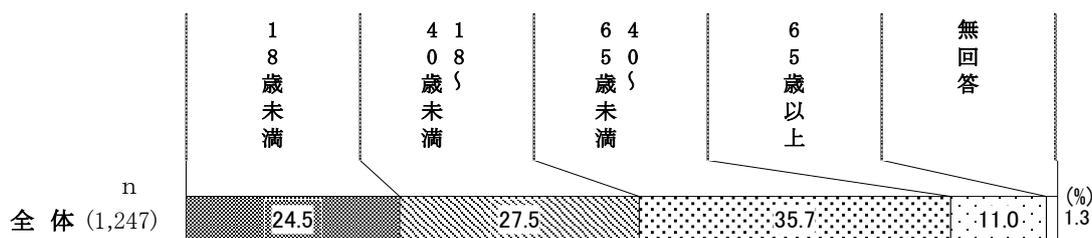
問2 性別



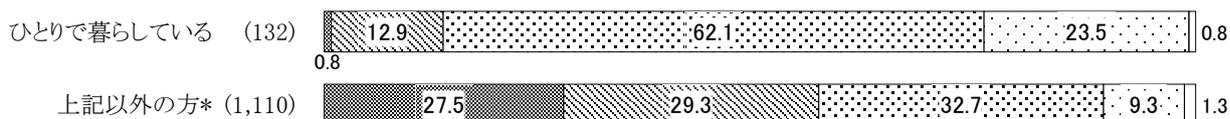
* 「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した方

独居と独居以外で性別に大きな差はみられない。

問3 年齢



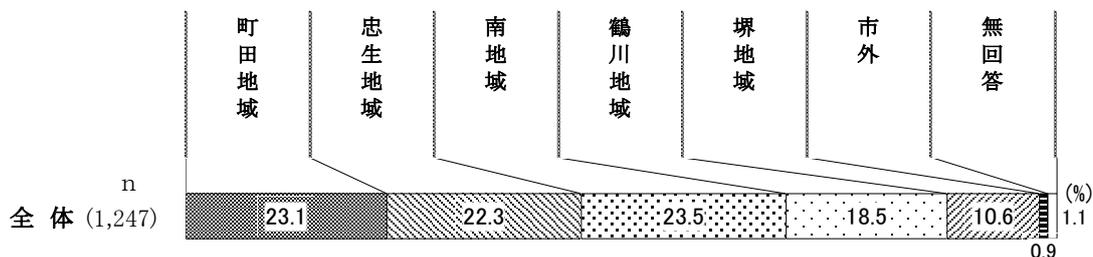
【同居者別】



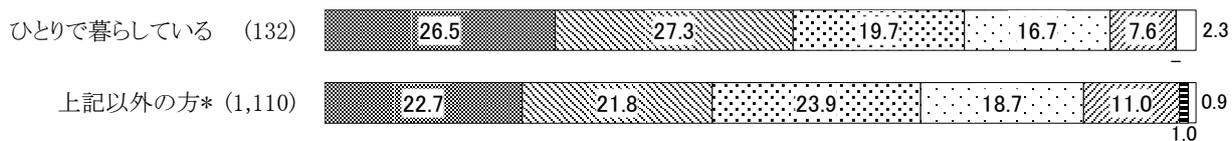
* 「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した方

独居では「40～65歳未満」が62.1%を占める。独居以外では40歳未満の割合が多くなっている。

問4 居住地域



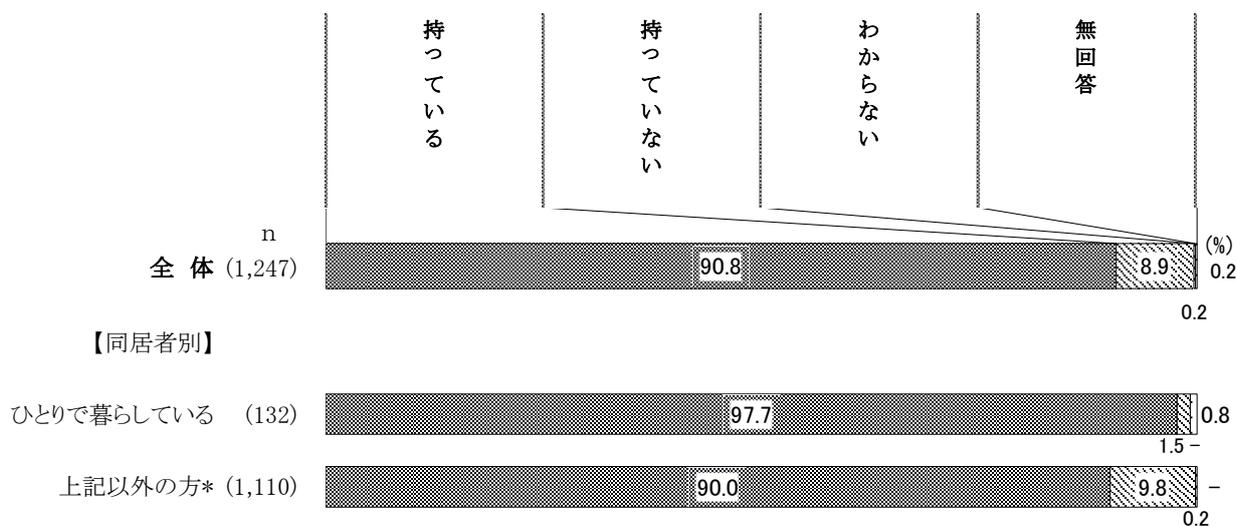
【同居者別】



* 「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した方

独居、独居以外ともに各地域に分散している。

問5 障がい者手帳の所持



*「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した方

独居、独居以外ともに「持っている」が9割台を占めている。

【問5で「持っている」と回答した方】

問5-1 所持している手帳の種類と等級（複数回答）

(単位: %)

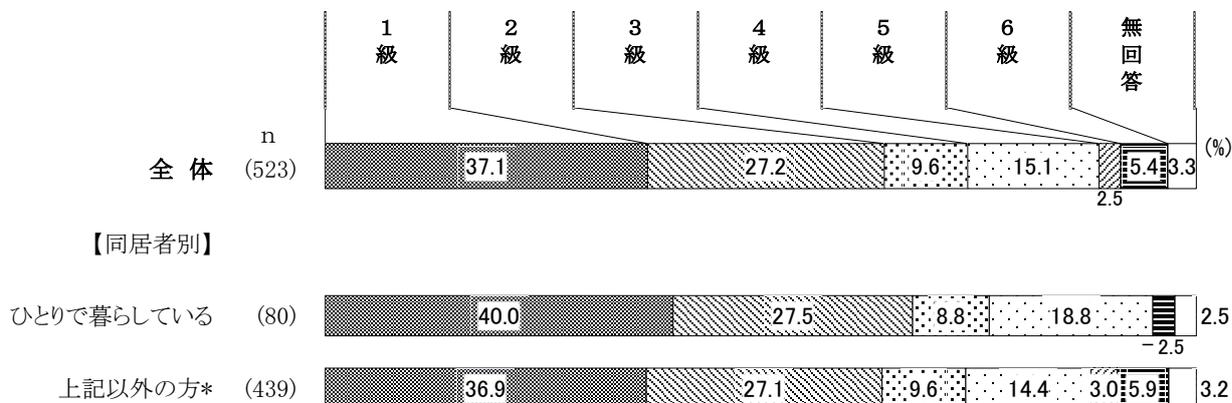
《複数回答》		n	身体障害者手帳	(愛の手帳 療育手帳)	精神障害者保健福祉手帳	無回答
全体		1,132	46.2	50.9	15.1	0.1
同居者別	ひとりで暮らしている	129	62.0	7.0	34.9	-
	上記以外の方*	999	43.9	56.8	12.6	0.1

※網掛けは最も多いもの

*「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した方

独居では「身体障害者手帳」が62.0%、「精神障害者保健福祉手帳」が34.9%、独居以外では「愛の手帳」が56.8%、「身体障害者手帳」が43.9%となっている。

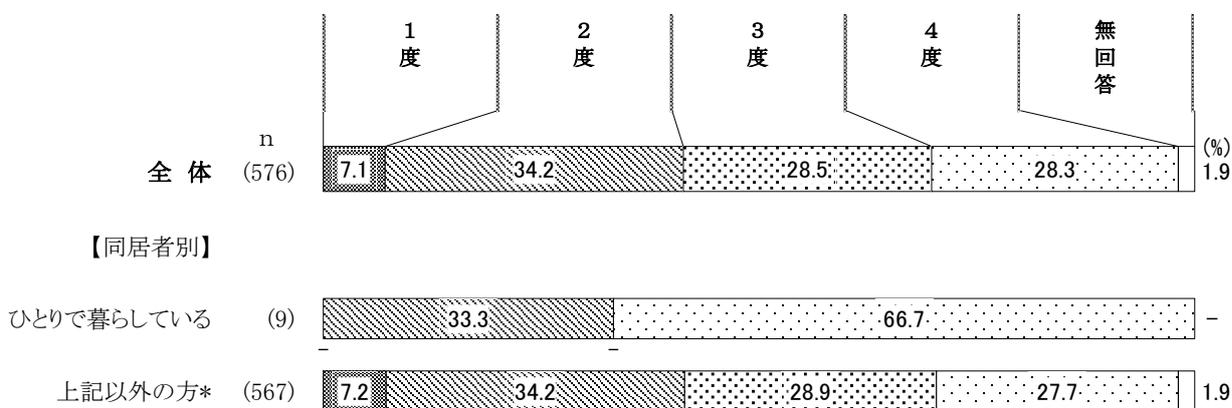
◆身体障害者手帳の等級



* 「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した方

独居、独居以外で等級に大きな差はみられない。

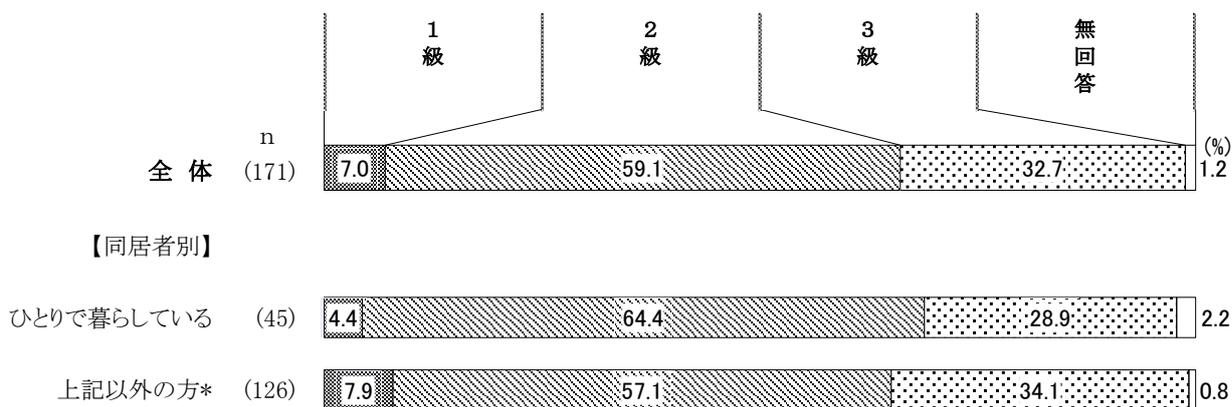
◆愛の手帳の等級



* 「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した方

独居では「4度」が多く、独居以外では「2度」、「3度」、「4度」に2割から3割台で分散している。

◆精神障害者保健福祉手帳の等級



* 「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した方

独居、独居以外ともに「2級」が5割以上と多く、独居では64.4%となっている。

問6 障がいや疾病の内容（複数回答）

(単位: %)

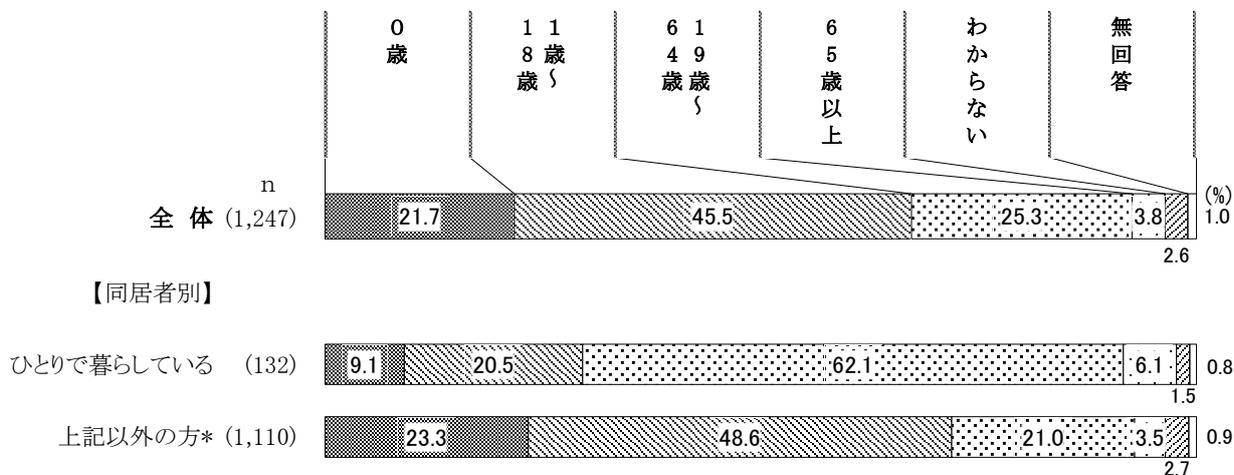
障がい・疾病内容	n	知的障がい	発達障がい	肢体不自由・体幹機能障がい	精神疾患・精神障がい	聴覚・平衡機能障がい	臓・腎臓・直腸など（心臓・呼吸器・肝臓）	視覚障がい	音声・言語・そしゃく機能障がい	難病	高次脳機能障がい	その他	無回答
		全体	1,247	43.3	25.3	21.7	13.4	9.0	7.9	6.3	5.5	4.5	2.4
同居者別													
ひとりで暮らしている	132	6.1	3.0	31.8	35.6	12.1	13.6	9.1	3.8	6.1	1.5	3.0	1.5
上記以外の方*	1,110	47.9	28.1	20.5	10.7	8.5	7.2	5.9	5.6	4.3	2.5	5.2	1.1

※網掛けは最も多いもの（「その他」を除く）

* 「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した方

独居では「精神疾患・精神障がい」、「肢体不自由・体幹機能障がい」が3割台と多い。独居以外では「知的障がい」が47.9%となっている。

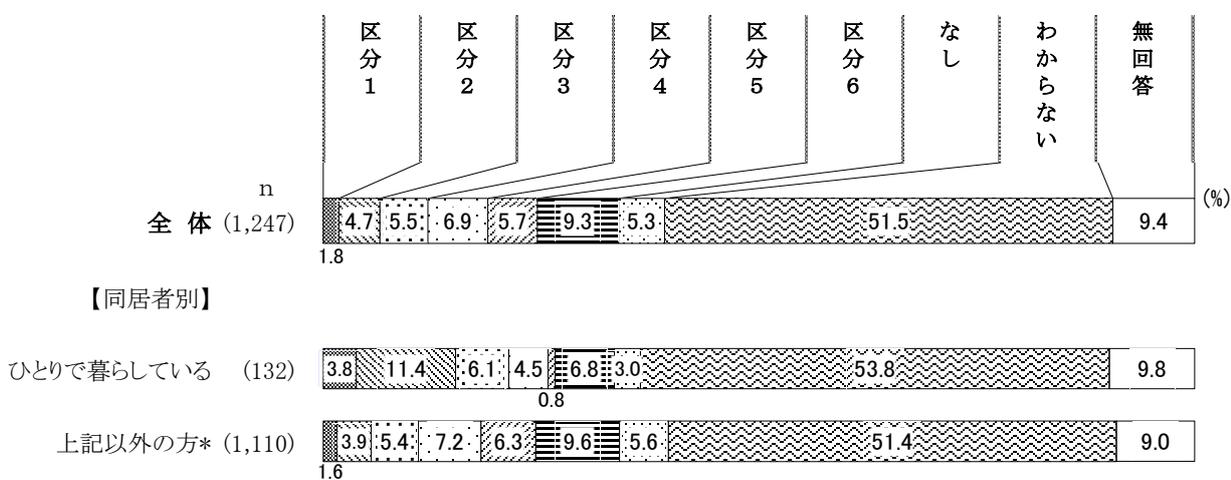
問7 障がいや疾病に気づいた時期



* 「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した方

独居では「19歳～64歳」が62.1%を占める。独居以外では「1歳～18歳」が48.6%となっている。

問8 障害者総合支援法での障害支援区分

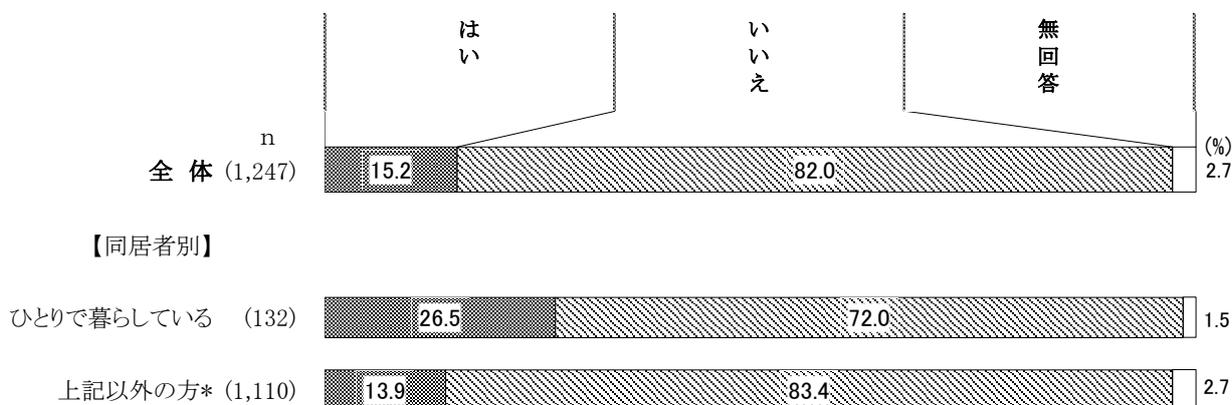


* 「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した方

独居では「区分2」が11.4%と独居以外より多くなっている。「わからない」は独居、独居以外ともに5割台となっている。

※障害支援区分について「なし」又は「わからない」が全体の56.8%を占める結果になったのは、回答者1,247名のうち、約50%の人が区分を取得することなく利用が可能な障害福祉サービス等を単独で利用しているためと考えられる。

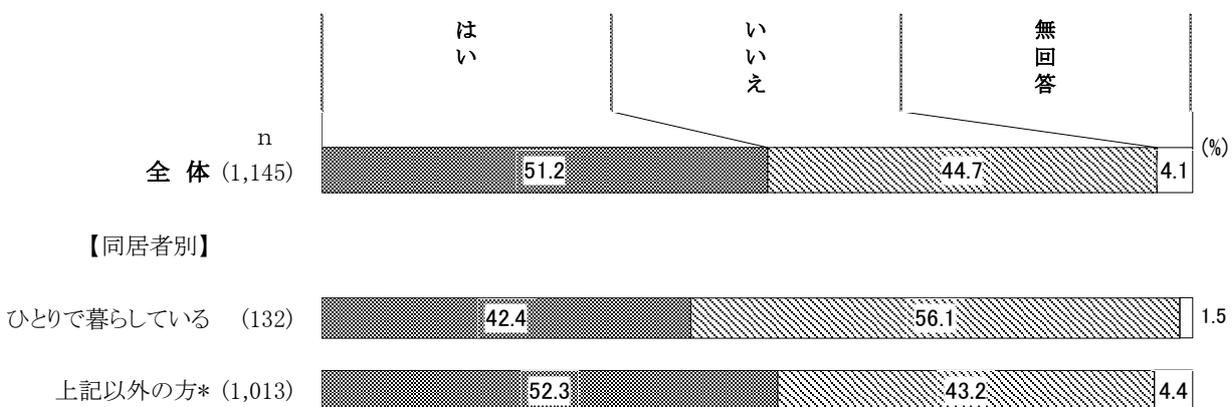
問9 介護保険サービスの利用の有無



* 「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した方

利用者は独居では26.5%と、独居以外では13.9%となっている。

【問10で「ひとりで暮らしている」または「家族と暮らしている」と回答した方】
問10-1 自宅での生活の支援の有無



* 「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した方

支援を必要とする人は独居で42.4%、独居以外で52.3%となっている。

【問10-1で「はい」と回答した方】
問10-2 自宅での生活の支援者（複数回答）

（単位：％）

《複数回答》		n	家族などから支援を受けている	ホームヘルパー等の訪問支援サービスを利用している	その他（有償ボランティア、私費ヘルパー等を含む）	無回答
全体		586	86.2	28.0	2.4	0.7
同居者別	ひとりで暮らしている	56	17.9	94.6	1.8	3.6
	上記以外の方*	530	93.4	20.9	2.5	0.4

※網掛けは最も多いもの

*「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した

独居では「ホームヘルパー等の訪問支援サービスを利用している」が94.6%となっているのに対し、独居以外では「家族などから支援を受けている」が93.4%となっている。

【問10-2で「ホームヘルパー等の訪問支援サービスを利用している」と回答した方】
問10-3 利用中の訪問支援サービス（複数回答）

（単位：％）

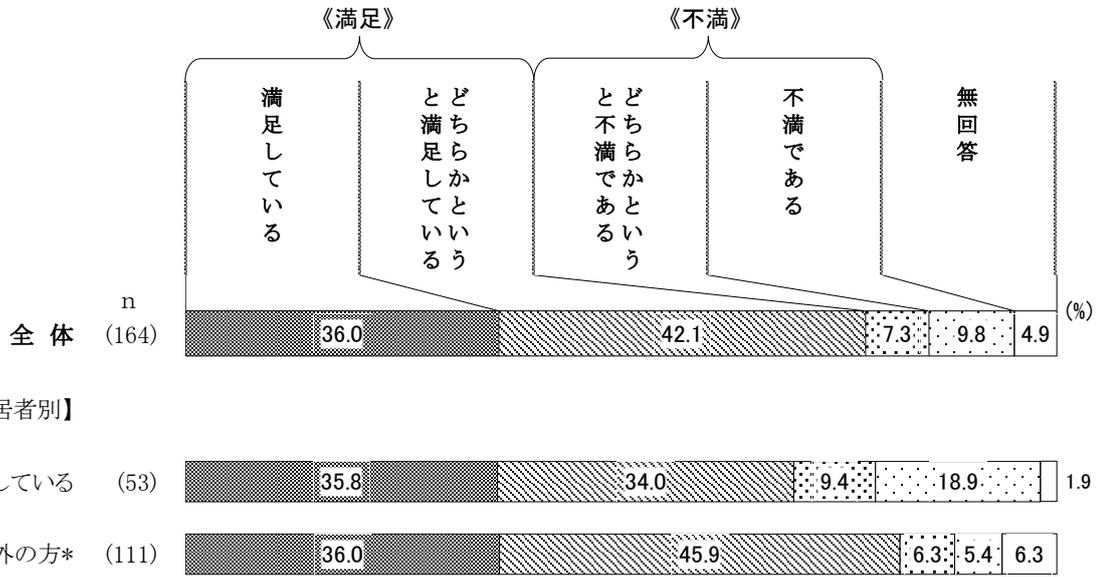
《複数回答》		n	居宅介護（ホームヘルプ）	重度訪問介護	行動援護	無回答
全体		164	72.6	18.9	7.9	6.7
同居者別	ひとりで暮らしている	53	71.7	18.9	5.7	5.7
	上記以外の方*	111	73.0	18.9	9.0	7.2

※網掛けは最も多いもの

*「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した

独居、独居以外ともに「居宅介護（ホームヘルプ）」が7割台を占める。

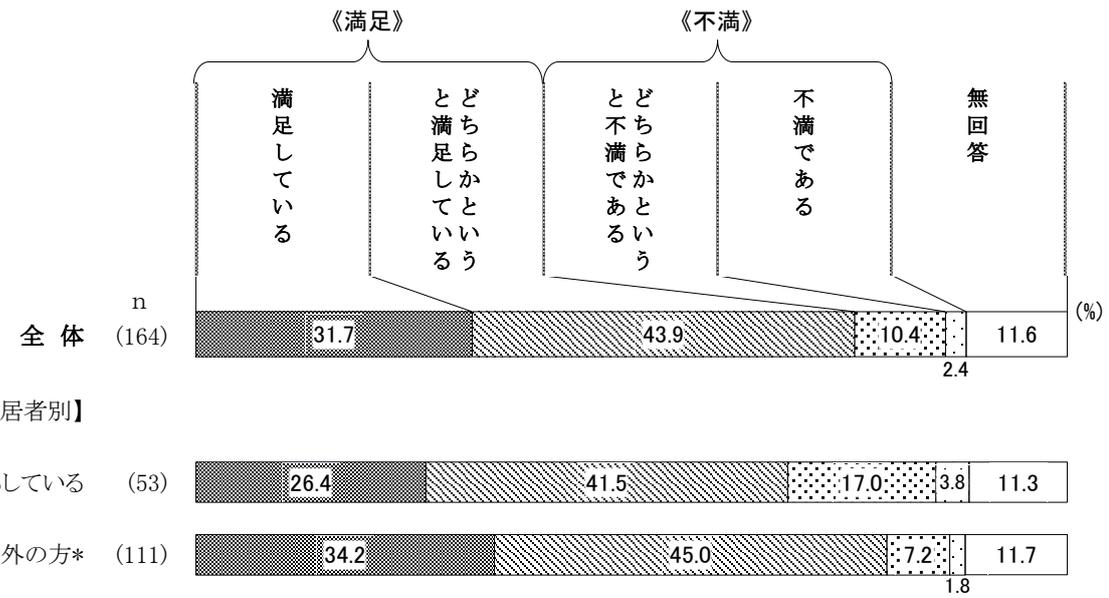
【問10-2で「ホームヘルパー等の訪問支援サービスを利用している」と回答した方】
問10-4 利用中の訪問支援サービス（量）の満足度



* 「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した方

サービスの量：「満足している」は同様の傾向であるが、《満足》（「満足している」＋「どちらかという満足している」）では独居以外が81.9%と多く、独居は69.8%となっている。

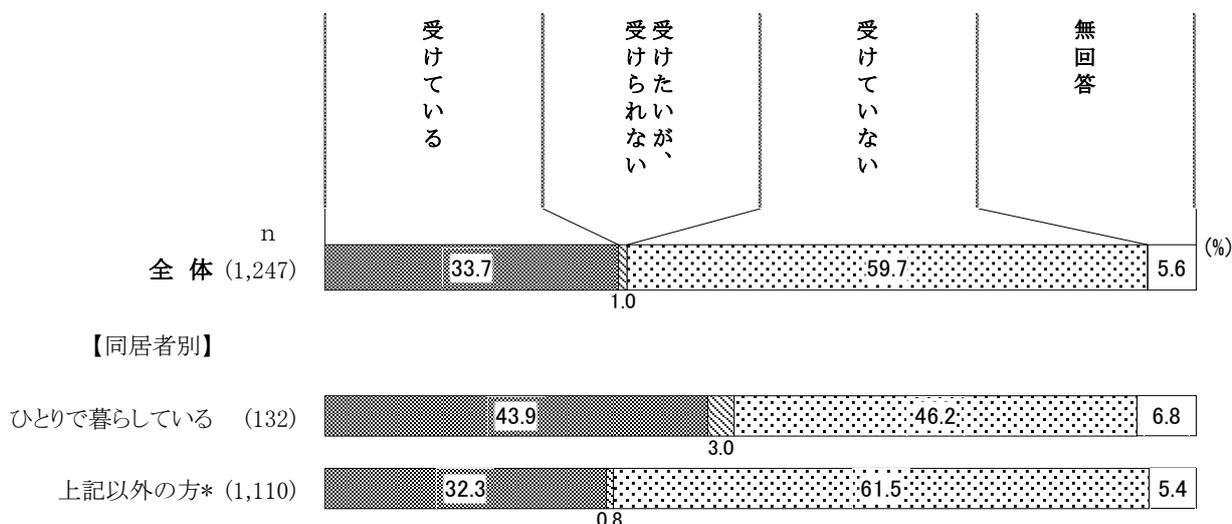
【問10-2で「ホームヘルパー等の訪問支援サービスを利用している」と回答した方に】
問10-4 利用中の訪問支援サービス（質）の満足度



* 「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した方

サービスの質：「満足している」は独居以外で34.2%となっており、《満足》（「満足している」＋「どちらかという満足している」）でも独居以外は79.2%と独居の67.9%より多くなっている。

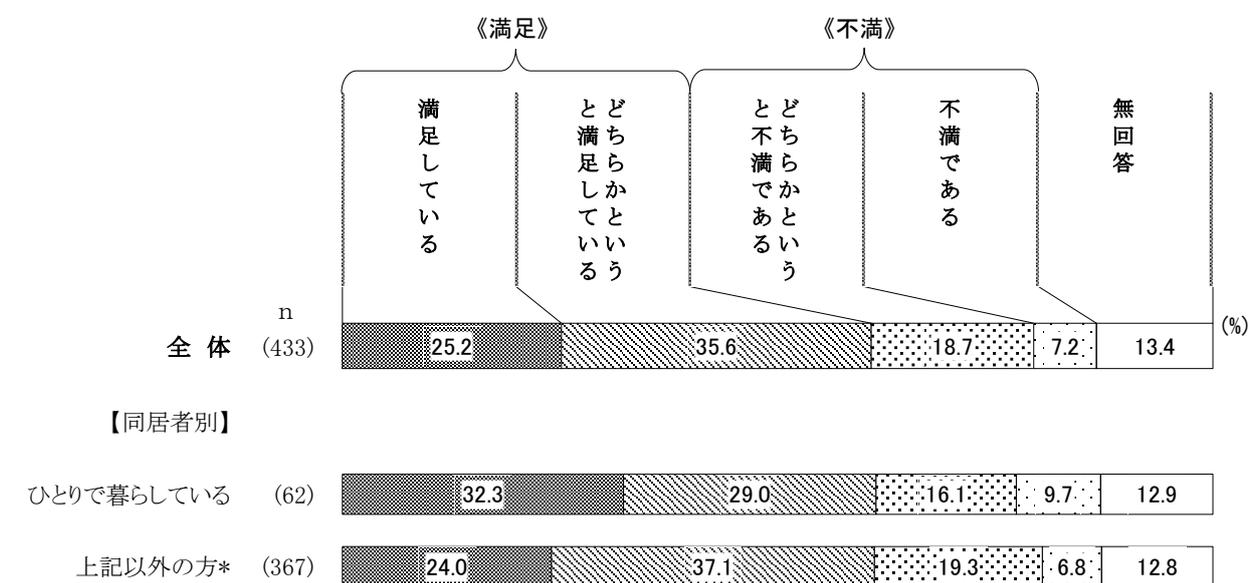
問 11 補装具や日常生活用具の給付状況



* 「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した方

「受けている」は独居が43.9%、独居以外は32.3%となっている。

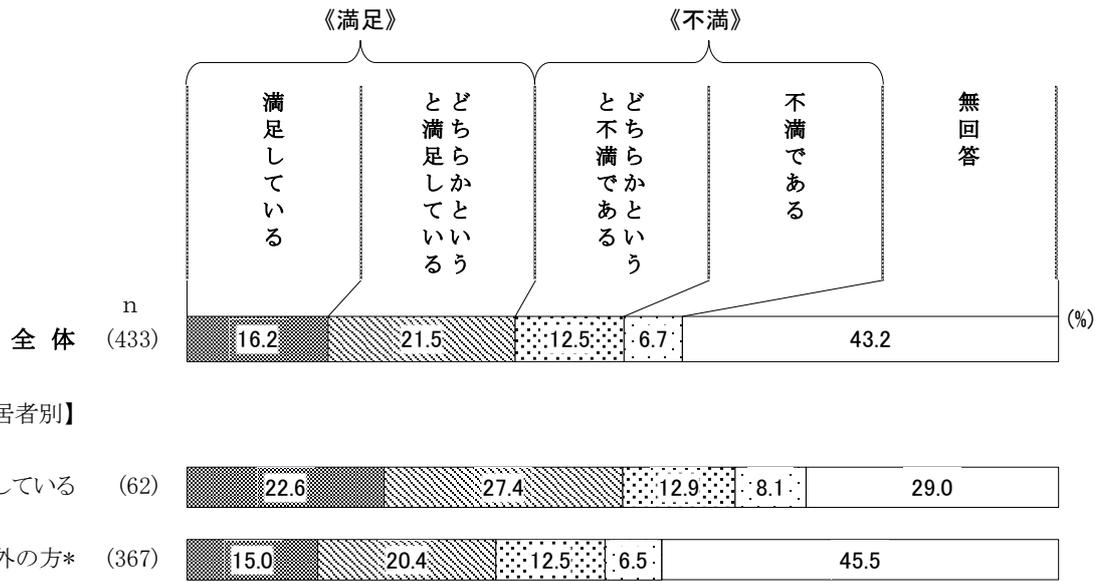
【問 11 で「受けている」または「受けたいが、受けられない」と回答した方】
問 11-1 補装具の給付サービスの満足度



* 「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した方

「満足している」は独居で32.3%となっているが、《満足》（「満足している」 + 「どちらかかという」と満足している）では大きな差はみられない。

【問11で「受けている」または「受けたいが、受けられない」と回答した方】
問11-1 日常生活用具の給付サービスの満足度



*「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した方

「満足している」は独居で多く、《満足》（「満足している」＋「どちらかという満足している」）では独居が50.0%で、独居以外は35.4%となっている。

問12 平日の昼間の過ごし方（複数回答）

(単位: %)

過ごし方	n	福祉的就労や日中活動に参加している	主に自宅で過ごしている	学校に通っている	一般就労している	障がい児の通所施設に通っている	家事労働をしている	保育園・幼稚園・認定こども園に通っている	介護保険のデイサービスを利用している	精神デイケアを利用している	その他	無回答
全体	1,247	32.2	22.6	20.5	12.3	12.2	8.1	3.1	2.6	1.4	5.7	2.4
同居者別												
ひとりで暮らしている	132	21.2	49.2	0.8	24.2	1.5	15.2	-	3.0	3.0	12.1	3.8
上記以外の方*	1,110	33.6	19.2	23.0	11.0	13.5	7.1	3.5	2.6	1.2	4.7	2.3

※網掛けは最も多いもの（「その他」を除く）

*「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した方

独居では「主に自宅で過ごしている」が49.2%と最も多く、「一般就労している」、「福祉的就労や日中活動に参加している」が2割台となっている。独居以外では「福祉的就労や日中活動に参加している」が33.6%で最も多く、「学校に通っている」が2割台となっている。

【問12で「障がい児の通所施設に通っている」、「一般就労している」、「福祉的就労や日中活動に参加している」と回答した方】
 問12-1 利用中の通所サービス（複数回答）

(単位:%)

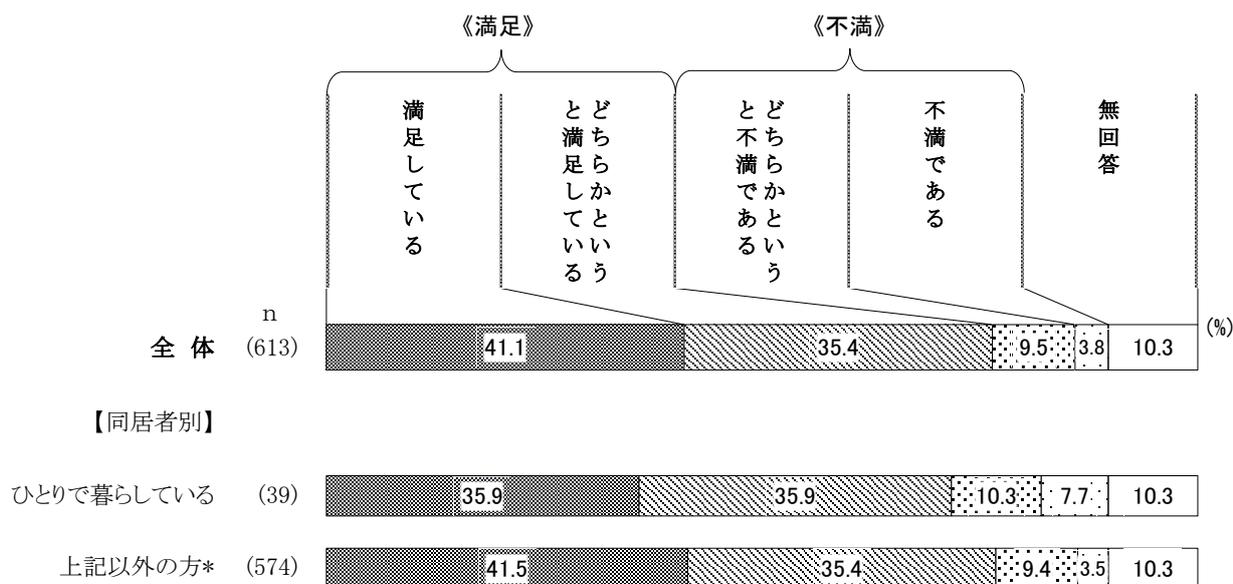
《複数回答》		n	就労継続支援B型	生活介護	就労継続支援A型	就労定着支援	就労移行支援	地域活動支援センター まちプラ	自立訓練	その他	現在利用しているサービスはない	無回答
全体		553	30.6	26.6	5.6	4.7	3.3	2.0	1.6	2.5	15.9	11.2
同居者別	ひとりで暮らしている	58	32.8	6.9	1.7	6.9	6.9	1.7	1.7	6.9	36.2	6.9
	上記以外の方*	495	30.3	28.9	6.1	4.4	2.8	2.0	1.6	2.0	13.5	11.7

※網掛けは最も多いもの(「その他」「現在利用しているサービスはない」を除く)

*「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した方

「就労継続支援B型」は独居、独居以外ともに3割台と最も多い。独居以外では「生活介護」も28.9%と多くなっている。また、「現在利用しているサービスはない」は独居で36.2%と比較的多くなっている。

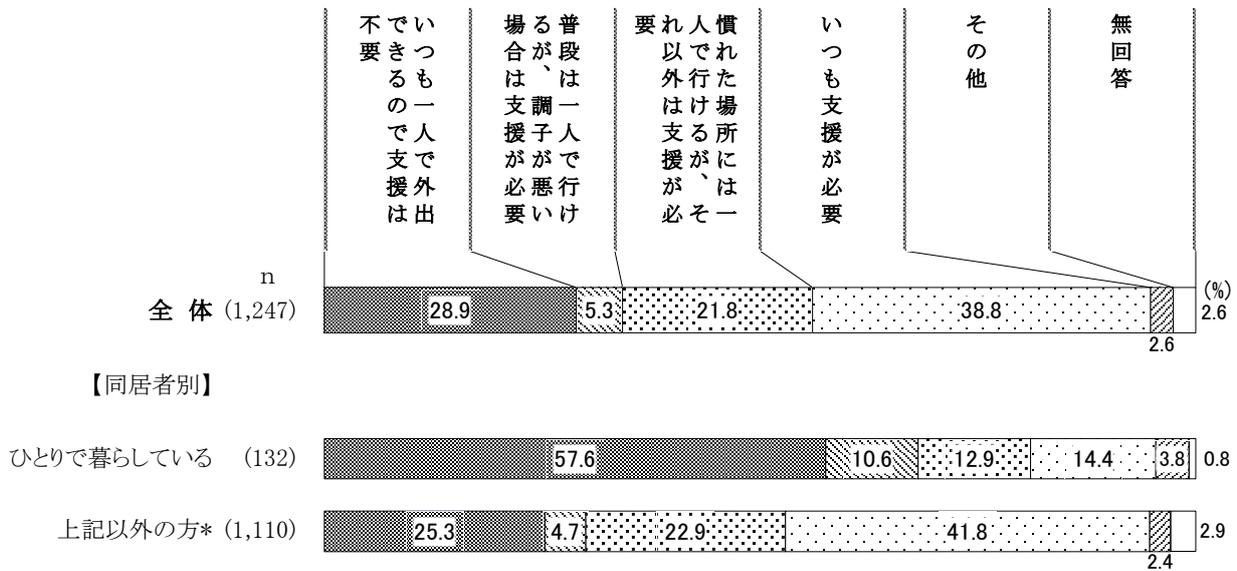
【問12で「障がい児の通所施設に通っている」、「一般就労している」、「福祉的就労や日中活動に参加している」と回答した方】
 問12-2 利用中の通所サービスの満足度



*「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した方

「満足している」は独居以外で42.7%と多いが、《満足》(「満足している」+「どちらかという満足している」)は独居、独居以外ともに7割台を占め、大きな差はみられない。

問13 外出時の支援の必要性



独居では「いつも一人で外出できるので支援は不要」が57.6%と多い。独居以外では「いつも支援が必要」が41.8%となっている。

【問13で「普段は一人で行けるが、調子が悪い場合は支援が必要」、「慣れた場所には一人で行けるが、それ以外は支援が必要」、「いつも支援が必要」、「その他」のいずれかに回答した方
問13-1 外出の際に受けている支援（複数回答）

		(単位: %)					
「複数回答」	n	家族に付き添ってもらっている	福祉サービスを利用している	友人や知人、ボランティア等に付き添ってもらっている	福祉タクシーなどの移送サービスを利用している	その他	無回答
全体	854	81.4	31.0	8.8	5.9	4.3	3.2
同居者別							
ひとり暮らし	55	29.1	56.4	18.2	20.0	21.8	1.8
上記以外の方*	797	84.9	29.2	8.2	4.9	3.1	3.3

※網掛けは最も多いもの(「その他」を除く)

*「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した方

外出時に移動の支援が必要な人のうち、独居では「福祉サービスを利用している」が56.4%と最も多く、独居以外では「家族に付き添ってもらっている」が84.9%ととくに多く、「福祉サービスを利用している」が29.2%となっている。なお独居においても、「家族に付き添ってもらっている」が29.1%と2番目に多くなっている。

【問13-1で「福祉サービスを利用している」と回答した方】
問13-2 外出の際に利用している福祉サービス（複数回答）

(単位: %)

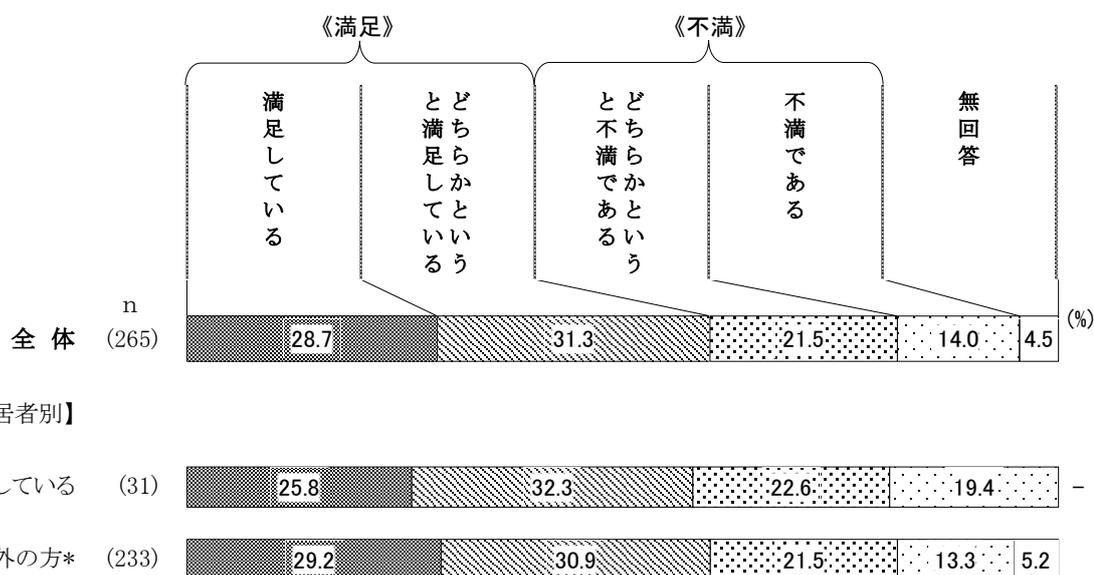
《複数回答》		n	移動支援	同行援護	重度訪問介護	行動援護	無回答
全体		265	65.3	21.5	12.1	6.4	6.0
同居者別	ひとりで暮らしている	31	41.9	32.3	32.3	12.9	3.2
	上記以外の方*	233	68.7	19.7	9.4	5.6	6.4

※網掛けは最も多いもの

*「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した方

独居、独居以外ともに「移動支援」が4割以上と多く、独居以外では68.7%となっている。独居ではこの他、「同行援護」、「重度訪問介護」も3割台となっている。

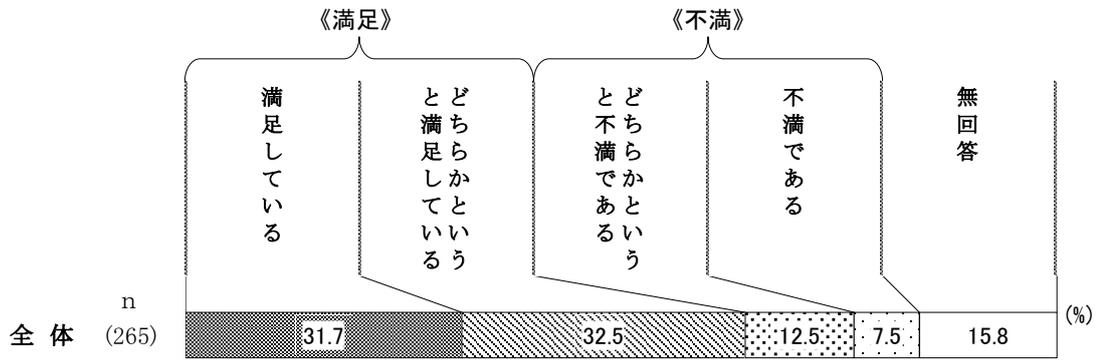
【問13-1で「福祉サービスを利用している」と回答した方】
問13-3 外出の際に利用している福祉サービス（量）の満足度



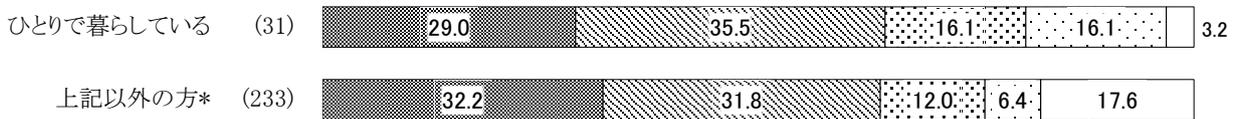
*「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した方

独居、独居以外ともに《満足》（「満足している」＋「どちらかという満足している」）は6割前後となっており、大きな差はみられない。

【問13-1で「福祉サービスを利用している」と回答した方】
問13-3 外出の際に利用している福祉サービス（質）の満足度



【同居者別】



*「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した方

独居、独居以外ともに《満足》（「満足している」＋「どちらかという満足している」）は6割台となっており、大きな差はみられない。

問14 休みの日やあき時間の過ごし方（複数回答）

（単位：％）

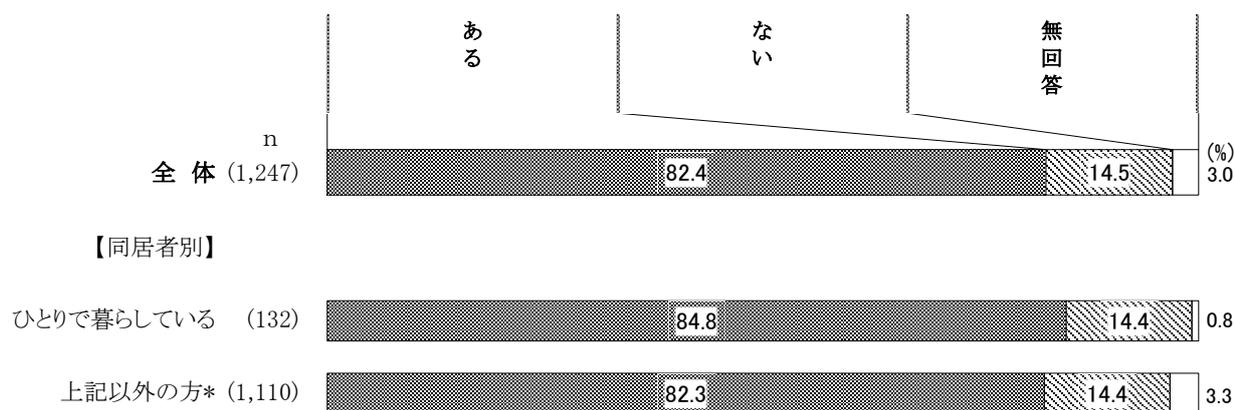
《複数回答》	n	買い物・外食	趣味（料理、手芸、絵、創作など）の活動	パソコン	芸術・音楽鑑賞	読書	スポーツ	習いごと	人と関わる活動	社会教育（青年学級など）	ボランティア	その他	何かやりたいと思っているが今はわからない	特にない	無回答	
		全体	1,247	45.1	33.0	21.3	20.0	18.8	17.1	13.7	11.5	5.0	3.4	16.0	5.3	7.9
同居者別	ひとりで暮らしている	132	56.1	37.9	28.8	27.3	30.3	17.4	10.6	13.6	4.5	9.1	12.1	7.6	7.6	4.5
	上記以外の方*	1,110	43.9	32.3	20.4	19.0	17.4	17.0	14.1	11.3	5.0	2.6	16.6	5.0	7.9	6.4

※網掛けは最も多いもの（「その他」「何かやりたいと思っているが今はわからない」「特にない」を除く）

*「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した方

独居、独居以外ともに「買い物・外食」が4割以上となっており、独居では56.1%と多い。独居では「趣味」が37.9%、「読書」、「パソコン」、「芸術・音楽鑑賞」が3割前後となっている。

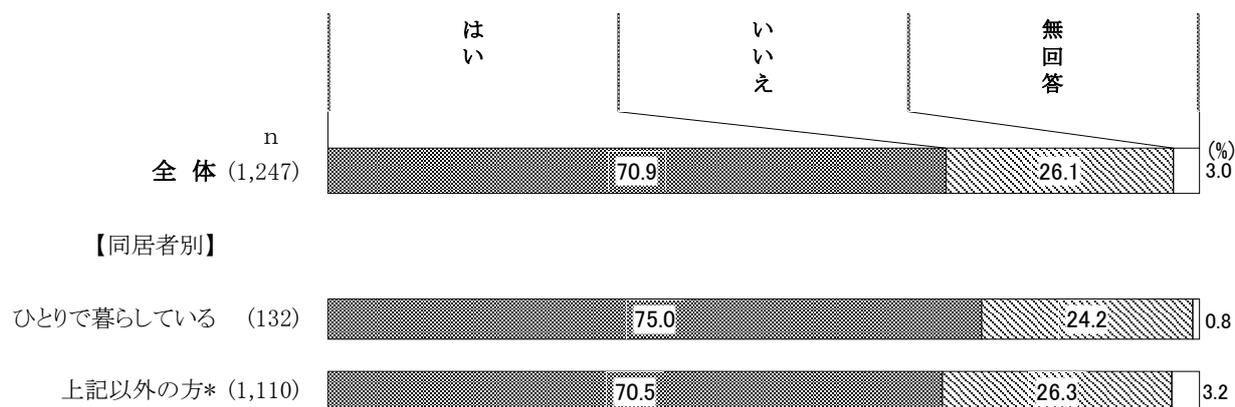
問 15 かかりつけ医療機関の有無



* 「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した方

独居、独居以外ともにかかりつけ医療機関のある人は8割台を占めている。

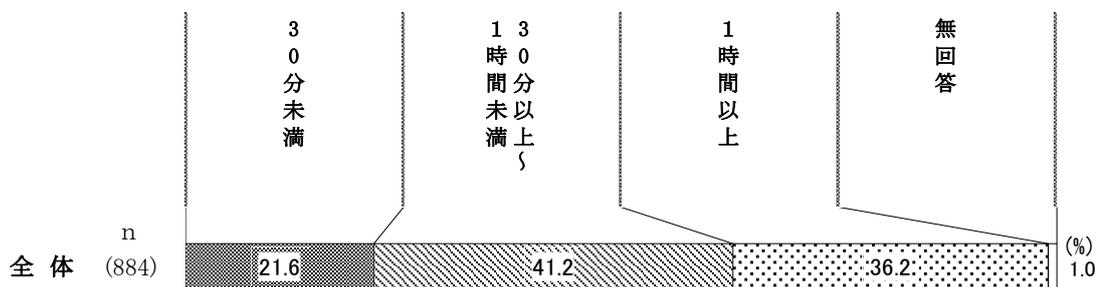
問 16 障がいの特性等に応じた専門医療機関での受診



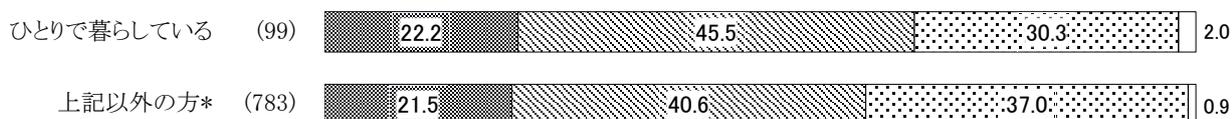
* 「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した方

独居、独居以外ともに専門医療機関での受診をしている人は7割台となっている。

【問16で「はい」と回答した方に】
問16-1 通院時間



【同居者別】



*「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した方

独居以外では「1時間以上」が37.0%と、独居より通院にかかる時間がやや多くなっている。

問17 医療的ケアの状況（複数回答）

(単位: %)

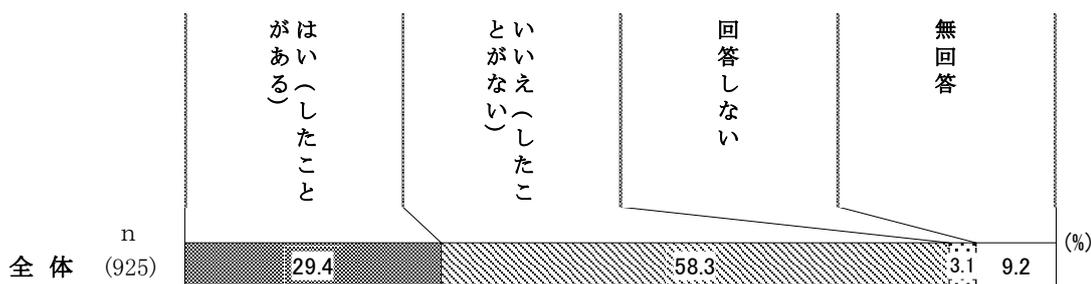
医療的ケア	n	吸引	経管栄養	導尿	床ずれ（褥瘡）の処置	胃ろう・腸ろう部の衛生管理	酸素管理	気管切開部の衛生管理	人工呼吸器の作動状況の確認及び緊急時の連絡等	エアウェイ管理	その他	受けていない	無回答
		割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
全体	1,247	2.4	1.8	1.8	1.8	1.6	1.3	1.0	0.7	0.3	6.4	72.1	15.8
同居者別													
ひとりで暮らしている	132	1.5	0.8	4.5	2.3	-	-	-	-	-	12.1	68.2	12.9
上記以外の方*	1,110	2.5	1.9	1.5	1.8	1.8	1.4	1.2	0.8	0.4	5.8	72.4	16.2

※網掛けは最も多いもの（「その他」「受けていない」を除く）

*「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した方

独居、独居以外とも「受けていない」が7割前後と多い。受けているものでは、独居は「導尿」や「床ずれ（褥瘡）の処置」など、独居以外では「吸引」をはじめとして各種ケアに分散している。

問 18 A 結婚の経験



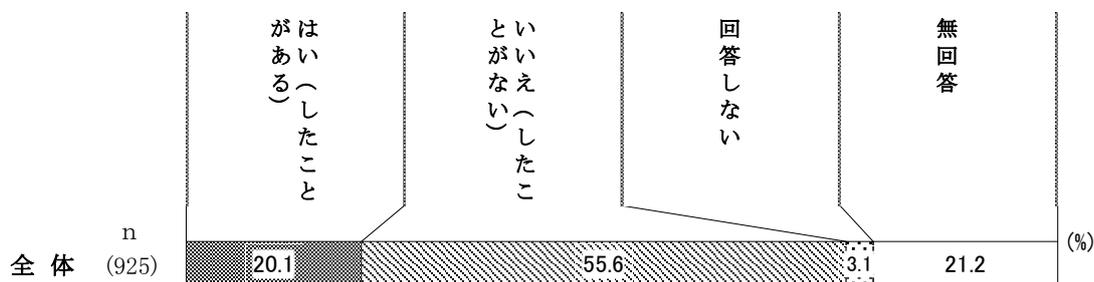
【同居者別】



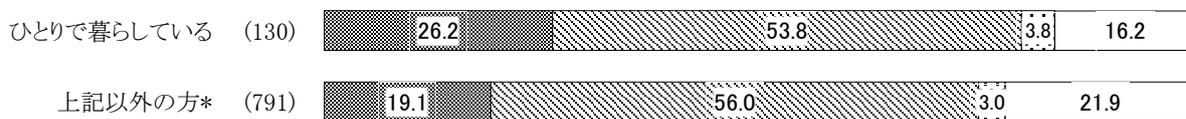
* 「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した方
 ※上図は18歳以上の回答者

独居では結婚経験のある人は37.7%、独居以外は27.9%となっている。

問 18 B 出産・子育ての経験



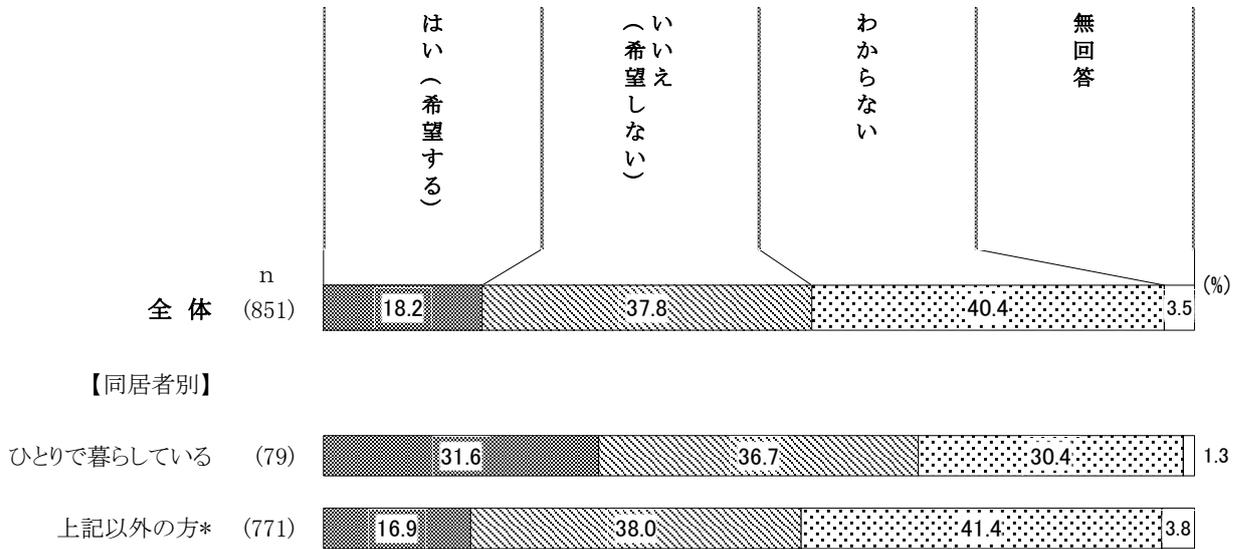
【同居者別】



* 「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した方
 ※上図は18歳以上の回答者

独居では出産・子育て経験のある人は26.2%、独居以外では19.1%となっている。

【問18で“A 結婚したこと”、“B 出産・子育てしたこと”
のいずれかに「いいえ（したことがない）」と回答した方】
問18-1 結婚や出産・子育ての希望



* 「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した方

独居では希望する人は31.6%、独居以外は16.9%となっている。

【問18で「はい（したことがある）」と回答した方、または問18-1で「はい（希望する）」と回答した方】
問18-2 結婚や出産・子育てで必要なこと（複数回答）

(単位: %)

複数回答	n	経済的な支援	障がい理解の促進	ご本人の就労支援の充実	相談支援の充実	保育体制の充実	育児・家事援助の充実	医療的な支援	親や家族どうしのネットワーク	レスパイトケアの充実	ご家族の就労支援の充実	その他	わからない	特にない	無回答	
																複数回答
全体	155	40.0	35.5	31.0	27.7	21.3	21.3	13.5	9.7	3.2	2.6	1.9	14.8	4.5	4.5	
同居者別	ひとりで暮らしている	25	44.0	56.0	28.0	12.0	28.0	24.0	16.0	16.0	8.0	-	4.0	-	4.0	4.0
	上記以外の方*	130	39.2	31.5	31.5	30.8	20.0	20.8	13.1	8.5	2.3	3.1	1.5	17.7	4.6	4.6

※網掛けは最も多いもの（「その他」「わからない」「特にない」を除く）

* 「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した方

独居では「障がい理解の促進」が56.0%と多く、「経済的な支援」も44.0%となっている。独居以外では「経済的な支援」が4割近く、「障がい理解の促進」、「ご本人の就労支援の充実」、「相談支援の充実」が3割台となっている。

※本人もしくは家族や支援者など本人に代わって回答している方に質問
問 19 困ったときの相談先（複数回答）

(単位:%)

《複数回答》		n	家族	医療機関	友人・知人	町田市障がい者支援センター	日中通っている施設やヘルパー	市役所の窓口	学校	職場	相談支援事業所	就労・生活支援センター	地域活動支援センター まちプラ	民生委員・児童委員	その他	相談したいが、どこ(誰)にも相談できない(相談先がわからない)	特にない	無回答
全体		1,247	70.9	51.5	31.4	28.2	26.1	17.4	15.6	9.8	8.4	5.5	2.5	0.8	7.5	2.4	2.0	2.3
同居者別	ひとりで暮らしている	132	47.7	47.0	35.6	28.8	18.9	19.7	1.5	10.6	8.3	5.3	3.0	3.0	9.8	4.5	5.3	3.8
	上記以外の方*	1,110	73.6	52.1	30.9	28.2	26.9	17.1	17.3	9.7	8.5	5.6	2.4	0.5	7.2	2.2	1.6	2.2

※網掛けは最も多いもの(「その他」「相談したいが、どこ(誰)にも相談できない(相談先がわからない)」「特にない」を除く)
※「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した方

独居では「家族」が47.7%、独居以外では73.6%となっている。独居、独居以外ともに「医療機関」、「友人・知人」、「町田市障がい者支援センター」も共通して多くなっている。

問 20 相談したい内容（複数回答）

(単位:%)

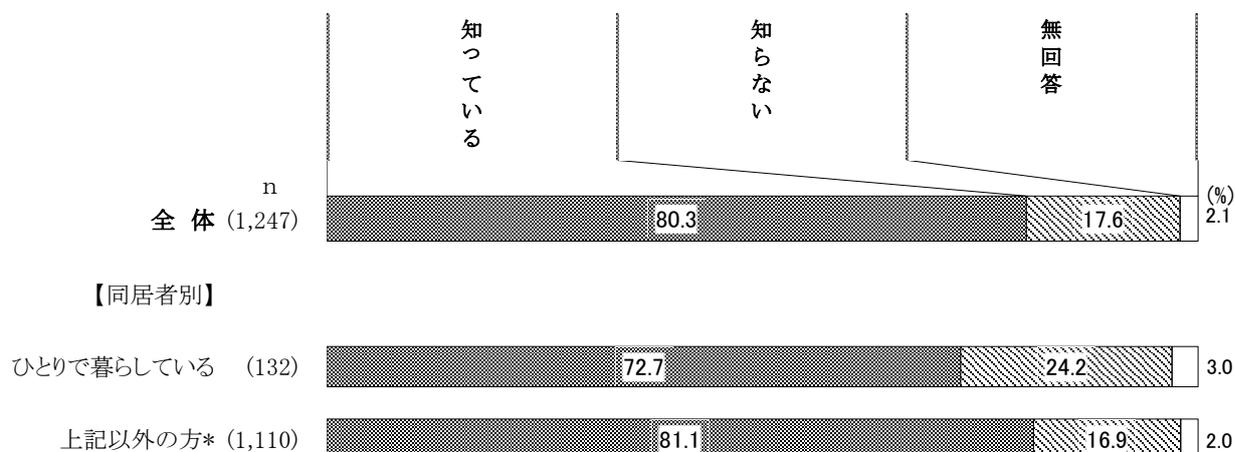
《複数回答》		n	医療や健康に関すること	コミュニケーションのこと	親の高齢化など介助者に関すること	経済的なこと	福祉サービスに関すること	仕事のこと	外出・買い物のこと	住宅・生活の場所のこと	進学・学校生活に関すること	人づきあいのこと	学習や趣味の活動のこと	交通機関の利用に関すること	その他	特にない	無回答
全体		1,247	36.8	33.3	29.4	26.4	25.1	22.0	20.0	18.0	17.9	17.9	16.3	15.6	5.1	12.2	4.5
同居者別	ひとりで暮らしている	132	43.9	25.8	15.2	37.1	23.5	26.5	21.2	25.8	1.5	22.0	11.4	15.9	4.5	18.9	5.3
	上記以外の方*	1,110	35.9	34.2	31.0	25.0	25.2	21.4	19.8	17.1	19.9	17.4	16.8	15.4	5.2	11.4	4.4

※網掛けは最も多いもの(「その他」「特にない」を除く)

*「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した方

独居、独居以外ともに「医療や健康に関すること」が3割以上で、独居では43.9%となっている。独居では「経済的なこと」や「仕事のこと」、「住宅・生活の場所のこと」や「人づきあいのこと」が多くなっている。独居以外では「コミュニケーションのこと」、「親の高齢化など介助者に関すること」が3割台となっている。

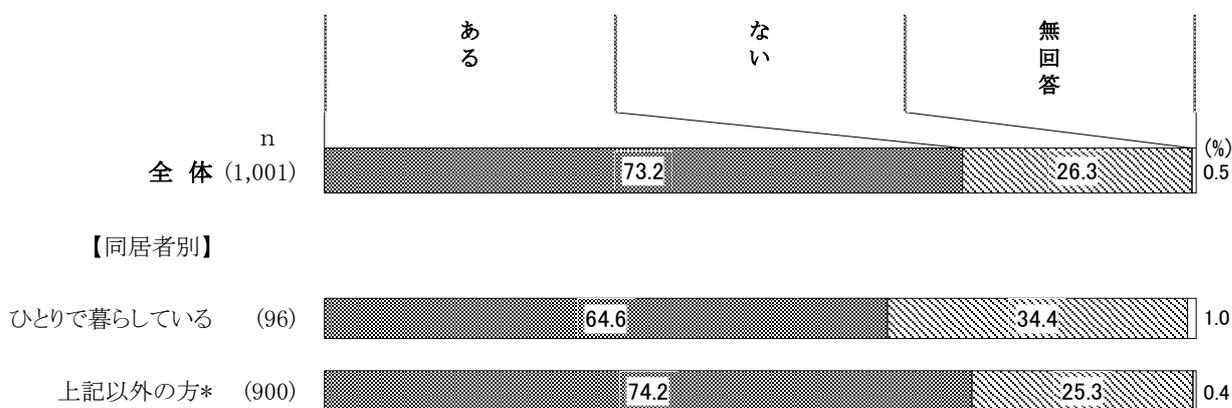
問 21 障がい者支援センターの認知



* 「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した方

独居では「知っている」は72.7%、独居以外では81.8%となっている。

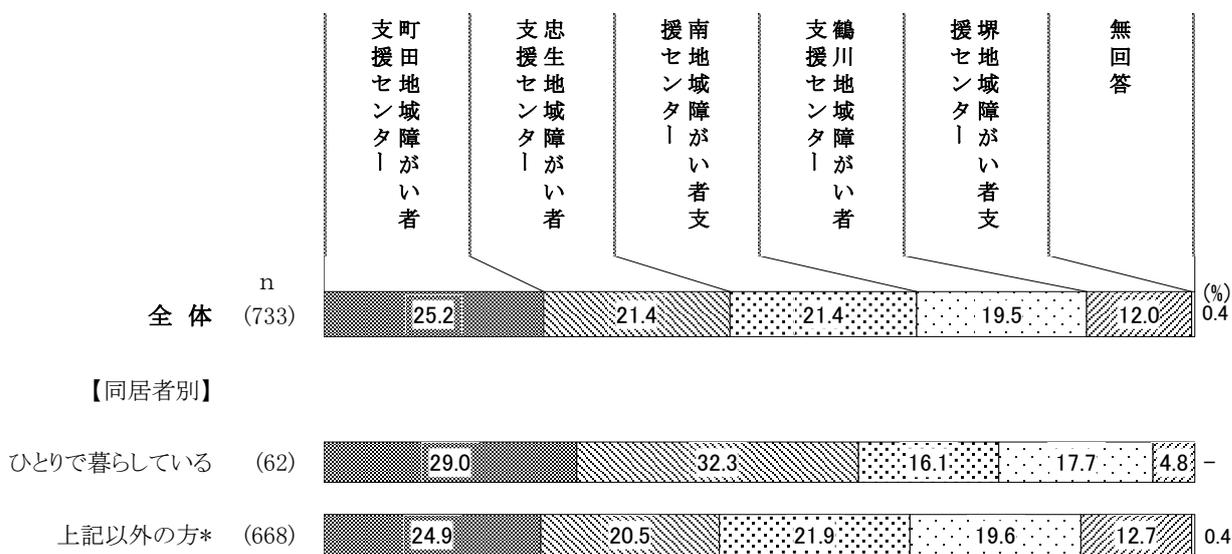
【問 21 で「知っている」と回答した方に】
問 21-1 障がい者支援センターの利用経験



* 「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した方

利用経験のある人は独居では64.6%、独居以外では74.2%を占めている。

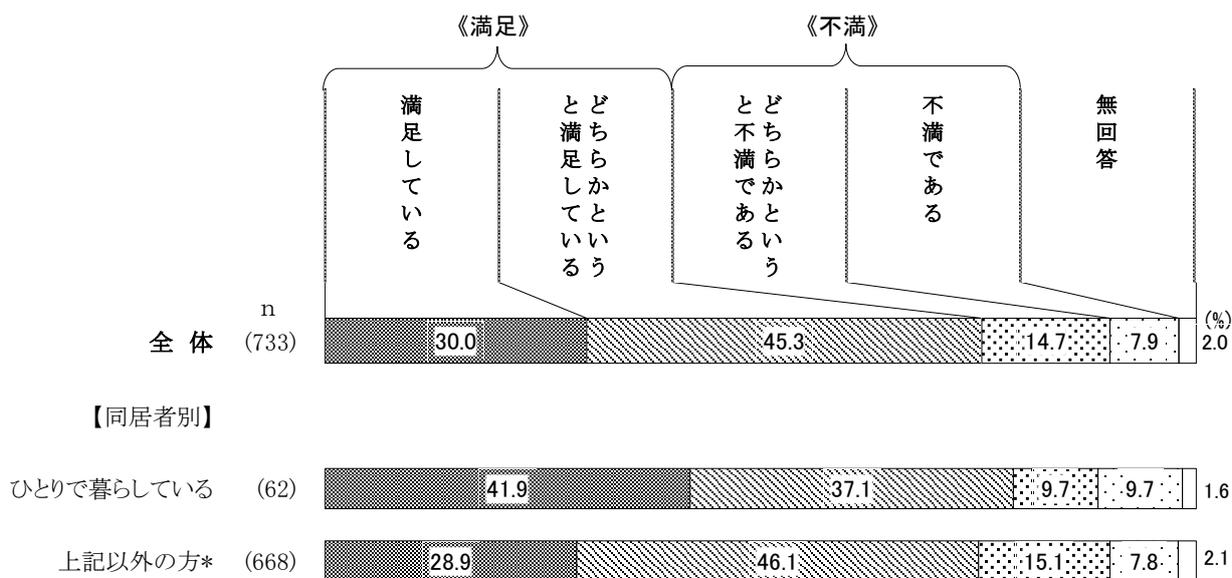
【問 21-1 で「ある」と回答した方に】
問 21-2 利用経験のある障がい者支援センター



* 「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した方

独居では「忠生地域障がい者支援センター」、「町田地域障がい者支援センター」の利用経験が3割前後と多くなっている。

【問 21-1 で「ある」と回答した方に】
問 21-3 障がい者支援センターの満足度



* 「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した方

「満足している」は独居で41.9%と多いが、《満足》（「満足している」＋「どちらかという満足している」）では独居、独居以外ともに7割台となっている。

【問21-3で「どちらかという不満である」または「不満である」と回答した方】
問21-4 不満の理由（複数回答）

(単位:%)

《複数回答》		n	から相談の質に不満がある	る職員の対応に不満がある	が相談しづらいことからの相談	遠いから	待ち時間が長いから	その他
全体		166	38.6	38.0	28.9	18.1	3.0	38.0
同居者別	ひとりで暮らしている	12	41.7	41.7	25.0	25.0	-	41.7
	上記以外の方*	153	38.6	37.9	29.4	17.0	3.3	37.9

※網掛けは最も多いもの(「その他」を除く)

*「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した方

独居以外では「相談の質に不満があるから」、「職員の対応に不満があるから」が3割台となっている。

【問21-1で「ない(障がい者支援センター未利用)」と回答した方に】
問21-5 障がい者支援センターを利用しない理由（複数回答）

(単位:%)

《複数回答》		n	れどの場所なのか知らないから	相談したいことがないから	ら市役所の障がい福祉課に行くか	他に相談できる人や場所がある	遠いから	その他	特に理由はない	無回答
全体		263	28.1	19.8	17.5	14.8	6.1	12.5	19.0	6.5
同居者別	ひとりで暮らしている	33	24.2	21.2	18.2	18.2	6.1	15.2	12.1	9.1
	上記以外の方	228	28.9	19.7	17.5	14.5	6.1	12.3	19.7	5.7

※網掛けは最も多いもの(「その他」「特に理由はない」を除く)

*「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した方

独居、独居以外ともに「どのような相談や支援が受けられる場所なのか知らないから」が2割台で最も多く、それ以外の項目も同様の傾向となっている。

問 22 福祉に関する情報の取得先（複数回答）

(単位:%)

取得先	n	友人・知人	医療機関	家族	インターネット・SNS	日中通っている施設やヘルパー	市役所の窓口	町田市障がい者支援センター	市の広報・ホームページ、地域情報誌	学校	障がい者サービスガイドブック	相談支援事業所	職場	就労・生活支援センター	地域活動支援センター まちプラ	その他	どこから得たらよいかわからない	特に得ていない	無回答	
		全体	1,247	34.4	26.1	24.9	24.5	24.4	20.5	20.4	18.4	12.4	12.2	7.3	5.8	5.6	1.7	5.9	2.9	5.4
同居者別	ひとりで暮らしている	132	20.5	25.8	11.4	30.3	16.7	28.8	18.9	17.4	1.5	10.6	9.1	3.0	6.1	3.8	5.3	4.5	9.8	5.3
	上記以外の方*	1,110	36.0	26.2	26.4	24.0	25.4	19.4	20.6	18.5	13.8	12.3	7.0	6.1	5.6	1.4	6.0	2.7	4.9	2.9

※網掛けは最も多いもの(「その他」「どこから得たらよいかわからない」「特に得ていない」を除く)

*「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した方

独居では「インターネット・SNS」、「市役所の窓口」が3割前後、独居以外では「友人・知人」、「家族」、「日中通っている施設やヘルパー」、「学校」などが独居と比較して多くなっている。

問 23 情報取得の時に困ること（複数回答）

(単位:%)

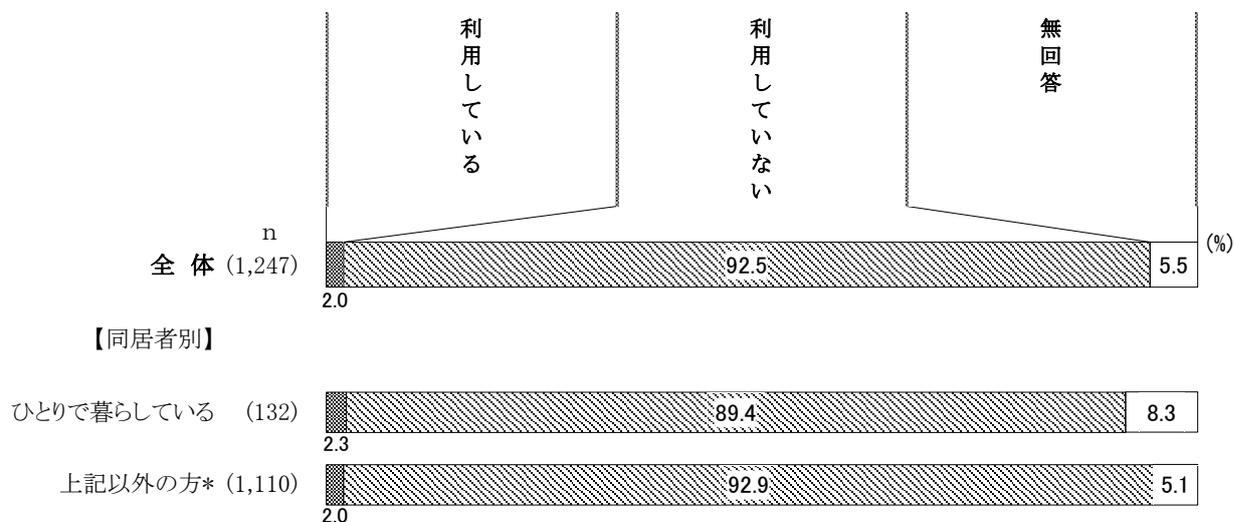
困ること	n	報障 提供 が不 足	調 べたい 情報 がど こで 調べ られ ない	思 って いる こと がう まく 伝え られ ない	調 べる ため の 方法 がわ から ない	イ ン タ ー ネ ッ ト が 使 え ない	身 近 に 頼 れ る 人 が い ない	手 話 や 筆 談 等 に 対 応 し て く れ な い	そ の 他	特 に 困 っ て い ない	無 回 答	
		全体	1,247	25.1	24.5	13.7	12.9	11.7	11.6	1.7	4.1	34.9
同居者別	ひとりで暮らしている	132	22.7	23.5	14.4	18.2	18.2	20.5	2.3	6.1	33.3	9.8
	上記以外の方*	1,110	25.4	24.5	13.5	12.2	10.7	10.5	1.6	3.9	35.2	8.3

※網掛けは最も多いもの(「その他」「特に困っていない」を除く)

*「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した方

独居、独居以外ともに「障がいに対応したかたちでの情報提供が不足」や「調べたい情報がどこで調べられるかわからない」は2割台となっている。独居では「インターネットが使えない」、「身近に頼れる人がいない」なども多くなっている。

問 24 情報保障サービスの利用状況

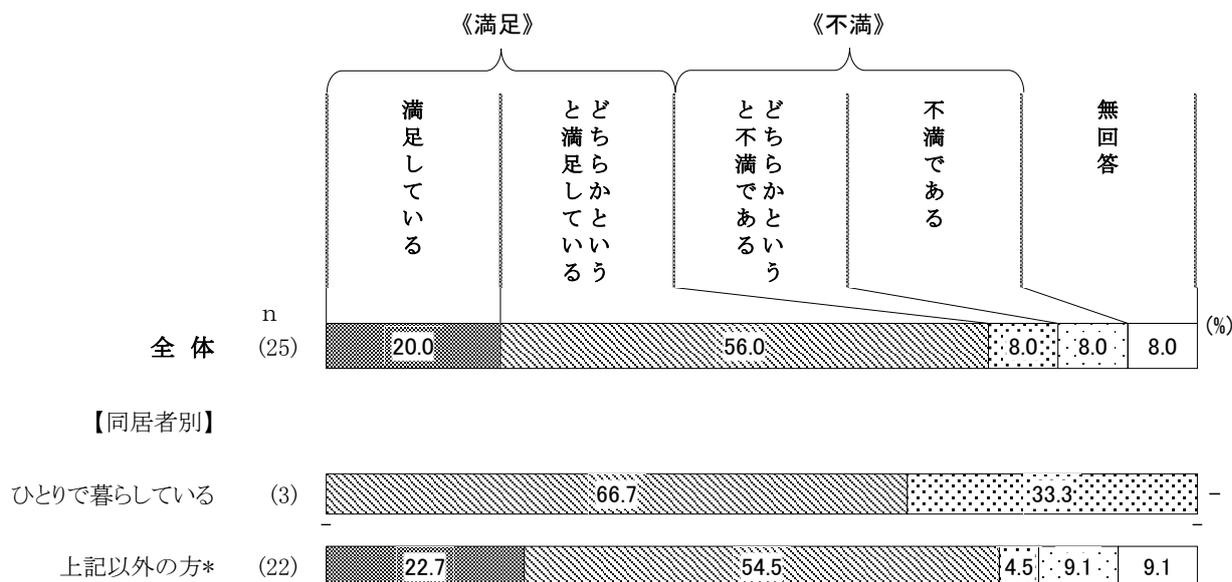


* 「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した方

情報保障サービスの利用状況は独居、独居以外とも未利用者が9割前後となっており、大きな差はみられない。

【問 24 で「利用している」とお答えした方】

問 24-1 利用している情報保障のサービスの満足度



* 「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した方

同居者別にみると、《満足》（「満足している」＋「どちらかという満足している」）は独居以外で77.2%と多くなっている。

問 25 地震などの災害発生時に困ること（複数回答）

(単位:%)

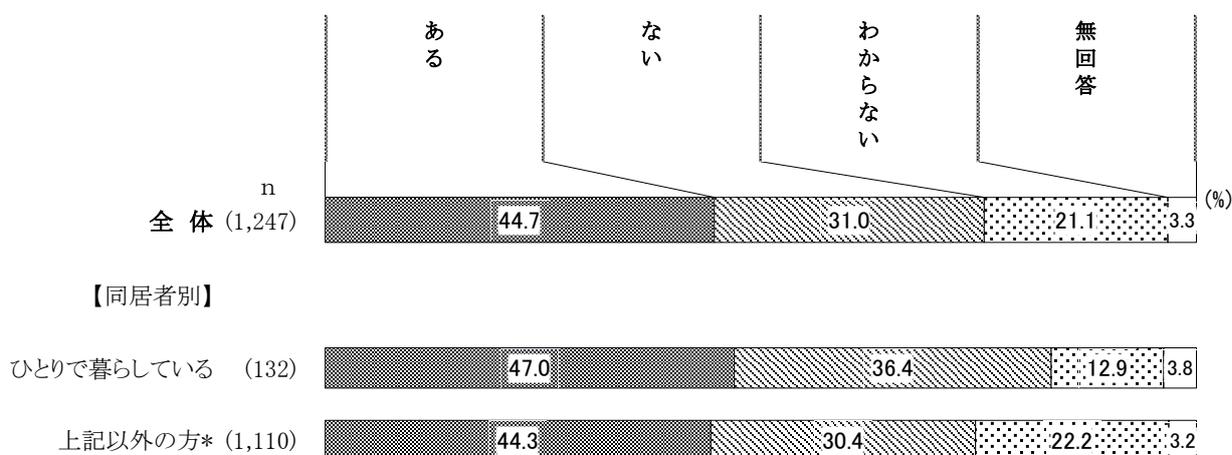
≪複数回答≫		n	避難所で必要な支援が受けられるか不安	一人では避難できない	避難所の設備が障がいに対応しているか不安	避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい	薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安	周囲の人とコミュニケーションをうまくとれない	助けを求める方法がわからない	災害への備えをしていない	近くに助けしてくれる人がいない	災害の情報をする方法がわからない	避難所の場所がわからない	医療機器の電源確保が心配	その他	特にない	無回答
全体		1,247	44.7	44.5	43.4	38.7	36.0	28.3	21.4	19.0	15.0	14.6	13.0	6.7	4.9	10.8	3.0
同居者別	ひとりで暮らしている	132	36.4	28.0	33.3	22.0	43.9	22.7	29.5	31.1	26.5	16.7	26.5	9.1	9.1	13.6	6.1
	上記以外の方*	1,110	45.8	46.5	44.6	40.6	35.1	28.9	20.5	17.6	13.5	14.3	11.4	6.4	4.4	10.5	2.6

※網掛けは最も多いもの(「その他」「特にない」を除く)

※「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した方

独居では「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」が43.9%と多くなっている他、「助けを求める方法がわからない」、「災害への備えをしていない」、「近くに助けしてくれる人がいない」、「避難所の場所がわからない」などが2割から3割台となっており、独居以外と比較して割合が高くなっている。独居以外では「避難所で必要な支援が受けられるか不安」、「一人では避難できない」、「避難所の設備が障がいに対応しているか不安」、「避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい」が4割台と避難所に関する不安が独居よりも高い割合になっている。

問 26 差別や偏見を受けた経験



* 「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した方

差別や偏見を受けた経験がある人は独居、独居以外ともに4割台となっている。

【問 26 で「ある」と回答した方】

問 26-1 差別や偏見等を受けた場面 (複数回答)

(単位: %)

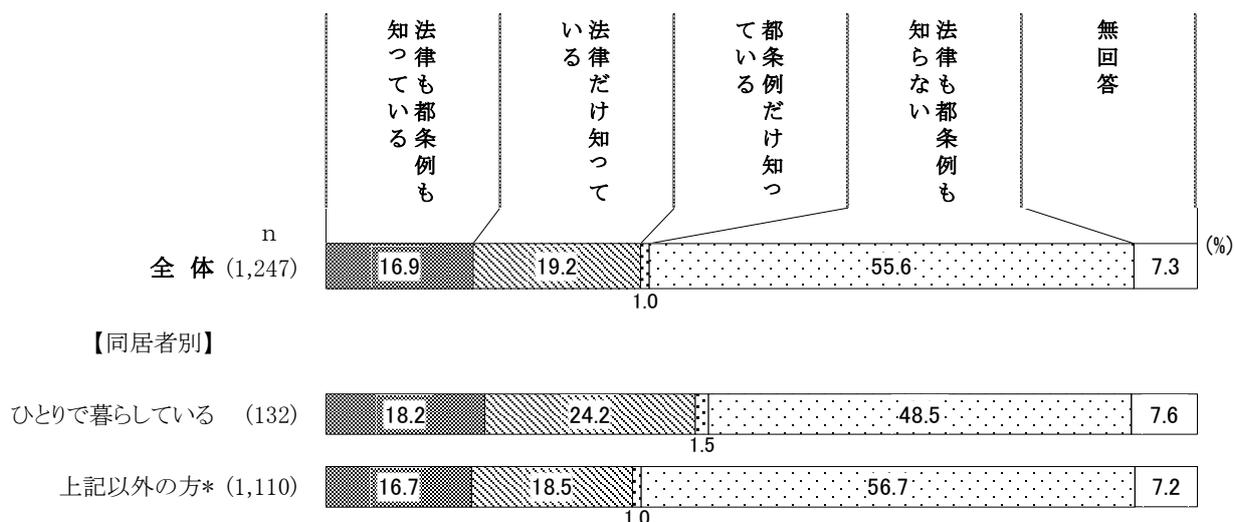
複数回答	n	店などでの対応	公共交通機関	教育・育児	言葉遣い	仕事や収入	社会制度・慣習	医療機関	趣味やスポーツ活動	イベント	市役所	金融機関	結婚・交際	その他	無回答	
		全体	557	32.7	29.8	27.3	27.1	25.1	20.8	19.6	12.4	8.4	7.7	7.7	7.0	18.5
同居者別	ひとりで暮らしている	62	41.9	33.9	17.7	40.3	45.2	30.6	16.1	12.9	12.9	16.1	9.7	14.5	22.6	-
	上記以外の方*	492	31.1	28.9	28.5	25.2	22.4	19.3	19.7	12.2	7.7	6.5	6.9	5.7	17.9	1.6

※網掛けは最も多いもの(「その他」を除く)

* 「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した方

「店などでの対応」や「公共交通機関」は独居、独居以外ともに共通して多くなっている。独居では「仕事や収入」、「言葉遣い」、「社会制度・慣習」、「市役所」、「結婚・交際」など多岐にわたる場面で独居以外より割合が多くなっている。一方、独居以外では「教育・育児」が独居より多くなっている。

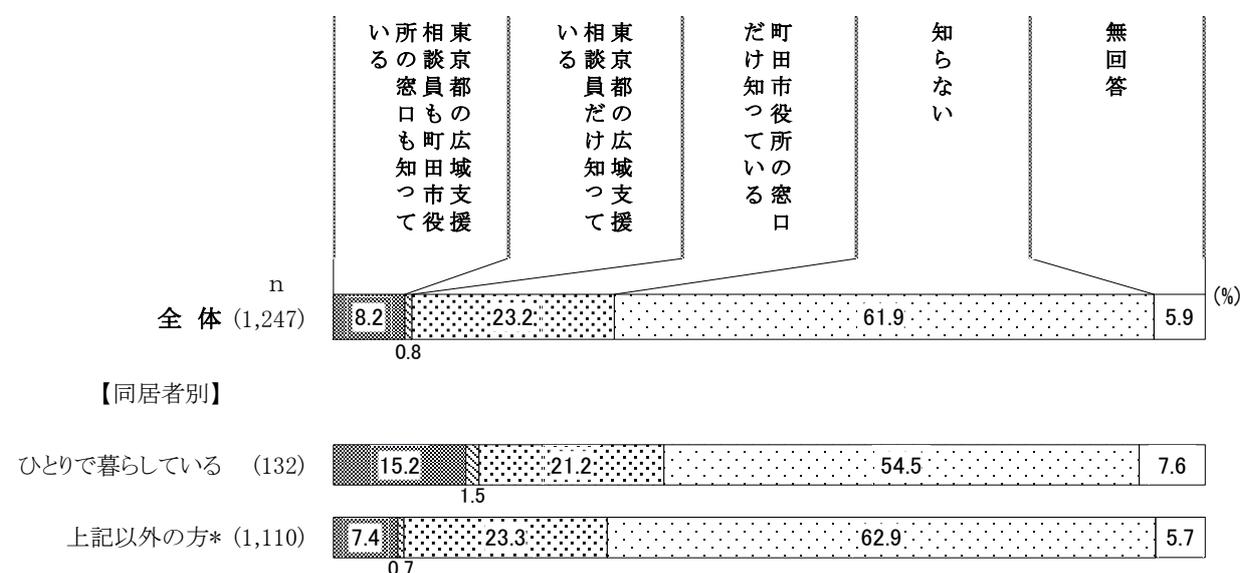
問 27 差別禁止や権利擁護に関する法令等の認知



* 「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した方

独居、独居以外ともに「法令も都条例も知らない」が5割前後と多くなっている。

問 28 差別に関する相談先の認知



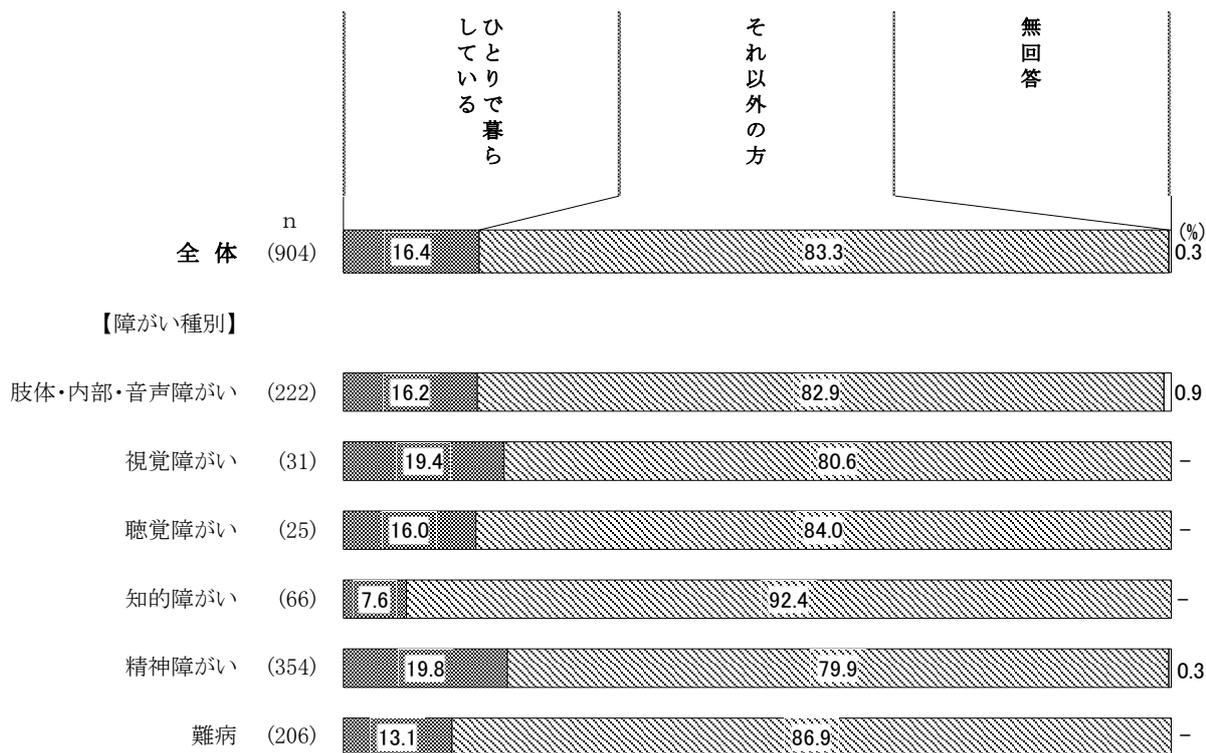
* 「家族と暮らしている」「他の障がいのある人と共同で暮らしている」「その他」を選択した方

「東京都の広域支援相談員も町田市役所の窓口も知っている」は独居で15.2%と独居以外より割合が多くなっている。「知らない」は独居、独居以外ともに5割以上となっている。

2. ひとり暮らしの状況（サービス未利用者）

介助者の高齢化や親亡きあとの問題などを見すえた、障がいのある人の地域での暮らしを支える仕組みづくりが求められていることを踏まえ、ひとり暮らしの方の困り事やニーズ等について調査結果からみえてきたことを本項目に掲載している。

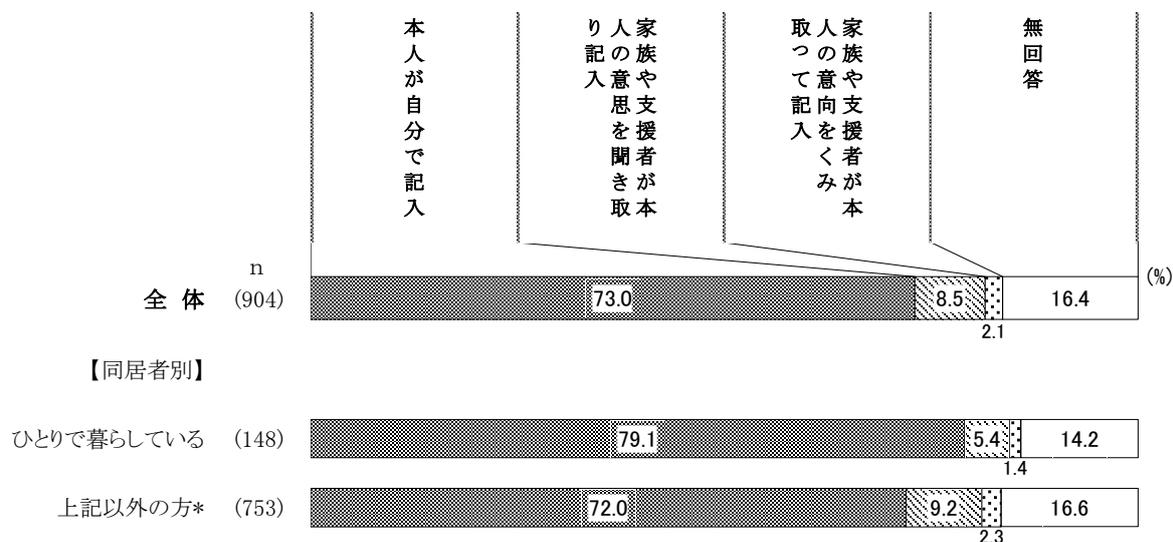
障がい種別の同居者の割合（ひとり暮らし／それ以外の2区分）



独居は16.4%、独居以外は83.3%となっている。

障がい種別にみると、独居は視覚障がいでは約2割、知的障がいでは1割未満となっている。

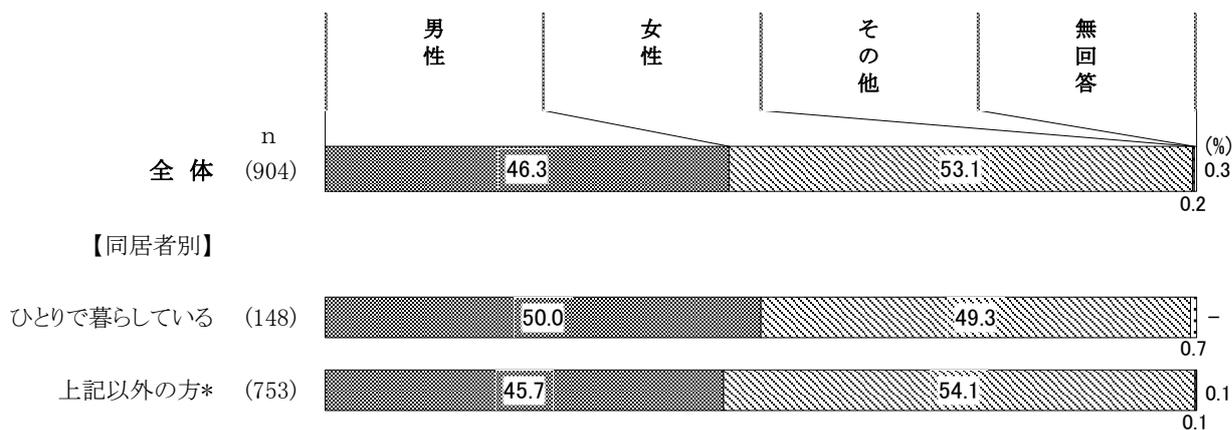
問1 調査票回答者



* 「家族と暮らしている」「その他」を選択した方

同居者別にみると、独居、独居以外ともに本人の記入が7割台となっている。家族や支援者（「家族や支援者が本人の意思を聞き取り記入」と「家族や支援者が本人の意向をくみ取って記入」）は独居で6.8%、独居以外で11.5%となっている。

問2 性別

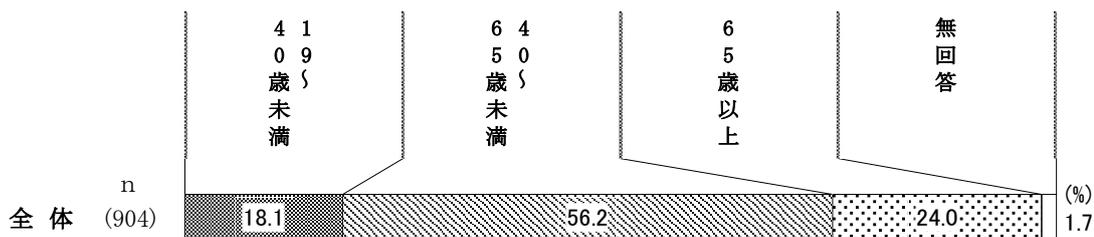


* 「家族と暮らしている」「その他」を選択した方

同居者別にみると、独居では「男性」と「女性」が二分している。独居以外では「女性」（54.1%）の方が「男性」（45.7%）よりやや多くなっている。

第4章 暮らしの形態や障がい・疾病の内容からみえてくること

問3 年齢



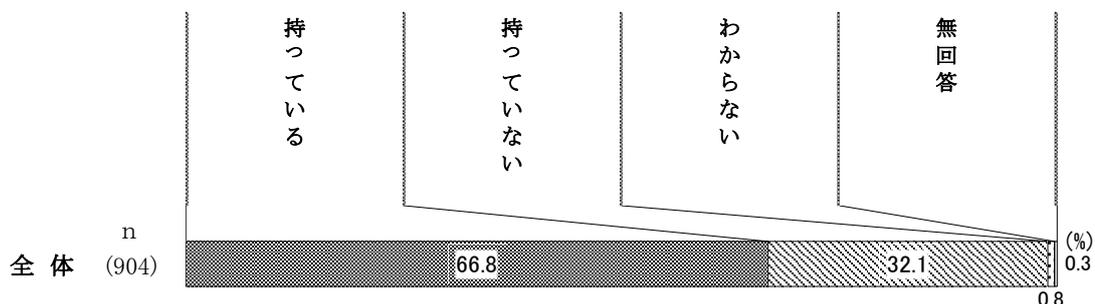
【同居者別】



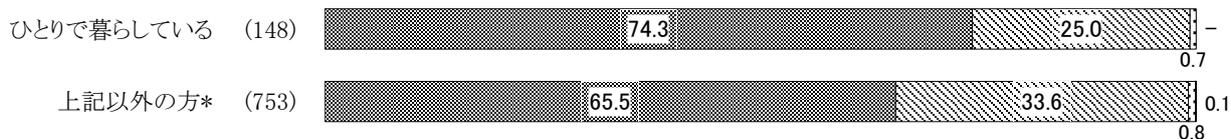
* 「家族と暮らしている」「その他」を選択した方

同居者別では、大きな差はみられない。

問5 障がい者手帳の所持



【同居者別】



* 「家族と暮らしている」「その他」を選択した方

同居者別にみると、手帳所持者は独居、独居以外ともに6割以上となっており、独居では74.3%となっている。

【問5で「持っている」と回答した方】
問5-1 所持している手帳の種類と等級（複数回答）

(単位: %)

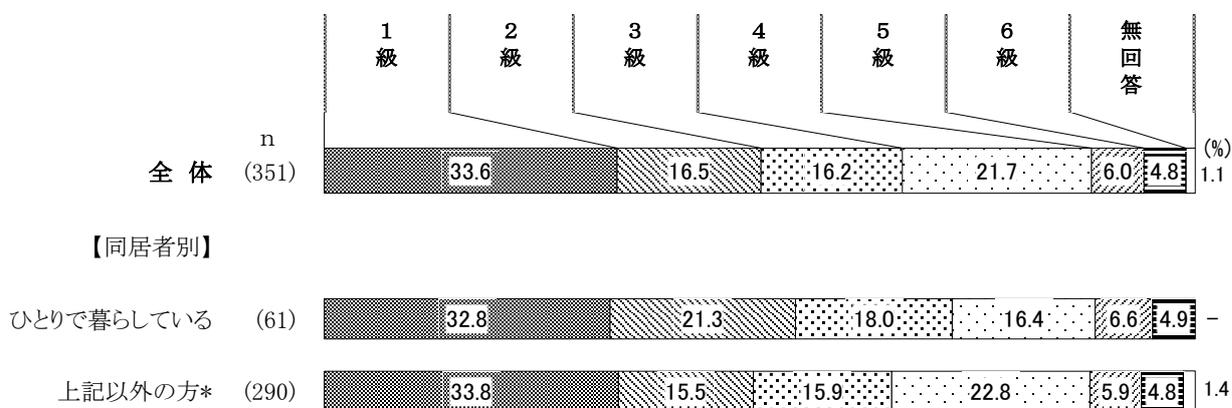
《複数回答》		n	身体障害者手帳	愛の手帳（療育手帳）	精神障害者保健福祉手帳	無回答
全体		604	58.1	10.6	32.8	1.0
同居者別	ひとりで暮らしている	110	55.5	5.5	43.6	-
	上記以外の方*	493	58.8	11.8	30.2	1.2

※網掛けは最も多いもの

* 「家族と暮らしている」「その他」を選択した方

同居者別にみると、独居、独居以外ともに「身体障害者手帳」が5割を超え、独居では「精神障害者保健福祉手帳」が43.6%とより多くなっている。

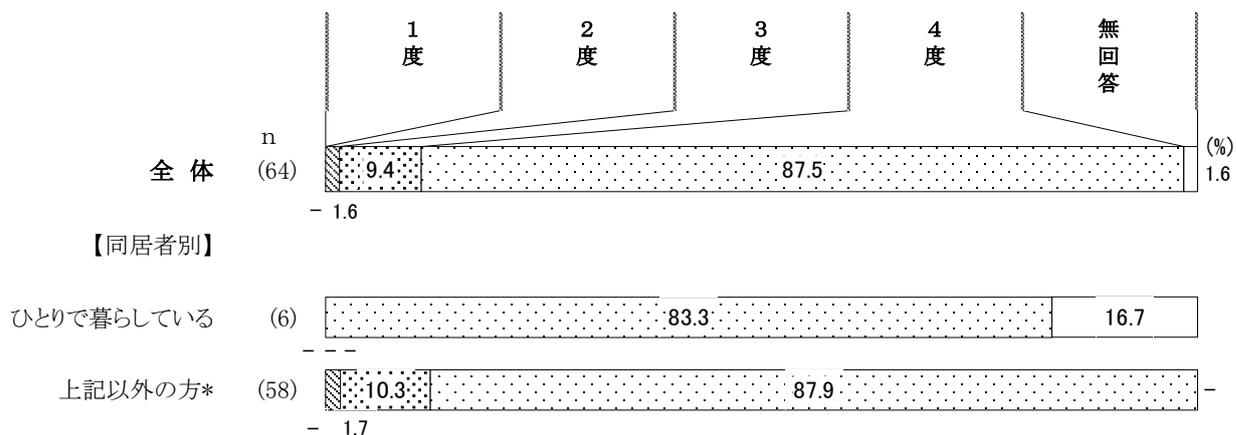
◆身体障害者手帳の等級



* 「家族と暮らしている」「その他」を選択した方

同居者別にみると、独居、独居以外ともに「1級」が3割台と多い。

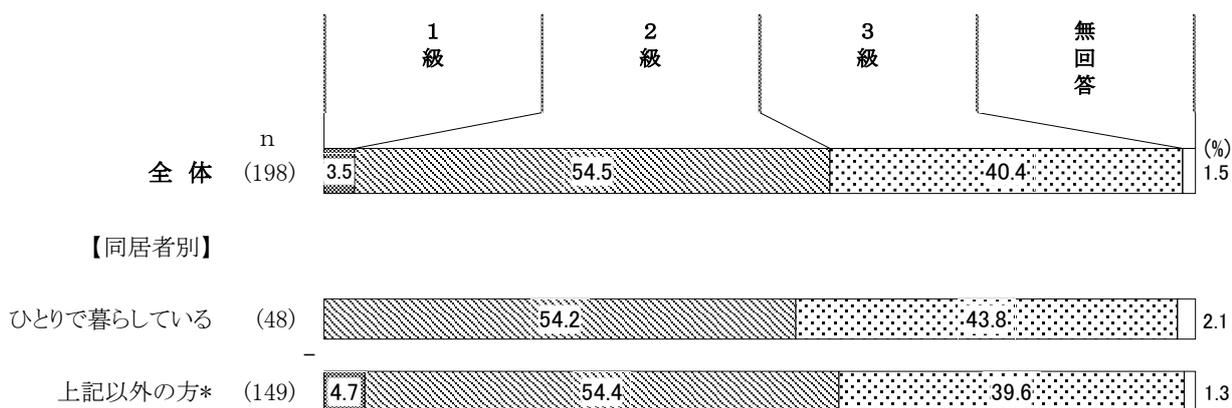
◆愛の手帳の等級



*「家族と暮らしている」「その他」を選択した方

同居者別にみると、いずれも「4度」が8割以上を占めている。

◆精神障害者保健福祉手帳の等級



*「家族と暮らしている」「その他」を選択した方

同居者別では、独居、独居以外ともに「2級」が5割台となっている。

問6 障がいや疾病の内容（複数回答）

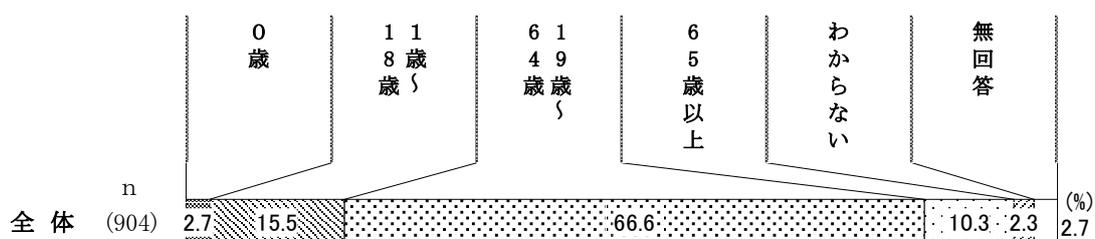
(単位:%)

《複数回答》		n	精神疾患・精神障がい	視覚障がい	難病	肢体不自由・体幹機能障がい	腎臓・直腸など（心臓・呼吸器・肝臓・内部障がい）	発達障がい	知的障がい	聴覚・平衡機能障がい	音声・言語・そしゃく機能障がい	高次脳機能障がい	その他	無回答
全体		904	34.6	23.2	19.9	17.8	15.5	6.6	6.3	3.7	1.9	1.7	4.4	2.4
同居者別	ひとりで暮らしている	148	45.3	19.6	15.5	13.5	20.3	5.4	2.7	4.1	2.7	3.4	6.1	2.0
	上記以外の方*	753	32.7	24.0	20.8	18.7	14.6	6.9	7.0	3.6	1.7	1.3	4.1	2.1

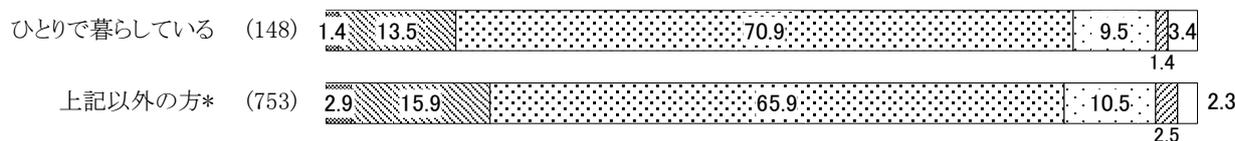
※網掛けは最も多いもの（「その他」を除く）
* 「家族と暮らしている」「その他」を選択した方

同居者別にみると、独居、独居以外ともに「精神疾患・精神障がい」が3割以上と多く、独居では45.3%となっている。独居では「内部障がい」も2割台となっている。

問7 障がいや疾病に気づいた時期



【同居者別】



* 「家族と暮らしている」「その他」を選択した方

同居者別にみると、独居、独居以外ともに「19歳～64歳」が6割以上と多く、独居で70.9%を占めている。

問8 平日の昼間の過ごし方（複数回答）

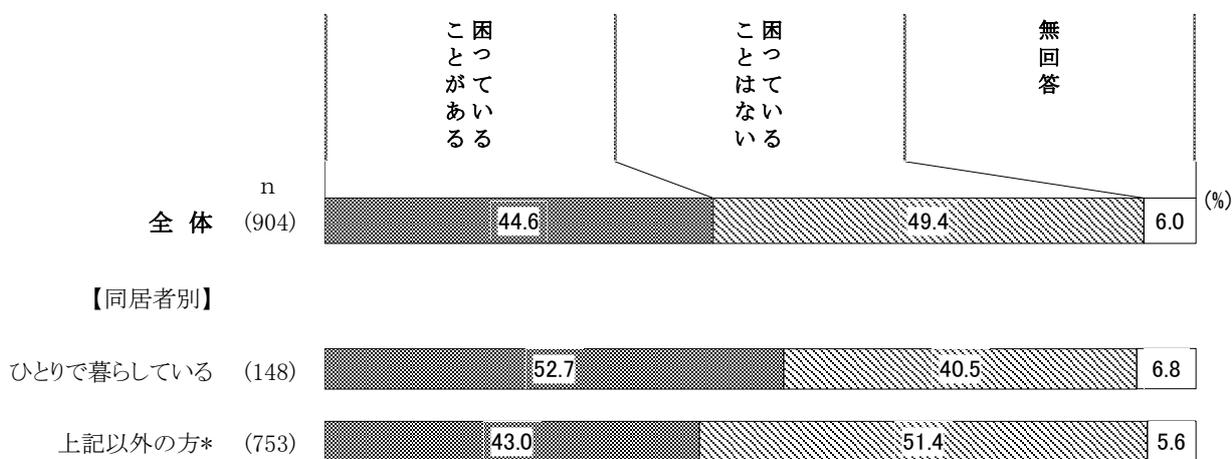
(単位:%)

《複数回答》		n	主に自宅で過ごしている	一般就労している	家事労働をしている	介護保険のデイサービスを利用している	精神デイケアを利用している	学校に通っている	その他	無回答
全体		904	42.3	35.1	23.6	6.2	2.3	1.5	11.7	1.8
同居者別	ひとりで暮らしている	148	60.8	26.4	14.9	8.1	6.1	2.7	12.2	1.4
	上記以外の方*	753	38.8	36.8	25.4	5.8	1.6	1.3	11.7	1.6

※網掛けは最も多いもの(「その他」を除く)
* 「家族と暮らしている」「その他」を選択した方

同居者別にみると、「主に自宅で過ごしている」は独居で60.8%と特に多くなっている。

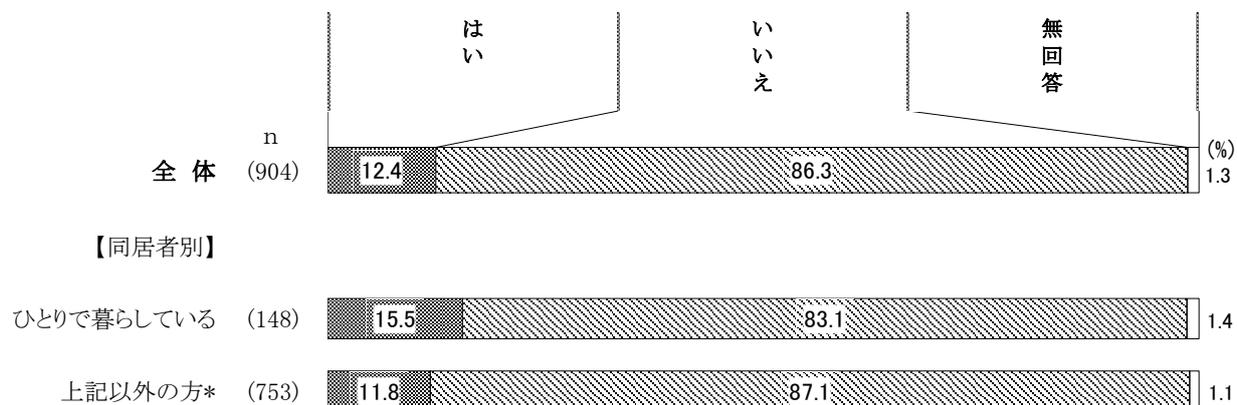
問9 障がいや疾病のため、支援が必要と感じる困りごと



* 「家族と暮らしている」「その他」を選択した方

同居者別にみると、独居、独居以外ともに「困っていることがある」は4割以上で、独居では52.7%と多くなっている。

問10 介護保険サービスの利用の有無

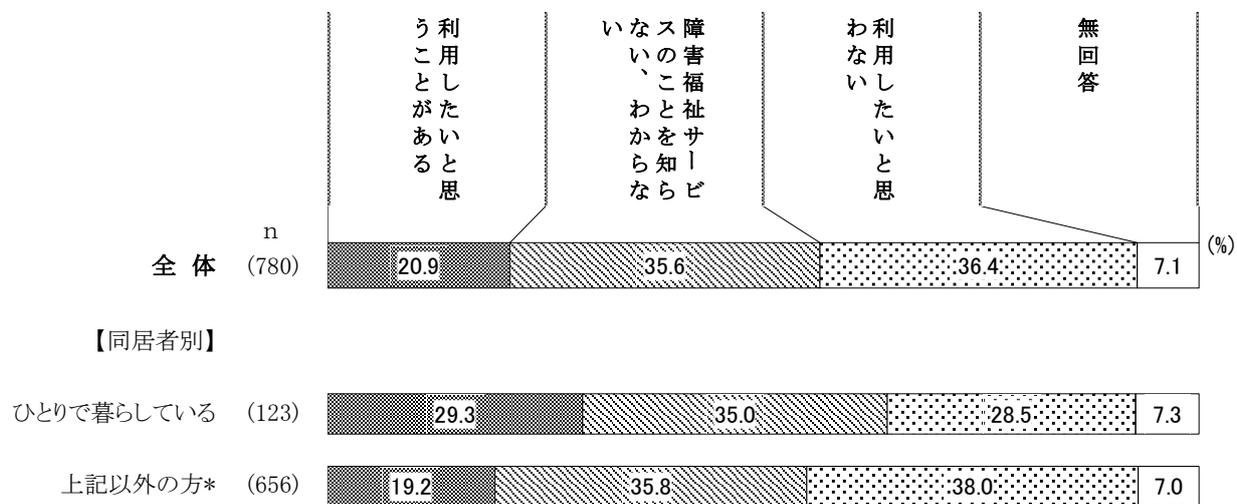


* 「家族と暮らしている」「その他」を選択した方

同居者別にみると、独居、独居以外ともに利用者は1割台となっており、大きな差はみられない。

【介護保険サービス未利用者（問10）のみ】

問11 障害福祉サービスの利用意向



* 「家族と暮らしている」「その他」を選択した方

同居者別にみると、「利用したいと思うことがある」は独居で29.3%、「利用したいと思わない」は独居以外で38.0%とより多くなっている。独居、独居以外ともに「障害福祉サービスのことを知らない、わからない」が3割以上となっている。

【問11で「利用したいと思うことがある」または「障害福祉サービスのことを知らない、わからない」と回答した方】
 問11-1 利用したい障害福祉サービス（複数回答）

(単位:%)

《複数回答》		n	就労に関する支援	休日の趣味や余暇を過ごす支援	移動の支援	ホームヘルプサービスなど	平日の日中活動の支援	身体の機能や日常生活を助ける用具の給付	手話や点字などの情報支援	その他	わからない	無回答
全体		441	36.5	17.5	13.4	10.9	10.0	7.7	2.5	12.2	21.8	4.8
同居者別	ひとりで暮らしている	79	31.6	19.0	20.3	13.9	13.9	6.3	5.1	12.7	24.1	2.5
	上記以外の方*	361	37.4	17.2	11.6	10.2	9.1	8.0	1.9	12.2	21.3	5.3

※網掛けは最も多いもの(「その他」を除く)

* 「家族と暮らしている」「その他」を選択した方

同居者別にみると、いずれも「就労に関する支援」が3割台で最も多い。独居では「移動の支援」も20.3%と比較的多くなっている。

【介護保険サービス未利用者（問10）のみ】

問12 障害福祉サービスを利用していない理由（複数回答）

（単位：％）

《複数回答》		n	サービスを使う必要がないから	どのようなサービスがあるかよく知らないから	サービスを利用するまでの手続きを知らないから	家族が介助してくれるから利用する必要がない	使え（使いたい）サービスがなかったから	思ったから	サービスの利用手続きが面倒だと	サービスの利用する際の費用負担が大きいから	サービスの質がよくないから	サービスの調整が大変だから	サービスを提供する事業者との利用から	家族や友人以外の介助に不安がある	少ないから	サービスを利用できる回数や日数が	利用したい施設やサービスが空くのを待っているから	その他	無回答
全体		780	43.1	42.9	17.9	11.5	10.4	6.7	5.8	3.6	3.5	2.4	0.8	0.5	6.4	7.6			
同居者別	ひとりで暮らしている	123	32.5	49.6	18.7	8.1	13.0	8.9	11.4	11.4	7.3	4.1	1.6	1.6	12.2	4.9			
	上記以外の方*	656	45.1	41.8	17.8	12.2	9.9	6.3	4.7	2.1	2.7	2.1	0.6	0.3	5.3	7.9			

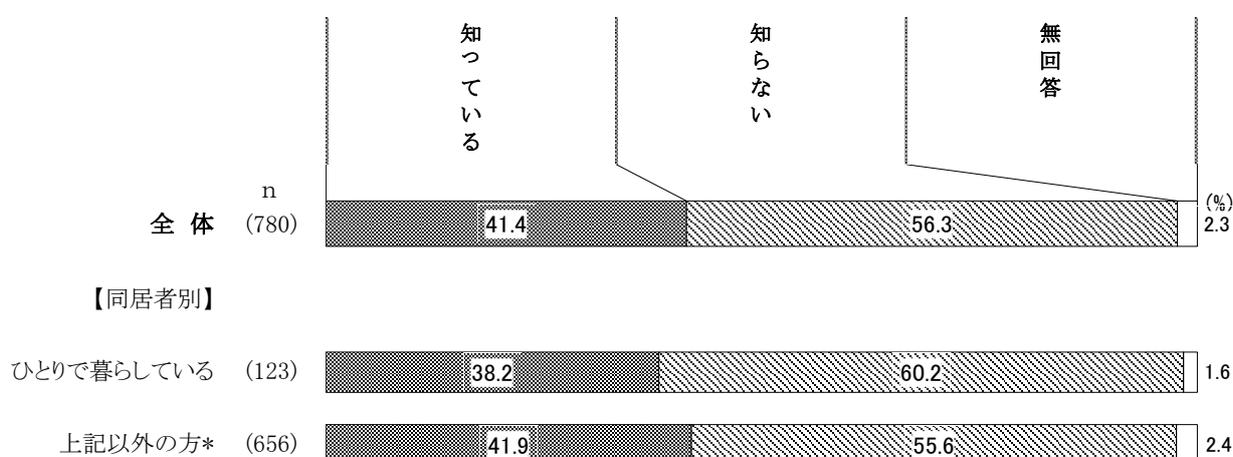
※網掛けは最も多いもの（「その他」を除く）

*「家族と暮らしている」「その他」を選択した方

同居者別にみると、独居、独居以外ともに「サービスを使う必要がないから」、「どのようなサービスがあるかよく知らないから」は3割以上となっている。独居では「どのようなサービスがあるかよく知らないから」が最も多く、「サービスを利用する際の費用負担が大きいから」、「サービスの質がよくないから」なども独居以外と比較して多くなっている。

【介護保険サービス未利用者（問10）のみ】

問13 町田市の障がい者支援センターの認知



【同居者別】

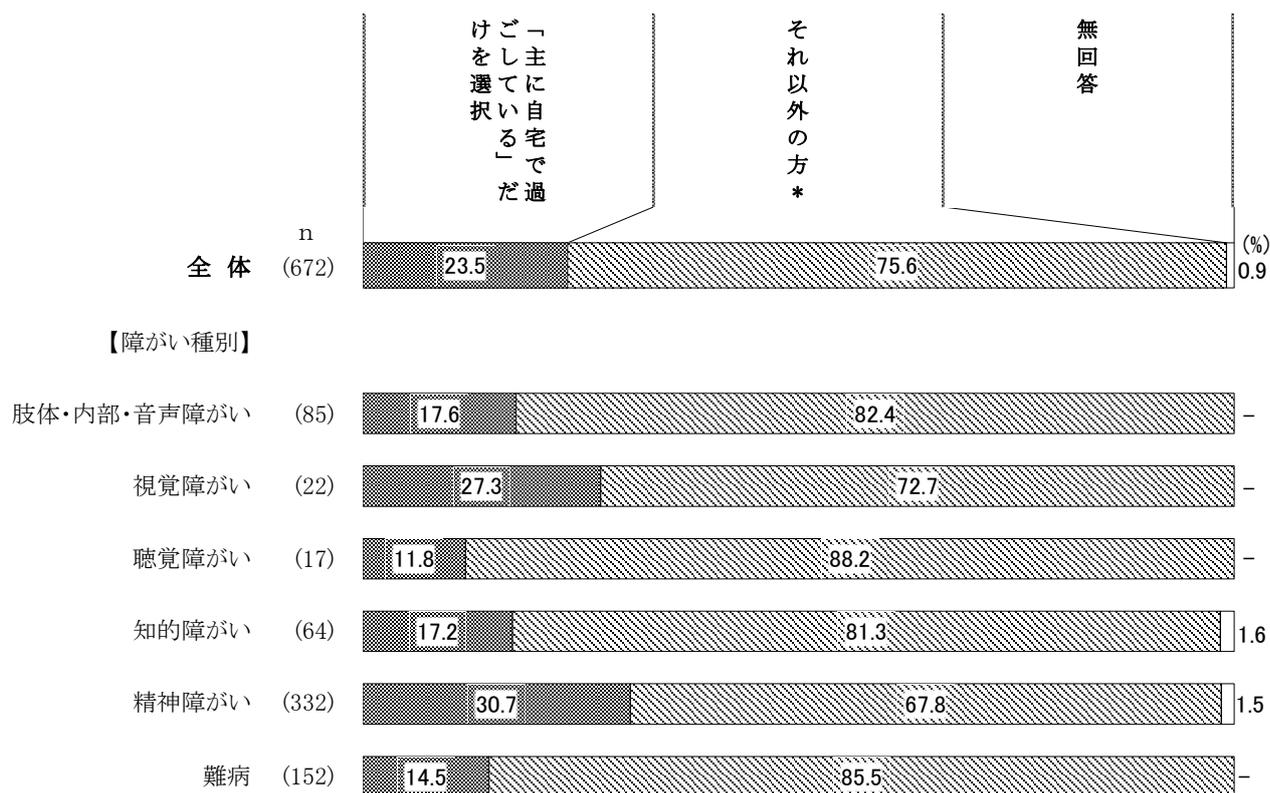
*「家族と暮らしている」「その他」を選択した方

同居者別にみると、「知っている」は独居、独居以外ともに4割前後となっている。

3. 平日の昼間に主に自宅で過ごしている方の状況（サービス未利用者）

サービス未利用者では、支援の必要がありながらも支援に繋がっていない方の存在が見込まれることから、そのような実態の把握に資するため、平日の昼間に主に自宅で過ごしている方について、調査結果から見えてきたことを本項目に掲載している。

障がい種別（65歳未満）平日の昼間の過ごし方（主に自宅／それ以外の2区分）

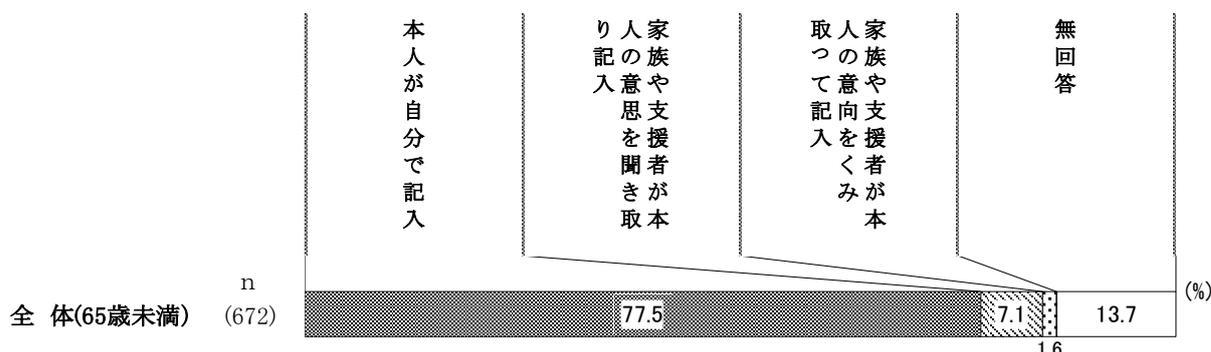


* 「主に自宅で過ごしている」「一般就労している」「家事労働をしている」「介護保険のデイサービスを利用している」「精神ケアを利用している」「学校に通っている」「その他」のうち、「主に自宅で過ごしている」だけを選択した65歳以上の方を除いた65歳未満の方

“主に自宅で過ごしている”だけを選択した方は23.5%、それ以外の方は75.6%となっている。障がい種別にみると、“主に自宅で過ごしている”だけを選択した方は精神障がいで30.7%、視覚障がいで27.3%となっている。

- ※ “主に自宅で過ごしている”だけを選択した方は、以降、自宅と略す。
- ※ それ以外（“主に自宅で過ごしている”だけを選択した方以外）の方は、以降、自宅以外と略す。

問1 調査票回答者



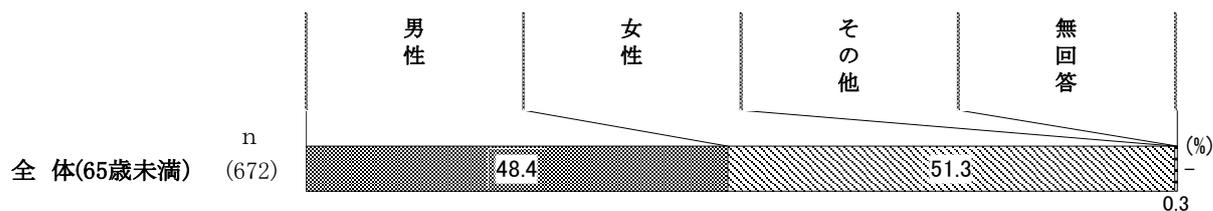
【(65歳未満) 平日の過ごし方別*2】



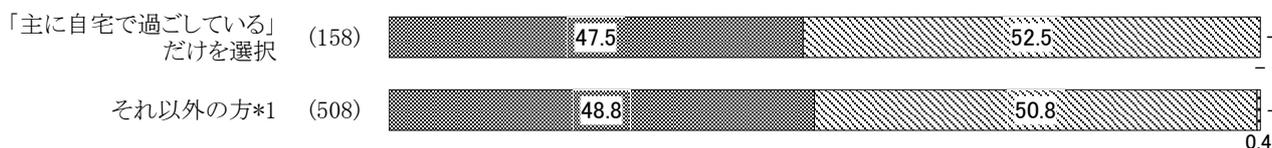
*1 「主に自宅で過ごしている」「一般就労している」「家事労働をしている」「介護保険のデイサービスを利用している」「精神デイケアを利用している」「学校に通っている」「その他」のうち、「主に自宅で過ごしている」だけを選択した65歳以上の方を除いた65歳未満の方
*2 障害福祉サービスを利用しておらず、平日の昼間に自宅で過ごされている高齢者でない方の状況等を把握するため、65歳未満で区切って集計を行った。

(65歳未満) 平日の過ごし方別にみると、主に自宅、自宅以外ともに「本人が自分で記入」が7割台となっている。

問2 性別



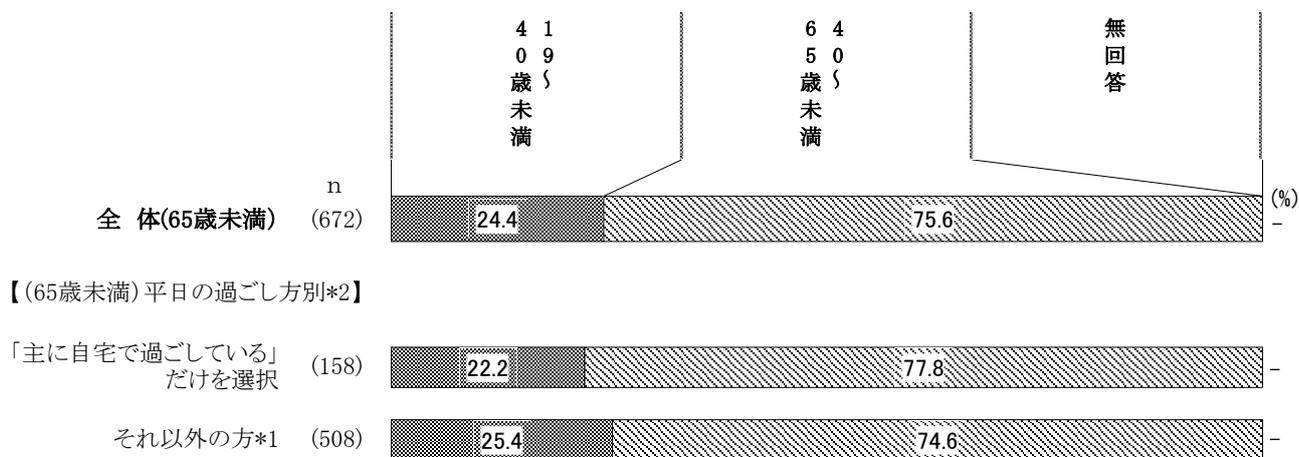
【(65歳未満) 平日の過ごし方別*2】



*1 「主に自宅で過ごしている」「一般就労している」「家事労働をしている」「介護保険のデイサービスを利用している」「精神デイケアを利用している」「学校に通っている」「その他」のうち、「主に自宅で過ごしている」だけを選択した65歳以上の方を除いた65歳未満の方
*2 障害福祉サービスを利用しておらず、平日の昼間に自宅で過ごされている高齢者でない方の状況等を把握するため、65歳未満で区切って集計を行った。

(65歳未満) 平日の過ごし方別にみると、主に自宅、自宅以外ともに「女性」が5割を超え、「男性」よりやや多くなっている。

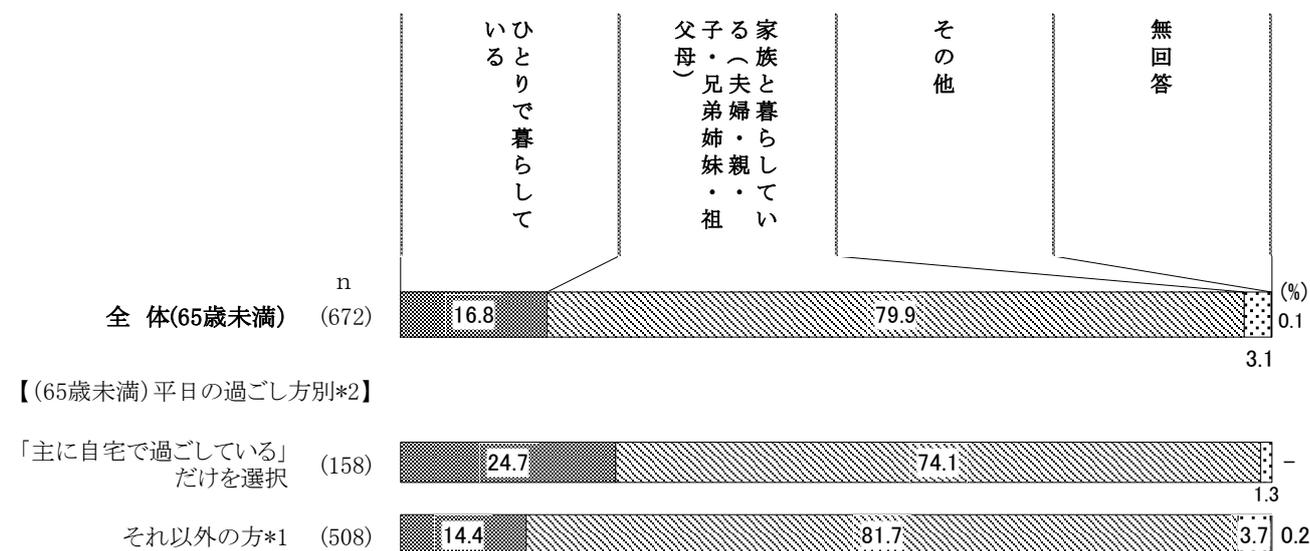
問3 年齢



*1 「主に自宅で過ごしている」「一般就労している」「家事労働をしている」「介護保険のデイサービスを利用している」「精神デイケアを利用している」「学校に通っている」「その他」のうち、「主に自宅で過ごしている」だけを選択した65歳以上の方を除いた65歳未満の方
 *2 障害福祉サービスを利用しておらず、平日の昼間に自宅で過ごされている高齢者でない方の状況等を把握するため、65歳未満で区切って集計を行った。

(65歳未満) 平日の過ごし方別では、大きな差はみられない。

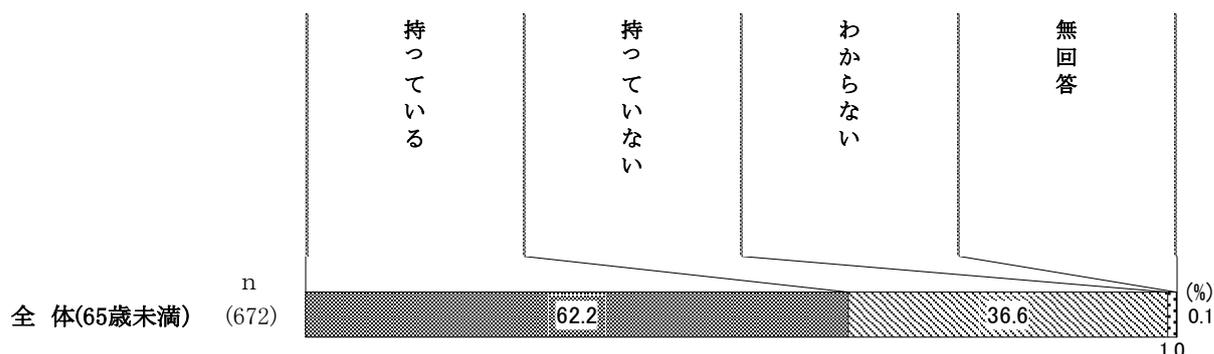
問4 同居者



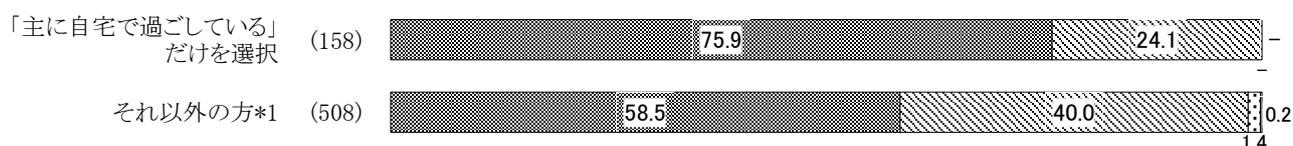
*1 「主に自宅で過ごしている」「一般就労している」「家事労働をしている」「介護保険のデイサービスを利用している」「精神デイケアを利用している」「学校に通っている」「その他」のうち、「主に自宅で過ごしている」だけを選択した65歳以上の方を除いた65歳未満の方
 *2 障害福祉サービスを利用しておらず、平日の昼間に自宅で過ごされている高齢者でない方の状況等を把握するため、65歳未満で区切って集計を行った。

(65歳未満) 平日の過ごし方別にみると、主に自宅では「ひとりで暮らしている」が24.7%、「家族と暮らしている」は74.1%となっている。

問5 障がい者手帳の所持



【(65歳未満) 平日の過ごし方別*2】



*1 「主に自宅で過ごしている」「一般就労している」「家事労働をしている」「介護保険のデイサービスを利用している」「精神デイケアを利用している」「学校に通っている」「その他」のうち、「主に自宅で過ごしている」だけを選択した65歳以上の方を除いた65歳未満の方

*2 障害福祉サービスを利用しておらず、平日の昼間に自宅で過ごされている高齢者でない方の状況等を把握するため、65歳未満で区切って集計を行った。

(65歳未満) 平日の過ごし方別にみると、手帳所持者は主に自宅、自宅以外ともに5割以上となっており、主に自宅では75.9%を占めている。

【問5で「持っている」と回答した方】

問5-1 所持している手帳の種類と等級 (複数回答)

(単位: %)

《複数回答》		n	身体障害者手帳	愛の手帳(療育)	福祉手帳(精神障害者保健)	無回答
全体(65歳未満)		418	42.3	14.8	45.9	0.5
(65歳未満) 平日の過ごし方別*2	「主に自宅で過ごしている」だけを選択	120	30.0	8.3	65.0	-
	それ以外の方*1	297	47.1	17.2	38.4	0.7

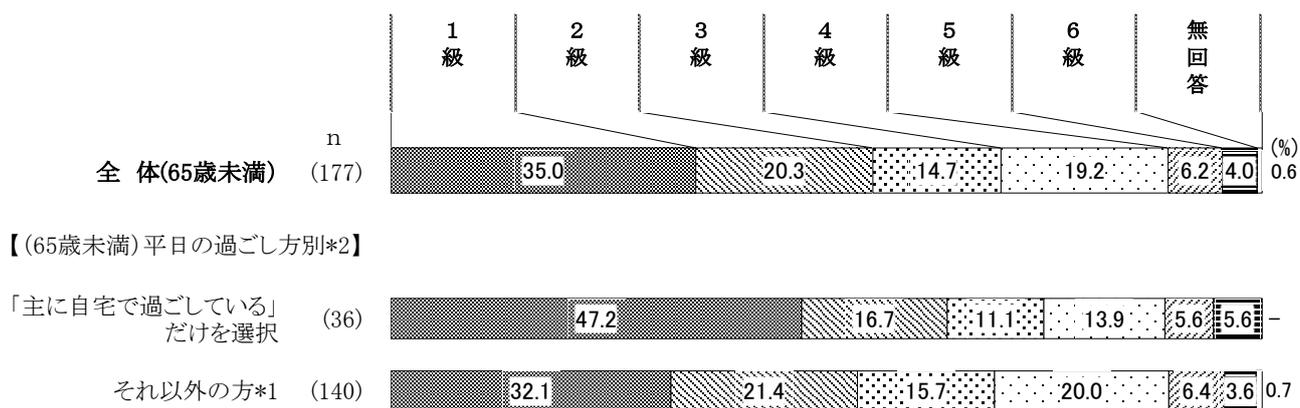
※網掛けは最も多いもの

*1 「主に自宅で過ごしている」「一般就労している」「家事労働をしている」「介護保険のデイサービスを利用している」「精神デイケアを利用している」「学校に通っている」「その他」のうち、「主に自宅で過ごしている」だけを選択した65歳以上の方を除いた65歳未満の方

*2 障害福祉サービスを利用しておらず、平日の昼間に自宅で過ごされている高齢者でない方の状況等を把握するため、65歳未満で区切って集計を行った。

(65歳未満) 平日の過ごし方別にみると、主に自宅では「精神障害者保健福祉手帳」が65.0%と多くなっている。

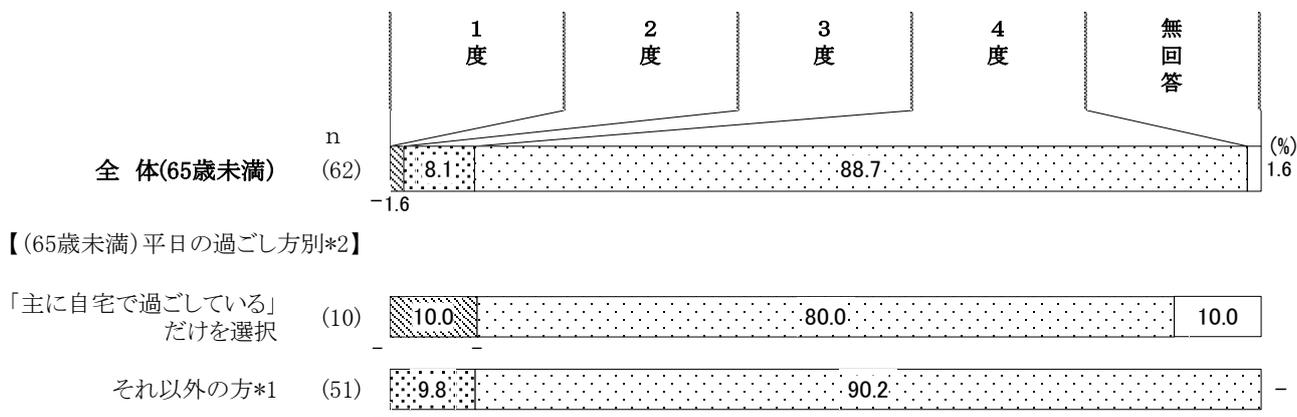
◆身体障害者手帳の等級



*1 「主に自宅で過ごしている」「一般就労している」「家事労働をしている」「介護保険のデイサービスを利用している」「精神デイケアを利用している」「学校に通っている」「その他」のうち、「主に自宅で過ごしている」だけを選択した65歳以上の方を除いた65歳未満の方
 *2 障害福祉サービスを利用しておらず、平日の昼間に自宅で過ごされている高齢者でない方の状況等を把握するため、65歳未満で区切って集計を行った。

(65歳未満) 平日の過ごし方別にみると、主に自宅、自宅以外ともに「1級」が3割以上と多く、主に自宅では47.2%となっている。「2級」から「5級」にかけては自宅以外でより多くなっている。

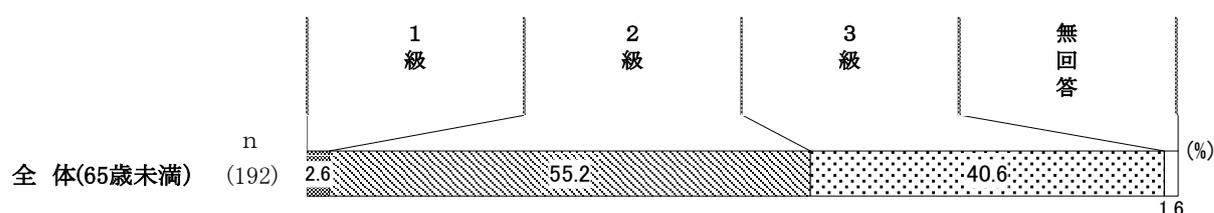
◆愛の手帳の等級



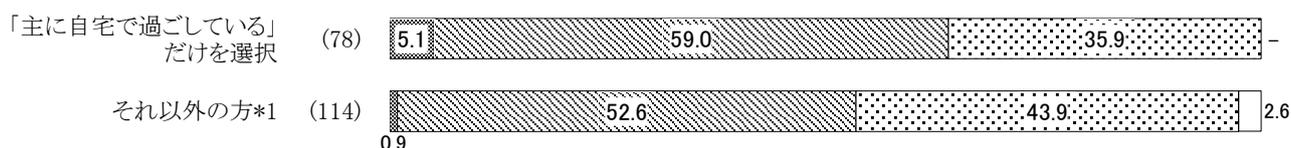
*1 「主に自宅で過ごしている」「一般就労している」「家事労働をしている」「介護保険のデイサービスを利用している」「精神デイケアを利用している」「学校に通っている」「その他」のうち、「主に自宅で過ごしている」だけを選択した65歳以上の方を除いた65歳未満の方
 *2 障害福祉サービスを利用しておらず、平日の昼間に自宅で過ごされている高齢者でない方の状況等を把握するため、65歳未満で区切って集計を行った。

(65歳未満) 平日の過ごし方別では、いずれも「4度」が8割以上を占めている。

◆精神障害者保健福祉手帳の等級



【(65歳未満) 平日の過ごし方別*2】



*1 「主に自宅で過ごしている」「一般就労している」「家事労働をしている」「介護保険のデイサービスを利用している」「精神ケアを利用している」「学校に通っている」「その他」のうち、「主に自宅で過ごしている」だけを選択した65歳以上の方を除いた65歳未満の方
*2 障害福祉サービスを利用しておらず、平日の昼間に自宅で過ごされている高齢者でない方の状況等を把握するため、65歳未満で区切って集計を行った。

(65歳未満) 平日の過ごし方別では、いずれも「2級」が5割台となっている。

問6 障がいや疾病の内容 (複数回答)

(単位: %)

障がい・疾病	n	精神疾患・精神障がい	視覚障がい	難病	肢体不自由・体幹機能障がい	腎臓・直腸など)	内部障がい(心臓・呼吸器・肝臓・)	発達障がい	知的障がい	聴覚・平衡機能障がい	音声・言語・そしやく機能障がい	高次脳機能障がい	その他	無回答
全体(65歳未満)	672	43.8	22.6	19.5	10.9	11.3	8.3	7.7	3.0	1.2	1.3	4.5	1.9	
(65歳未満) 平日の過ごし方別*2														
「主に自宅で過ごしている」だけを選択	158	65.8	12.7	10.1	8.2	11.4	7.0	5.7	2.5	1.3	1.9	4.4	1.3	
それ以外の方*1	508	37.0	26.0	22.6	11.8	11.4	8.9	8.3	3.1	1.2	1.2	4.5	1.6	

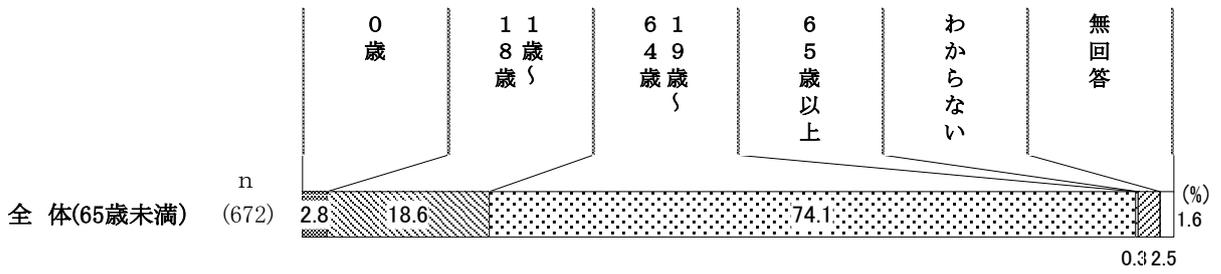
※網掛けは最も多いもの(「その他」を除く)

*1 「主に自宅で過ごしている」「一般就労している」「家事労働をしている」「介護保険のデイサービスを利用している」「精神ケアを利用している」「学校に通っている」「その他」のうち、「主に自宅で過ごしている」だけを選択した65歳以上の方を除いた65歳未満の方

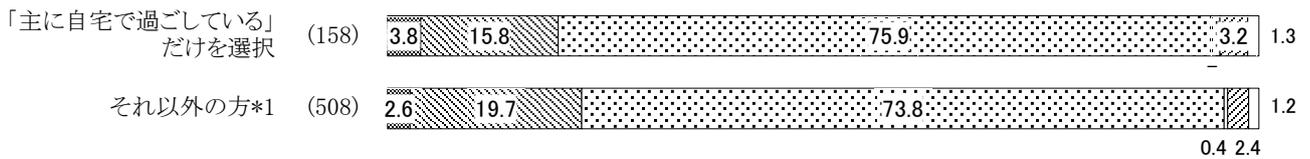
*2 障害福祉サービスを利用しておらず、平日の昼間に自宅で過ごされている高齢者でない方の状況等を把握するため、65歳未満で区切って集計を行った。

(65歳未満) 平日の過ごし方別にみると、「精神疾患・精神障がい」は主に自宅が65.8%と特に多くなっている。

問7 障がいや疾病に気づいた時期



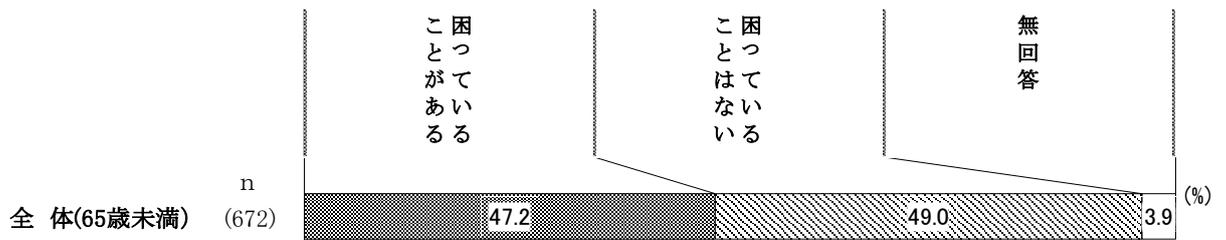
【(65歳未満) 平日の過ごし方別*2】



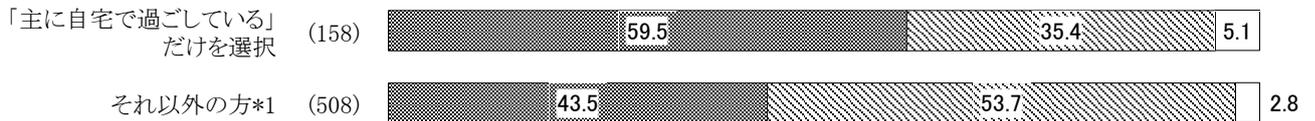
*1 「主に自宅で過ごしている」「一般就労している」「家事労働をしている」「介護保険のデイサービスを利用している」「精神デイケアを利用している」「学校に通っている」「その他」のうち、「主に自宅で過ごしている」だけを選択した65歳以上の方を除いた65歳未満の方
*2 障害福祉サービスを利用しておらず、平日の昼間に自宅で過ごされている高齢者でない方の状況等を把握するため、65歳未満で区切って集計を行った。

(65歳未満) 平日の過ごし方別にみると、主に自宅、自宅以外ともに「19歳～64歳」が7割台を占めている。

問9 障がいや疾病のため、支援が必要と感じる困りごと



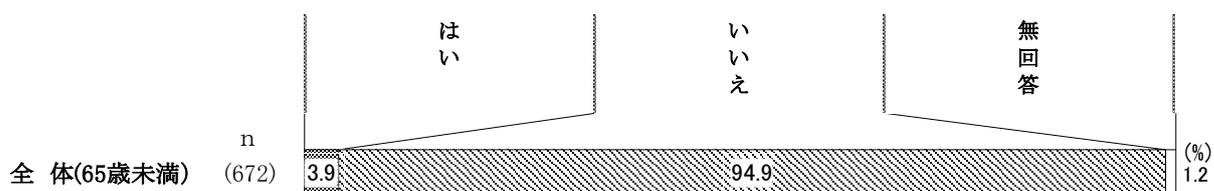
【(65歳未満) 平日の過ごし方別*2】



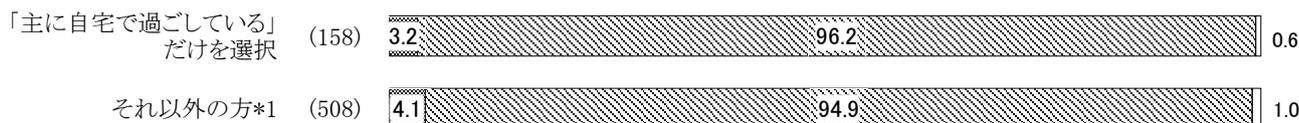
*1 「主に自宅で過ごしている」「一般就労している」「家事労働をしている」「介護保険のデイサービスを利用している」「精神デイケアを利用している」「学校に通っている」「その他」のうち、「主に自宅で過ごしている」だけを選択した65歳以上の方を除いた65歳未満の方
*2 障害福祉サービスを利用しておらず、平日の昼間に自宅で過ごされている高齢者でない方の状況等を把握するため、65歳未満で区切って集計を行った。

(65歳未満) 平日の過ごし方別にみると、主に自宅、自宅以外ともに「困っていることがある」は4割以上で、主に自宅では59.5%と多くなっている。

問10 介護保険サービスの利用の有無



【(65歳未満) 平日の過ごし方別*2】

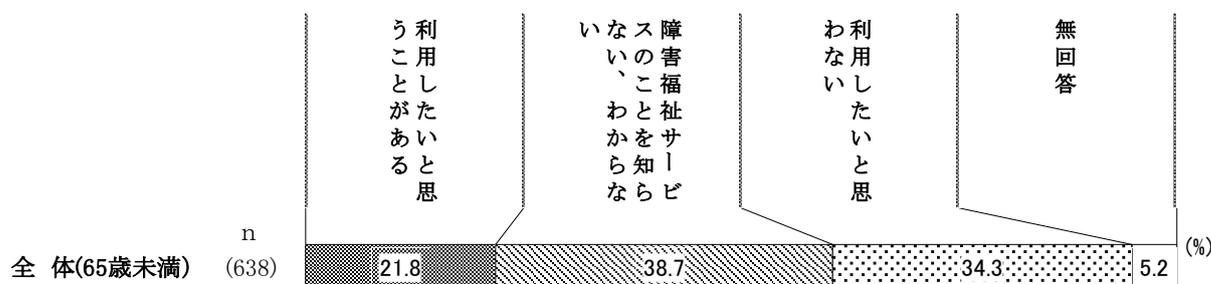


*1 「主に自宅で過ごしている」「一般就労している」「家事労働をしている」「介護保険のデイサービスを利用している」「精神デイケアを利用している」「学校に通っている」「その他」のうち、「主に自宅で過ごしている」だけを選択した65歳以上の方を除いた65歳未満の方
*2 障害福祉サービスを利用しておらず、平日の昼間に自宅で過ごされている高齢者でない方の状況等を把握するため、65歳未満で区切って集計を行った。

(65歳未満) 平日の過ごし方別にみると、利用者は1割未満となっており、大きな差はみられない。

【介護保険サービス未利用者(問10)のみ】

問11 障害福祉サービスの利用意向



【(65歳未満) 平日の過ごし方別*2】



*1 「主に自宅で過ごしている」「一般就労している」「家事労働をしている」「介護保険のデイサービスを利用している」「精神デイケアを利用している」「学校に通っている」「その他」のうち、「主に自宅で過ごしている」だけを選択した65歳以上の方を除いた65歳未満の方
*2 障害福祉サービスを利用しておらず、平日の昼間に自宅で過ごされている高齢者でない方の状況等を把握するため、65歳未満で区切って集計を行った。

(65歳未満) 平日の過ごし方別にみると、主に自宅、自宅以外ともに「利用したいと思うことがある」は2割台となっている。主に自宅では「障害福祉サービスのことを知らない、わからない」が43.4%となっている。

【問11で「利用したいと思うことがある」または「障害福祉サービスのことを知らない、わからない」と回答した方】
 問11-1 利用したい障害福祉サービス（複数回答）

(単位:%)

《複数回答》		n	就労に関する支援	休日の趣味や余暇を過ごす支援	移動の支援	ホームヘルプサービスなど	平日の日中活動の支援	身体機能や日常生活を助ける用具の給付	手話や点字などの情報支援	その他	わからない	無回答
全体(65歳未満)		386	40.2	18.1	12.4	10.9	9.6	7.5	2.6	12.7	20.7	3.9
(65歳未満)平日の過ごし方別*2	「主に自宅で過ごしている」だけを選択	102	42.2	15.7	10.8	14.7	14.7	7.8	1.0	14.7	17.6	2.0
	それ以外の方*1	283	39.6	19.1	13.1	9.5	7.8	7.4	3.2	12.0	21.9	4.2

※網掛けは最も多いもの(「その他」「わからない」を除く)

*1 「主に自宅で過ごしている」「一般就労している」「家事労働をしている」「介護保険のデイサービスを利用している」「精神デイケアを利用している」「学校に通っている」「その他」のうち、「主に自宅で過ごしている」だけを選択した65歳以上の方を除いた65歳未満の方

*2 障害福祉サービスを利用しておらず、平日の昼間に自宅で過ごされている高齢者でない方の状況等を把握するため、65歳未満で区切って集計を行った。

(65歳未満) 平日の過ごし方別にみると、主に自宅、自宅以外ともに「就労に関する支援」が4割前後で最も多く、主に自宅では「ホームヘルプサービスなど」、「平日の日中活動の支援」などが自宅以外と比較して多くなっている。

【介護保険サービス未利用者（問10）のみ】

問12 障害福祉サービスを利用していない理由（複数回答）

（単位：％）

《複数回答》	n	サービスを使う必要がないから	どのようなサービスがあるかよく知らないから	サービスを利用するまでの手続きを知らないから	家族が介助してくれるから利用する必要がない	家族が介助してくるから利用する必要がある	使えぬ（使いたい）サービスがなかったから	思ったから	サービスの利用手続きが面倒だと	サービスを利用する際の費用負担が大きいため	サービスの質がよくないから	サービスを提供する事業者との利用などの調整が大変だから	家族や友人以外の介助に不安があるから	少ないから	サービスを利用できる回数や日数が少ないから	利用したい施設やサービスが空くのを待っているから	その他	無回答
		全体（65歳未満）	638	41.5	46.1	19.1	10.2	11.3	7.1	6.0	3.8	3.9	2.7	0.9	0.6	6.4	6.4	
(65歳未満) 平日の過ごし方別*2	「主に自宅で過ごしている」だけを選択	152	25.7	52.0	23.7	13.2	11.2	10.5	9.9	4.6	5.3	5.3	1.3	0.7	10.5	3.9		
	それ以外の方*1	482	46.5	44.4	17.8	9.3	11.4	6.0	4.8	3.3	3.5	1.9	0.8	0.6	5.2	7.1		

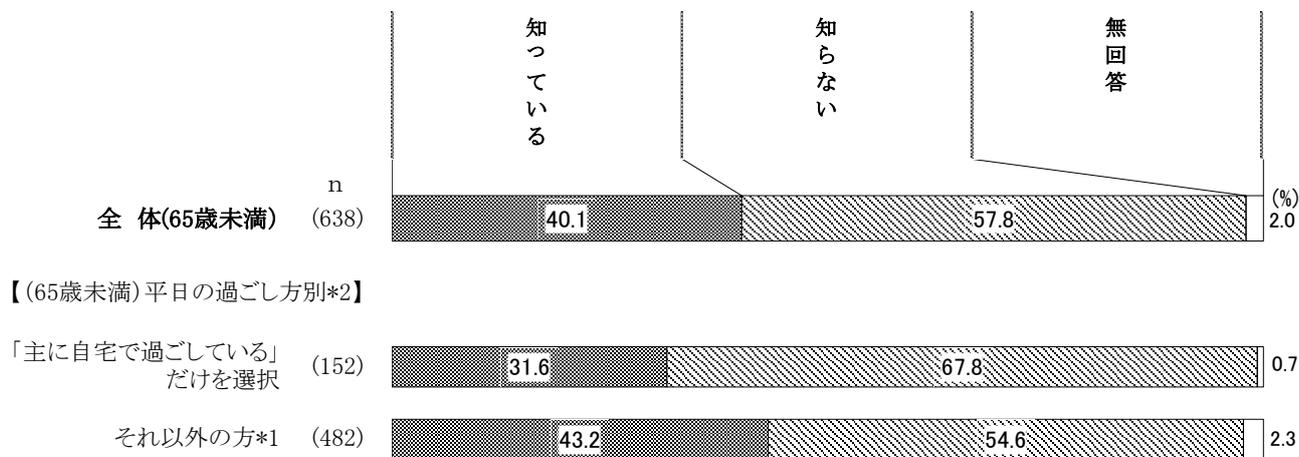
※網掛けは最も多いもの（「その他」を除く）

*1 「主に自宅で過ごしている」「一般就労している」「家事労働をしている」「介護保険のデイサービスを利用している」「精神デイケアを利用している」「学校に通っている」「その他」のうち、「主に自宅で過ごしている」だけを選択した65歳以上の方を除いた65歳未満の方

*2 障害福祉サービスを利用しておらず、平日の昼間に自宅で過ごされている高齢者でない方の状況等を把握するため、65歳未満で区切って集計を行った。

（65歳未満）平日の過ごし方別にみると、主に自宅、自宅以外ともに「どのようなサービスがあるかよく知らないから」が4割以上となっており、主に自宅では52.0%となっている。

【介護保険サービス未利用者（問10）のみ】
問13 町田市の障がい者支援センターの認知



*1 「主に自宅で過ごしている」「一般就労している」「家事労働をしている」「介護保険のデイサービスを利用している」「精神デイケアを利用している」「学校に通っている」「その他」のうち、「主に自宅で過ごしている」だけを選択した65歳以上の方を除いた65歳未満の方
*2 障害福祉サービスを利用しておらず、平日の昼間に自宅で過ごされている高齢者でない方の状況等を把握するため、65歳未満で区切って集計を行った。

(65歳未満) 平日の過ごし方別にみると、「知っている」は主に自宅で31.6%、自宅以外で43.2%となっている。

4. 障がい・疾病の内容別、医療的ケアの有無別の状況（サービス利用者）

難病や発達障がい、高次脳機能障がいなど、より詳細な障がいや疾病ごとの実態や困り事などの把握のため、本項目を掲載している。

平日の昼間の過ごし方（問12）（複数回答）

（単位：％）

《複数回答》		n	福祉的就労や日中活動に参加している	主に自宅で過ごしている	学校に通っている	一般就労している	障がい児の通所施設に通っている	家事労働をしている	保育園・幼稚園・認定こども園に通っている	介護保険のデイサービスを利用している	精神デイケアを利用している	その他	無回答
全体		1,247	32.2	22.6	20.5	12.3	12.2	8.1	3.1	2.6	1.4	5.7	2.4
障がいや疾病の内容（複数回答）別	視覚障がい	78	15.4	44.9	6.4	11.5	3.8	32.1	-	7.7	1.3	16.7	1.3
	聴覚・平衡機能障がい	112	13.4	26.8	8.0	35.7	0.9	20.5	-	2.7	1.8	8.9	3.6
	音声・言語・そしゃく機能障がい	68	41.2	19.1	10.3	8.8	20.6	5.9	-	5.9	1.5	8.8	4.4
	肢体不自由・体幹機能障がい	270	28.5	31.9	10.4	16.3	4.1	5.2	0.7	6.7	0.4	8.1	3.0
	内部障がい(心臓・呼吸器・肝臓・腎臓・直腸など)	98	16.3	45.9	6.1	23.5	4.1	15.3	1.0	4.1	1.0	4.1	2.0
	知的障がい	540	52.2	7.0	27.0	3.9	18.0	0.9	2.2	1.3	0.4	1.9	1.3
	発達障がい	316	25.0	6.6	49.4	5.7	24.4	1.3	8.9	0.6	0.3	3.8	1.6
	高次脳機能障がい	30	33.3	43.3	10.0	-	16.7	6.7	-	10.0	3.3	6.7	-
	精神疾患・精神障がい	167	54.5	32.9	0.6	10.2	6.0	10.2	-	0.6	9.6	10.2	1.8
	難病	56	28.6	39.3	17.9	14.3	3.6	10.7	-	1.8	1.8	10.7	-
その他	62	29.0	19.4	24.2	6.5	21.0	4.8	11.3	-	-	8.1	4.8	
問17別	受けている	151	29.1	40.4	6.6	13.9	7.3	4.0	0.7	4.6	0.7	11.3	2.0
	受けていない	899	33.5	20.1	23.5	13.3	12.8	7.9	3.9	2.1	1.7	5.5	1.0

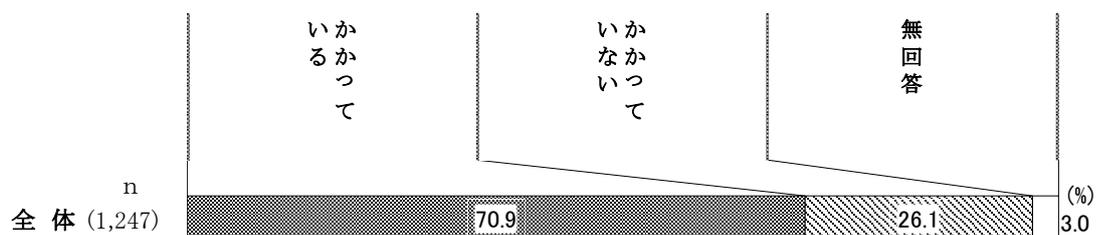
※網掛けは最も多いもの（「その他」を除く）

※問17:医療的ケアの有無別は、各障がいとの重複も含む

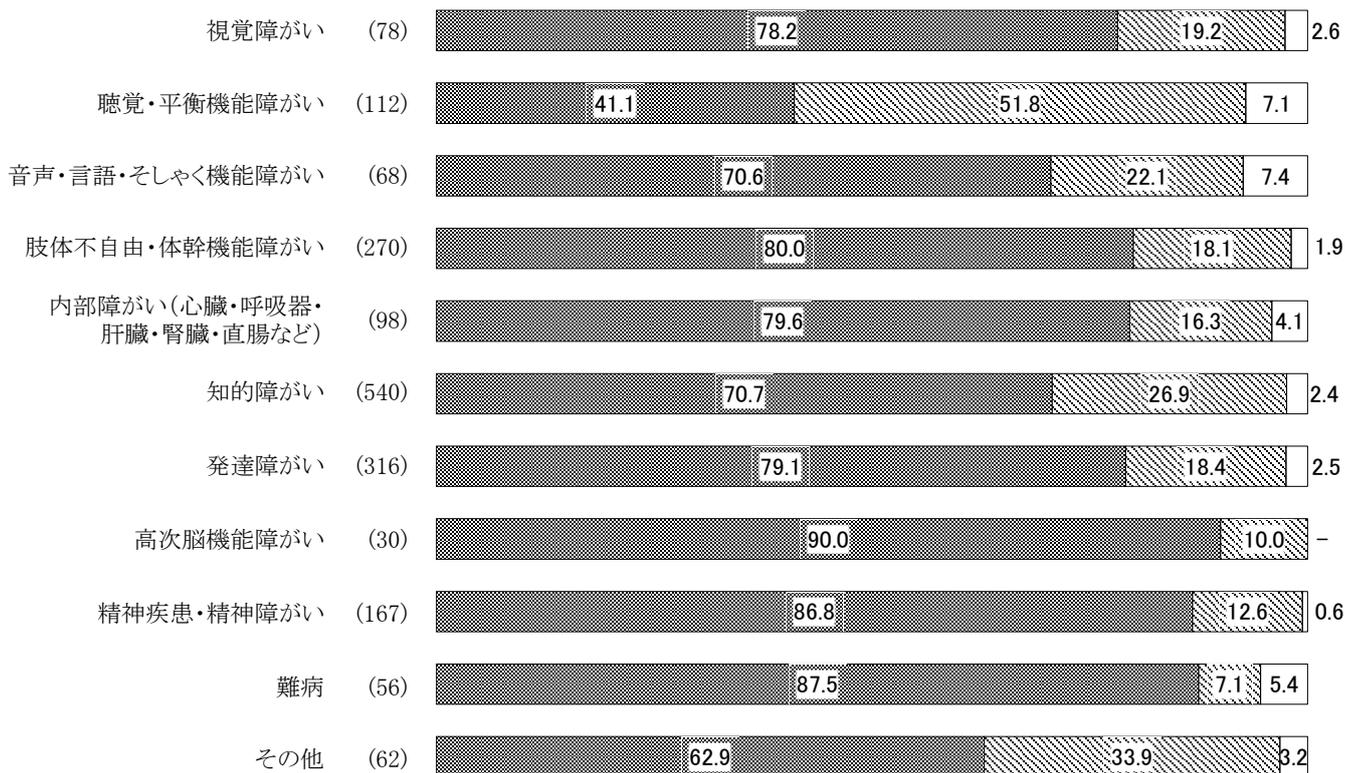
障がいや疾病の内容別にみると、平日の昼間の過ごし方について、「福祉的就労や日中活動に参加している」は精神疾患・精神障がい、知的障がいで5割台、音声・言語・そしゃく機能障がいで4割台となっている。「主に自宅で過ごしている」は内部障がい、視覚障がい、高次脳機能障がいで4割台、難病、精神疾患・精神障がい、肢体不自由・体幹機能障がいで3割台となっている。この他、「学校に通っている」は発達障がいで49.4%、「一般就労している」は聴覚・平衡機能障がいで35.7%、「家事労働をしている」は視覚障がいで32.1%、「障がい児の通所施設に通っている」が発達障がいと音声・言語・そしゃく機能障がいで2割台と他の障がいや疾病より多くなっている。

医療的ケアの有無別にみると、受けている人では「主に自宅で過ごしている」が、受けていない人では「福祉的就労や日中活動に参加している」が最も多くなっている。

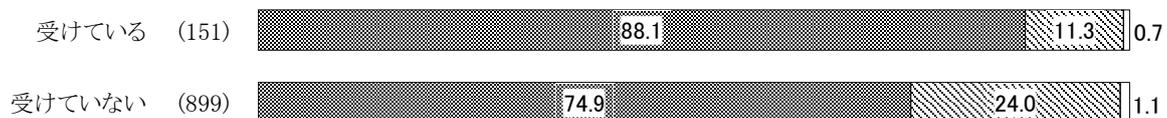
障がいの特性等に応じた専門医療機関での受診（問16）



【障がいや疾病の内容(複数回答)別】



【医療的ケアの有無別】

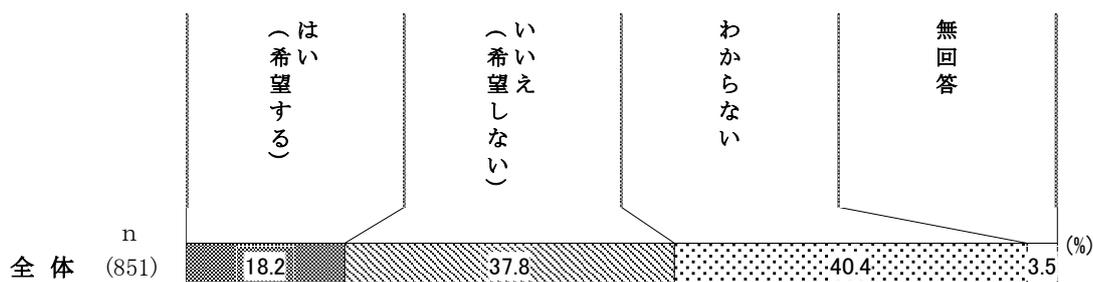


※問17：医療的ケアの有無別は、各障がいとの重複も含む

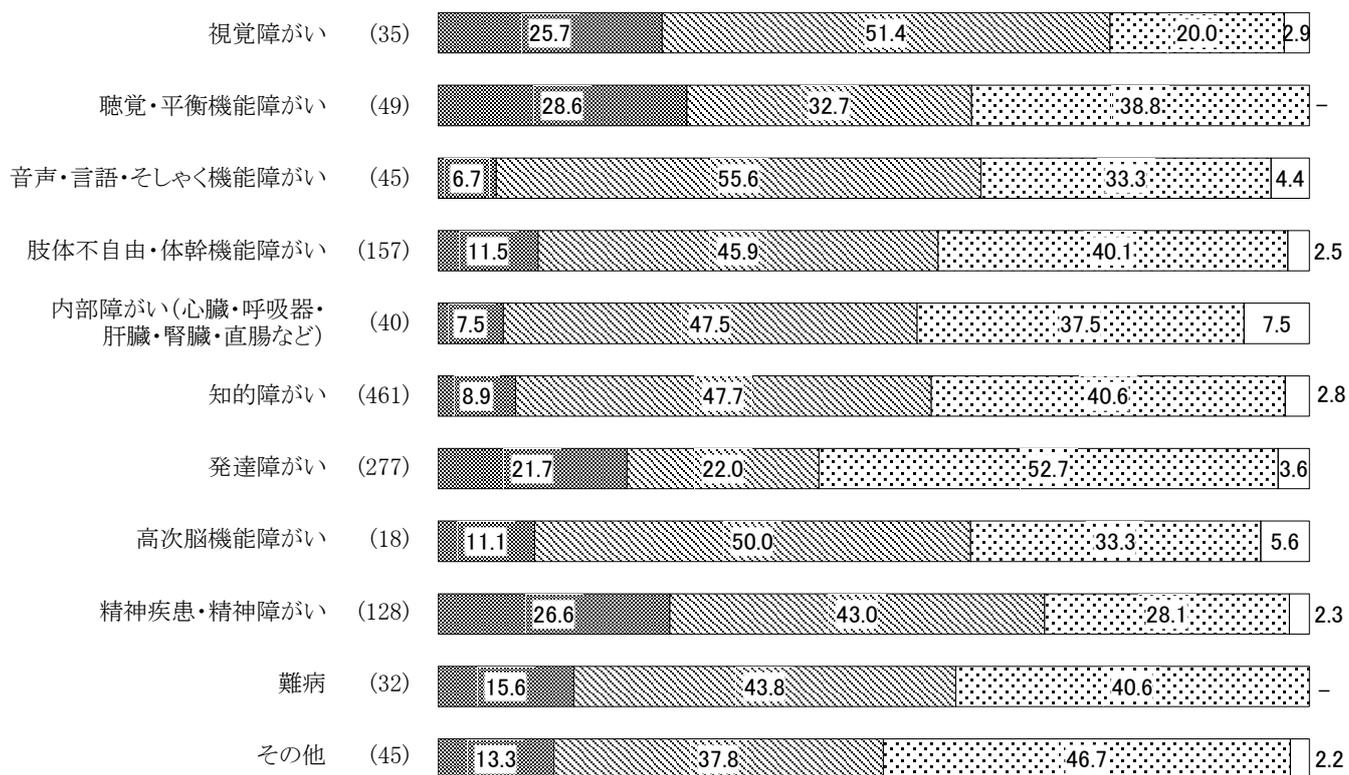
障がいや疾病の有無別にみると、専門的医療機関に「かかっている」は高次脳機能障がい、精神疾患、難病で9割近くから9割と多く、それ以外でも6割から8割台と多くなっている。聴覚・平衡機能障がいでは「かかっていない」が51.8%と唯一半数以上となっている。

医療的ケアの有無別にみると、ケアを受けている人では、専門的医療機関に「かかっている」が88.1%、受けていない人では74.9%となっている。

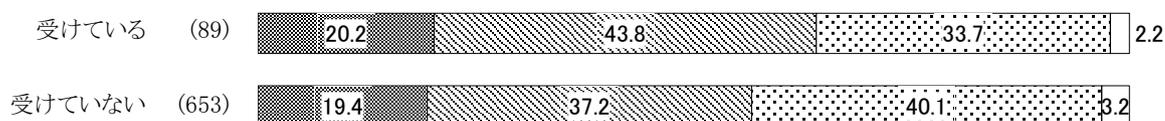
結婚や出産・子育ての希望 (問 18-1)



【障がいや疾病の内容 (複数回答) 別】



【医療的ケアの有無別】



※問 17：医療的ケアの有無別は、各障がいとの重複も含む

障がいや疾病の内容別にみると、「希望する」は視覚障がい、聴覚・平衡機能障がい、発達障がい、精神疾患・精神障がいで2割台となっている。「希望しない」は視覚障がい、音声・言語・そしゃく機能障がい、高次脳機能障がいで5割以上となっている。

医療的ケアの有無別にみると、「希望する」はいずれも2割前後となっている。「希望しない」は受けているが43.8%で、受けていないより多くなっている。

〔本人の事での困り事や不安に思うことで〕相談したい内容
 (問20以降※本人もしくは家族や支援者など本人に代わって回答している方への質問) (複数回答)

(単位:%)

《複数回答》		n	医療や健康に関すること	コミュニケーションのこと	親の高齢化など介助者に関すること	経済的なこと	福祉サービスに関すること	仕事のこと	外出・買い物のこと	住宅・生活の場所のこと	進学・学校生活に関すること	人づきあいのこと	学習や趣味の活動のこと	交通機関の利用に関すること	その他	特にない	無回答
全体		1,247	36.8	33.3	29.4	26.4	25.1	22.0	20.0	18.0	17.9	17.9	16.3	15.6	5.1	12.2	4.5
障がいや疾病の内容(複数回答)別	視覚障がい	78	41.0	17.9	21.8	17.9	28.2	15.4	25.6	16.7	9.0	16.7	14.1	23.1	2.6	19.2	6.4
	聴覚・平衡機能障がい	112	29.5	29.5	19.6	21.4	13.4	25.0	6.3	14.3	8.0	12.5	8.9	6.3	2.7	17.9	6.3
	音声・言語・そしゃく機能障がい	68	60.3	39.7	50.0	26.5	41.2	10.3	23.5	23.5	13.2	11.8	14.7	22.1	5.9	14.7	2.9
	肢体不自由・体幹機能障がい	270	52.6	21.9	43.7	27.4	35.2	17.4	23.3	27.8	7.8	11.9	11.1	20.0	4.4	9.6	3.3
	内部障がい(心臓・呼吸器・肝臓・腎臓・直腸など)	98	51.0	12.2	23.5	28.6	21.4	18.4	15.3	13.3	10.2	7.1	7.1	12.2	4.1	16.3	3.1
	知的障がい	540	39.3	38.0	41.9	23.7	29.3	19.4	23.1	20.9	20.0	18.1	18.5	17.2	5.6	9.6	3.5
	発達障がい	316	29.7	58.9	25.0	27.8	30.1	20.6	25.3	16.5	45.9	25.6	32.3	17.4	7.0	6.0	1.6
	高次脳機能障がい	30	43.3	20.0	43.3	20.0	20.0	20.0	23.3	16.7	13.3	6.7	13.3	13.3	3.3	13.3	-
	精神疾患・精神障がい	167	46.1	35.9	28.1	43.1	26.9	41.9	19.2	22.2	0.6	31.7	9.0	18.6	6.6	9.6	6.0
	難病	56	42.9	19.6	32.1	30.4	30.4	23.2	21.4	16.1	12.5	19.6	14.3	16.1	3.6	16.1	3.6
その他	62	43.5	40.3	29.0	27.4	30.6	24.2	21.0	17.7	21.0	22.6	12.9	12.9	12.9	3.2	4.8	
問17別	受けている	151	58.9	23.8	44.4	29.1	31.1	19.2	22.5	21.2	8.6	13.2	13.9	18.5	6.6	7.9	2.0
	受けていない	899	34.7	35.6	28.9	26.9	25.8	23.1	20.1	18.2	20.2	19.6	17.4	15.9	5.1	12.9	3.6

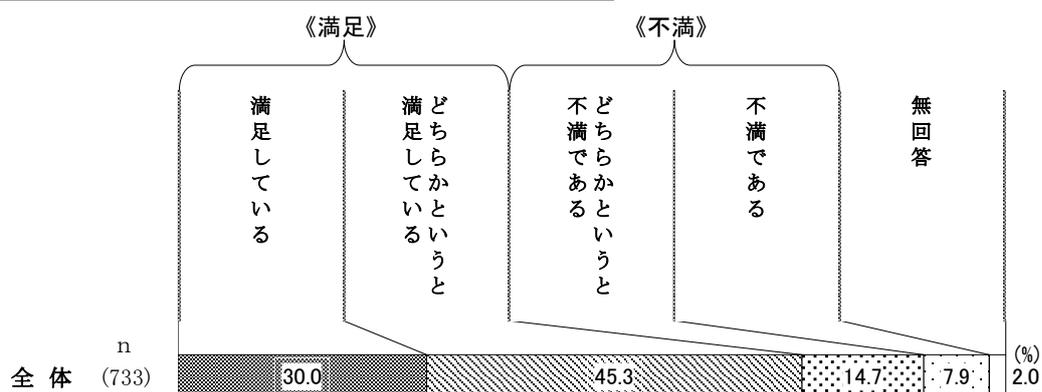
※網掛けは最も多いもの(「その他」「特にない」を除く)

※問17:医療的ケアの有無別は、各障がいとの重複も含む

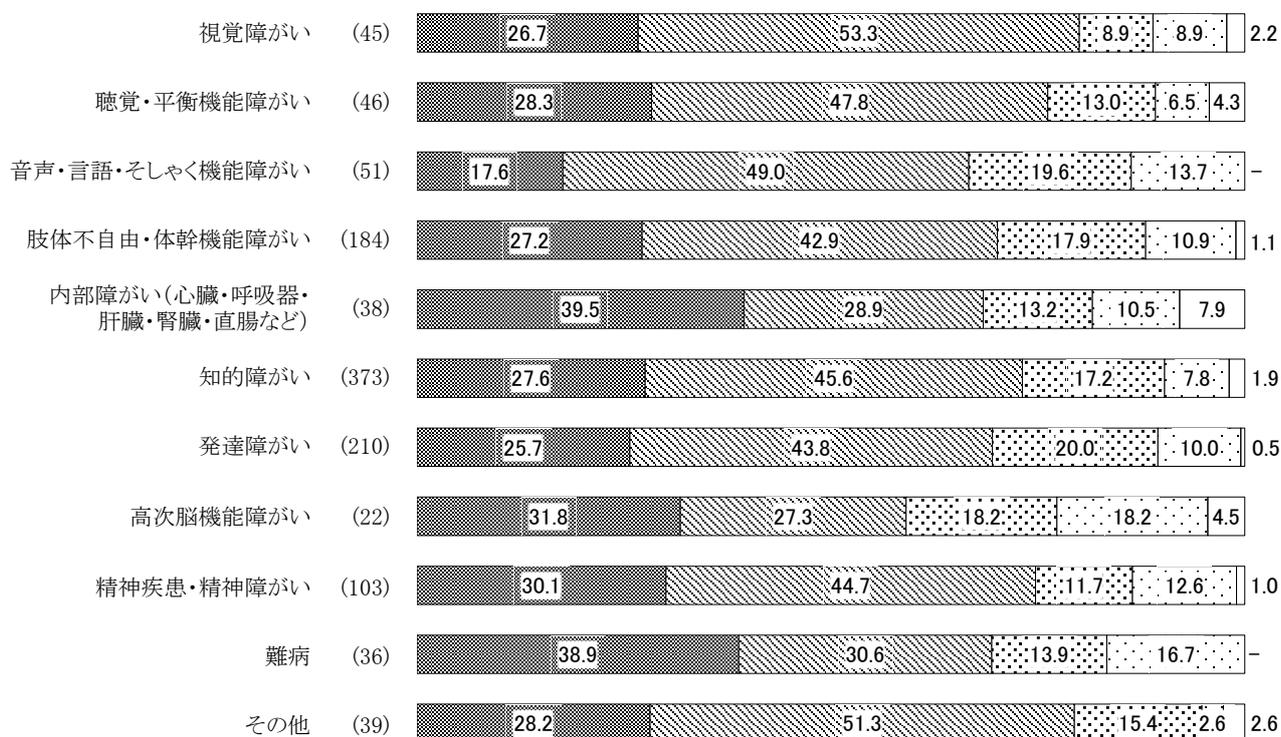
障がいや疾病の内容別にみると、本人の事でふだんの生活で困ったり、不安に思ったりして相談したいと思っていることは、「医療や健康に関すること」は多くの障がいや疾病で4割以上となっており、音声・言語・そしゃく機能障がい60.3%、肢体不自由・体幹機能障がい、内部障がいで5割台となっている。発達障がいでは「コミュニケーションのこと」が58.9%、知的障がいでは「親の高齢化など介助者に関すること」が41.9%となっている。

医療的ケアの有無別にみると、受けているは「医療や健康に関すること」が、受けていないでは「コミュニケーションのこと」が最も多くなっている。

障がい者支援センターの対応・サービス等の満足度（問 21-3）



【障がいや疾病の内容(複数回答)別】



【医療的ケアの有無別】



※問 17：医療的ケアの有無別は、各障がいとの重複も含む

「満足している」は内部障がい、難病で約4割、聴覚・平衡機能障がい、高次脳機能障がい、精神疾患・精神障がいで3割前後となっている。「どちらかという満足している」をあわせた《満足》では視覚障がいで8割、聴覚・平衡機能障がい、肢体不自由・体幹機能障がい、知的障がい、精神疾患・精神障がいで7割台となっている。

医療的ケアの有無別にみると、いずれも《満足》は約7割となっており、大きな差はみられない。

障がい者支援センターの対応・サービス等の不満の理由（問21-4）（複数回答）

(単位:%)

《複数回答》		n	か ら 相 談 の 質 に 不 満 が あ る	る 職 員 の 対 応 に 不 満 が あ る	が 相 談 し た い こ と の 相 談 が 受 け ら れ な い こ と の 相 談	遠 い か ら	待 ち 時 間 が 長 い か ら	そ の 他
全 体		166	38.6	38.0	28.9	18.1	3.0	38.0
障 が い や 疾 病 の 内 容 （ 複 数 回 答 ） 別	視覚障がい	8	37.5	50.0	25.0	25.0	-	-
	聴覚・平衡機能障がい	9	44.4	11.1	22.2	66.7	-	44.4
	音声・言語・そしゃく機能障がい	17	70.6	35.3	23.5	17.6	-	47.1
	肢体不自由・体幹機能障がい	53	47.2	32.1	34.0	17.0	-	43.4
	内部障がい(心臓・呼吸器・肝臓・腎臓・直腸な	9	77.8	22.2	33.3	22.2	-	11.1
	知的障がい	93	38.7	35.5	29.0	12.9	3.2	38.7
	発達障がい	63	39.7	39.7	25.4	7.9	1.6	50.8
	高次脳機能障がい	8	62.5	25.0	62.5	12.5	-	25.0
	精神疾患・精神障がい	25	28.0	52.0	24.0	24.0	8.0	52.0
	難病	11	54.5	45.5	36.4	18.2	-	27.3
	その他	7	28.6	71.4	42.9	28.6	-	14.3
問17別	受けている	20	55.0	35.0	35.0	10.0	5.0	25.0
	受けていない	123	35.0	37.4	27.6	17.9	2.4	43.9

※網掛けは最も多いもの(「その他」を除く)

※問17: 医療的ケアの有無別は、各障がいとの重複も含む

障がいや疾病の内容別にみると、「相談の質に不満があるから」は多くの層からあげられている。「職員の対応に不満があるから」は視覚障がい、精神疾患・精神障がい、難病で、「相談したいことの相談が受けられないから」は高次脳機能障がいと他の障がいや疾病の内容より多くあげられている。

医療的ケアの有無別にみると、受けているは「相談の質に不満があるから」が、受けていないでは「職員の対応に不満があるから」が最も多くなっている。

地震などの災害発生時に困ること（問25）（複数回答）

（単位：％）

「複数回答」		n	避難所で必要な支援が受けられるか不安	一人では避難できない	避難所の設備が障がいに対応しているか不安	避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい	薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安	周囲の人とコミュニケーションをうまくとれない	助けを求める方法がわからない	災害への備えをしていない	近くに助けてくれる人がいない	災害の情報をする方法がわからない	避難所の場所がわからない	医療機器の電源確保が心配	その他	特になし	無回答
全体		1,247	44.7	44.5	43.4	38.7	36.0	28.3	21.4	19.0	15.0	14.6	13.0	6.7	4.9	10.8	3.0
障がいや疾病の内容（複数回答）別	視覚障がい	78	44.9	64.1	39.7	28.2	30.8	17.9	24.4	14.1	14.1	21.8	23.1	3.8	7.7	16.7	1.3
	聴覚・平衡機能障がい	112	28.6	19.6	39.3	17.0	17.9	31.3	17.0	13.4	12.5	25.0	11.6	10.7	8.9	17.9	3.6
	音声・言語・そしゃく機能障がい	68	55.9	66.2	63.2	47.1	50.0	41.2	22.1	11.8	14.7	11.8	13.2	11.8	8.8	5.9	1.5
	肢体不自由・体幹機能障がい	270	58.9	62.2	64.8	40.0	52.2	15.9	23.0	16.3	17.0	9.3	13.3	14.1	7.0	4.4	3.0
	内部障がい （心臓・呼吸器・肝臓・腎臓・直腸など）	98	49.0	27.6	50.0	31.6	62.2	7.1	16.3	17.3	10.2	5.1	12.2	19.4	3.1	8.2	2.0
	知的障がい	540	55.9	59.8	52.4	53.0	33.9	39.1	24.6	18.9	15.6	14.3	12.0	4.1	4.1	5.9	1.7
	発達障がい	316	44.6	51.6	43.4	54.7	30.4	44.6	23.1	18.4	18.0	14.2	10.8	2.5	2.8	9.5	2.5
	高次脳機能障がい	30	46.7	43.3	43.3	33.3	56.7	33.3	16.7	20.0	10.0	16.7	13.3	16.7	6.7	6.7	-
	精神疾患・精神障がい	167	35.9	25.1	30.5	34.1	53.9	24.0	28.1	30.5	22.8	18.6	17.4	4.8	3.6	15.0	4.2
	難病	56	51.8	46.4	51.8	39.3	57.1	16.1	30.4	21.4	17.9	10.7	16.1	12.5	7.1	5.4	3.6
	その他	62	56.5	50.0	46.8	56.5	41.9	29.0	16.1	19.4	14.5	11.3	9.7	3.2	4.8	12.9	-
問17別	受けている	151	55.0	51.7	58.9	39.1	62.3	15.9	27.2	21.2	21.2	13.2	16.6	29.1	6.6	6.6	1.3
	受けていない	899	44.9	45.1	42.2	39.8	33.0	30.7	20.4	20.0	13.8	14.7	12.5	3.7	5.0	11.0	2.3

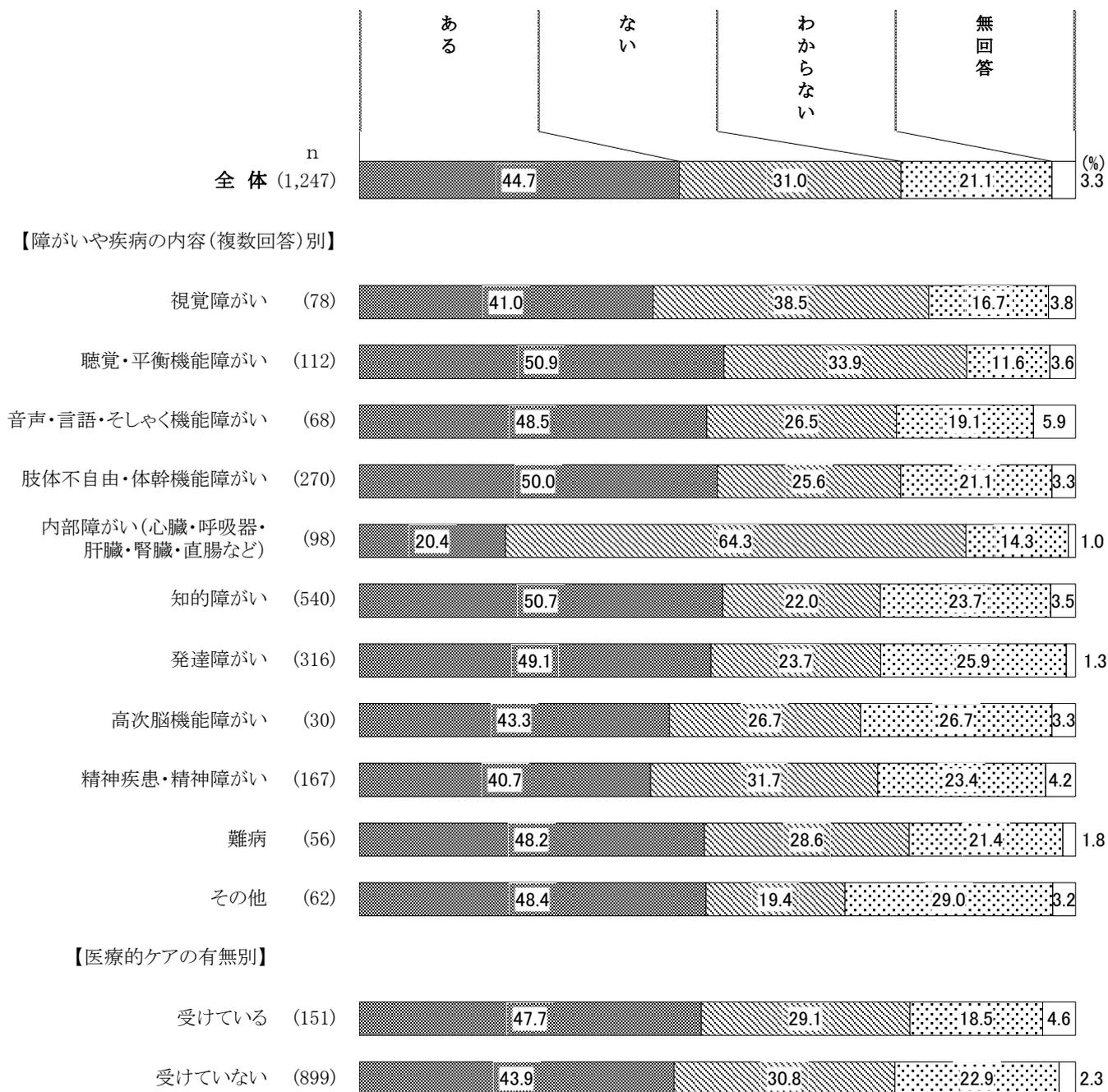
※網掛けは最も多いもの（「その他」「特になし」を除く）

※問17：医療的ケアの有無別は、各障がいとの重複も含む

障がいや疾病の内容別にみると、地震などの災害が発生したときに困ることについて、「一人では避難できない」は視覚障がい、音声・言語・そしゃく機能障がい、知的障がいで、「避難所の設備が障がいに対応しているか不安」は聴覚・平衡機能障がい、肢体不自由・体幹機能障がいで、「避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい」は発達障がいで、「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」は内部障がい、高次脳機能障がい、精神疾患・精神障がい、難病で最も多くあげられている。

医療的ケアの有無別にみると、受けているは「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」が、受けていないは「一人では避難できない」が最も多くなっている。

差別や偏見を受けた経験 (問26)



※問 17 : 医療的ケアの有無別は、各障がいとの重複も含む

障がいや疾病の内容別にみると、障がいがあることを理由に差別（偏見を含む）を受けたことが「ある」は聴覚・平衡機能障がい、肢体不自由・体幹機能障がい、知的障がいで5割を超え、音声・言語・そしゃく機能障がい、発達障がい、難病で5割近くとなっている。内部障がいでは「ない」が64.3%と多く、唯一「ある」を上回っている。

医療的ケアの有無別にみると、「ある」は受けている人で5割近くとなっている。

【差別や偏見を受けた経験があると回答した方（問26）】
差別や偏見等を受けた場面（問26-1）（複数回答）

（単位：％）

《複数回答》		n	店などでの対応	公共交通機関	教育・育児	言葉遣い	仕事や収入	社会制度・慣習	医療機関	趣味やスポーツ活動	イベント	市役所	金融機関	結婚・交際	その他	無回答
全体		557	32.7	29.8	27.3	27.1	25.1	20.8	19.6	12.4	8.4	7.7	7.7	7.0	18.5	1.4
障がいや疾病の内容（複数回答）別	視覚障がい	32	50.0	31.3	28.1	40.6	34.4	34.4	12.5	21.9	15.6	25.0	34.4	18.8	12.5	3.1
	聴覚・平衡機能障がい	57	42.1	24.6	29.8	35.1	56.1	19.3	19.3	17.5	10.5	15.8	10.5	21.1	7.0	3.5
	音声・言語・そしゃく機能障がい	33	42.4	36.4	36.4	42.4	27.3	27.3	21.2	15.2	15.2	12.1	12.1	12.1	18.2	6.1
	肢体不自由・体幹機能障がい	135	44.4	44.4	20.7	23.0	25.9	25.2	25.2	11.1	11.1	8.1	11.9	11.1	15.6	1.5
	内部障がい（心臓・呼吸器・肝臓・腎臓・直腸など）	20	30.0	35.0	30.0	25.0	35.0	25.0	35.0	10.0	10.0	10.0	10.0	5.0	20.0	10.0
	知的障がい	274	31.8	27.4	27.7	25.2	14.6	21.2	24.8	13.9	7.3	3.3	4.4	2.2	20.8	2.2
	発達障がい	155	26.5	26.5	42.6	25.2	12.3	16.1	17.4	11.0	9.7	3.9	3.2	1.9	18.7	1.9
	高次脳機能障がい	13	23.1	23.1	15.4	15.4	30.8	15.4	15.4	23.1	7.7	15.4	7.7	-	7.7	15.4
	精神疾患・精神障がい	68	26.5	32.4	5.9	35.3	39.7	25.0	20.6	8.8	10.3	13.2	10.3	11.8	22.1	4.4
	難病	27	33.3	40.7	25.9	18.5	40.7	29.6	18.5	18.5	11.1	14.8	11.1	11.1	25.9	3.7
	その他	30	33.3	23.3	23.3	23.3	33.3	13.3	30.0	13.3	10.0	6.7	-	3.3	33.3	-
問17別	受けている	72	50.0	36.1	22.2	27.8	33.3	23.6	22.2	6.9	8.3	5.6	6.9	15.3	15.3	1.4
	受けていない	395	30.1	30.4	27.6	27.6	25.3	21.5	18.7	12.9	8.6	7.3	8.6	6.1	19.0	1.5

※網掛けは最も多いもの（「その他」を除く）

※問17: 医療的ケアの有無別は、各障がいとの重複も含む

障がいや疾病の内容別にみると、差別や偏見等を受けた場面や事柄について、「店などでの対応」は視覚障がい50.0%、音声・言語・そしゃく機能障がい、肢体不自由・体幹機能障がい4割台となっている。「公共交通機関」は肢体不自由・体幹機能障がいと難病で、「教育・育児」では発達障がい、「言葉遣い」では視覚障がいと音声・言語・そしゃく機能障がい4割台となっている。「仕事や収入」は聴覚・平衡機能障がい56.1%、精神疾患・精神障がいと難病で4割前後となっている。

医療的ケアの有無別にみると、受けているは「店などでの対応」、受けていないでは「公共交通機関」が最も多くなっている。

5. 障がい・疾病の内容別の状況（サービス未利用者）

発達障がいや高次脳機能障がいなど、より詳細な障がいや疾病ごとの実態や困り事などの把握のため、本項目を掲載している。

平日の昼間の過ごし方（問8）（複数回答）

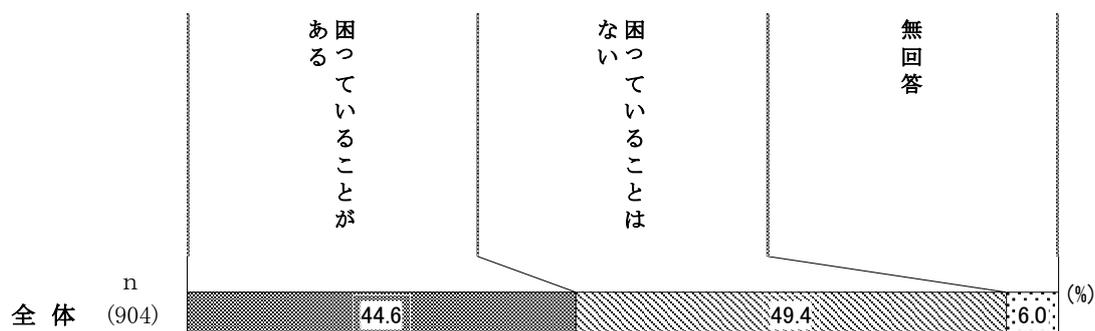
(単位: %)

《複数回答》		n	主に自宅で過 している	一般就労してい る	家事労働をして いる	介護保険のデー サービスを利用 している	精神デイケアを 利用している	学校に通ってい る	その他	無 回 答
全 体		904	42.3	35.1	23.6	6.2	2.3	1.5	11.7	1.8
障 が い や 疾 病 の 内 容 （ 複 数 回 答 ） 別	視覚障がい	210	37.6	39.5	27.1	9.5	0.5	2.4	12.9	-
	聴覚・平衡機能障がい	33	42.4	42.4	15.2	9.1	-	3.0	9.1	-
	音声・言語・そしゃく機能障がい	17	64.7	23.5	11.8	29.4	5.9	5.9	11.8	-
	肢体不自由・体幹機能障がい	161	49.7	22.4	31.1	18.0	1.9	-	15.5	1.9
	内部障がい (心臓・呼吸器・肝臓・腎臓・直腸など)	140	54.3	28.6	17.9	8.6	0.7	2.1	15.7	1.4
	知的障がい	57	28.1	57.9	7.0	5.3	1.8	-	12.3	3.5
	発達障がい	60	26.7	61.7	6.7	-	1.7	5.0	3.3	1.7
	高次脳機能障がい	15	40.0	26.7	-	33.3	6.7	-	13.3	-
	精神疾患・精神障がい	313	52.1	26.8	25.9	1.6	6.1	1.3	10.5	1.0
	難病	180	36.7	40.6	28.9	8.3	0.6	2.8	13.9	-
その他	40	45.0	32.5	15.0	7.5	2.5	2.5	17.5	-	

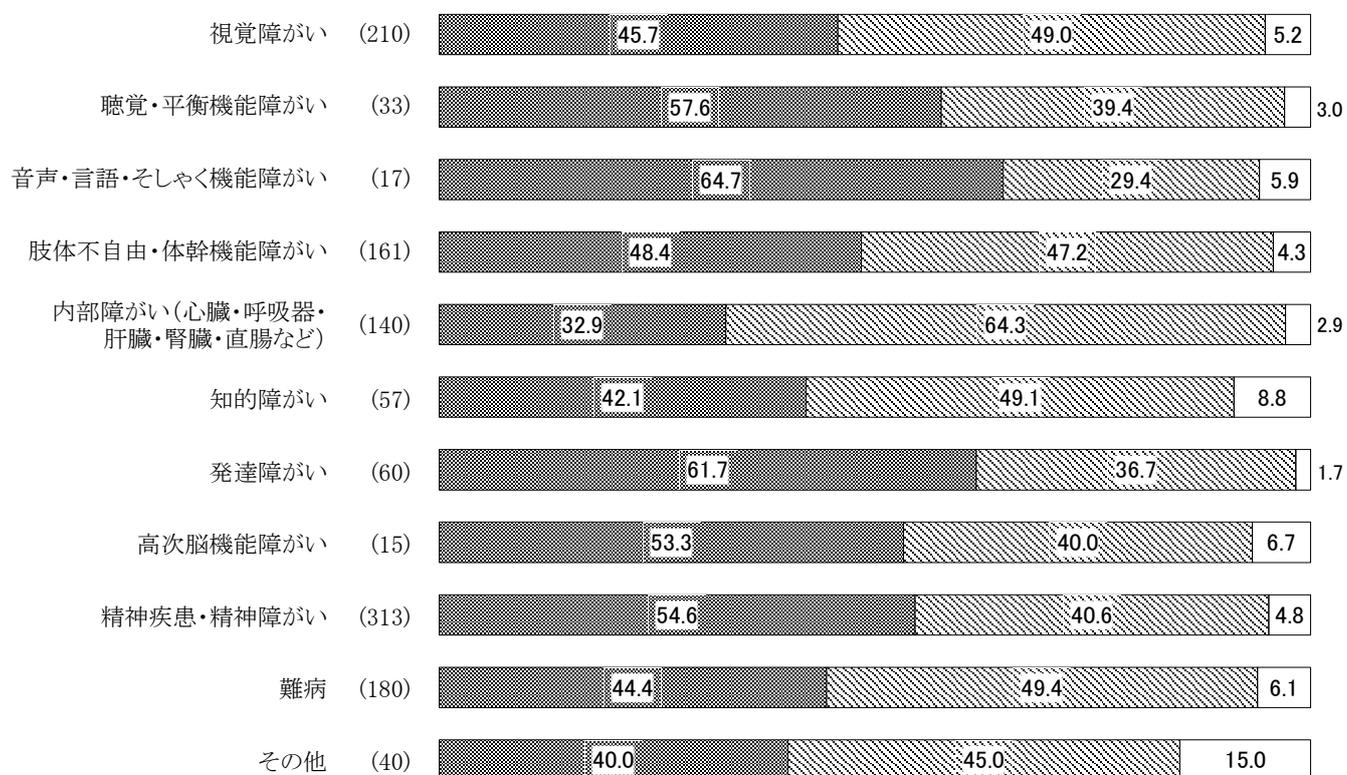
※網掛けは最も多いもの(「その他」を除く)

平日の昼間の過ごし方について、「主に自宅で過ごしている」は内部障がい54.3%、精神疾患・精神障がい、肢体不自由・体幹機能障がい5割前後、「一般就労している」は発達障がい61.7%、知的障がい57.9%と多くなっている。この他、「家事労働をしている」は肢体不自由・体幹機能障がい31.1%と他の障がいや疾病の内容より多くなっている。

障がいや疾病のため、支援が必要と感じる困りごと（問9）



【障がいや疾病の内容(複数回答)別】



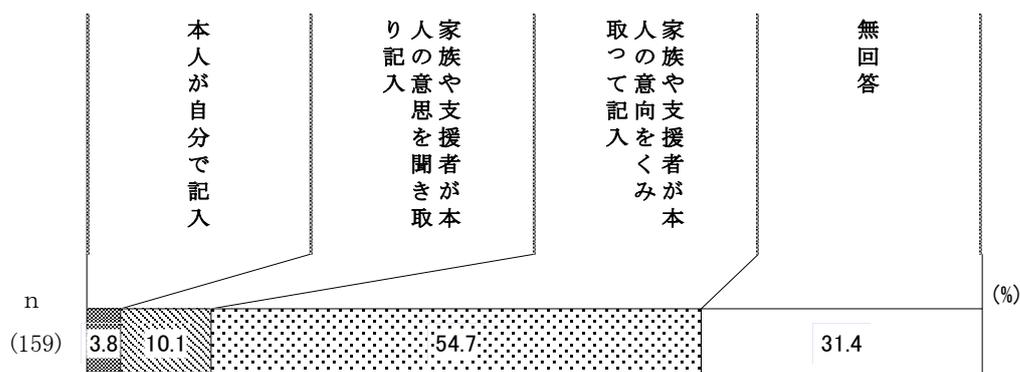
障がいや疾病があることで、支援が必要と感じる「困っていることがある」は、発達障がいでは61.7%、聴覚・平衡機能障がい、精神疾患・精神障がいでも5割台となっている。「困っていることはない」は内部障がいでは64.3%と他の障がいや疾病の内容より多くなっている。

第5章 施設入所者調査結果

1. 回答者と本人の基本属性

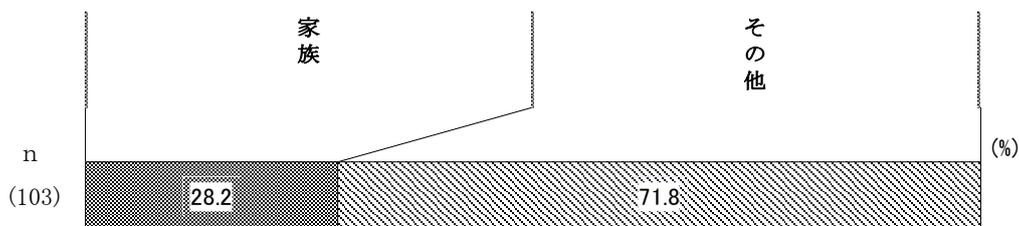
(1) 調査票記入者

問1 本調査の記入方法について回答ください。(あてはまるもの1つに○)
封筒の宛名のご本人以外の方が回答を記入された場合は、記入された方とご本人との関係について、あてはまるものに○をしてください。



調査票記入者は、「本人が自分で記入」は3.8%とわずかであり、「家族や支援者が本人の意思を聞き取り記入」が10.1%、「家族や支援者が本人の意向をくみ取って記入」が54.7%で、本人以外の記入が64.8%と大半を占めている。以降の分析をみる場合には、上記の点に留意する必要がある。

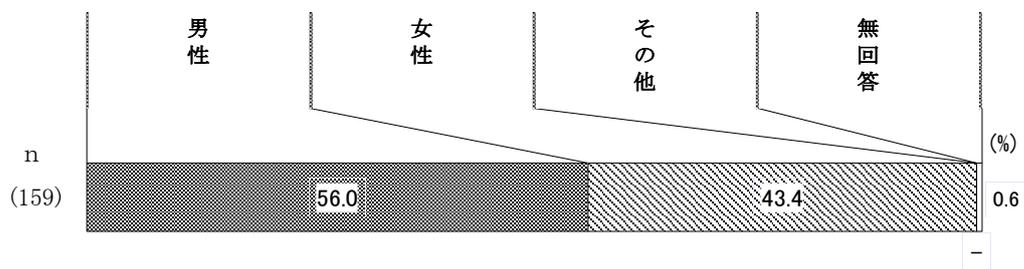
【「家族や支援者が本人の意思を聞き取り記入」または「家族や支援者が本人の意向をくみ取って記入（本人が児童の場合や、ご自身で意思を伝えられない場合など）」に回答した方】



本人に代わって家族や支援者が意思を聞き取る、あるいは意向をくみ取るなどで調査票の記入をしたケースでは、「家族」が28.2%、家族以外（「その他」）が71.8%となっている。

(2) 性別

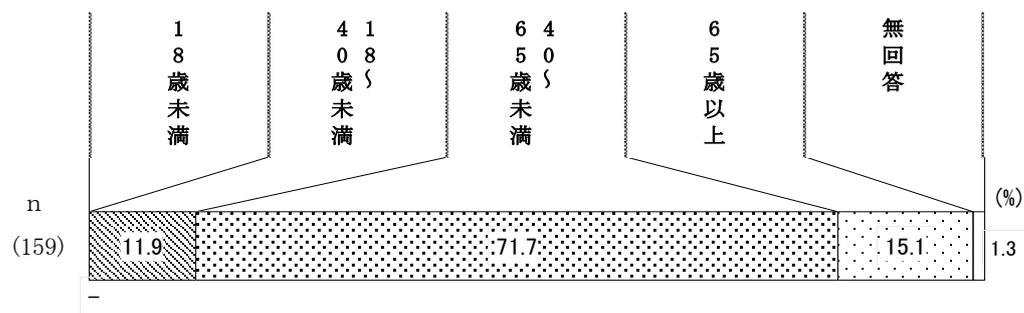
問2 あなた（本人）の性別をお答えください。（あてはまるもの1つに○）



性別は、「男性」が56.0%、「女性」が43.4%となっている。

(3) 年齢

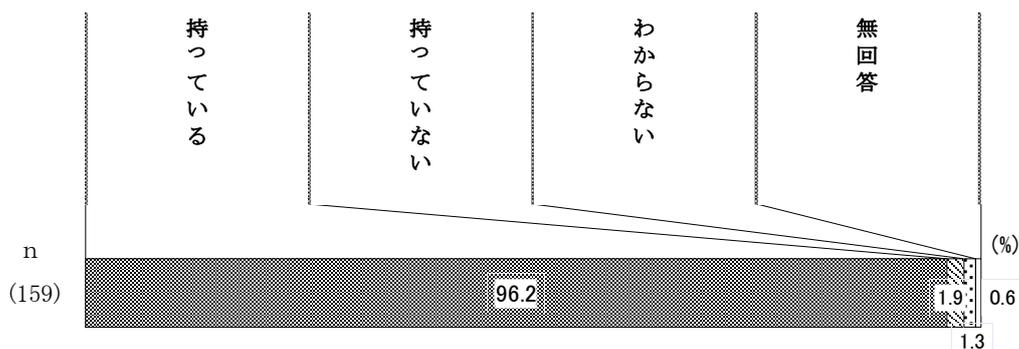
問3 あなた（本人）の年齢（2019年4月1日現在）をお答えください。



年齢は、「40～65歳未満」が71.7%、「18～40歳未満」（11.9%）と「65歳以上」（15.1%）が1割台となっている。また、「18歳未満」の回答者はなかった。

(4) 障がい者手帳の所持

問4 あなた（本人）は、障がい者に関する手帳をお持ちですか。（あてはまるもの1つに○）



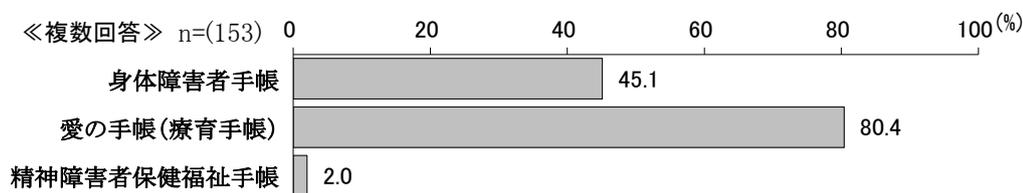
障がい者に関する手帳の所持は、「持っている」が96.2%を占めている。

(5) 所持している障がい者手帳の種類

【問4で「持っている」と回答した方に】

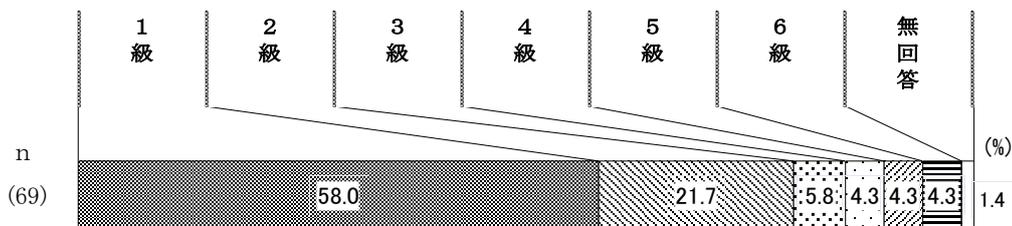
問4-1 お持ちの手帳の種類と等級をお答えください。

(あてはまる手帳の等級すべてに○)

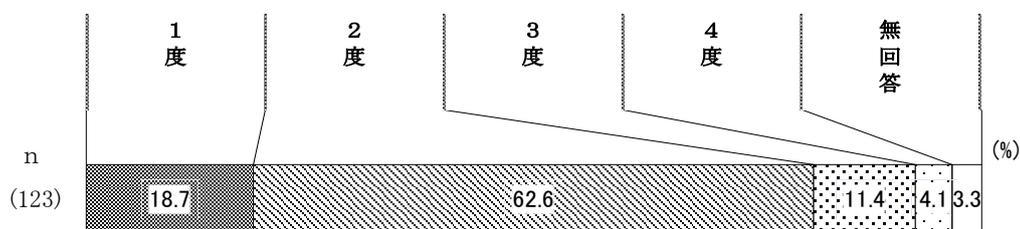


所持している手帳の種類は、「身体障害者手帳」が45.1%、「愛の手帳（療育手帳）」が80.4%、「精神障害者保健福祉手帳」が2.0%となっている。

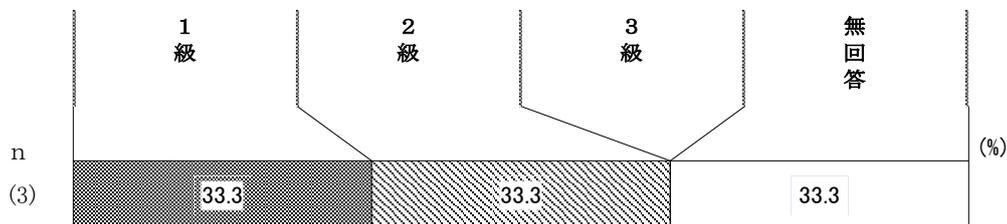
身体障害者手帳



愛の手帳(療育手帳)



精神障害者保健福祉手帳

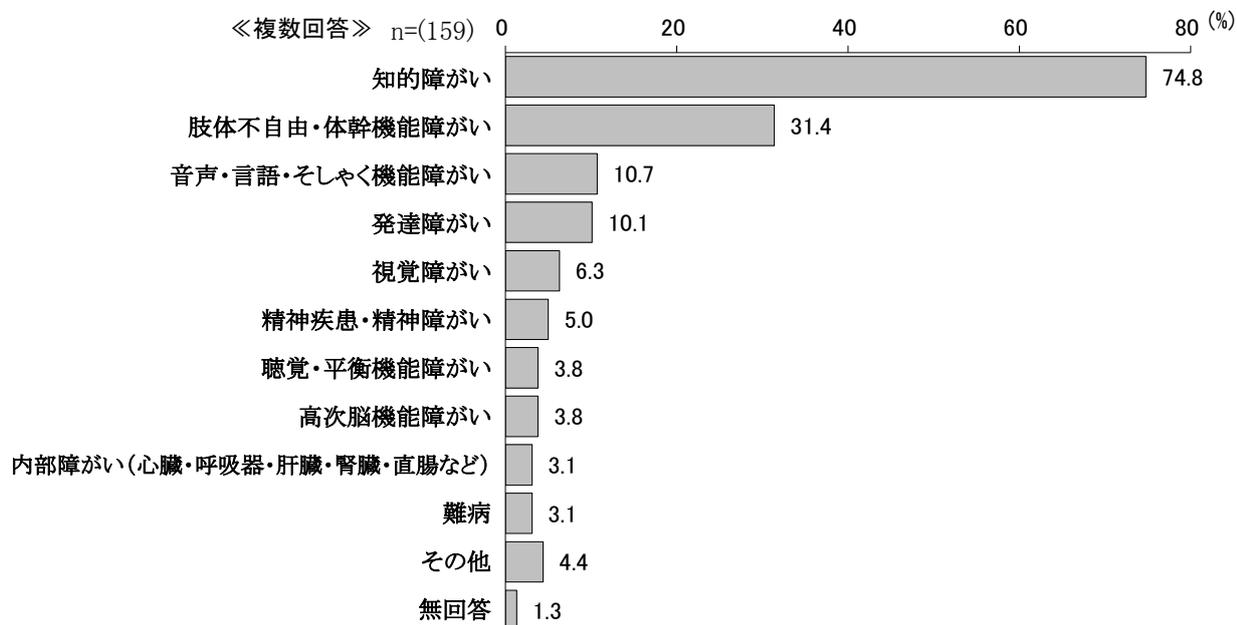


※上図は重複して障がいのある方を含む。

身体障害者手帳の等級は「1級」が58.0%、「2級」が21.7%で程度の重い方が79.7%を占める。愛の手帳（療育手帳）の等級は「2度」が62.6%と多く、「1度」、「3度」が1割台となっている。精神障害者保健福祉手帳の所持者は3名で、等級は「1級」、「2級」が1名ずつとなっている。

(6) 障がいや疾病の内容

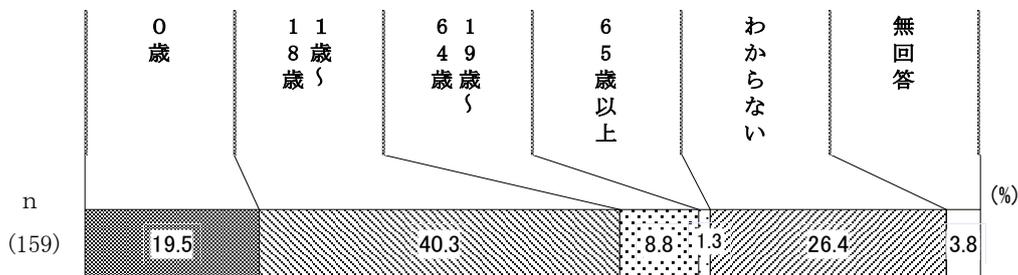
問5 あなた（本人）の障がいや疾病の内容についてお答えください。
 （あてはまるものすべてに○）



障がいや疾病の内容は、「知的障がい」が74.8%と特に多く、これに「肢体不自由・体幹機能障がい」が31.4%で次いでいる。

(7) 障がいや疾病に気づいた時期

問6 あなた（本人）の障がいや疾病に気づいたのはいつ頃ですか。
 （あてはまるもの1つに○）

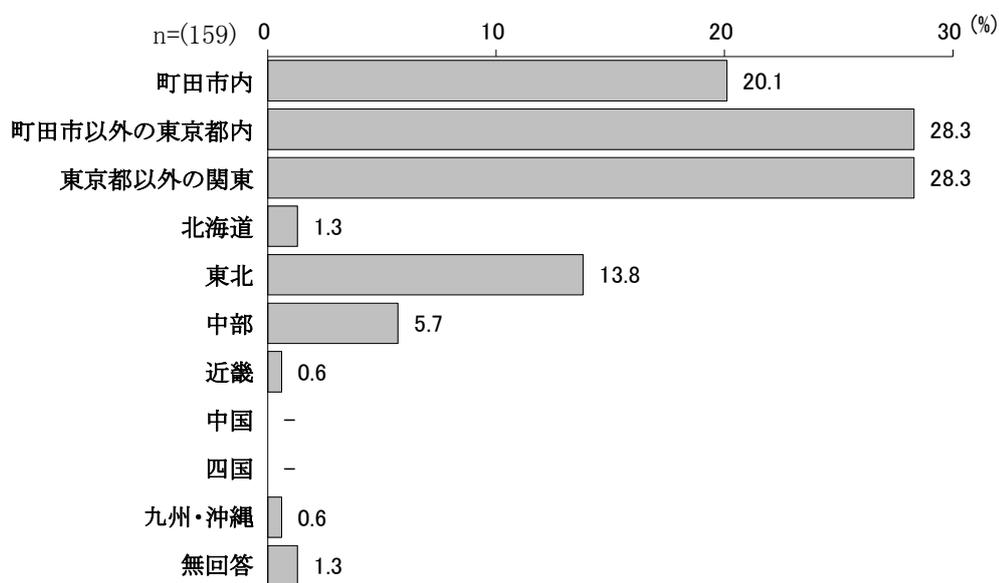


本人の障がいや疾病に気づいた時期は、「1歳～18歳」が40.3%となっており、「0歳」が19.5%となっている。

2. 入所している施設や生活について

(1) 現在入所している施設のある地域

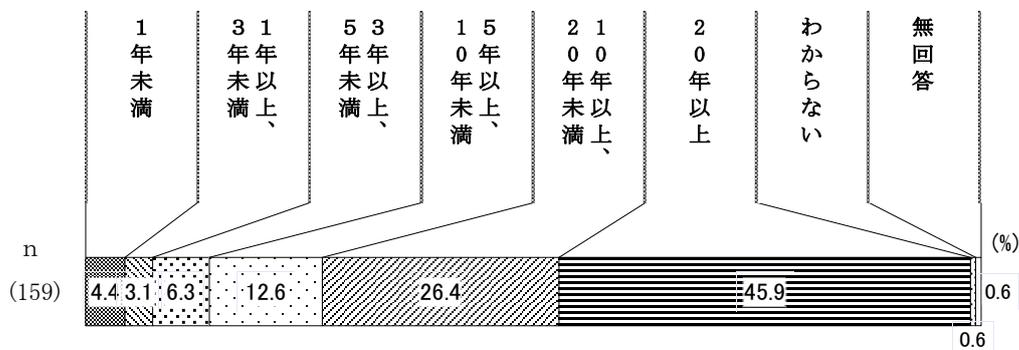
問7 あなた（本人）が現在入所している施設のある地域をお答えください。
（あてはまるもの1つに○）



現在入所している施設のある地域は、「町田市内」が20.1%、「町田市以外の東京都内」、「東京都以外の関東」が28.3%となっている。

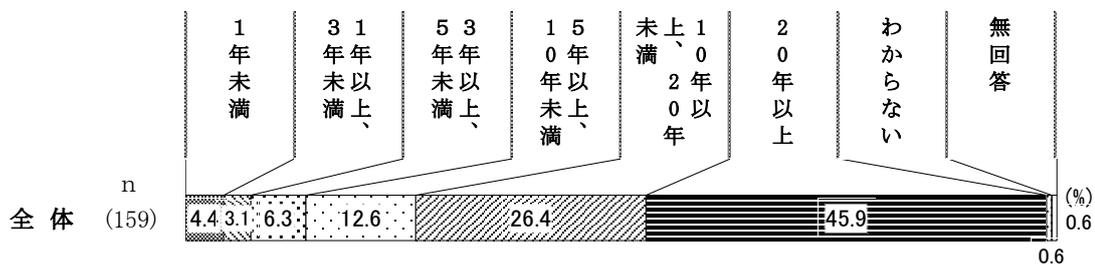
(2) 現在の施設での入所年数

問8 あなた（本人）が現在の施設に入所してからの年数をお答えください。
 （あてはまるもの1つに○）

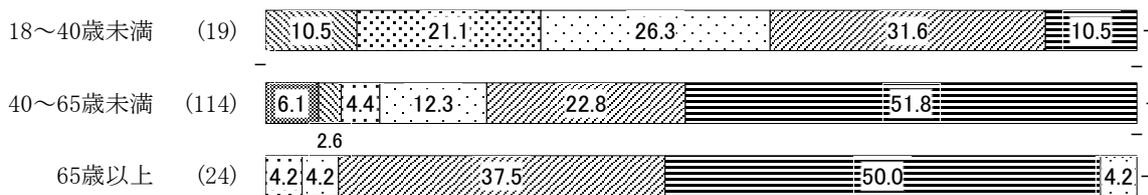


現在の施設に入所してからの年数は、「20年以上」が45.9%と多く、「10年以上、20年未満」も26.4%となっており、10年を超える入所者が多い。

年齢別



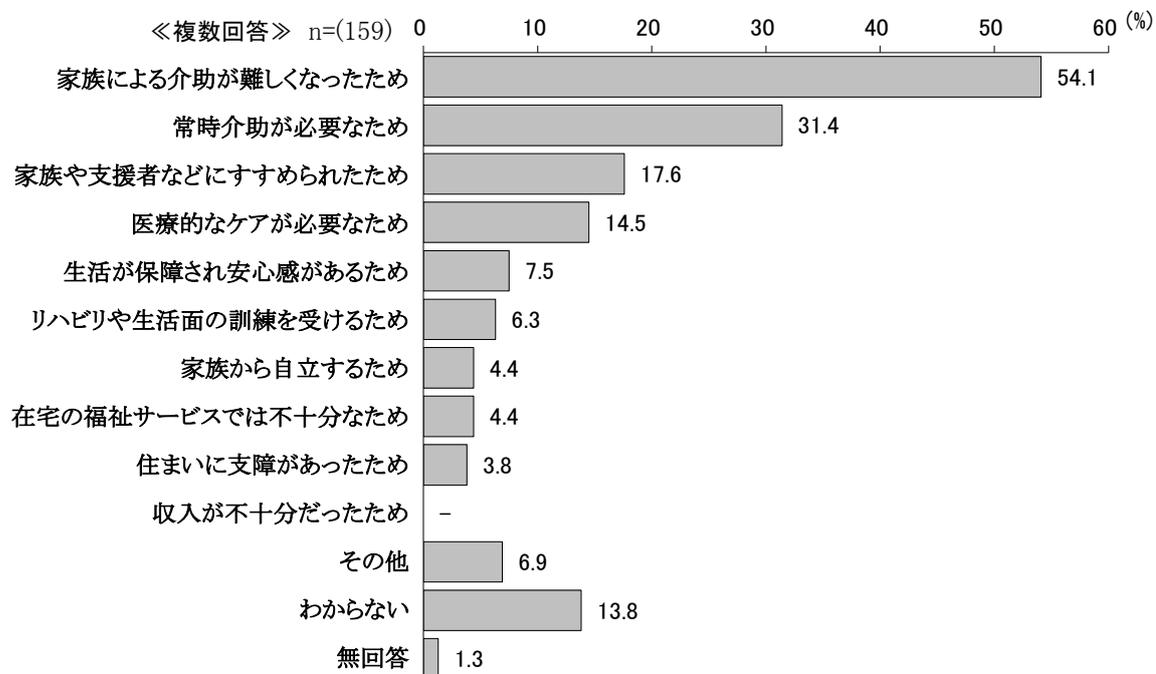
【年齢別】



年齢別にみると、「20年以上」は40～65歳未満と65歳以上で5割台となっている。18～40歳未満では「10年以上、20年未満」が3割台となっている。

(3) 現在の施設に入所を決めた理由

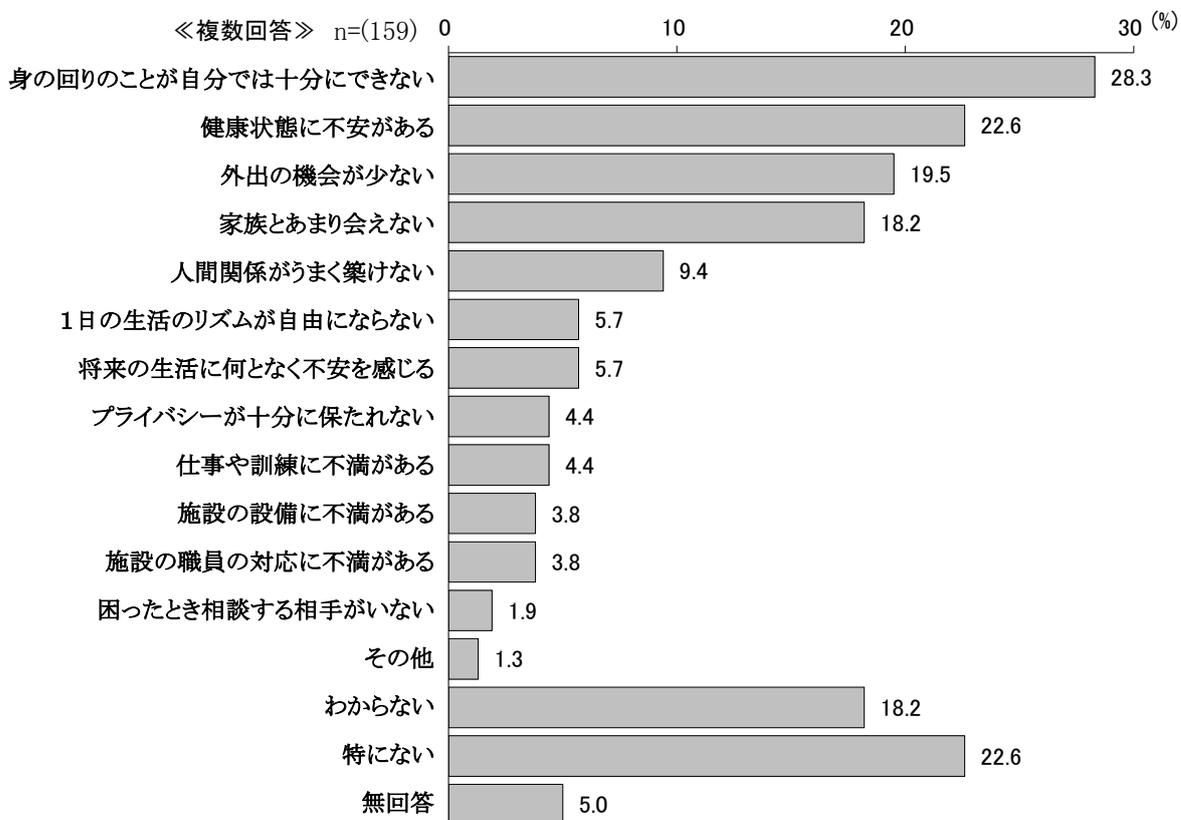
問9 あなた（本人）が現在の施設に入所することを決めた主な理由は何ですか。
（あてはまるもの3つまで○）



現在の施設に入所を決めた理由は、「家族による介助が難しくなったため」が54.1%で最も多い。次いで「常時介助が必要なため」が31.4%、「家族や支援者などにすすめられたため」（17.6%）、「医療的なケアが必要なため」（14.5%）が1割台となっている。

(4) 現在の入所施設での生活上、困る事や不安に感じていること

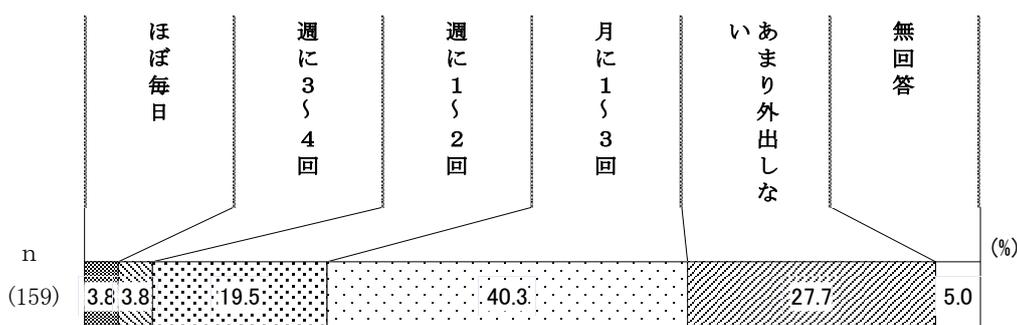
問10 あなた（本人）が現在の入所施設での生活の中で、困る事や不安に感じていることはありますか。（あてはまるものすべてに○）



現在の入所施設の生活の中で、困る事や不安に感じていることは、「身の回りのことが自分では十分にできない」が28.3%で最も多く、「健康状態に不安がある」が22.6%、「外出の機会が少ない」(19.5%)、「家族とあまり会えない」(18.2%)が1割台となっている。

(5) 外出の頻度

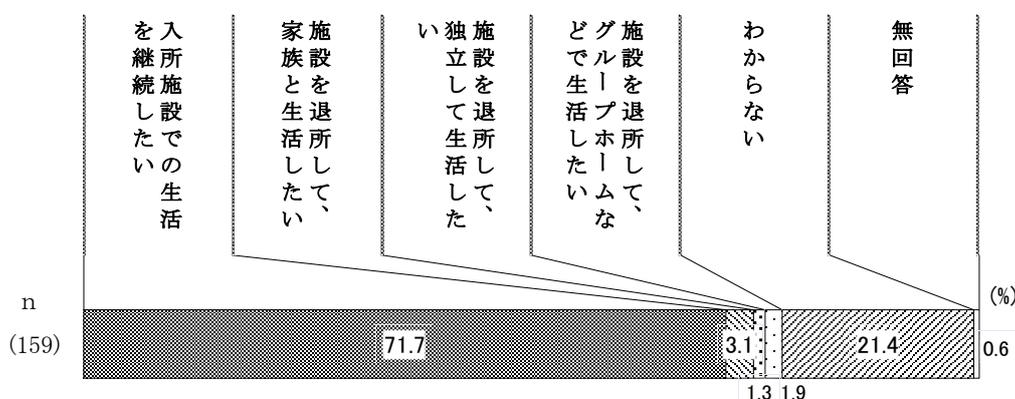
問11 あなた（本人）はどのくらいの頻度で外出していますか。（あてはまるもの1つに○）



外出の頻度は、「月に1〜3回」が40.3%と多く、「あまり外出しない」も27.7%となっている。

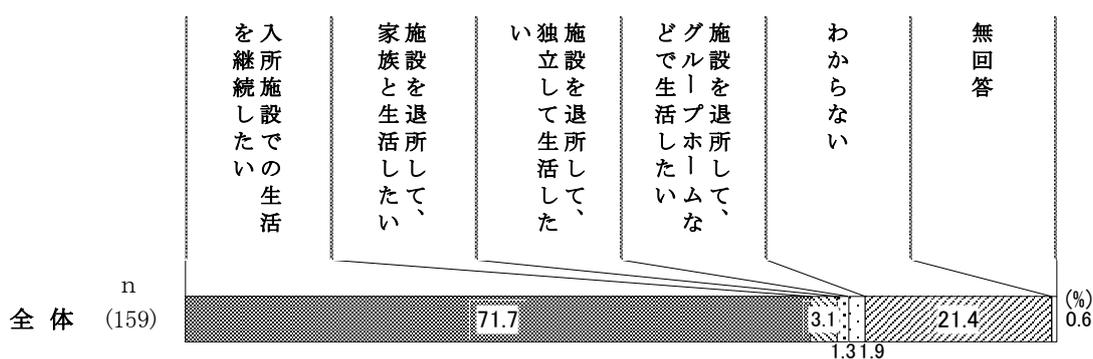
(6) 今後希望する生活

問12 あなた（本人）は、今後どのような生活を希望しますか。（あてはまるもの1つに○）

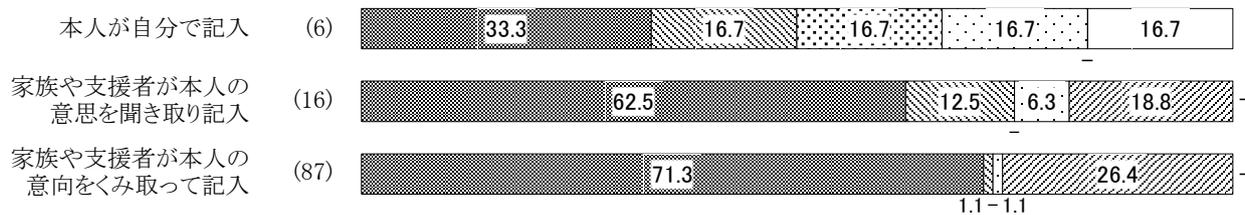


今後希望する生活は、「入所施設での生活を継続したい」が71.7%と多くなっている。

調査記入者別（問1）

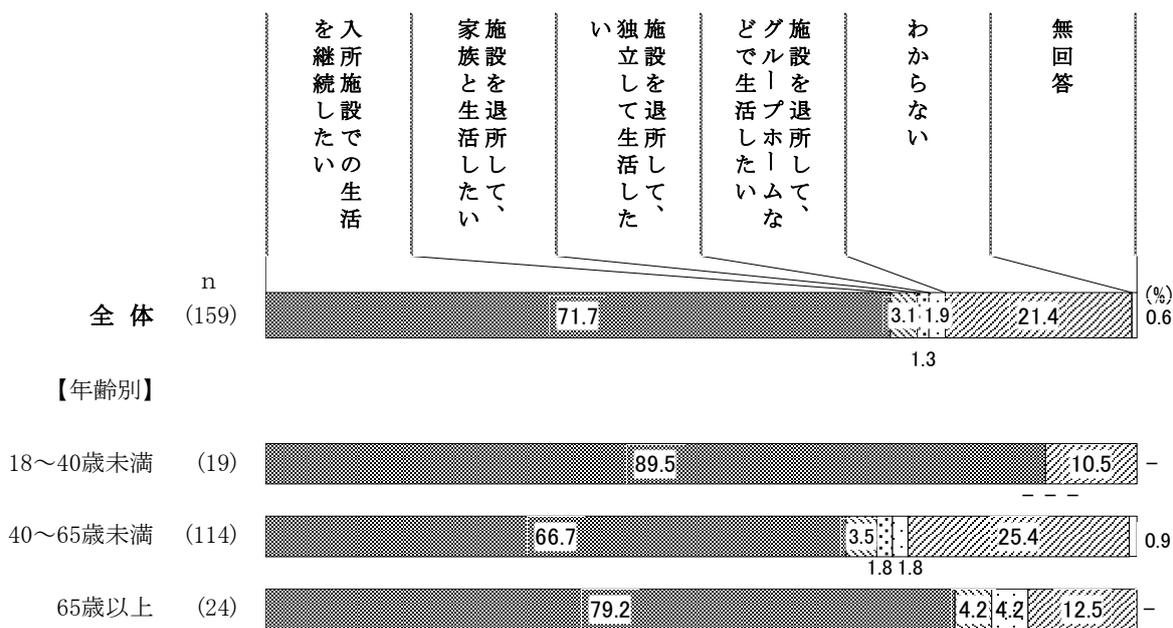


【調査票記入者別】



調査記入者別（問1）にみると、“家族や支援者が本人の意向をくみ取って記入”では「入所施設での生活を継続したい」が71.3%と多くなっている。

年齢別



年齢別にみると、いずれの年齢でも「入所施設での生活を継続したい」が6割以上となっている。

年齢・調査票記入者別（問1）

（単位：%）

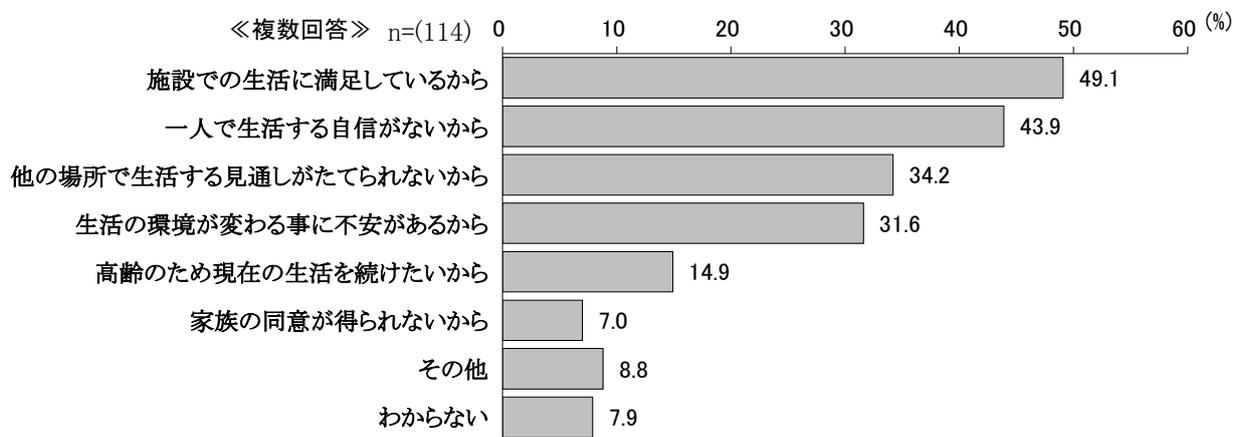
		n	入所施設での生活を継続したい (%)	施設を退所して、家族と生活したい (%)	施設を退所して、独立して生活したい (%)	グループホームなどで生活をしたい (%)	わからない (%)	無回答 (%)	
全体		159	71.7	3.1	1.3	1.9	21.4	0.6	
年齢・調査票記入者別	18～40歳未満	本人が自分で記入	-	-	-	-	-	-	
		家族や支援者が本人の意思を聞き取り記入	-	-	-	-	-	-	
		家族や支援者が本人の意向をくみ取って記入	12	91.7	-	-	-	8.3	-
	40～65歳未満	本人が自分で記入	4	25.0	25.0	25.0	-	-	25.0
		家族や支援者が本人の意思を聞き取り記入	13	61.5	15.4	-	7.7	15.4	-
		家族や支援者が本人の意向をくみ取って記入	61	63.9	1.6	-	1.6	32.8	-
65歳以上	本人が自分で記入	2	50.0	-	-	50.0	-	-	
	家族や支援者が本人の意思を聞き取り記入	2	50.0	-	-	-	50.0	-	
	家族や支援者が本人の意向をくみ取って記入	14	85.7	-	-	-	14.3	-	

※網掛けは最も多いもの（「わからない」を除く）

年齢・調査記入者別（問1）にみると、「家族や支援者が本人の意思を聞き取り記入」、「家族や支援者が本人の意向をくみ取って記入」とともに、「入所施設での生活を継続したい」が高い割合となっている。

(7) 入所施設での生活を継続したい理由

【問12で「入所施設での生活を継続したい」と回答した方に】
 問12-1 その理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)



入所施設での生活を継続したい理由は、「施設での生活に満足しているから」が49.1%で最も多い一方で、「一人で生活する自信がないから」(43.9%)、「他の場所で生活する見通しがたてられないから」(34.2%)、「生活の環境が変わる事に不安があるから」(31.6%)など、施設以外での生活を見出しづらいことを理由とする割合も多くなっている。

調査記入者別 (問1)

(単位: %)

調査票		n	施設での生活に満足しているから	一人で生活する自信がないから	他の場所で生活する見通しがたてられないから	生活の環境が変わる事に不安があるから	高齢のため現在の生活を続けたいから	家族の同意が得られないから	その他	わからない
全体		114	49.1	43.9	34.2	31.6	14.9	7.0	8.8	7.9
記入者別	本人が自分で記入	2	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	-	-	50.0
	家族や支援者が本人の意思を聞き取り記入	10	60.0	40.0	40.0	20.0	-	10.0	10.0	10.0
	家族や支援者が本人の意向をくみ取って記入	62	50.0	38.7	30.6	27.4	14.5	1.6	9.7	11.3

※網掛けは最も多いもの(「その他」「わからない」を除く)

調査記入者別 (問1) にみると、「家族や支援者が本人の意向をくみ取って記入」では「施設での生活に満足しているから」が50.0%と多く、「一人で生活する自信がないから」、「他の場所で生活する見通しがたてられないから」が3割台となっている。

第5章 施設入所者調査結果

年齢別

(単位:%)

《複数回答》		n	施設での生活に満足しているから	一人で生活する自信がないから	他の場所で生活する見通しがたてられないから	生活の環境が変わる事に不安があるから	高齢のため現在の生活を続けたいから	家族の同意が得られないから	その他	わからない
全体		114	49.1	43.9	34.2	31.6	14.9	7.0	8.8	7.9
年齢別	18～40歳未満	17	52.9	47.1	47.1	29.4	-	-	11.8	5.9
	40～65歳未満	76	51.3	44.7	32.9	30.3	11.8	10.5	7.9	10.5
	65歳以上	19	42.1	42.1	26.3	42.1	36.8	-	10.5	-

※網掛けは最も多いもの

年齢別にみると、「施設での生活に満足しているから」や「一人で生活する自信がないから」はいずれの年齢でも4割以上となっている。また、「他の場所で生活する見通しがたてられないから」は18～40歳未満で、「生活の環境が変わる事に不安があるから」は65歳以上で4割台と他の年齢より多くなっている。

年齢・調査票記入者別（問1）

(単位:%)

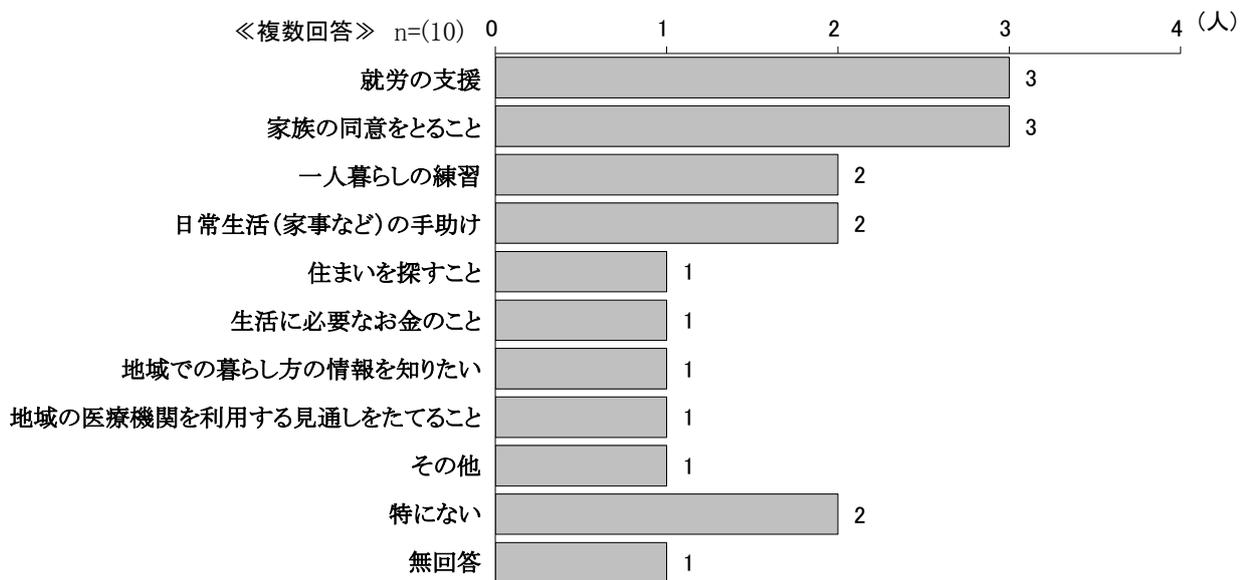
《複数回答》		n	施設での生活に満足しているから	一人で生活する自信がないから	他の場所で生活する見通しがたてられないから	生活の環境が変わる事に不安があるから	高齢のため現在の生活を続けたいから	家族の同意が得られないから	その他	わからない	
全体		114	49.1	43.9	34.2	31.6	14.9	7.0	8.8	7.9	
年齢・調査票記入者別	18～40歳未満	本人が自分で記入	-	-	-	-	-	-	-	-	
		家族や支援者が本人の意思を聞き取り記入	-	-	-	-	-	-	-	-	
		家族や支援者が本人の意向をくみ取って記入	11	54.5	45.5	63.6	18.2	-	-	9.1	9.1
	40～65歳未満	本人が自分で記入	1	-	-	-	-	-	-	-	100.0
		家族や支援者が本人の意思を聞き取り記入	8	62.5	50.0	37.5	25.0	-	12.5	12.5	12.5
		家族や支援者が本人の意向をくみ取って記入	39	51.3	41.0	28.2	28.2	15.4	2.6	7.7	15.4
	65歳以上	本人が自分で記入	1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	-	-	-
		家族や支援者が本人の意思を聞き取り記入	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-
		家族や支援者が本人の意向をくみ取って記入	12	41.7	25.0	8.3	33.3	25.0	-	16.7	-

※網掛けは最も多いもの(「その他」「わからない」を除く)

年齢・調査票記入者別（問1）にみると、「家族や支援者が本人の意思を聞き取り記入」と「家族や支援者が本人の意向をくみ取って記入」では、「施設での生活に満足しているから」、「一人で生活する自信がないから」、「他の場所で生活する見通しがたてられないから」が多くみられる。

(8) 施設を退所する際に支援してほしいこと

【問12で「施設を退所して、家族と生活したい」、「施設を退所して、独立して生活をしたい」、
「施設を退所して、グループホームなどで生活したい」と回答した方に】
問12-2 施設を退所するにあたり支援してほしいことはどのようなことですか。
(あてはまるもの3つまで○)



※回答者が少ないため、回答者数で図を表示している。

施設を退所するにあたり支援してほしいことは、「就労の支援」、「家族の同意をとること」が3人ずつ回答している。

(9) 日常的な困りごと（自由記述）

問13 日常的な困りごとがありましたら、ご自由にお書きください。

日常的な困りごとを自由に記述していただいたところ、32件の記述があった。

以下は一部抜粋したものである。

※各意見文末の〔 〕内は記入者 記載がないものは無回答（記入者情報なし）のもの。

施設での生活（12件）

- ・身体に関する自己主張（痛い、痒い、暑い・熱い、寒い）などができないので、病気やケガに気づいてもらいにくいので、発見が遅れてしまう。頭の汚れ（フケ）、歯垢、洗顔（目ヤニ）職員によっては放置される心配がある。けがをしたとき家族への報告がないときもある。〔家族や支援者が本人の意向をくみ取って記入〕
- ・テレビゲーム機で遊ぶこと（行う機会が少ない）時間、切り上げ、ティータイム時間が変わるとわからない。〔本人が自分で記入〕
- ・加齢や障がいの状況なども影響しているのか、歩行などの面で見守りを要することが日常的に多くなってきており、安全面での不安を感じます。（施設入所しているので、職員の方が安全に配慮・対応に注意されていることと思いますが）
- ・家族との面会が最大の楽しみです。なかなか会えないこともあって、さみしいと思っています。以前は毎週のように会っていましたが、今は月に1、2回のこともあります。
- ・まだ施設での生活に慣れていないため、不安があります。また、友人関係などの面でもなかなか自分から声をかけるのが恥ずかしいため、話し相手もほとんど職員に限られています。

外出（5件）

- ・あおぞらパーティや自治会活動にもっと参加したい。〔家族や支援者が本人の意向をくみ取って記入〕
- ・買物にたくさん行きたいけど、なかなか行けない。〔家族や支援者が本人の意向をくみ取って記入〕
- ・横断歩道で障がい者用の信号があると安心なのですが、ないところはこわいです。自動車の激しい大通りにはぜひつけていただくと助かります。

施設入所について（3件）

- ・家族が生活している近くに入所施設がない、または入所できずに困っている（家族と近い場所に入所したい。）〔家族や支援者が本人の意向をくみ取って記入〕

サービス利用（3件）

- ・2年前までは盆と正月に帰省していました。母親が高齢の上、病気をしたため、帰省が困難になりました。帰省したいと思っていますが、家族を頼っての介護は大変です。そういうときにヘルパー派遣などの援助が受けられるようにしてほしいです。

健康・医療（3件）

- ・支援にあたる職員が年々少なくなり、私に限らず利用者に対する支援が行き届かなくなっている。健康管理や身体機能の保持、向上が難しくなっている。〔家族や支援者が本人の意向をくみ取って記入〕

その他（6件）

第6章 精神科病院入院患者調査結果

1. 回答者と本人の基本属性

(1) 調査票記入者

問1 本調査の記入方法について回答ください。(あてはまるもの1つに○)
封筒の宛名のご本人以外の方が回答を記入された場合は、記入された方とご本人との関係について、あてはまるものに○をしてください。

n=3

調査票記入者は、3件の回答者中、「家族や支援者が本人の意向をくみ取って記入」が2件、「家族や支援者が本人の意思を聞き取り記入」が1件となっている。

(2) 性別

問2 あなた(本人)の性別をお答えください。(あてはまるもの1つに○)

n=3

性別は、3件の回答者中、「男性」が1件、「女性」が2件となっている。

(3) 年齢

問3 あなた(本人)の年齢(2019年4月1日現在)をお答えください。

n=3

年齢は、3件の回答者中、50代が2件、60代が1件となっている。

(4) 障がい者手帳の所持

問4 あなた(本人)は、障がい者に関する手帳をお持ちですか。
(あてはまるもの1つに○)

n=3

障がいに関する手帳の所持は、3件の回答者中、「持っている」が2件、「持っていない」が1件となっている。

(5) 手帳の種類と等級

【問4で「持っている」と回答した方に】

問4-1 お持ちの手帳の種類と等級をお答えください。
(あてはまる手帳の等級すべてに○)

n=2

所持している手帳の種類は2件の回答者中、いずれも「精神障害者保健福祉手帳」の「1級」となっている。

2. 入院している病院や生活について

(1) 現在入院している病院のある地域

問5 あなた（本人）が現在入院している病院のある地域をお答えください。
（あてはまるもの1つに○）

n=3

現在入院している病院のある地域は、3件の回答者中、「町田市内」が2件、「町田市以外の都内」が1件となっている。

(2) 現在の病院での入院年数

問6 あなた（本人）が現在の病院に入院してからの年数をお答えください。
（あてはまるもの1つに○）

n=3

現在の病院での入院年数は、3件の回答者中、「5年以上、10年未満」が2件、「3年以上、5年未満」が1件となっている。

(3) 入院生活で、困る事や不安に感じていること

問7 あなた（本人）が現在の病院での入院生活の中で、困る事や不安に感じていることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

n=3

入院生活で、困る事や不安に感じていることは、3件の回答者中、「病院の設備に不満がある」、「外出の機会が少ない」、「その他（好きなものが食べられない）」がそれぞれ1件、「わからない」が2件となっている。

※複数回答可のため、各件数の合計は回答者数を超える場合がある。

(4) 今後希望する生活

問8 あなた（本人）は、今後どのような生活を希望しますか。（あてはまるもの1つに○）

n=3

今後希望する生活は、3件の回答者中、「病院での生活を続けたい」が2件、「わからない」が1件となっている。

(5) 病院での生活を継続したい理由

【問8で「病院での生活を続けたい」と回答した方に】

問8-1 その理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

n=2

病院での生活を続けたいと回答した2件の理由は、「今のままでいいから」が1件、「医師から『退院できる』と言われていないから」が1件、「わからない」が1件となっている。

※複数回答可のため、各件数の合計は回答者数を超える場合がある。

(6) 退院の際に支援してほしいこと

【問8で「病院を退院して、家族と生活したい」、「病院を退院して、独立して生活したい」、
「病院を退院して、グループホームなどで生活したい」と回答した方に】

問8-2 病院を退院するにあたり支援してほしいことはどのようなことですか。
(あてはまるものすべてに○)

n=0

※問8で上記の選択肢に回答した人はいなかった。

(7) 日常的な困りごと (自由記述)

問9 日常的な困りごとがありましたら、ご自由にお書きください。

n=3

※回答の対象者は全員であるが、記述はなかった。

第7章 調査票

1. サービス利用者調査

この調査は障害福祉サービス等を利用されている方への調査です。

町田市暮らしの状況・生活の困り事に関する調査
 ~町田市障がい者計画・町田市障がい福祉事業計画の策定に向けた調査~

- 回答のしかた
- この調査票に直接ご記入いただくか、インターネットでご回答ください。どちらか一方でしか回答できません。インターネットで回答される場合は、QRコードを読み取っていただく方が便利です。
 - 2019年4月1日現在の状況でお答えください。

●回答期限
 9月24日(火)まで

●回答が終わったら(調査票にご記入いただいた場合)
 同封の返信用封筒に入れて郵便ポストにご投函ください。お名前前の記入や切手は必要ありません。
 封筒には、調査票以外のものを入れないでください。

●回答される方について
 1. 宛名のご本人が回答する場合
 ご自身のことについて回答してください。
 2. ご家族や支援者が回答する場合(宛名のご本人が回答するのが難しい場合)
 ご本人と相談したり、ご本人の立場に立って回答してください。ご協力をお願いいたします。

●視覚障がいのある方、視覚障がいのある方を支援されている方へ
 誠に申し訳ございませんが、点字や録音に対応した調査票をご用意しておりません。ご回答の際は、支援されている方のご協力をいただきますようお願いいたします。また、ご回答が難しい場合は市役所職員が対応いたしますので、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

●回答に困ったら
 わからないもの、答えたくないものは無理に答えずともかまいません。
 【調査に関するお問い合わせ先】
 町田市地域福祉部障がい福祉課総務係 調査担当
 電話：042-724-2147 FAX：050-3101-1653
 メール：mcity4190@city.machida.tokyo.jp

回答者についてお聞きします。

問1 本調査の記入方法について回答ください。(あてはまるもの1つに○)
 封筒の宛名のご本人以外の方が回答を記入された場合は、記入された方とご本人との関係について、あてはまるものに○をしてください。

- 本人が自分で記入
- 家族や支援者が本人の意思を聞き取り記入
- 家族や支援者が本人の意向をくみ取って記入
 (本人が児童の場合や、ご自身で意思を伝えられない場合など)

あなた(封筒の宛名のご本人)についてお聞きします。

問2 あなた(本人)の性別をお答えください。(あてはまるもの1つに○)
 1. 男性 2. 女性 3. その他

問3 あなた(本人)の年齢(2019年4月1日現在)をお答えください。
 ()歳

問4 あなた(本人)が、4月1日現在、お住まいの地域をお答えください。
 (あてはまる番号1つに○)
 ※グループホームにお住まいの方は、グループホームがある地域の番号に○

1. 町田地域	原町田	中町	森野	旭町	本町田	南大谷	玉川学園	東玉川学園
2. 志生地域	上小山田町	下小山田町	志生	小山田祇台	矢野町	常盤町	常盤町	未曽東
3. 南地域	根岸町	根岸	函師町	山崎町	山崎	未曽町	金森	南成瀬
4. 鶴川地域	鶴間	小川	つくし野	南つくし野	金森	南成瀬	南成瀬	成瀬
5. 堺地域	成瀬が丘	面成瀬	成瀬台	高ヶ坂	南町田	南町田	南町田	南町田
6. 市外	小野路町	野溝田町	釜井	釜井町	大蔵町	葉師台	能ヶ谷	能ヶ谷
	三輪町	三輪緑山	広務町	広務	真光寺町	真光寺	鶴川	鶴川
	相原町	小山町	小山ヶ丘	小山ヶ丘	小山ヶ丘	小山ヶ丘	小山ヶ丘	小山ヶ丘
	町田市以外	(他の都内区市町村や都外)						

問5 あなた(本人)は障がい者に関する手帳をお持ちですか。(あてはまるもの1つに○)

- 1. 持っている
- 2. 持っていない
- 3. わからない

【問5で「1. 持っている」と回答した方にお聞きします。】

問5-1 お持ちの手帳の種類と等級をお答えください。(あてはまる手帳の等級すべてに○)

- 1. 身体障害者手帳 →〔 1 級 2 級 3 級 4 級 5 級 6 級 〕
- 2. 愛の手帳(療育手帳) →〔 1 度 2 度 3 度 4 度 〕
- 3. 精神障害者保健福祉手帳 →〔 1 級 2 級 3 級 〕

問6 あなた(本人)の障がいや疾病の内容についてお答えください(あてはまるものすべてに○)

- 1. 視覚障がい
- 2. 聴覚・平衡機能障がい
- 3. 音声・言語・そしゃく機能障がい
- 4. 肢体不自由・体幹機能障がい
- 5. 内臓障がい(心臓・呼吸器・肝臓・腎臓・直腸など)
- 6. 知的障がい ()
- 7. 発達障がい
- 8. 高次脳機能障がい
- 9. 精神疾患
- 10. 難病
- 11. その他 ()

問7 あなた(本人)の障がいや疾病に気づいたのはいつ頃ですか。(あてはまるもの1つに○)

- 1. 0歳
- 2. 1歳～18歳
- 3. 19歳～64歳
- 4. 65歳以上
- 5. わからない

問8 あなた(本人)の障害者総合支援法での障害支援区分は次のどれですか。(あてはまるもの1つに○)

- 1. 区分1
- 2. 区分2
- 3. 区分3
- 4. 区分4
- 5. 区分5
- 6. 区分6
- 7. なし
- 8. わからない

問9 あなた(本人)は、介護保険のサービスを利用していませんか。(あてはまるもの1つに○)

- 1. はい
- 2. いいえ

暮らすことについてお聞きします。

問10 あなた(本人)は、どなたと一緒に住んでいますか。(あてはまるもの1つに○)

※1週間のうちで1番日数の多いものに○をつけてください。

- 1. ひとりで暮らしている
- 2. 家族と暮らしている(夫婦・親・子・兄弟姉妹・祖父母)
- 3. 他の障がいのある人と共同で暮らしている(グループホーム等)
- 4. その他 ()

→ 次ページの問10-1へ

→ 5ページの問11へ

【問10で「1. ひとりで暮らしている」または「2. 家族と暮らしている」と回答した方にお聞きします。】

問10-1 あなた(本人)は、自宅で、食事や入浴等の生活の支援を受けていますか。(あてはまるもの1つに○)

- 1. はい
- 2. いいえ → 次ページの問11へ

【問10-1で「1. はい」と回答した方にお聞きします。】

問10-2 あなた(本人)は、自宅で、食事や入浴等の生活の支援を誰から受けていますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. ホームヘルパー等の訪問支援サービスを利用している
- 2. 家族などから支援を受けている
- 3. その他(有償ボランティア、私費ヘルパー等を含む)

【問10-2で「1. ホームヘルパー等の訪問支援サービスを利用している」と回答した方にお聞きします。】

問10-3 利用している訪問支援サービスに○をしてください。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 居宅介護(ホームヘルプ)
- 2. 重度訪問介護
- 3. 行動援護

【問10-2で「1. ホームヘルパー等の訪問支援サービスを利用している」と回答した方にお聞きします。】

問10-4 利用しているホームヘルパー等の訪問支援サービスに満足していますか。(量と質それぞれあてはまるもの1つに○)

◇サービスの量について	◇サービスの質について
1. 満足している	1. 満足している
2. どちらかという満足している	2. どちらかという満足している
3. どちらかという不満である	3. どちらかという不満である
4. 不満である	4. 不満である

【3]または【4](不満)と回答した方)】
不満の理由についてお答えください。

【12】 日中の活動や外出についてお聞きします。

- 【問12】 あなた(本人)は、平日の昼間どのように過ごしていますか。(あてはまるものすべてに○)
1. 保育園・幼稚園・認定こども園に通っている
 2. 障がい児の通所施設に通っている
 3. 学校に通っている
 4. 一般就労している
 5. 福祉的就労や日中活動に参加している
 6. 介護保険のデイサービスを利用している
 7. 精神デイケアを利用している
 8. 家事労働をしている
 9. 主に自宅を過ごしている
 10. その他()

※一般就労……雇用契約に基づく一般企業での就労。(在宅勤務や特例子会社での就労を含む)
 ※福祉的就労……就労継続支援A型や就労継続支援B型など障害福祉サービスの一つとしての就労
 ※日中活動……生活介護、自立訓練などの障害福祉サービスの就労

【問12で「2. 障がい児の通所施設に通っている」、「4. 一般就労している」、「5. 福祉的就労や日中活動に参加している」と回答した方にお聞きします。】

【問12-1】 利用しているサービスに○をしてください。(あてはまるものすべてに○)

- 【障がい児の通所施設】
1. 児童発達支援
 2. 医療型児童発達支援
 3. 放課後等デイサービス
 4. 保育所等訪問支援

- 【一般就労・福祉的就労や日中活動】
1. 就労継続支援A型
 2. 就労継続支援B型
 3. 就労移行支援
 4. 生活介護
 5. 自立訓練
 6. 地域活動支援センター まちプラ
 7. 就労定着支援
 8. その他()
 9. 現在利用しているサービスはない → 次ページの問13へ

【問12で「2. 障がい児の通所施設に通っている」、「4. 一般就労している」、「5. 福祉的就労や日中活動に参加している」と回答した方にお聞きします。】

【問12-2】 利用している通所サービスに満足していますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 満足している
2. どちらかという満足している
3. どちらかという不満である
4. 不満である

【「3」または「4」(不満)と回答した方に】 不満の理由についてお答えください。

【11】 あなた(本人)は補装具や、日常生活用具の給付を受けていますか。(あてはまるもの1つに○)

- ※補装具……車いす、義肢、装具、補聴器など身体機能を補完するもの。
 ※日常生活用具……介護用品、会話補助装置、点字器など日常生活上の困難を改善するもの。
1. 受けている
 2. 受けたいが、受けられない
 3. 受けていない → 次ページの問12へ

【問11で「受けている」または「2. 受けたいが、受けられない」と回答した方にお聞きします。】

【問11-1】 補装具や日常生活用具の給付サービスに満足していますか。(補装具と日常生活用具それぞれあてはまるもの1つに○)

- 【補装具について】 ◇日常生活用具について
1. 満足している
 2. どちらかという満足している
 3. どちらかという不満である
 4. 不満である

【「3」または「4」(不満)と回答した方に】 不満の理由についてお答えください。

次のページにお進みください。

問14 あなた(本人)は、仕事や学校などの用事のない休みの日や時間があつたら、どのよう
に過ごしたいと考えていますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 読書
2. パソコン
3. 趣味(料理、手芸、絵、創作など)の活動
4. 買い物・外食
5. 習いごと
6. スポーツ
7. 芸術・音楽鑑賞
8. ボランティア
9. 社会教育(青年学級など)
10. 人と関わる活動
11. その他()
12. 何かやりたいと思っているが今はわからない
13. 特にない

医療についてお聞きします。

問15 あなた(本人)は、継続的に治療を受けたり、ご自身の健康や悩み、障がいや疾病に
ついて相談できる「かかりつけ医療機関」はありますか。(あてはまるもの1つに○)

1. ある
2. ない

問16 あなた(本人)は、障がいの特性や疾病に応じた専門医療機関にかかっていますか。
(あてはまるもの1つに○)

1. はい
2. いいえ

問16-1 【問16で「1. はい」と回答した方にお聞きします。】
その障がい専門医療機関まで通院する際にどのくらいの時間がかかりますか。
(あてはまるもの1つに○)

1. 30分未満
2. 30分以上～1時間未満
3. 1時間以上

問17 あなた(本人)は、以下のような医療的ケアを受けていますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 経管栄養
2. 吸引
3. 酸素管理
4. エアウェイ管理
5. 導尿
6. 気管切開部の衛生管理
7. 胃ろう・腸ろう部の衛生管理
8. 人工呼吸器の作動状況の確認及び緊急時の連絡等
9. 床ずれ(褥瘡)の処置
10. その他()
11. 受けていない

問13 あなた(本人)は、外出をするときに付き添いの支援が必要ですか。
(あてはまるもの1つに○)
※支援とは、見守り、声掛け、一部介助、整介助のすべてを含みます。

1. いつも一人で外出できるので支援は不要 → 次のページの問14へ
2. 普段は一人で行けるが、調子が悪い場合は支援が必要
3. 慣れた場所には一人で行けるが、それ以外では支援が必要
4. いつも支援が必要
5. その他()

問13-1 【問13で「2」～「5」(支援が必要)のいずれかに回答した方にお聞きします。】
どのような支援を受けていますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 福祉サービスを利用している
2. 福祉タクシーなどの移送サービスを利用している
3. 家族に付き添ってもらっている
4. 友人や知人、ボランティア等に付き添ってもらっている
5. その他()

問13-2 【問13-1で「1. 福祉サービスを利用している」と回答した方にお聞きします。】
利用している福祉サービスに○をしてください。(あてはまるものすべてに○)

1. 移動支援
2. 同行援護
3. 行動援護
4. 重度訪問介護

問13-3 【問13-1で「1. 福祉サービスを利用している」と回答した方にお聞きします。】
利用されている福祉サービスに満足していますか。
(量と質それぞれあてはまるもの1つに○)

◇サービスの量について	◇サービスの質について
1. 満足している	1. 満足している
2. どちらかという満足している	2. どちらかという満足している
3. どちらかという不満足である	3. どちらかという不満足である
4. 不満足である	4. 不満足である

【問13-3】または【4】(不満足)と回答した方に、
不満の理由についてお答えください。

家庭・家族についてお聞きします。

問18 あなた(本人)は、結婚・出産・子育てをしたことがありますか。
(あてはまるもの1つに○)

※いずれか1つでもされたことがある方は、「1. はい(したことがある)」に○

	はい (したことがある)	いいえ (したことがない)	回答しない
A 結婚したこと	1	2	3
B 出産・子育てしたこと	1	2	3

問18-2へ

次ページの問19へ

【問18でA、Bのいずれかに「2. いいえ(したことがない)」と回答した方にお聞きします。】

問18-1 あなた(本人)は、将来的に結婚や出産・子育てすることを希望されますか。
(あてはまるもの1つに○)

1. はい(希望する) 2. いいえ(希望しない) 3. わからない

次ページの問19へ

【問18で「1. はい(したことがある)」と回答した方、または問18-1で「1. はい(希望する)」と回答した方にお聞きします。】
問18-2 結婚や出産・子育てをするにあたりどのようなことが必要ですか。
(あてはまるもの3つまで○)

1. 相談支援の充実
2. レスパイトケアの充実
3. ご本人の就労支援の充実
4. ご家族の就労支援の充実
5. 親や家族どうしのネットワーク
6. 障がい理解の促進
7. 経済的な支援
8. 保育体制の充実
9. 育児・家事援助の充実
10. 医療的な支援
11. その他
12. わからない
13. 特になし

※レスパイトケア・・・一時的にケアを代わりに行い、家族など介護者の負担軽減を図るサービス。

次のページにお進みください。

※ここからは、あなた(本人)もしくは家族や支援者など本人に代わって回答している方にお聞きします。

相談することについてお聞きします。

問19 あなた(本人)の事で、困ったことがあったとき、どこ(誰)に相談しますか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 家族
2. 友人・知人
3. 医療機関
4. 学校
5. 職場
6. 民生委員・児童委員
7. 市役所の窓口
8. 町田市障がい者支援センター
9. 地域活動支援センター・まちプラ
10. 相談支援事業所
11. 就労・生活支援センター
12. 日中通っている施設やヘルパー
13. その他 ()
14. 相談したいが、どこ(誰)にも相談できない(相談先がわからない)
15. 特になし

問20 あなた(本人)の事でふだんの生活で困ったり、不安に思ったりして相談したいと思っていることはどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 仕事のこと
2. コミュニケーションのこと
3. 学習や趣味の活動のこと
4. 外出・買い物のこと
5. 医療や健康に関すること
6. 住宅・生活の場所のこと
7. 福祉サービスに関すること
8. 進学・学校生活に関すること
9. 交通機関の利用に関すること
10. 経済的なこと
11. 親の高齢化など介助者に関すること
12. 人づきあいのこと
13. その他 ()
14. 特になし

【問21】 町市の障がい者支援センターを知っていますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 知っている 2. 知らない → 次ページの問22へ

→【問21で「1. 知っている」と回答した方にお聞きします。】

【問21-1】 障がい者支援センターを利用されたことはありますか。(あてはまるもの1つに○)

1. ある 2. ない → 次ページの問21-5へ

→【問21-1で「1. ある」と回答した方にお聞きします。】

【問21-2】 あなた(本人)もしくは家族や支援者が主に利用したことがある障がい者支援センターはどれですか。(あてはまる番号1つに○)

1. 町田地域障がい者支援センター	原町田 中町 森野 旭町 本町田 南天谷 玉川学園
2. 志生地域障がい者支援センター	上小山田町 下小山田町 志生 小山田被台 矢部町 常盤町 根岸町 根岸 函師町 山崎町 木曾町 木曾西 木曾東
3. 南地域障がい者支援センター	鶴岡 小川 つくし野 南つくし野 南成瀬 成瀬谷 高ヶ坂 南町田 南成瀬
4. 鶴川地域障がい者支援センター	成瀬 成瀬が丘 西成瀬 金井 金井町 天蔵町 桑師台 能ヶ谷 小野路町 野津田町 三輪町 三輪緑山 広務町 真光寺 真光寺 鶴川
5. 堺地域障がい者支援センター	柏原町 小山町 小山ヶ丘

→【問21-1で「1. ある」と回答した方にお聞きします。】

【問21-3】 障がい者支援センターの対応・サービス等に満足していますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 満足している 3. どちらかというかと不満である

2. どちらかというかと満足している 4. 不満である

↓

【問21-3で「3」または「4」(不満である)と回答した方にお聞きします。】

【問21-4】 不満の理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 遠いから 4. 相談したいことの相談が受けられないから

2. 待ち時間が長いから 5. 職員への対応に不満があるから

3. 相談の質に不満があるから 6. その他 ()

【問21-1で「2. ない」(障がい者支援センター未利用)と回答した方にお聞きします。】

【問21-5】 障がい者支援センターを利用しない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 遠いから 5. どのような相談や支援が受けられる場所なのか知らないから

2. 相談したいことがないから 6. その他 ()

3. 市役所の障がい福祉課に行くから 7. 特に理由はない

4. 他に相談できる人や場所があるから

【問22】 情報の取得についてお聞きします。

【問22】 あなた(本人)もしくは、家族や支援者の方は、福祉に関する情報をどこから(誰か)得ていますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 家族 10. 就労・生活支援センター

2. 友人・知人 11. 日中通っている施設やヘルパー

3. 医療機関 12. 市の広報・ホームページ、地域情報誌

4. 学校 13. 障がい者サービスガイドブック

5. 職場 14. インターネット・SNS

6. 市役所の窓口 15. その他 ()

7. 町田市障がい者支援センター 16. どこから得たらよいかかわからない

8. 地域活動支援センター まちプラ 17. 特に待っていない

9. 相談支援事業所

【問23】 あなた(本人)もしくは、家族や支援者の方は、情報を知りたい時、以下のような事で困ることがありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 手話や筆談等に対応してくれない 5. 調べたい情報がどこで調べられるかわからない

2. インターネットが使えない 6. 思っていることがうまく伝えられない

3. 障がいに対応したかたちでの情報提供が不足 7. 調べるための方法がわからない

4. 身近に頼れる人がいない 8. その他 ()

5. 調べたい情報がどこで調べられるかわからない 9. 特に困っていない

【問24】 あなた(本人)は、手話通訳や要約筆記など情報保障のサービスを利用していますか。
(あてはまるものに1つに○)

1. 利用している 2. 利用していない

→ 【問24で「1. 利用している」とお答えした方にお聞きします。】

【問24-1】 利用されている情報保障のサービスに満足していますか。

1. 満足している 3. どちらかというところと不満である

2. どちらかというところと満足している 4. 不満である

→ 【13】または【4】(不満)と回答した方についてお答えください。

防災のことにしてお聞きします。

【問25】 あなた(本人)もしくは、家族や支援者の方が、地震などの災害が発生したときに困ることは何(なん)ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 災害の情報を知る方法がわからない

2. 助けを求める方法がわからない

3. 避難所の場所がわからない

4. 災害への備えをしていない

5. 周囲の人とコミュニケーションをうまくとれない

6. 近くに助けてくれる人がいない

7. 一人では避難できない

8. 避難所の設備が障がいに対応しているか不安

9. 避難所で必要な支援が受けられるか不安

10. 避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい

11. 薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安

12. 医療機器の電源確保が心配

13. その他 ()

14. 特にない

差別をなくすことと理解協働についてお聞きします。

【問26】 障がいがあることを理由にあなた(本人)が差別(偏見を含む)を受けたことがありますか。(あてはまるもの1つに○)

1. ある 2. ない 3. わからない

→ 次のページの問26-1へ

→ 【問26で「1. ある」と回答した方にお聞きします。】

【問26-1】 それはどのような場面や事がらですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 仕事や収入 8. 公共交通機関

2. 教育・育児 9. 社会制度・慣習

3. 趣味やスポーツ活動 10. 結婚・交際

4. 店などでの対応 11. 言葉遣い

5. 市役所 12. イベント

6. 金融機関 13. その他 ()

7. 医療機関

【問27】 あなた(本人)もしくは、家族や支援者の方は、差別をなくすことや権利を守るための法律や都条例があることを知っていますか。(あてはまるもの1つに○)

法律 ※ 「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」
(「障害者差別解消法」) 2016年度施行

都条例 ※ 「東京都障害者への理解促進及び差別解消の推進に関する条例」
(東京都条例) 2018年度施行

1. 法律も都条例も知っている 3. 都条例だけ知っている

2. 法律だけ知っている 4. 法律も都条例も知らない

【問28】 あなた(本人)もしくは、家族や支援者の方は、障がいがあることを理由に差別を受けた場合にどこに相談したらよいか知っていますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 東京都の広域支援相談員も町田市役所の窓口も知っている

2. 東京都の広域支援相談員だけ知っている

3. 町田市役所の窓口だけ知っている

4. 知らない

※広域支援相談員・・・障がいのある方やその関係者ならびに事業者などから、障害者差別に関する相談を受け、助言や関係者間の調整などを行う人。

【問29】 障がいのある人の権利について社会や市民の意識を高めるには、どのようなことが必要だと思いますか。ご自由にお書きください。

生活の上の困りごとについてお聞きします。

問30 あなた(本人)は、生活している中でどのようなことに困っていますか。関心のある項目に記載ください。

【暮らすこと】
(住まい、家族、お盆、災害など、暮らしに關する困りごと)
※記載例: 年金や障害手当、給付などが少ないため、生活しているのが大変。

【日中の活動や外出に關すること】
(仕事、学校、施設への通所、文化芸術・スポーツ活動など日中の時間帯の活動や外出についての困りごと)
※記載例: 障がいがある人が参加できる余暇活動が少ない。

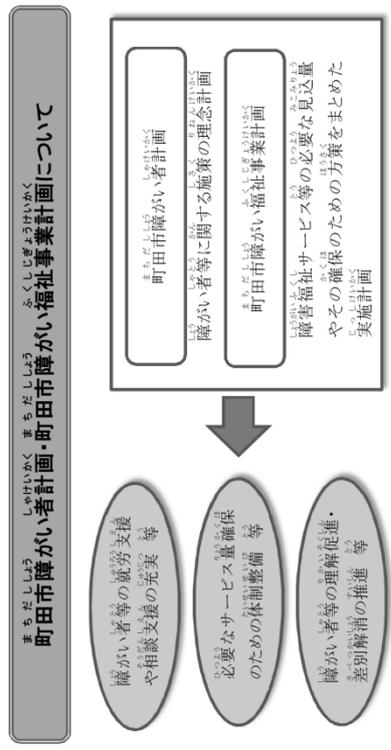
【生活に必要な支援に關すること】
(相談、保健、医療、結婚、出産、子育て、行政サービス、情報の取得、保健など生活に必要な支援に關する困りごと)
※記載例: 窓口などで手話通訳や要約筆記などの情報保障がない。

【障がい理解に關すること】
(障がいについての理解や障がい者差別に關する困りごと)
※記載例: 障がいについての周囲の理解が不十分。

問31 あなた(本人)は、将来どのような生活をしたいと考えていますか。ご自由に記載ください。
※記載例: 必要な福祉サービスを利用して、住み慣れた地域で暮らし続けたい。

調査は以上です。ご回答いただきまして、ありがとうございます。

返信用封筒に入れ、**9月24日(火)までに**郵便ポストに入れてください。



計画は、町田市のホームページでご覧いただけます。
トップページ > 医療・福祉 > 障がい者のための福祉 > 町田市障がい者計画・町田市障がい福祉事業計画
https://www.city.machida.tokyo.jp/iryo/syougai_hukushi/keikaku.html

町田市 障がい 計画 配布
計画の冊子は、町田市庁舎1階 市政情報課窓口にて販売しています。また、市内の図書館でもご覧いただけます。

2. サービス未利用者調査

この調査は障害福祉サービス等を利用されていない方への調査です。

20000

町田市 暮らしの状況・生活の困り事に関する調査
～町田市障がい者計画・町田市障がい福祉事業計画の策定に向けた調査～

<ご回答にあたってのお願い>

- 回答のしかた
1. この調査票に直接ご記入いただくか、インターネットでご回答ください。どちらか一方でしか回答できません。インターネットで回答される場合は、QRコードを読み取っていただくことが便利です。
2. 2019年4月1日現在の状況でお答えください。
- 回答期限
9月24日(火)まで
- 回答が終わったら(調査票にご記入いただいた場合)
封筒の返信用封筒に入れて郵便ポストにご投函ください。お名前の記入や切手は必要ありません。
封筒には、調査票以外のものを入れないでください。
- 回答される方について
1. 宛名のご本人が回答する場合
ご自身のことについて回答してください。
2. ご家族や支援者が回答する場合(宛名のご本人が回答するのが難しい場合)
ご本人と相談したり、ご本人の立場に立って回答してください。ご協力をお願いいたします。
- 視覚障がいのある方、視覚障がいのある方を支援されている方へ
誠に申し訳ございませんが、点字や録音に対応した調査票をご用意しておりません。ご回答の際は、支援されている方のご協力をいただきますようお願いいたします。また、ご回答が難しい場合は市役所職員が対応いたしますので、下記の問い合わせ先にご連絡ください。
- 回答に困ったら
わからないもの、答えたくないものは無理に答えずともかまいません。

【調査に関するお問い合わせ先】
町田市地域福祉部障がい福祉課総務係 調査担当
電話：042-724-2147 FAX：050-3101-1653
メール：mcity4190@city.machida.tokyo.jp

回答者についてお聞きします。

問1 本調査の記入方法について回答ください。(あてはまるもの1つに○)
封筒の宛名のご本人以外の方が回答を記入された場合は、記入された方とご本人との関係について、あてはまるものに○をしてください。

1. 本人が自分で記入
2. 家族や支援者が本人の意思を聞き取り記入
3. 家族や支援者が本人の意向をぐみ取って記入
(本人が児童の場合や、ご自身で意思を伝えられない場合など)

↑**【2】または【3】に回答した方**
1. 家族
2. その他 ()

あなた(封筒の宛名のご本人)についてお聞きします。

問2 あなた(本人)の性別をお答えください。(あてはまるもの1つに○)

1. 男性 2. 女性 3. その他

問3 あなた(本人)の年齢(2019年4月1日現在)をお答えください。

()歳

問4 あなた(本人)は、どなたと一緒にお住まいですか。(あてはまるもの1つに○)

1. ひとりで暮らしている
2. 家族と暮らしている(夫婦・親・子・兄弟姉妹・祖父母)
3. その他 ()

問5 あなた(本人)は障がい者に関する手帳をお持ちですか。(あてはまるもの1つに○)

1. 持っている 2. 持っていない 3. わからない

→ **【問5で「1. 持っている」と回答した方にお聞きします。】**

問5-1 お持ちの手帳の種類と等級をお答えください(あてはまる手帳の等級すべてに○)

1. 身体障害者手帳 → [1級 2級 3級 4級 5級 6級]
2. 愛の手帳(療育手帳) → [1度 2度 3度 4度]
3. 精神障害者保健福祉手帳 → [1級 2級 3級]

問6 あなた(本人)の障がいや疾病の内容についてお答えください(あてはまるもの1つに○)

- 1. 視覚障がい
- 2. 聴覚・平衡機能障がい
- 3. 音声・言語・そしゃく機能障がい
- 4. 肢体不自由・体幹機能障がい
- 5. 内部障がい(心臓・呼吸器・肝臓・腎臓・直腸など)
- 6. 知的障がい
- 7. 発達障がい
- 8. 高次脳機能障がい
- 9. 精神疾患
- 10. 難病
- 11. その他 ()

【問6で「10. 難病」と回答した方にお聞きます。】

問6-1 難病の種類をお答えください。(疾病名を記入)

問7 あなた(本人)の障がいや疾病に気づいたのはいつ頃ですか。(あてはまるもの1つに○)

- 1. 0歳
- 2. 1歳～18歳
- 3. 19歳～64歳
- 4. 65歳以上
- 5. わからない

問8 あなた(本人)は、平日の昼間どのように過ごしていますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 学校に通っている
- 2. 一般就労している
- 3. 家事労働をしている
- 4. 介護保険のデイサービスを利用している ()
- 5. 精神ケアを利用している
- 6. 主に自宅で過ごしている
- 7. その他 ()

※一般就労……雇用契約に基づく一般企業での就労。(在宅勤務や特例子会社での就労を含む)

問9 あなた(本人)は障がいや疾病があることで、支援が必要と感じる困りごとがありますか。(あてはまるもの1つに○)

- 1. 困っていることがある
- 2. 困っていることはない

福祉サービスの利用についてお聞きます。

問10 あなた(本人)は、介護保険のサービスを利用していますか。(あてはまるもの1つに○)

- 1. はい ⇒問14へ
- 2. いいえ ⇒問11へ

問11 あなた(本人)は、障害福祉サービス(障がい、精神疾患、難病等がある方のための公的な福祉サービス)を利用したいと思いますか。(あてはまるもの1つに○)

- 1. 利用したいと思うことがある
- 2. 障害福祉サービスのことを知らない、わからない
- 3. 利用したいと思わない

【問11で「1. 利用したいと思うことがある」または「2. 障害福祉サービスのことを知らない、わからない」と回答した方にお聞きます。】

問11-1 どんなサービスを利用したいですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. ホームヘルプサービスなど
- 2. 移動の支援
- 3. 手話や点字などの情報支援
- 4. 就労に関する支援
- 5. 平日の日中活動の支援
- 6. 休日の趣味や余暇を過ごす支援
- 7. 身体の機能や日常生活を助ける用具の給付
- 8. その他 ()
- 9. わからない

※日中活動……通所先の施設等において、身体機能や生活能力の向上に向けた訓練を受けたり、入浴・排せつ・食事の介助を受けながら、生産活動などを行うこと。

問12 現在、障害福祉サービスを利用していない理由をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

- 1. サービスを使う必要がないから
- 2. 使える(使いたい)サービスがなかったから
- 3. 家族が介助してくれるから利用する必要がない
- 4. 家族や友人以外の介助に不安があるから
- 5. 利用したい施設やサービスが空くの待っているから
- 6. どのようなサービスがあるかよく知らないから
- 7. サービスを利用するまでの手続きがわからないから
- 8. サービスの利用手続きが面倒だと思ったから
- 9. サービスを利用できる回数や日数が少ないから
- 10. サービスを提供する際の費用負担が大きいため
- 11. サービスを提供する事業者との利用日などの調整が大変だから
- 12. サービスの質が良くないから
- 13. その他 ()

問13 あなた(本人)、もしくは家族や支援者の方は、障害福祉サービス等に関する相談や申請が出来る、町田市の障がい者支援センターのことを知っていますか。(あてはまるもの1つに○)

- 1. 知っている
- 2. 知らない

生活上の困りごとについてお聞きします。

問14 あなた（本人）は、生活している中でどのようなことに困っていますか。関心のある項目に記載ください。

【暮らすこと】
 （住まい、家族、お金、災害など、暮らしに関する困りごと）
 ※記載例：年金や障害手当、給料などが少ないため、生活していけるのが不安。

【日中の活動や外出に関すること】
 （外出、仕事、学校・施設への通所、文化芸術・スポーツ活動など日中の時間帯の活動についての困りごと）
 ※記載例：障がいがある人が参加できる余暇活動が少ない。

【生活に必要な支援に関すること】
 （相談、保健・医療、結婚・出産・子育て、行政サービス、情報の取得・保障など生活に必要な支援に関する困りごと）
 ※記載例：窓口などで手話通訳や要約筆記などの情報保障がない。

【障がい理解に関すること】
 （障がいについての理解や障がい者差別に関する困りごと）
 ※記載例：障がいについての周囲の理解が不十分。

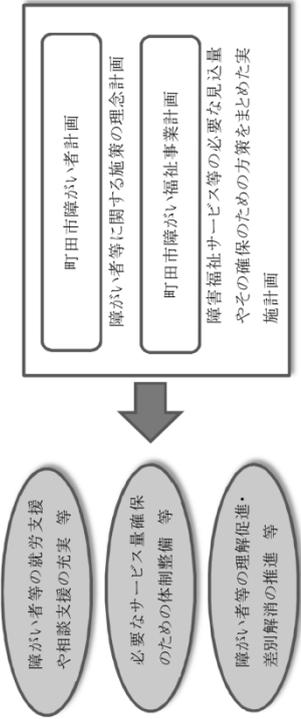
問15 あなた（本人）は、将来どのような生活をしたいと考えていますか。ご自由にご記載ください。

※記載例：必要な福祉サービスを利用して、住み慣れた地域で暮らし続けたい。

調査は以上です。ご回答いただきまして、ありがとうございます。

返信用封筒に入れ、**9月24日（火）までに**郵便ポストに入れてください。

町田市障がい者計画・町田市障がい福祉事業計画について



計画は、町田市のホームページでご覧いただけます。

トップページ > 医療・福祉 > 障がい者のための福祉 > 町田市障がい者計画・町田市障がい福祉事業計画

https://www.city.machida.tokyo.jp/iryo/syougai_hukushi/keikaku.html

町田市 障がい 計画 検索

計画の冊子は、町田市庁舎1階 市政情報課窓口にて販売しています。また、市内の図書館でもご覧いただけます。

3. 施設入所者調査

この調査は施設に入所されている方への調査です。

町田市 暮らしの状況・生活の困り事に関する調査
 ～町田市障がい者計画・町田市障がい福祉事業計画の策定に向けた調査～

<ご回答にあたってのお願い>

- 回答のしかた
この調査票に直接ご記入ください。2019年4月1日現在の状況でお答えください。
- 回答期限
9月24日(火)まで
- 回答が終わったら
同封の返信用封筒に入れて郵便ポストにご投函ください。お名前や住所の記入や切手は必要ありません。
封筒には、調査票以外のものを入れないでください。
- 回答される方について
1. 宛名のご本人が回答する場合
ご自身のことについて回答してください。
2. ご家族や支援者が回答する場合(宛名のご本人が回答するのが難しい場合)
ご本人と相談したり、ご本人の立場に立って回答してください。ご協力をお願いします。
- 視覚障がいのある方、視覚障がいのある方を支援されている方へ
誠に申し訳ございませんが、点字や録音に対応した調査票をご用意しておりません。
ご回答の際は、支援されている方のご協力をいただきますようお願いいたします。
また、ご回答が難しい場合は市役所職員が対応いたしますので、下記の間い合わせ先にご連絡ください。
- 回答に困ったら
わからないもの、答えたくないものは無理に答えずともかまいません。

【調査に関するお問い合わせ先】

町田市地域福祉部障がい福祉課総務係 調査担当
 電話：042-724-2147 FAX：050-3101-1653
 メール：meity4190@city.machida.tokyo.jp

回答者についてお聞きします。

問1 本調査の記入方法について回答ください。(あてはまるもの1つに○)
 封筒の宛名のご本人以外の方が回答を記入された場合は、記入された方とご本人との関係について、あてはまるものに○をしてください。

1. 本人が自分で記入
 2. 家族や支援者が本人の意思を聞き取り記入
 3. 家族や支援者が本人の意向をくみ取って記入
(本人が児童の場合や、ご自身で意思を伝えられない場合など)
- 【「2」または「3」に回答した方】
 1. 家族
 2. その他 ()

あなた(封筒の宛名のご本人)についてお聞きします。

問2 あなた(本人)の性別をお答えください。(あてはまるもの1つに○)

1. 男性
2. 女性
3. その他

問3 あなた(本人)の年齢(2019年4月1日現在)をお答えください。

()歳

問4 あなた(本人)は、障がい者に関する手帳をお持ちですか。(あてはまるもの1つに○)

1. 持っている
2. 持っていない
3. わからない

【問4で「1. 持っている」と回答した方にお聞きします。】

問4-1 お持ちの手帳の種類と等級をお答えください(あてはまるもの1つに○)

1. 身体障害者手帳 → (1級 2級 3級 4級 5級 6級)
2. 愛の手帳(療養手帳) → (1度 2度 3度 4度)
3. 精神障害者保健福祉手帳 → (1級 2級 3級)

問5 あなた(本人)の障がいや疾病の内容についてお答えください。
(あてはまるものすべてに○)

1. 視覚障がい
2. 聴覚・平衡機能障がい
3. 音声・言語・そしやく機能障がい
4. 肢体不自由・体幹機能障がい
5. 内部障がい(心臓・呼吸器・肝臓・腎臓・直腸など)
6. 知的障がい ()
7. 発達障がい
8. 高次脳機能障がい
9. 精神疾患
10. 難病
11. その他 ()

問6 あなた(本人)の障がいや疾病に気づいたのはいつ頃ですか。(あてはまるもの1つに○)

1. 0歳
2. 1歳～18歳
3. 19歳～64歳
4. 65歳以上
5. わからない

入所している施設や生活についてお聞きします。

問7 あなた(本人)が現在入所している施設のある地域をお答えください。
(あてはまるもの1つに○)

1. 町田市内
2. 町田市以外の東京都内
3. 東京都以外の関東
4. 北海道
5. 東北
6. 中部
7. 近畿
8. 中国
9. 四国
10. 九州・沖縄

問8 あなた(本人)が現在の施設に入所してからどの年数をお答えください。
(あてはまるもの1つに○)

1. 1年未満
2. 1年以上、3年未満
3. 3年以上、5年未満
4. 5年以上、10年未満
5. 10年以上、20年未満
6. 20年以上
7. わからない

問9 あなた(本人)が現在の施設に入所することを決めた主な理由は何ですか。
(あてはまるもの3つまで○)

1. 家族から自立するため
2. リハビリや生活面の訓練を受けるため
3. 生活が保障され安心感があるため
4. 家族による介助が難しくなったため
5. 常時介助が必要のため
6. 医療的なケアが必要のため
7. 住まいに支障があったため
8. 在宅の福祉サービスでは不十分のため
9. 収入が不十分だったため
10. 家族や支援者などにすすめられたため
11. その他 ()
12. わからない

問10 あなた(本人)が現在の入所施設での生活の中で、困る事や不安に感じていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 身の回りのことが自分で十分できない
2. 健康状態に不安がある
3. プライバシーが十分に保たれない
4. 1日の生活のリズムが自由にならない
5. 施設の設備に不満がある
6. 仕事や訓練に不満がある
7. 外出の機会が少ない
8. 施設の職員への対応に不満がある
9. 人間関係がうまく築けない
10. 困ったとき相談する相手がいない
11. 家族とあまり会えない
12. 将来の生活に何となく不安を感じる
13. その他 ()
14. わからない
15. 特にない

問11 あなた(本人)はどのくらいの頻度で外出していますか。(あてはまるもの1つに○)

1. ほぼ毎日
2. 週に3～4回
3. 週に1～2回
4. 月に1～3回
5. あまり外出しない

問12 あなた(本人)は、今後どのような生活を希望しますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 入所施設での生活を継続したい
2. 施設を退所して、家族と生活したい
3. 施設を退所して、独立して生活したい
4. 施設を退所して、グループホームなどで生活したい
5. わからない → 次ページの問13へ

問12で「1. 入所施設での生活を継続したい」と回答した方にお聞きします。】

問12-1 その理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

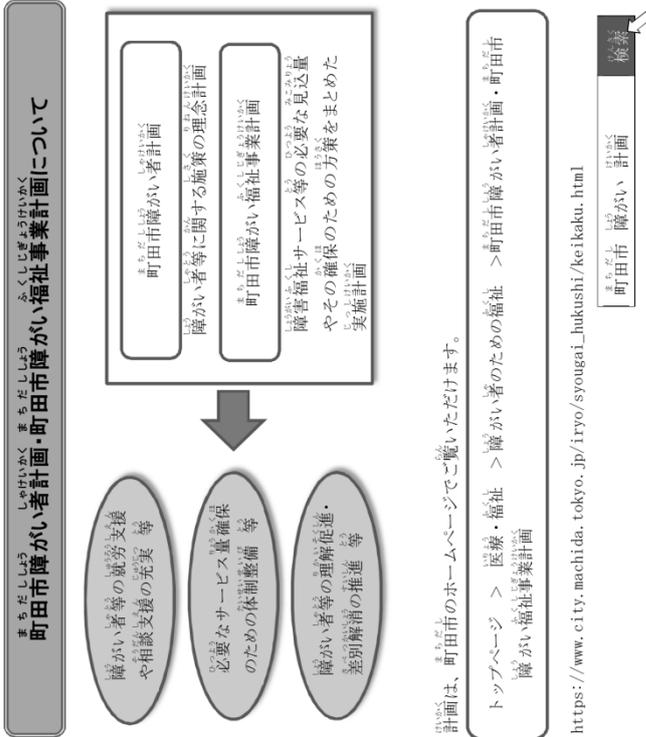
1. 施設での生活に満足しているから
2. 高齢のため現在の生活を続けたいから
3. 一人で生活する自信がないから
4. 生活の環境が変わる事に不安があるから
5. 他の場所です生活する見通しがたてられないから
6. 家族の同意が得られないから
7. その他 ()
8. わからない

【問12で「2」～「4」(施設を選所したい)と回答した方にお聞きします。】
問12-2 施設を選所するにあたり支援してほしいことはどのようなことですか。
 (あてはまるもの3つまで○)

1. 住まいを探すこと
2. 生活に必要なお金のこと
3. 入居暮らしの練習
4. 地域での暮らし方の情報を知りたい
5. 日常生活(家事など)の手助け
6. 就労の支援
7. 家族の同意をとること
8. 地域の医療機関を利用する見通しをたてること
9. その他()
10. 特になし

問13 日常的な困りごとがありましたら、ご自由にお書きください。

調査は以上です。ご回答いただきましたままで、ありがとうございます。
 返信用封筒に入れ、**9月24日(火)まで**に郵便ポストに入れてください。



計画の冊子は、町田市庁舎1階 市政情報課窓口にて販売しています。また、市内の図書館
でもご覧いただけます。

4. 精神科病院入院患者調査

この調査は精神科病院に入院されている方への調査です。

町田市 暮らした状況・生活の困り事に関する調査 ～町田市障がい者計画・町田市障がい福祉事業計画の策定に向けた調査～

<ご回答にあたってのお願い>

- 回答のしかた
この調査票に直接ご記入ください。2019年4月1日現在の状況でお答えください。
- 回答期限
9月24日（火）まで
- 回答が終わったら
同封の返信用封筒に入れて郵便ポストにご投函ください。お名前の記入や切手は必要ありません。
封筒には、調査票以外のものを入れないでください。
- 回答される方について
1. 宛名のご本人が回答する場合
ご自身のことについて回答してください。
2. ご家族や支援者が回答する場合（宛名のご本人が回答するのが難しい場合）
ご本人と相談したり、ご本人の立場に立って回答してください。ご協力をお願いいたします。
- 聞き取り調査について
一部の方には、市役所職員が病院に訪問し、聞き取りをさせていただく場合があります。該当になられた方はご協力をお願いいたします。調査の趣旨にご同意いただいた方へのみ聞き取りをさせていただきますが、調査への協力への可否や回答内容によって、現在受けられている支援に影響することはございませんのでご安心ください。
- 回答に困ったら
わからないもの、答えたくないものは無理に答えなくてもかまいません。

【調査に関するお問い合わせ先】

町田市地域福祉部障がい福祉課総務係 調査担当
電話：042-724-2147 FAX：050-3101-1653
メール：mcity4190@city.machida.tokyo.jp

回答者についてお聞きます。

問1 本調査の記入方法について回答ください。（あてはまるもの1つに○）
封筒の宛名のご本人以外の方が回答を記入された場合は、記入された方とご本人との関係について、あてはまるものに○をしてください。

1. 本人が自分で記入

2. 家族や支援者が本人の意思を聞き取り記入

3. 家族や支援者が本人の意向をくみ取って記入
(本人が児童の場合や、ご自身で意思を伝えられない場合など)

【2】または【3】に回答した方

1. 家族

2. その他 ()

あなた(封筒の宛名のご本人)についてお聞きます。

問2 あなた(本人)の性別をお答えください。（あてはまるもの1つに○）

1. 男性

2. 女性

3. その他

問3 あなた(本人)の年齢(2019年4月1日現在)をお答えください。
()歳

問4 あなた(本人)は、障がい者に関する手帳をお持ちですか。（あてはまるもの1つに○）

1. 持っている

2. 持っていない

3. わからない

【問4で「1. 持っている」と回答した方にお聞きます。】

問4-1 お持ちの手帳の種類と等級をお答えください（あてはまる手帳の等級すべてに○）

1. 身体障害者手帳 → [1級 2級 3級 4級 5級 6級]

2. 愛の手帳(療育手帳) → [1度 2度 3度 4度]

3. 精神障害者保健福祉手帳 → [1級 2級 3級]

入院している病院や生活についてお聞きします。

問5 あなた(本人)が現在入院している病院のある地域をお答えください。(あてはまるもの1つに○)

- 1. 町田市内
- 2. 町田市以外の東京都内
- 3. 東京都以外の関東
- 4. その他 ()

問6 あなた(本人)が現在の病院に入院してからの年数をお答えください。(あてはまるもの1つに○)

- 1. 1年未満
- 2. 1年以上、3年未満
- 3. 3年以上、5年未満
- 4. 5年以上、10年未満
- 5. 10年以上、20年未満
- 6. 20年以上
- 7. わからない

問7 あなた(本人)が現在の病院での入院生活の中で、困る事や不安に感じていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 身の回りのことが自分では十分にできない
- 2. 健康状態に不安がある
- 3. プライバシーが十分に保たれない
- 4. 1日の生活のリズムが自由にならない
- 5. 病院の設備に不満がある
- 6. 仕事や訓練に不満がある
- 7. 外出の機会が少ない
- 8. 病院の職員の対応に不満がある
- 9. 人間関係がうまく築けない
- 10. 困ったとき相談する相手がいない
- 11. 家族とあまり会えない
- 12. 将来の生活に何となく不安を感じる
- 13. その他 ()
- 14. わからない
- 15. 特にない

問8 あなた(本人)は、今後どのような生活を希望しますか。(あてはまるもの1つに○)

- 1. 病院での生活を続けたい
- 2. 病院を退院して、家族と生活したい
- 3. 病院を退院して、独立して生活したい
- 4. 病院を退院して、グループホームなどで生活したい
- 5. わからない → 次ページの間9へ

→【問8で「1. 病院での生活を続けたい」と回答した方にお聞きします。】

問8-1 その理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

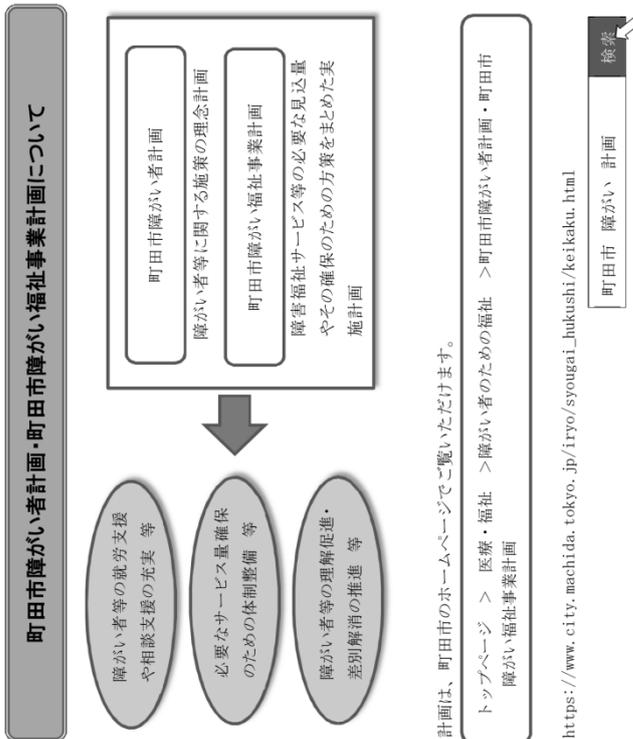
- 1. 入院して治療する必要があるから
- 2. 今のままでいいから
- 3. 退院して具合が悪くなるのが心配だから
- 4. 一人で生活する自信がないから
- 5. 他の場所で生活する見通しがたてられないから
- 6. 家族の同意が得られないから
- 7. 医師から「退院できる」と言われていないから
- 8. その他 ()
- 9. わからない

【問8で「2」～「4」(病院を退院したい)と回答した方にお聞きします。】
問8-2 病院を退院するにあたり支援してほしいことはどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 地域の医療機関を利用する見直しをたてること
- 2. 地域での暮らし方の情報を知りたい
- 3. 住まいをさがすこと
- 4. 生活に必要なお金のこと
- 5. 一人で生活することの訓練
- 6. 日常生活(家事など)の手助け
- 7. 就労の支援
- 8. 家族の同意を得ること
- 9. その他 ()
- 10. 特にない

問9 日常的な困りごとがありましたら、ご自由にお書きください。

調査は以上です。ご回答いただきまして、ありがとうございます。郵便封筒に入れ、**9月24日(火)まで**に郵便ポストに入れてください。



計画の冊子は、町田市庁舎1階 市政情報課窓口にて販売しています。また、市内の図書館でもご覧いただけます。

町田市 暮らしの状況・生活の困り事に関する調査 報告書

2020年3月

【編集・発行】町田市地域福祉部障がい福祉課
〒194-8520 町田市森野2-2-22
電話 042 (724) 2147
F a x 050 (3101) 1653
